



プリスクライブコマンド
リファレンスマニュアル

目次

まえがき	2
商標について	2
機能別プリスクライブコマンドの概要	3
基本文法コマンド	3
システム環境コマンド	3
テキストおよび注釈コマンド	4
マージン / ページ縦置き・横置きコマンド	4
テキスト間隔コマンド	5
フォントコマンド	6
カーソル移動コマンド	6
ベクトルグラフィックコマンド	7
パスモードグラフィックコマンド	8
ラスタグラフィックコマンド	9
カラー制御コマンド	9
バーコードコマンド	10
マクロコマンド	10
デバッグコマンド	11
外部メディア制御コマンド	11
日本語プリスクライブコマンド	11
オプション機器制御コマンド	12
e-MPS コマンド	12
プリスクライブコマンド・リファレンス	14
コマンドの書式説明について	14
ACLI インデックスによる色の追加	15
ALTF 代替フォントの選択	17
AMCR 自動マクロ	19
APSG 給紙元のグループ化	22
ARC 弧を描く	24
ASFN 外字フォントの割付と解除	26
ASTK ソータトレイのグループ化	27
BARC バーコード印刷	29
BKLT 製本モード印刷	34
BLK 指定パターンでブロックを描く	36
BOX 四角形を描く	38
CALL マクロの呼出し	40
CCPY カーボンコピー	42
CDSK ハードディスクの最適化	45
CID カラー・イメージデータの割り当て	46
CIR 円を描く	48
CLIP パスをクリップする	50
CLPR クリップ領域の設定	51
CLSP サブパスを閉じる	53
CMNT 注釈	55
CMOD カラーモード	56
COPY 印刷枚数の設定	57
CPAL パレットを削除 / コピー	58
CPTH 文字パス	59
CRKF 漢字フォントヘッダの生成	60
CSET シンボルセットの選択	61
CSTK コレート排紙	64
CTXT センター揃えテキストの印刷	65
CUOS 印刷位置の調整	67
DAF 外部フォントの一括削除	68
DAM マクロの一括削除	69
DAP 絶対位置まで線を描画	70
DCT 文字飾りの指定	72
DELF 外部フォントの削除	74

DELM	マクロの削除	75
DKJF	外部漢字フォントの削除	77
DPAT	破線種類の選択	79
DRP	相対位置まで線を描く	81
DRPA	角度指定により相対位置まで線を描画	82
DUPX	両面印刷	84
DXPG	両面印刷時の第1印刷面の選択	85
DZP	ゼロ点を基準に線を描く	86
EMCR	カセット選択によるオートマクロ登録	87
ENDB	2次元バーコードデータの終了	89
ENDC	カーボンコピー登録の終了	90
ENDD	ダンプの終了	91
ENDM	マクロ定義の終了	92
ENDR	ラスタデータ処理の終了	93
EPL	エコプリントの設定	95
EXIT	プリスクライプコマンドの終了	96
FDIR	MP (手差し)トレイの給紙方向	97
FILL	閉パスの塗りつぶし	98
FLAT	曲線パスの平坦さの設定	100
FLST	フォントリストの印刷	102
FOLD	ページ折り / ステープル	103
FONT	フォント番号によるフォントの選択	104
FPAT	パターンの生成 (8×8ドット)	105
FRPO	ファームウェア再設定	107
FRPO INIT	環境値の初期化	108
FSET	属性によってフォントを選択	109
FTMD	フォントモード (フォント属性の自動調整)	113
GPAT	灰色パターンの設定	116
GRAY	灰色モード	117
GRRD	グラフィックデータの読み込み	118
HUE	色相を調整する	120
INTL	欧文文字セットの選択	122
JOBBD	ジョブの消去	124
JOBL	ジョブリストを出力する	126
JOBO	ジョブの出力	128
JOBP	出力オプション	130
JOBS	ジョブ定義の開始	133
JOBT	ジョブの終了	136
JOG	ジョブの振り分け	137
KFNT	漢字ビットマップフォントの選択	138
KWM	日本語縦書き / 横書き方向の設定	139
LAPI	APIプログラムのロード	140
LDFC	文字の生成	141
LDFN C	文字の登録	144
LDFN F	フォントヘッダの生成	145
LDFN S	TrueTypeフォントのダウンロード	146
LDKC	漢字フォントのダウンロード	148
LGHT	明度の調整	149
MAP	絶対位置へのカーソル移動	151
MCRO	マクロの作成	152
MDAT	用紙種類の属性変更	154
MID	識別名 (ID) 特定トレイ選択	156
MLST	マクロリストの印刷	157
MPSS	e-MPSの機能別保存容量	158
MPTE	手差しトレイ用紙有無の表示変更	159
MRP	相対位置へのカーソル移動	160
MRPA	角度による相対位置へのカーソル移動	161
MSTK	メールボックスの選択	163
MTYP	メディアタイプの選択	164
MZP	ゼロ点からのカーソル移動	166
NEWP	パスの開始	167
OTRY	排紙トレイの選択	168
PAGE	改ページの実行	170
PANT	パントンカラーパレットの作成	171
PARC	円弧パスを追加	173
PAT	網掛けパターンの選択	175
PCRP	曲線パスを相対的な位置に追加	177
PCZP	曲線パス内をゼロ点からの位置に追加	179

PDIR	論理ページ方向の設定	181
PDRP	線分パスを相対位置に追加	184
PDZP	線分パス内をゼロ点からの位置に追加	186
PELP	楕円パスの追加	187
PIE	円グラフを描く	189
PMRA	角度による相対位置へのカーソル移動 (パスモード)	190
PMRP	相対位置へのカーソル移動 (パスモード)	191
PMZP	ゼロ点からのカーソル移動 (パスモード)	192
PNCH	パンチ穴開け	194
PRBX	角丸ボックスパスを追加	196
PRRC	円弧パスを相対座標に追加	198
PSRC	給紙元の選択	200
PXPL	ピクセル配置	201
IR!	プリスクライブモードの起動	202
RCLT	回転コレート	203
RDMP	受信データのダンプ	204
RES	リセット	205
RESL	印刷解像度	208
RGBL	RGB レベルを調整する	209
RGST	オフセット登録	211
RPCS	保存したコードセットへの復帰	212
RPF	保存したフォントへの復帰	213
RPG	直前のグラフィック状態に戻る	214
RPP	保存したカーソル位置への復帰	215
RPPL	保存したパレットへの復帰	217
RPU	保存した単位への復帰	218
RTTX	テキストの回転	219
RTXT	右ぞろえテキスト	221
RVCD	ラスタデータの受信	223
RVCL	カラーラスタデータの受信	224
RVRD	ラスタデータ処理の開始	225
RWER D	外部メディアのデータ削除	227
RWER F	外部メディアのフォーマット	228
RWER I	外部メディアの書き込み結果の自動印刷	229
RWER L	外部メディア内のパーティションリストの出力	230
RWER R	外部メディアの読み込み	231
RWER S	フォントのダウンロード	232
RWER T	RWER ターミナータの設定	234
RWER W	外部メディアへの書き込み	235
RWRF D	外部デバイスのデータの削除	236
RWRF F	外部デバイスのフォーマット	237
RWRF L	リソースファイルリストの出力	238
RWRF P	隠しファイルの設定	239
RWRF R	外部デバイスの読み込み	240
RWRF T	RWRF ターミナータの設定	241
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (API プログラム)	242
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (フォント)	243
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (プリンタブルデータ)	245
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (マクロ)	246
SATU	彩度の調整	247
SBM	下マージンの設定	248
SCAP	線終端の設定	250
SCCS	コードセットの保存	252
SCF	現在のフォントの保存	253
SCG	現在のグラフィック状態を保存	254
SCOL	色を選択する	256
SCP	現在カーソル位置の保存	257
SCPI	1 インチあたり文字数の設定	258
SCPL	アクティブパレットの保存	259
SCRC	コマンド識別文字の設定	260
SCS	文字間隔の設定	261
SCSZ	カスタム紙サイズの設定	262
SCU	現在の単位の保存	263
SDP	破線パターンの登録	265
SEM	エミュレーションモードの設定	267
SETF	代替フォントの設定	268
SFA	フォント属性の設定	269
SFNT	フォントをフォント名で選択	272

SGPC	KCGL ペンの色を設定する	276
SIMG	イメージ・モデルを設定	277
SIMP	シンプルカラーパレットの作成	280
SIR	KIR の設定	282
SKCS	文字間隔の設定	283
SKFT	フォント名による漢字アウトラインフォントの選択	284
SLJN	線結合タイプ	286
SLM	左マージンの設定	288
SLPI	1 インチあたり行数の設定	289
SLPP	1 ページあたり行数の設定	290
SLS	行間隔の設定	292
SMLT	マイター限界の設定	293
SPAL	パレットの選択	295
SPD	ペンの太さ	296
SPL	ページ長さの設定	298
SPO	ページ方向の設定	300
SPSZ	用紙サイズの設定	303
SPW	ページ幅の設定	306
SRM	右マージンの設定	307
SRO	ラスト領域の設定	308
SROP	ラストオペレーションの設定	310
SSTK	ソータトレイを選択	312
STAK	排紙トレイの選択	313
STAT	ステータスページの印刷	314
STM	上マージンの設定	317
STPC	ステープル枚数の設定	319
STPL	ステープルの実行	321
STR	ラスタグラフィックの解像度	323
STRK	パスの描画	324
SULP	アンダーラインの設定	326
TEXT	テキスト印刷	327
TPRS	2 バイトテキストの印刷	329
TSCL	文字拡大率の設定	330
UNIT	単位の設定	331
UOM	インチあたりドット	332
VMAL	仮想メールボックス名の設定	334
VMOB	仮想メールボックスへの出力指定	335
VMPW	仮想メールボックスの PIN 番号設定	336
WIDE	ワイド A4 モードの設定	337
WRED	ターミネータ	338
XBAR	2 次元バーコードの印刷	339
XBCP 0	バーコードタイプの選択 / 全ての XBCP パラメータをリセット	340
XBCP 1	2 次元バーコードのバー幅の指定	341
XBCP 2	2 次元バーコードエラー訂正レベル	342
XBCP 3	プリセット値でエラー訂正レベルを設定	343
XBCP 4	2 次元バーコードのコード行数の設定	344
XBCP 5	2 次元バーコードのコード列数の設定	346
XBCP 6	2 次元バーコードの縦横比の設定	348
XBCP 7	2 次元バーコードのバー幅に対するバー高さの比率	350
XBCP 8	2 次元バーコードの行数および列数の自動設定許可	352
XBCP 9	2 次元バーコードの短縮の有効化	353
XBCP 10	マクロ 2 次元バーコードのファイル名フィールドの有効化と内容の定義	354
XBCP 11	ブロック数フィールドの有効化と内容の定義	355
XBCP 12	マクロ PDF の日付フィールドの有効化	356
XBCP 13	マクロ 2 次元バーコードの送信側 ID フィールドの有効化	357
XBCP 14	マクロ 2 次元バーコードの受信側 ID フィールドの有効化	358
XBCP 15	マクロ 2 次元バーコードのファイルサイズフィールドの有効化	359
XBCP 16	マクロ 2 次元バーコードのチェックサムの有効化	360
XBCP 17	マクロ 2 次元バーコードのファイル ID 制御の許可	361
XBCP 18	マクロ 2 次元バーコードモードの有効化	362
XBCP 19	複数のマクロ 2 次元バーコードを指定された位置へ配置	364
XBUF	2 次元バーコードのバッファへの格納 / クリア	369
XPAT	16 ドットパターンの生成	370

プリスクライブ コマンドリファレンス

まえがき

本書はプリスクライブコマンドによって実現される各種機能や制御について、コマンドごとに説明したものです。プリスクライブコマンドは、京セラのプリンタおよびプリンティングシステムオプションが装着された複写機製品で、使用可能です。本書では、プリンタと複写機を総称して、「プリントシステム」と呼びます。

コマンドあるいは機能によっては、プリンタと複写機とで対応が異なったり、動作の異なるものがあります。また、機種によっても同様に対応や動作が異なるものがあります。

本書では、コマンド機能の解説のために印刷出力を記載していますが、プリントシステムのファームウェアバージョンによっては、実際にプリントシステムで印刷した場合の印刷出力が、本書の印刷出力と一致しない場合があります。

本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

本製品を使用したことによって生じた損害賠償などに関しては、当社では一切その責任を負いかねますので、ご了承ください。

商標について

KYOCERA、京セラ、ECOSYS、エコシス、PRESCRIBE、およびプリスクライブは、京セラ株式会社の登録商標です。

KPDL、および KIR (Kyocera Image Refinement) は、京セラ株式会社の商標です。Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、AppleTalk、Mac、Macintosh、Mac OS、および TrueType は、Apple, Inc. の登録商標です。

Adobe、Acrobat、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Novell、および NetWare は、Novell, Inc. の登録商標です。

HP、および PCL は、Hewlett-Packard Company の登録商標です。

Intel、Pentium、および Celeron は、Intel Corporation の登録商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

機能別プリスクライブコマンドの概要

このセクションの表は、プリスクライブコマンドを主な機能ごとに分類して一覧したものです。コマンドごとの詳細については、記載されているページを参照してください。

基本文法コマンド

プリスクライブモードの起動と終了を行う基本コマンドです。SCRC コマンドは、!R! コマンドの R を任意の文字に変更します。

表 1 基本文法コマンド

コマンド	機能	ページ
EXIT	プリスクライブコマンドの終了	96 ページ
!R!	プリスクライブモードの起動	202 ページ
SCRC	コマンド識別文字の設定	260 ページ

システム環境コマンド

印刷枚数や給紙元などの、印刷を行う上での基本となる印刷環境の設定を行うコマンドです。これらのコマンドによる設定は、対応する FRPO コマンドによって、プリントシステムの NVRAM に恒久的に保存することが可能です。

表 2 システム環境コマンド

コマンド	機能	ページ
COPY	印刷枚数の設定	57 ページ
CUOS	印刷位置の調整	67 ページ
EPL	エコプリントの設定	95 ページ
FDIR	MP (手差し) トレイの給紙方向	97 ページ
FRPO	ファームウェア再設定	107 ページ
FRPO INIT	環境値の初期化	108 ページ
MDAT	用紙種類の属性変更	154 ページ
MPTE	手差しトレイ用紙有無の表示変更	159 ページ
MTYP	メディアタイプの選択	164 ページ
PSRC	給紙元の選択	200 ページ
RES	リセット	205 ページ
RESL	印刷解像度	208 ページ
RGST	オフセット登録	211 ページ
RPU	保存した単位への復帰	218 ページ
SCSZ	カスタム紙サイズの設定	262 ページ
SCU	現在の単位の保存	263 ページ
SEM	エミュレーションモードの設定	267 ページ
SIR	KIR の設定	282 ページ
SPSZ	用紙サイズの設定	303 ページ

表 2 システム環境コマンド

コマンド	機能	ページ
STAK	排紙トレイの選択	313 ページ
STAT	ステータスページの印刷	314 ページ
UNIT	単位の設定	331 ページ
UOM	インチあたりドット	332 ページ
WIDE	ワイド A4 モードの設定	337 ページ

テキストおよび注釈コマンド

改ページ、右揃え・左揃え・センター揃えのテキストの印刷、注釈行の作成などを行うコマンドです。

表 3 テキストおよび注釈コマンド

コマンド	機能	ページ
CMNT	注釈	55 ページ
CTXT	センター揃えテキストの印刷	65 ページ
PAGE	改ページの実行	169 ページ
RTTX	テキストの回転	219 ページ
RTXT	右ぞろえテキスト	221 ページ
TEXT	テキスト印刷	327 ページ

マージン / ページ縦置き・横置きコマンド

上下左右マージンの設定や、ページの縦置き・横置き方向を決めるコマンドです。通常のテキスト・データはマージン内に印刷されますが、TEXT・RTXT コマンドによる文字列やグラフィックは、マージンを無視して用紙の印刷領域いっぱいには印刷することができます。マージンを設定するコマンドは複数があり、目的にあったコマンドを使用できます。マージンをページの途中で変更することもできます。

マージンを設定するコマンドには次の制限があります。

- ・ 右マージンは、左マージンから右へ最低 1 文字のスペースが必要です。
- ・ 下マージンは、上マージンから最低 1 行は下になければなりません。
- ・ マージンには負の値を指定することはできません。

たとえば、右マージンを右の印刷領域を越えて設定しようとしても、マージンは右の印刷領域内に設定されます。同じように、下マージンを下の印刷領域を越えて設定することはできません。右マージンや下マージンを印刷領域いっぱいには設定したい場合には、100(センチ)などの大きな値を指定することもできます。

ページの縦置き・横置きは SPO コマンドで設定します。マージンやページ方向は、RES コマンドでリセットされます。

表 4 マージン / ページ縦置き・横置きコマンド

コマンド	機能	ページ
SBM	下マージンの設定	248 ページ
SLM	左マージンの設定	288 ページ
SLPP	1 ページあたり行数の設定	290 ページ
SPL	ページ長さの設定	298 ページ
SPO	ページ方向の設定	300 ページ
SPW	ページ幅の設定	306 ページ
SRM	右マージンの設定	307 ページ
STM	上マージンの設定	317 ページ

テキスト間隔コマンド

行間隔、文字間隔、アンダーラインの距離や太さを制御するコマンドです。行間隔を設定するコマンドには SLS と SLPI、文字間隔を設定するコマンドには SCS と SCPI があります。これらの間隔はページの途中でも変更することもできます。

下の表は、テキスト間隔コマンドのパラメータの最少、最大、およびデフォルト値をまとめたものです。

表 5 テキスト間隔コマンドの許容値

	最小値	最大値	デフォルト値
行間隔	1 ドット 0.01 センチ 0.004 インチ	2,047 ドット 17.3 センチ 6.8 インチ	1 インチに 6 行 0.423 センチ 0.167 インチ
文字間隔	1 ドット 0.01 センチ 0.004 インチ	2,047 ドット 17.3 センチ 6.8 インチ	1 インチに 10 行 0.254 センチ 0.1 インチ

上記の範囲外の値を指定するとコマンドは無視されます。

文字間隔の場合、1 ドットより小さい値をパラメータとして指定すると 0 として処理され、プロポーショナル・スペースとなります。

フォント・モード (FTMD コマンド) によっては、行間隔と文字間隔はフォントを選ぶと自動的に設定されます。くわしくは FTMD コマンドと SFA コマンドの項をお読みください。

表 6 テキスト間隔コマンド

コマンド	機能	ページ
SCPI	1 インチあたり文字数の設定	258 ページ
SCS	文字間隔の設定	261 ページ
SLPI	1 インチあたり行数の設定	289 ページ
SLS	行間隔の設定	292 ページ

表 6 テキスト間隔コマンド

コマンド	機能	ページ
SULP	アンダーラインの設定	326 ページ

フォントコマンド

フォント・コマンドは、使用するフォントを選択します。フォントの選択は、フォント名で行いますが、ビットマップフォントはそのフォント固有の番号を指定して選択することもできます。

フォントの属性を変えて独自のスタイルで印刷することもできます。プリントシステムのメモリに外部よりフォントをダウンロードしたり、またフォントを生成するコマンドもあります。

表 7 フォントコマンド

コマンド	機能	ページ
ALTF	代替フォントの選択	17 ページ
ASFN	外字フォントの割付と解除	26 ページ
CRKF	漢字フォントヘッダの生成	60 ページ
CSET	シンボルセットの選択	61 ページ
DAF	外部フォントの一括削除	68 ページ
DELF	外部フォントの削除	74 ページ
FLST	フォントリストの印刷	102 ページ
FONT	フォント番号によるフォントの選択	104 ページ
FSET	属性によってフォントを選択	109 ページ
FTMD	フォントモード (フォント属性の自動調整)	113 ページ
INTL	欧文文字セットの選択	122 ページ
LDFC	文字の生成	141 ページ
LDFN C	文字の登録	144 ページ
LDFN F	フォントヘッダの生成	145 ページ
LDFN S	TrueType フォントのダウンロード	146 ページ
RPCS	保存したコードセットへの復帰	212 ページ
RPF	保存したフォントへの復帰	213 ページ
SCCS	コードセットの保存	252 ページ
SCF	現在のフォントの保存	253 ページ
SETF	代替フォントの設定	268 ページ
SFA	フォント属性の設定	269 ページ
SFNT	フォントをフォント名で選択	272 ページ
TPRS	2 バイトテキストの印刷	329 ページ

カーソル移動コマンド

指定した位置にカーソルを移動させるコマンドです。カーソルの移動は、マージンを基準にする絶対位置、印刷領域を基準にするゼロ点位置、現在のカーソル位置を基準にする相対位置のいずれでも始点とできます。

カーソル移動コマンドはカーソルの移動を行うだけであり、作図は行いません。また、カーソルは印刷領域外に移動させることはできません(MZP コマンド参照)。カーソル位置を記憶したり、記憶した位置への復帰も可能です。

表 8 カーソル移動コマンド

コマンド	機能	ページ
MAP	絶対位置へのカーソル移動	151 ページ
MRP	相対位置へのカーソル移動	160 ページ
MRPA	角度による相対位置へのカーソル移動	161 ページ
MZP	ゼロ点からのカーソル移動	166 ページ
RPP	保存したカーソル位置への復帰	215 ページ
SCP	現在カーソル位置の保存	257 ページ

ベクトルグラフィックコマンド

次のコマンドは、線や円、四角などをベクトル作図するのに使用します。パターンを生成して、網掛けを行うこともできます。

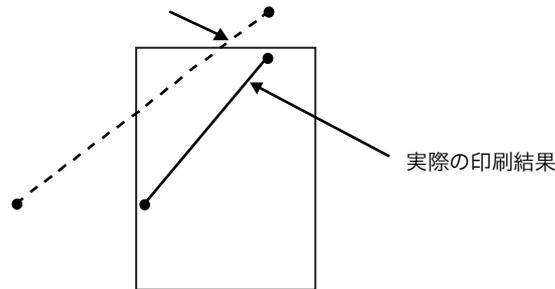
表 9 ベクトルグラフィックコマンド

コマンド	機能	ページ
ARC	弧を描く	24 ページ
BLK	指定パターンでブロックを描く	36 ページ
BOX	四角形を描く	38 ページ
CIR	円を描く	48 ページ
DAP	絶対位置まで線を描画	70 ページ
DPAT	破線種類の選択	79 ページ
DRP	相対位置まで線を描く	81 ページ
DRPA	角度指定により相対位置まで線を描画	82 ページ
DZP	ゼロ点を基準に線を描く	86 ページ
FPAT	パターンの生成(8×8 ドット)	105 ページ
GPAT	灰色パターンの設定	116 ページ
PAT	網掛けパターンの選択	175 ページ
PIE	円グラフを描く	189 ページ
SPD	ペンの太さ	296 ページ
XPAT	16 ドットパターンの生成	370 ページ

ベクトルコマンドでページの印刷領域を越えて描画を行うと、システムは自動的に印刷領域内に収めて印刷するよう、座標を調整します。このため、プリスクライブ環境では下の例のように印刷結果が予想とは異なる場合があります。

図1 印刷領域外への描画

コマンドによる印刷設定



非常に複雑な図形の印刷では、メモリ不足によって正常に印刷が行われない場合があります。この場合には、不要な外部フォントを削除するなどの処理を行ってください。なおプリントシステムのメモリの使用状況は、ステータスページのメモリ使用状況の欄で確認することができます。

パスモードグラフィックコマンド

次のコマンドは、パスを生成して描画する、パス・コマンドです。パスはコマンドの指定にしたがってアウトライン（外郭）を生成し、ストロークあるいはフィル操作を行うことで複雑な図形の描画を可能にします。

表 10 パスモードグラフィックコマンド

コマンド	機能	ページ
CLIP	パスをクリップする	50 ページ
CLPR	クリップ領域の設定	51 ページ
CLSP	サブパスを閉じる	53 ページ
CPTH	文字パス	59 ページ
FILL	閉パスの塗りつぶし	98 ページ
FLAT	曲線パスの平坦さの設定	100 ページ
NEWP	パスの開始	167 ページ
PARC	円弧パスを追加	171 ページ
PCRP	曲線パスを相対的な位置に追加	177 ページ
PCZP	曲線パス内をゼロ点からの位置に追加	179 ページ
PDIR	論理ページ方向の設定	181 ページ
PDRP	線分パスを相対位置に追加	184 ページ
PDZP	線分パス内をゼロ点からの位置に追加	186 ページ
PELP	楕円パスの追加	187 ページ
PMRA	角度による相対位置へのカーソル移動（パスモード）	190 ページ
PMRP	相対位置へのカーソル移動（パスモード）	191 ページ
PMZP	ゼロ点からのカーソル移動（パスモード）	192 ページ
PRBX	角丸ボックスパスを追加	196 ページ
PRRC	円弧パスを相対座標に追加	198 ページ
PXPL	ピクセル配置	201 ページ
RPG	直前のグラフィック状態に戻る	214 ページ
SCAP	線終端の設定	250 ページ

表 10 パスモードグラフィックコマンド

コマンド	機能	ページ
SCG	現在のグラフィック状態を保存	254 ページ
SDP	破線パターンの登録	265 ページ
SIMG	イメージ・モデルを設定	277 ページ
SKCS	線結合タイプ	283 ページ
SMLT	マイター限界の設定	293 ページ
STRK	パスの描画	324 ページ

ラスタグラフィックコマンド

ラスタグラフィック・コマンドは、個々のドットを展開することでグラフィックの描画を行います。解像度は、75、100、150、200、300、600、1200 dpi (ドット / インチ) から選択できます。

表 11 ラスタグラフィックコマンド

コマンド	機能	ページ
ENDR	ラスタデータ処理の終了	93 ページ
PXPL	ピクセル配置	201 ページ
RVCD	ラスタデータの受信	223 ページ
RVRD	ラスタデータ処理の開始	225 ページ
SRO	ラスタ領域の設定	308 ページ
SROP	ラスタオペレーションの設定	310 ページ
STR	ラスタグラフィックの解像度	323 ページ

カラー制御コマンド

次のコマンドは、カラーパレットの作成やカラーのパレットの割り当て、カラーの指定などを行うことにより、カラー印刷を行います。

表 12 カラー制御コマンド

コマンド	機能	ページ
ACLI	インデックスによる色の追加	15 ページ
CID	カラー・イメージデータの割り当て	46 ページ
CMOD	カラーモード	56 ページ
CPAL	パレットを削除 / コピー	58 ページ
GRAY	灰色モード	117 ページ
GRRD	グラフィックデータの読み込み	118 ページ
HUE	色相を調整する	120 ページ
LGHT	明度の調整	149 ページ
PANT	パントンカラーパレットの作成	171 ページ
RGBL	RGB レベルを調整する	209 ページ
RPPL	保存したパレットへの復帰	217 ページ
RVCL	カラーラスタデータの受信	224 ページ
SATU	彩度の調整	247 ページ
SCOL	色を選択する	256 ページ

表 12 カラー制御コマンド

コマンド	機能	ページ
SCPL	アクティブパレットの保存	259 ページ
SGPC	KCGL ペンの色を設定する	276 ページ
SIMP	シンプルカラーパレットの作成	280 ページ
SPAL	パレットの選択	295 ページ

バーコードコマンド

BARC コマンドは、バーコードのタイプとバーコード化されるデータを指定することにより、リニアバーコードを印刷します。XBAR コマンドは、PDF417 規格に対応した、2次元バーコードの印刷に使用します。

表 13 バーコードコマンド

コマンド	機能	ページ
BARC	バーコード印刷	29 ページ
ENDB	2次元バーコードデータの終了	89 ページ
XBAR	2次元バーコードの印刷	339 ページ
XBCP 0 ~ XBCP 19	バーコードタイプの選択 / 全ての XBCP パラメータをリセット	340 ページ ~ 364 ページ
XBUF	2次元バーコードのバッファへの格納 / クリア	369 ページ

マクロコマンド

一連のプリスクライブコマンド処理をマクロとして定義し、CALL コマンドで呼び出して実行できます。AMCR コマンドは、定義したマクロを自動的に実行するオートマクロ機能に使用します。

表 14 マクロコマンド

コマンド	機能	ページ
AMCR	自動マクロ	19 ページ
CALL	マクロの呼出し	40 ページ
CCPY	カーボンコピー	42 ページ
DAM	マクロの一括削除	69 ページ
DELM	マクロの削除	75 ページ
EMCR	カセット選択によるオートマクロ登録	87 ページ
ENDC	カーボンコピー登録の終了	90 ページ
ENDM	マクロ定義の終了	92 ページ
MCRO	マクロの作成	152 ページ
MLST	マクロリストの印刷	157 ページ

デバッグコマンド

プリントシステムが受信したデータの内容を 16 進数に置き換えて印刷出力 (ダンプ出力) するには、RDMP コマンドを使用します。正常な印刷結果が得られない場合のデバッグ作業に使用します。

表 15 デバッグコマンド

コマンド	機能	ページ
ENDD	ダンプの終了	91 ページ
RDMP	受信データのダンプ	204 ページ

外部メディア制御コマンド

RWER コマンドは、プリントシステムに装着したメモリカードやハードディスクなどに、データの読み込みや書き込みを行います。

表 16 外部メディア制御コマンド

コマンド	機能	ページ
RWER D	外部メディアのデータ削除	227 ページ
RWER F	外部メディアのフォーマット	228 ページ
RWER I	外部メディアの書き込み結果の自動印刷	229 ページ
RWER L	外部メディア内のパーティションリストの出力	230 ページ
RWER R	外部メディアの読み込み	231 ページ
RWER S	フォントのダウンロード	232 ページ
RWER T	RWER ターミネータの設定	234 ページ
RWER W	外部メディアへの書き込み	235 ページ
RWRF D	外部デバイスのデータの削除	236 ページ
RWRF F	外部デバイスのフォーマット	237 ページ
RWRF L	リソースファイルリストの出力	238 ページ
RWRF P	隠しファイルの設定	239 ページ
RWRF R	外部デバイスの読み込み	240 ページ
RWRF T	RWER ターミネータの設定	241 ページ
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (API プログラム)	242 ページ
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (フォント)	243 ページ
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (マクロ)	246 ページ
RWRF W	外部デバイスへの書き込み (プリンタブルデータ)	245 ページ
WRED	ターミネータ	338 ページ

日本語プリスクライブコマンド

日本語モードに特有のプリスクライブコマンドは、次のとおりです。

表 17 日本語プリスクライブコマンド

コマンド	機能	ページ
CRKF	漢字フォントヘッダの生成	60 ページ
DCT	文字飾りの指定	72 ページ

表 17 日本語プリスクライブコマンド

コマンド	機能	ページ
DKJF	外部漢字フォントの削除	77 ページ
KFNT	漢字ビットマップフォントの選択	138 ページ
KWM	日本語縦書き / 横書き方向の設定	139 ページ
LDKC	漢字フォントのダウンロード	148 ページ
LAPI	API プログラムのロード	140 ページ
SKCS	文字間隔の設定	283 ページ
SKFT	フォント名による漢字アウトラインフォントの選択	284 ページ
TSCL	文字拡大率の設定	330 ページ

オプション機器制御コマンド

次のコマンドは、プリントシステムに装着したフィニッシャやソータなどの、各種オプション機器の設定や制御を行います。

表 18 オプション機器制御コマンド

コマンド	機能	ページ
APSG	給紙元のグループ化	22 ページ
ASTK	ソータトレイのグループ化	27 ページ
BKLT	製本モード印刷	34 ページ
CSTK	コレート排紙	64 ページ
DUPX	両面印刷	84 ページ
DXPG	両面印刷時の第 1 印刷面の選択	85 ページ
FOLD	ページ折り / ステープル	103 ページ
MID	識別名 (ID) 特定トレイ選択	156 ページ
MSTK	メールボックスの選択	163 ページ
PNCH	パンチ穴開け	194 ページ
RCLT	回転コレート	203 ページ
SSTK	ソータトレイを選択	312 ページ

e-MPS コマンド

ハードディスクを利用した e-MPS（エンハンスド・マルチプル・プリンティング・システム）機能の制御を行うコマンドです。e-MPS 機能を実現するには、印刷ジョブをあらかじめ JOBS コマンドを使って e-MPS ジョブとして定義します。

表 19 e-MPS コマンド

コマンド	機能	ページ
CDSK	ハードディスクの最適化	45 ページ
FRPO	ファームウェア再設定	107 ページ
JOB D	ジョブの消去	124 ページ
JOBL	ジョブリストを出力する	126 ページ
JOBO	ジョブの出力	128 ページ
JOBP	出力オプション	130 ページ

表 19 e-MPS コマンド

コマンド	機能	ページ
JOBS	ジョブ定義の開始	133 ページ
JOBT	ジョブの終了	136 ページ
JOG	ジョブの振り分け	137 ページ
MPSS	e-MPS の機能別保存容量	158 ページ
STPC	ステーブル枚数の設定	319 ページ
STPL	ステーブルの実行	321 ページ
VMAL	仮想メールボックス名の設定	334 ページ
VMOB	仮想メールボックスへの出力指定	335 ページ
VMPW	仮想メールボックスの PIN 番号設定	336 ページ

プリスクライブコマンド・リファレンス

プリスクライブコマンドの書式と機能について、以下のページから説明します。コマンドはアルファベット順に並べられています。

コマンドの書式説明について

本書ではコマンドの書式説明に関して、次のように取り決めて記述しています。

大文字と小文字

コマンドは大文字で表わしてあります。最初の !R! を除いて、プリスクライブコマンドは、小文字で書くこともできます。

例

```
!R! stat; exit;
```

省略できるパラメータ

省略のできるパラメータは、[] で囲まれています。

繰り返し

書式中の「...」の記号は、直前のパラメータの繰り返しを意味します。

コマンド例の改行

本書内でコマンド例が編集上改行されている場合がありますが、コマンド列やその引数としての文字列は改行する必要はありません。

ACLI

インデックスによる色の追加

(Add CoLor by Index)

書式

ACLI インデックス, 色 1, 色 2, 色 3;

パラメータ

インデックス	1 ~ 255 までの整数	
色 1	RGB 色空間での赤の値	0 ~ 255 までの整数
	L*a*b 色空間での明るさ値	0.0 ~ 100.0 までの整数
色 2	RGB 色空間での緑の値	0 ~ 255 までの整数
	L*a*b 色空間での赤 / 緑の値	0.0 ~ 100.0 までの整数
色 3	RGB 色空間での青の値	0 ~ 255 までの整数
	L*a*b 色空間での黄 / 青の値	0.0 ~ 100.0 までの整数

説明

ACLI コマンドは、現在使用可能なパレットに色を追加します。パレットが単色パレットまたは Pantone カラーパレットの場合は、このコマンドは無視されます。パレットサイズより大きいインデックスが与えられた場合も、このコマンドは無視されます。既存のインデックスに色を追加すると、そのインデックスに現在割り当てられている色が、自動的に新しい色に置き換えられます。

パレットに色を追加する場合には、使用される色空間に応じて以下の点に注意が必要です。

- RGB の場合は、赤、緑、青の値としてそれぞれ 0 ~ 255 までの整数値を 1 つ指定してください。この場合、0 = 0%、255 = 100% です。この範囲を超える値は、最小値 0 または最大値 255 に概数処理されます。小数点以下の端数は切り捨てられます。
- L*a*b の場合は、明るさ、赤 / 緑、黄 / 青の相対値としてそれぞれ 0.0 ~ 100.0 までの数値を 1 つ指定してください。この範囲を超える値は、最小値 0.0 または最大値 100.0 に概数処理されます。

例

```
!R!
SEM 6; CMNT HP PCL エミュレーション;

TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p24v0s0b28752T;

CPAL C, 1; SPAL 1; CID 0, 1;
ACLI 1, 0, 0, 255;
ACLI 2, 0, 255, 0;
ACLI 3, 255, 0, 0;

UNIT C;
MZP 1, 1; SCOL 1;
TEXT '青色で印刷します。';
MZP 1, 2.4; SCOL 2;
TEXT '緑色で印刷します。';
MZP 1, 3.8; SCOL 3;
```

```
TEXT '赤色で印刷します。';
```

```
PAGE; EXIT;
```

印刷結果

青色で印刷します。

緑色で印刷します。

赤色で印刷します。

関連コマンド

CPAL、SPAL

ALTF 代替フォントの選択

(select ALTERNATE Font)

書式	ALTF 代替番号;
パラメータ	代替番号 0 から 31 までの整数
説明	<p>ALTF コマンドは、SETF コマンドによってフォントに割り当てた代替番号でフォントを選択します。</p> <p>代替番号の使用は、文書内でフォントを後から他のフォントに変えたい場合などに便利です。たとえば、ある特定のパラグラフだけフォントを変更したいときに、SETF コマンドで代替番号に対応するフォントを変更するだけですみます。</p> <p>通常アウトラインフォントはフォント番号を持たないため、SFNT コマンドでフォント番号を割り当てます。次の例では、CGTimes に 2000 を、Univers-BdCd に 2001 のフォント番号を割り当て、SETF コマンドでそれぞれに代替番号の 1 と 2 を割り当てています。</p>
例	<pre> !R! RES; SLM 1; STM 1; SFNT "CGTimes", 10, 2000; SFNT "Univers-BdCd", 10, 2001; SETF 1, 2000; SETF 2, 2001; ALTF 2; TEXT "BIBLIOGRAPHY", N; MCRO BIBLIO; ALTF 1; TEXT %1, E, U; TEXT ", ", E; ALTF 2; TEXT %2, E; TEXT ", ", E; ALTF 1; TEXT %3, N; ENDM; CALL BIBLIO, "The Lovely Bones","Alice Sebold","Little, Brown & Company"; CALL BIBLIO, "The Piano Tuner","Daniel Philippe Mason","Knopf Alfred A"; CALL BIBLIO, "Where the Wild Things Are","Maurice Sendak","Harper Collins Children's Books"; CALL BIBLIO, "Make Way for Ducklings","Robert McCloskey","Viking Children's Books"; CALL BIBLIO, "If You Give a Mouse a Cookie","Laura Joffe Numeroff, Felicia Bond (Illustrator)","Harper Collins Children's Books"; PAGE; EXIT; </pre>

印刷結果

BIBLIOGRAPHY

The Lovely Bones, **Alice Sebold**, Little, Brown & Company

The Piano Tuner, **Daniel Philippe Mason**, Knopf Alfred A

Where the Wild Things Are, **Maurice Sendak**, Harper Collins Children's Books

Make Way for Ducklings, **Robert McCloskey**, Viking Children's Books

If You Give a Mouse a Cookie, **Laura Joffe Numeroff**, **Felicia Bond (Illustrator)**, Harper Collins Children's Books

関連コマンド

SETF

AMCR

自動マクロ

(Auto MaCRo)

書式	AMCR モード [= 繰り返しページ数],[ページ内繰り返し数] マクロ名, マクロ引数, ...;	
パラメータ	モード	E 自動マクロの登録 (実行前に環境を初期化) T 自動マクロの登録 (実行前に環境を初期化しない) D 自動マクロの停止
	繰り返しページ数	マクロを実行するページ数。「=」が必要
	ページ内繰り返し数	マクロを実行する回数、省略した場合は、モード D でマクロが停止されるまで
	マクロ名	実行するマクロ名 (MCRO コマンドで定義)
	マクロ引数	マクロ内の引数に渡す値
説明	<p>自動マクロとは、マクロを改ページごとに自動実行させ、帳票などを文字列などの印刷データの背景に印刷する機能です。実行されるマクロは MCRO コマンドで定義します。</p> <p>AMCR コマンドは、自動マクロの対象となるマクロを登録するコマンドで、マクロは改ページによって実行されます。以後、登録されたマクロは AMCR D で停止されるまで有効です。</p> <p>AMCR E によって自動マクロの登録を行うと、マクロが実行される際に印刷環境の初期化が行われ、次の各環境要素は初期値に戻されます。かつこ内は、それぞれの環境要素の初期値を設定する FRPO パラメータです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フォント (V3、V7) ・ マージン (A1 ~ A8) ・ カーソル位置 ・ 行間隔 (U0、U1) ・ 文字間隔 (U2、U3) ・ 印刷の向き (C1) ・ 単位 ・ アンダーライン情報 ・ 線の太さ ・ フィルパターン ・ 文字拡大率など <p>AMCR T の場合は、マクロの実行前に上記の環境要素を保存しません。マクロの実行後は、マクロに含まれる値で再設定されます。</p> <p>AMCR コマンドによって実行されるマクロ内では、次のコマンドは無効です。マクロ内にこれらが存在する場合は無視されます。</p>	

- CASS
- DAM
- DELM
- ENDD
- ENDM
- EXIT
- FLST
- FRPO
- LDFC
- LDKC
- MCRO
- RDMP
- RES
- SPM
- SPSZ
- STAT

プリントシステムに登録されているマクロは、マクロリストを印刷して一覧することができます。マクロリストの印刷については、MLST コマンドの説明を参照してください。自動マクロは、マクロリスト上に Permanent/E または Permanent/T のように表示されます。

例

```
!R!  
CMNT ページごとに 0.423mm 間隔で 65 本の罫線を引く ;  
  
SEM 6; TPRS 1; CSET 19K;  
  
DAM; UNIT C;  
  
MCRO RULER; CMNT 横罫線 ;  
DRP 30, 0;  
MRP -30, 0.423;  
ENDM;  
  
MCRO FORM; CMNT 罫線を % 本引く ;  
CALL %1 RULER;  
ENDM;  
  
AMCR E, 1 FORM, 5; CMNT 自動マクロとして登録 ;  
  
PAGE; TEXT " マクロを自動実行 - 1 ページ ";  
PAGE; TEXT " マクロを自動実行 - 2 ページ ";  
  
PAGE; EXIT;
```

印刷結果

マクロを自動実行 - 2ページ

マクロを自動実行 - 1ページ

関連コマンド

MCRO

APSG 給紙元のグループ化 (Assign Paper Source Group)

書式 APSG グループ番号 (給紙カセット 1), グループ番号 (給紙カセット 2), ...
グループ番号 (給紙カセット 6);

パラメータ グループ番号は、最上段の給紙カセット (1) から最下段の給紙カセット (6)
へ、順に 6 段分指定してください。

グループ番号

0	グループを解除
1	指定した給紙カセットをグループ 1 にする
2	指定した給紙カセットをグループ 2 にする
3	指定した給紙カセットをグループ 3 にする

説明 APSG コマンドは、複数の給紙カセットが使用できる場合に、選択した給紙カセットを給紙元とするグループを 3 つまで設定できます。グループ化した給紙カセット間には、連続して給紙が可能になるため、大量の印刷を行うときに便利です。なお、MP トレイ (手差しトレイ) はグループ化できません。APSG コマンドは、常に 6 段分の給紙カセットを指定する必要があります。給紙カセットが 5 段以下の場合には、装着していない段は 0 として指定してください。

各給紙カセットの用紙サイズや、用紙種類の設定が異なっていてもグループ化は有効です。

プリンタドライバの給紙元の設定が自動選択になっている場合は、APSG コマンドによる設定は無視されます。設定を有効にするには、給紙元の設定をカセット番号で指定して印刷を行ってください。

例 給紙カセットが 6 段あるプリントシステムに対して、グループ 1 (給紙カセット 1、4)、グループ 2 (給紙カセット 2、5)、グループ 3 (給紙カセット 3、6) の 3 つにグループ化します。

```
!R! APSG 1,2,3,1,2,3; EXIT;
```

この設定で給紙カセット 1 を指定して印刷を開始した場合、途中で用紙がなくなると自動的に給紙カセット 4 へ移動して印刷を続けます。

上記のグループ設定に対し、給紙カセット 1 と 4 以外のグループ化設定を解除します。グループ設定を解除するには、パラメータ 0 でグループ化を解除してください。0 はグループ化を解除します (初期状態)。プリントシステムの構成と異なる番号を指定した場合は、0 と同様にグループを解除します。

```
!R! APSG 1,0,0,1,0,0; EXIT;
```

この設定でグループ 2（給紙カセット 2、5）、グループ 3（給紙カセット 3、6）はグループ化が解除されました。

プリンティングシステムの電源を切った後も、グループ設定は保持されます。

ARC

弧を描く

(draw filled-in ARC)

書式

ARC 内円半径, 外円半径, 始点角度, 終点角度;

パラメータ

円半径	弧の内円半径
外円半径	弧の外円半径
始点角度	弧の開始角度 (上向き鉛直線から時計回り)
終点角度	弧の終了角度

説明

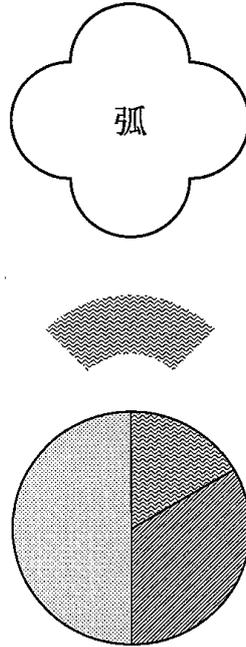
ARC コマンドは半径と角度の値によって、弧を描きます。開始角度と終了角度は、整数の度数で指定し、上向きの垂直線から右回りに計ります。作図後のカーソル位置は弧の中心のままです。

ARC コマンドによる弧では、境界線は描かれませんが、境界線を持つ弧は、PARC コマンドで描くことができます。また、弧の内部は PAT、FPAT または GPAT コマンドで指定したパターンで塗りつぶすことが可能です。

例

```
!R! RES; UNIT C;
MAP 5, 8;
PAT 52;
ARC 1, 2, -45, 45;
MAP 5, 10; PIE 2, 0, 10, 20, 30;
ARC 0, 2, 0, 60;
PAT 20;
ARC 0, 2, 60, 180;
PAT 10;
ARC 0, 2, 180, 360;
PAT 1;
SPD 0.04;
NEWP;
PMZP 4, 2;
PARC 4, 3, 1, 90, 270;
PARC 5, 4, 1, 180, 360;
PARC 6, 3, 1, 270, 90;
PARC 5, 2, 1, 0, 180;
STRK;
MRP 0.6, 1.2;
TPRS 1;
CSET 19K;
SKFT 'DFHSMINCHO-W3-SJ',16;
TEXT '弧';
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

PARC

ASFN 外字フォントの割付と解除

(ASsign FoNt)

書式 ASFN モード, フォント番号;

パラメータ

モード	A	外字フォントの割付
	R	外字フォントの解除
フォント番号		ユーザ定義のフォント番号(1000 ~ 65535)

説明

ASFN コマンドは、現在選択しているプリントシステム内蔵フォントに対して、ユーザ定義フォントを外字フォントとして割り付けます。ユーザ定義フォントは、あらかじめダウンロードしておく必要があります。

ユーザ定義フォントが1バイト系であれば、現在の ANK フォントに対して割り付けられ、2バイト系であれば現在の漢字フォントに対して割り付けられます。割り付けの対象となる内蔵フォントと、割り付けられるユーザ定義フォントは両方ともがビットマップフォントであるか、または両方ともがアウトラインフォントである必要があります。

現在選択しているフォントに割り付けられた外字を解除する場合は ASFN R;で行います。ASFN R, 0;とすると、全ての外字フォントを一括で割り付け解除することができます。また、外字登録したユーザ定義フォントを削除するには DELF コマンドで行います。この場合、ASFN Rによって、外字フォント割り付けの解除を行ってください。

例 !R! ASFN A, 1000; EXIT;

ASTK

ソータトレイのグループ化

(Assign STacker)

書式	ASTK [グループ 1, グループ 2, グループ 3, ...];
パラメータ	グループ n 各トレイグループの最下段となるトレイの番号
説明	<p>ASTK コマンドは、ソータ（メールボックス）の複数のトレイを、グループ化します。ASTK コマンドはソータの共有モードがマルチモードの場合のみに有効です。ソータの共有モードについては、ソータに付属の使用説明書などの説明を参照してください。</p> <p>パラメータには、グループ化されるトレイの最後のトレイ番号を指定します。たとえばトレイ 1 から 5 を第 1 グループとする場合、ASTK の最初のパラメータは 5 となります。次に 15 トレイのソータを、4 グループに分ける例を示します。</p> <pre> グループ 1 トレイ 1, 2, 3, 4, 5 グループ 2 トレイ 6, 7 グループ 3 トレイ 8, 9, 10 グループ 4 トレイ 11, 12, 13, 14, 15 </pre> <p>この場合の ASTK コマンドのパラメータは、次のようになります。</p> <pre>IR! ASTK 5, 7, 10, 15; EXIT;</pre> <p>最後のパラメータとして、ソータに実際に装備されているトレイの数より少ない数を設定した場合、自動的に残りのすべてのトレイをグループ化します。たとえば、上の例でグループ 4 のパラメータを 13 とした場合でも、トレイ 14 および 15 も自動的にグループ 4 に含まれます。トレイの数より大きい数を設定した場合は、ASTK コマンドは無視されます。</p> <p>トレイ番号を省略して ASTK コマンドを発行した場合 (ASTK;)、トレイのグループ割り当てはデフォルト値が選ばれます。たとえば、15 トレイを持つソータの場合、ASTK 5, 10, 15; と設定した場合と同じとなり、5 トレイずつの 3 グループになります。</p> <p>トレイのグループ化設定は、新たに ASTK コマンドで再設定するまで有効です。グループ化設定後にマルチモード以外で使用し、再びマルチモードに戻した場合でも、グループ化設定は再び有効となります。FRPO INIT コマンドを実行しても初期設定には戻りません。</p>
例	<p>上記の例でグループ化した、第 2 トレイグループのトレイ (トレイ 6, 7) に印刷出力する場合の例を示します。</p> <pre>IR!</pre>

```
FRPO S0,1;          CMNT ソータをマルチモードに設定;  
COPY 2;            CMNT コピー枚数の設定;  
STAK 3;            CMNT 排紙先をソータに指定;  
ASTK 5, 7, 10, 15, CMNT トレイグループを作成;  
MID 2;             CMNT 2番目のトレイグループを出力先に指定;  
SSTK;              CMNT ソータ出力を選択;  
TEXT "2番目のトレイ・グループに出力";
```

```
PAGE;  
EXIT;
```

関連コマンド

CSTK、MID、MSTK、SSTK

BARC

バーコード印刷

(draw BARCode)

書式 BARC タイプ, フラグ, '文字列' [, 短, 長 [, バー 1, バー 2, バー 3, バー 4, スペース 1, スペース 2, スペース 3, スペース 4]] ;

パラメータ	タイプ	バーコードの種類 (以下を参照)
	0	UPC A
	1	UPC A with two-digit supplement
	2	UPC A with five-digit supplement
	3	UPC D-1
	4	UPC D-2
	5	UPC D-3
	6	UPC D-4
	7	UPC D-5
	8	UPC E
	9	UPC E with two-digit supplement
	10	UPC E with five-digit supplement
	11	EAN-8 (JAN 短縮)
	12	EAN-13 (JAN 短縮)
	13	DUN-14 (Distribution Unit Number, EAN)
	14	DUN-16 (Distribution Unit Number, EAN)
	15	MSI with no check digit
	16	MSI with single mod-10 check digit
	17	MSI mod-10 followed by mod-10 check digit
	18	MSI mod-11 followed by mod-10 check digit
	19	CODE 39 with no check digit
	20	CODE 39 with mod-43 check digit
	21	Interleaved two of five with no check digit
	22	Identicon two of five with no checksum
	23	Code 128 (manual mode change)
	24	Code 128 (auto mode change)
	25	Code 11 with only 'c'
	26	Code 11 with both 'c' and 'k' checksum
	27	Code 93 with both 'c' and 'k' checksum
	28	CODABAR with no check digit (narrow gap)
	29	Matrix two of five with no checksum
	31	Industrial two of five with no checksum
	32	Ames with no checksum
	33	Delta distance 'a' (IBM) with no checksum
	34	Delta distance 'a' (IBM) with no checksum
	35	EAN 8 with two-digit supplement
	36	EAN 8 with five-digit supplement
	37	EAN 13 with two-digit supplement

	38	EAN 13 with five-digit supplement
	39	POSTNET
	40	FIM
	41	Interleaved two of five with check digit
	42	UPC/EAN128
	43	CUSTOM CODE (Japan)
	44	CODABAR with no check digit (wide gap)
フラグ	Y	バーコード下に文字列を印刷
	N	文字列を印刷しない
文字列		バーコード化する文字列。引用符または二重引用符で囲む
短		バー長さが長短 2 種類あるタイプのバーコードの、短いバーの長さ。 バー長さが 1 種類だけのバーコードについては、全てのバーの長さ。デフォルト値は 1.52cm(0.6 インチ、180 ドット)。単位は UNIT コマンドに従う。 最小値 0.254cm(0.1 インチ、30 ドット) 最大値 27.9cm(11 インチ、3300 ドット)
長		バー長さが長短 2 種類あるタイプのバーコードの、長いバーの長さ。デフォルト値、最小値、最大値は長いバーと同じ。
バー 1/2/3/4		バー幅 最小値 0.0085cm(0.0033 インチ、1 ドット) 最大値 1.6933cm(0.6667 インチ、200 ドット)
スペース 1/2/3/4		スペース幅 最小値、最大値はバー幅と同じ。

説明

BARC コマンドは、文字列データをバーコードに変換して印刷します。書式の内、タイプとフラグと文字列のパラメータは必ず指定する必要があります。印刷後のカーソルは、バーコードの左上に留まります。

バーコードの種類について、上記にない値を指定すると自動的に 12 の EAN-13 が選ばれます。

フラグは、印刷されるバーコードの下に文字列を印刷する場合は Y、印刷しない場合は N を指定します。文字列の印刷は、現在プリントシステムで選ばれているフォントが使用されます。BARC コマンド以前にフォント選択コマンドを置き、任意のフォントで印刷することが可能です。文字列は引用符 (') あるいは二重 (") 引用符で囲んで指定します。

入力可能文字列について

文字列の長さは、使用するバーコードの種類によって異なります。主なバーコードタイプで入力可能な文字は、次の表のとおりです。

表 20 入力可能文字 (1 / 2)

タイプ	最大	使用可能文字	デフォルト
0	11	0123456789	0
1	13	0123456789	0
2	16	0123456789	0
3	13	0123456789	0
4	18	0123456789	0
5	22	0123456789	0
6	25	0123456789	0
7	29	0123456789	0
8	6	0123456789	0
9	8	0123456789	0
10	11	0123456789	0
11	7	0123456789	0
12	12	0123456789	0
13	13	0123456789	0
14	15	0123456789	0
15	1 ~ 14	0123456789	0
16	1 ~ 14	0123456789	0
17	1 ~ 14	0123456789	0
18	1 ~ 14	0123456789	0
19	1 ~ 40	\$%+./0123456789ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ およびスペース	スペース
20	1 ~ 40	\$%+./0123456789ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ およびスペース	スペース
21	2 ~ 26	0123456789	0
22	1 ~ 25	0123456789	0
23	1 ~ 40	すべて (ASCII 文字 32 ~ 126)	スペース
24	2 ~ 40	すべて (ASCII 文字 32 ~ 126)	スペース
25	1 ~ 45	-0123456789	スペース
26	1 ~ 45	-0123456789	スペース
27	1 ~ 50	すべて (ASCII 文字 32 ~ 126)	スペース
28	3 ~ 32	\$+./0123456789:abcdetn*	-
29	1 ~ 25	0123456789	0
30	1 ~ 25	0123456789	0
31	1 ~ 25	0123456789	0
32	1 ~ 25	-0123456789	0
33	1 ~ 25	0123456789KLMO	0
34	1 ~ 25	0123456789KLMO	0

表 20 入力可能文字 (2 / 2)

タイプ	最大	使用可能文字	デフォルト
35	9	0123456789	0
36	12	0123456789	0
37	14	0123456789	0
38	17	0123456789	0
39	139	0123456789	-
40	1	次の FIM パターンタイプ A. Country Reply Mail with POSTNET B. Business Reply, Penalty and Franked Mail without POSTNET C. Business Reply, Penalty and Franked Mail with POSTNET D. OCR Readable Mail without POSTNET	0
41	125	0123456789	0
42	80	すべて (ASCII 文字 32 ~ 126)	
43	1-20	0123456789ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ	-
44	3-32	\$+./0123456789:abcdetn* およびスペース	-

バーの長さ

UPC および EAN (JAN) のバーコードタイプについては、長短バーの長さを調節することができます。長短バーの長さを調節する場合は、長短両方のバーの長さを調節してください。長あるいは短のバーのみの長さを調節した場合、バーの長さは変わりません。バーコードリーダーの誤読を避けるため、長さの指定はドット単位で行うことをお勧めします。次の例は、短いバーの長さを 1.5cm、長いバーの長さを 1.7cm にしたものです。

!R! UNIT D; BARC 8, Y, '123456', 180, 200; PAGE; EXIT;



バーの幅と間隔 (スペース)

バーの幅やバーどうしの間隔を調節することが可能です。これらの調節を行う場合は、バーの幅およびバーの間隔のパラメータを 8 つとも指定してください。また、バーの幅およびバーの間隔は、バー 1 からバー 4 へと幅が大きくなるように指定してください。バーの幅およびバーの間隔の範囲は、1 ~ 200 ドットです。

1 ドット ≤ バー 1 < バー 2 < バー 3 < バー 4 ≤ 200 ドット

1 ドット ≤ スペース 1 < スペース 2 < スペース 3 < スペース 4 ≤ 200 ドット

バーコードリーダの誤読を避けるため、幅や間隔の指定はドット単位で行うことをお勧めします。次の例は、最初のバーの幅と間隔を5ドット、残りのバーの幅と間隔を10ドットにしたバーコードの例です。

```
!R! UNIT D;  
    BARC 19, Y, '0123ABC', 60, 60, 5, 10, 10, 10, 10, 5, 10, 10;  
    PAGE;  
EXIT;
```



0123ABC

BKLT

製本モード印刷

(print in BookLeT binding)

書式

BKLT 綴じモード;

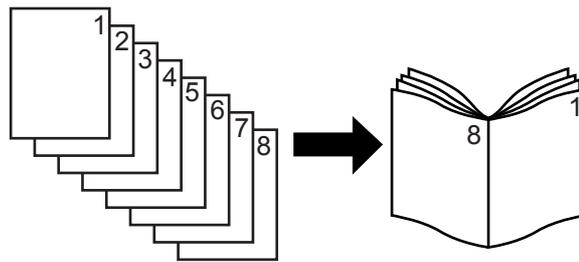
パラメータ

綴じモード 0 ブックレット印刷なし
 1 洋綴じ (左から右へ読む)
 2 和綴じ (右から左へ読む)

説明

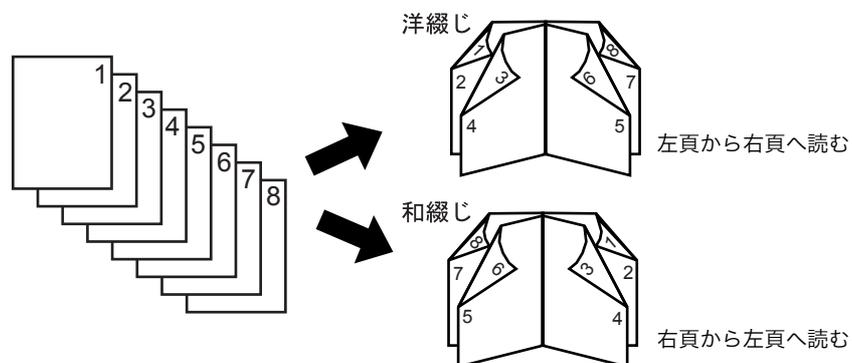
BKLT コマンドは、ページを用紙の左右裏表に割り付けて、製本可能な小冊子として印刷出力します。製本モードには、ハードディスクが必要です。ハードディスクがない場合、通常の印刷を行います。また、FOLD コマンドと組み合わせて、自動的に折りを入れてステープルすることも可能です。

たとえば下の例のような A4 サイズで 8 ページのジョブは、A3 の用紙 4 ページ分に割り付けられて印刷されます。



BKLT コマンドを使用して製本モード印刷を行う場合、印刷ジョブは JOBS および JOBT コマンドによって定義されたジョブであることが必要です。製本モードで印刷できる用紙サイズは A3、A4R、B4、Ledger、Letter-R、8K の 6 種類です。ジョブ中の全ページは同じ用紙サイズであることが必要です。

綴じモードによって、下図のように洋綴じと和綴じのモードを選択できます。



例

A4 サイズの 12 ページの文書を製本モードで印刷する例。SPSZ 8, 5; コマンドで縮小を行うことにより、用紙は A4 用紙 (縦置き) 3 枚に印刷出力されます。

```
!R! SEM 6; SPSZ 8, 5;
UNIT C;
DUPX 2;
BKLT 1;
FOLD;
TPRS 1;
CSET 19K;
FSET 1p56v0s0b2885T;

JOBS 0, 1, 0, 0;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 1";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 2";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 3";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 4";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 5";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 6";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 7";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 8";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 9";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 10";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 11";
PAGE;
MZP 4, 5; TEXT " ページ 12";
PAGE;
JOBT;
EXIT;
```

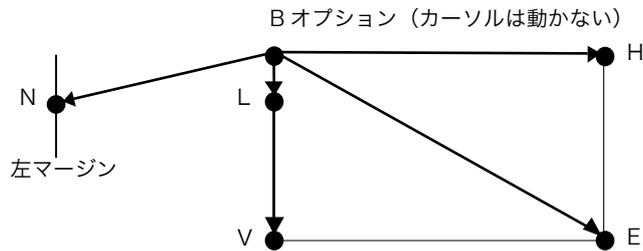
BLK 指定パターンでブロックを描く

(draw filled-in BLock)

書式 BLK 幅, 高さ [, オプション] ;

パラメータ	幅	ブロックの幅
	高さ	ブロックの高さ
	オプション	描画後のカーソルの位置
	B	元の位置 (デフォルト)
	H	隣の隅
	V	上または下の隅
	E	対角
	L	開始位置の 1 行下
	N	次行の始め

説明 BLK コマンドは、現在のカーソルの位置を始点として、直前の PAT、FPAT または GPAT コマンドで指定したパターンで、ブロックを塗りつぶします。描画後のカーソルの位置は、オプション・パラメータで下のように選ぶことができます。



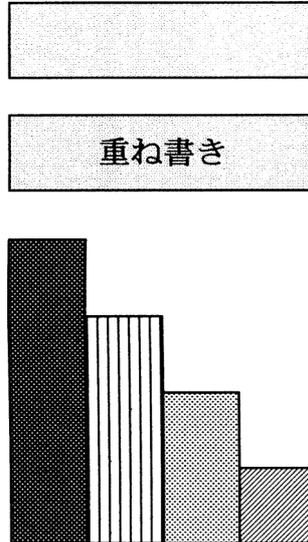
例

```

!R! RES; UNIT C; MAP 5, 5;
FPAT 1, 16, 0, 0, 2, 32, 0, 0;
BOX 4, 1; BLK 4, 1;
MRP 0, 1.5;
BOX 4, 1; BLK 4, 1;
MRP 2, 0.64;
TPRS 1; CSET 19K;
CTXT '重ね書き';
MRP -2, 5;
PAT 2;
BOX 1, -4; BLK 1, -4, H;
PAT 16;
BOX 1, -3; BLK 1, -3, H;
PAT 6;
BOX 1, -2; BLK 1, -2, H;
PAT 20;
    
```

BOX 1, -1; BLK 1, -1;
RES; EXIT;

印刷結果



関連コマンド

PAT、FPAT、GPAT

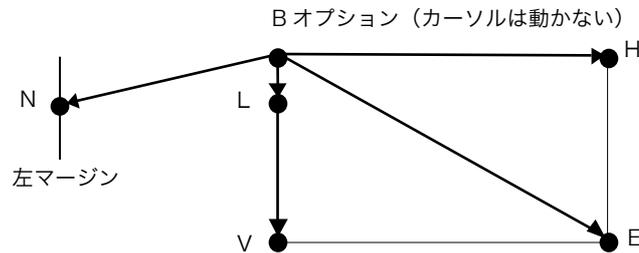
BOX 四角形を描く

(draw BOX)

書式 BOX 幅、高さ [, オプション];

パラメータ	幅	四角形の幅
	高さ	四角形の高さ
	オプション	描画後のカーソルの位置
	B	元の位置 (デフォルト)
	H	隣の隅
	V	上または下の隅
	E	対角
	L	開始位置の 1 行下
	N	次行の始め

説明 BOX コマンドは、現在のカーソル位置を始点として、指定した幅と高さの四角形を描きます。線の太さは SPD コマンドで指定します。幅と高さの値は、正でも負でもかまいません。単位は UNIT コマンドで設定します。描画後のカーソルの位置は、オプション・パラメータで下のように選ぶことができます。



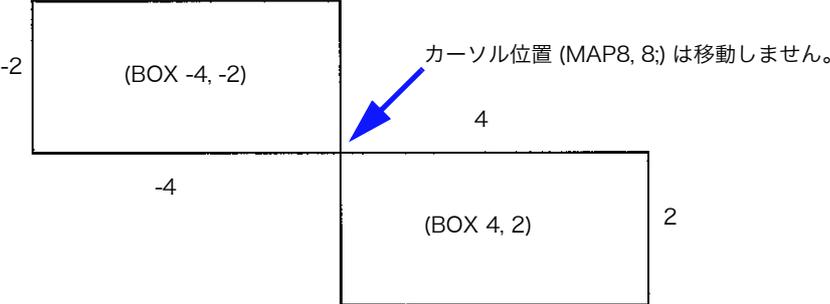
パターンで塗りつぶされた四角形を描画するには、36 ページの BLK コマンドを使います。

例

```

!R! RES; UNIT C;
MAP 8, 8;
BOX -4, -2;
BOX 4, 2;
RES;
EXIT;
    
```

印刷結果



CALL

マクロの呼出し

(CALL macro)

書式 CALL [実行回数] マクロ名, パラメータの値 ...;

パラメータ

実行回数	マクロを実行する回数
マクロ名	実行するマクロ名
ダミーパラメータの値	マクロ内のダミー・パラメータ (%) に与える値

説明 CALL コマンドは、MCRO コマンドで作成したマクロを実行します。実行回数を指定すると、マクロを連続して実行することができます。(実行回数の後にはカンマは不要です。) 実行回数を省略すると、マクロは1回だけ実行されます。マクロ名は、MCRO コマンドで作成したマクロ名の最初の4文字だけでもかまいません。

ダミーパラメータの値は、マクロの作成の際に指定したダミーパラメータ (%) に代入されて実行されます。ダミーパラメータが複数ある場合は、カンマで区切ります。したがって、ダミーパラメータ自体にカンマを含むことはできません。

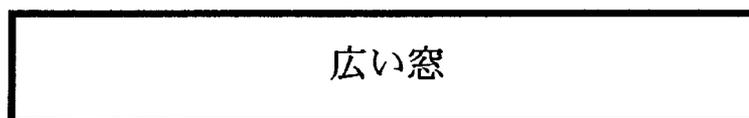
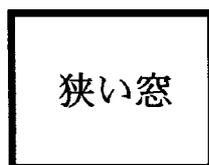
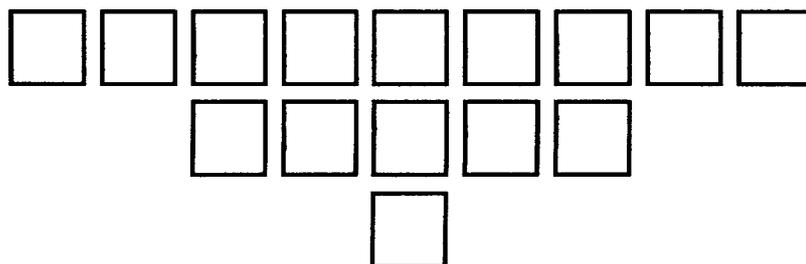
引用符 (') や2重引用符 (") で囲んだ文字列の場合は、この文字列内に含まれる引用符も、そのままパラメータとして実行されます。

マクロ呼び出しは「入れ子(あるマクロ内で別のマクロを呼び出すこと)」とすることが可能です。

例 次の例を実行する場合は、92 ページの ENDM コマンドを参照して、あらかじめ BX と SCREEN のマクロ例を作成しておいてください。

```
!R! UNIT C; SLS 0.5;
MAP 5, 3; CALL 9 BX;
MAP 7, 4; CALL 5 BX;
MAP 9, 5; CALL BX;
TPRS 1; CSET 19K;
MAP 8.3, 6.2; CALL SCREEN, 2.2, 1.7;
MAP 8.8, 7.2; TEXT '狭い窓';
MAP 5.3, 9.3; CALL SCREEN, 8.2, 1.2;
MAP 8.8, 10; TEXT '広い窓';
RES; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

MCRO

CCPY

カーボンコピー

(Carbon CoPY)

書式 CCPY モード;

パラメータ

モード E カーボンコピーの実行
D カーボンコピーの終了

説明 CCPY コマンドは、給紙元（給紙カセットまたはトレイ）ごとに別々の自動マクロを登録するコマンドです。（自動マクロに関しては、19 ページの AMCR コマンドを参照してください。）ジョブを送信すると、登録された給紙元から給紙が行われ、それぞれに登録されている自動マクロが実行されます。ジョブは登録された給紙元の数だけ印刷され、異なるマクロが実行されて、カーボンコピーのような印刷効果が得られます。自動マクロは給紙元ごとに、次の例のように指定します。

```
CCPY E;
PSRC 2; AMCR E, TOMBO; TERM;
PSRC 3; AMCR E, SHOMEI; TERM;
PSRC 4; AMCR E, DEN-PYO; TERM;
ENDC;
```

CCPY コマンドでは両面印刷ができません。CCPY コマンドを実行するときは、給紙元用の紙サイズと印刷の向きをすべて同一に設定する必要があります。設定が同一でない場合、カーボンコピーはキャンセルされます。

上の例では、2 段目の給紙カセットから 4 段目の給紙カセットまでの用紙が順番に給紙され、AMCR コマンドで指定したマクロがそれぞれに実行されます。TERM; は各行の設定を確定させるターミネータであり、ENDC; は CCPY コマンドのターミネータです。

カーボンコピー機能で印刷されるジョブは、印刷枚数が強制的に 1 に設定されます。上の例の場合はページが異なる自動マクロによって 3 枚の帳票などと重ねられて印刷されます。

複数ページのジョブに自動マクロを重ね印刷する場合で、特定のページには自動マクロを適用しないようにするには、そのページには AMCR の代わりに TERM; のみを定義します。

例

```

!R!
SEM 6;

TPRS 1; CSET 19K; SPSZ 8;

MCRO COVER;
UNIT C;
TPRS 1; CSET 19K;
FSET 1p12v0s0b28825T; TEXT ' ご登録用紙 ', L;
FSET 1p10v0s0b28752T; TEXT ' 登録される方のお名前、ご住所などを入力
してください。 ';
MRP 0, .2;
BOX 6, 1;
MRP 0, .35;
FSET 1p9v0s0b28825T; TEXT ' お名前 ';
ENDM;

MCRO MAIL;
UNIT C;
TPRS 1; CSET 19K;
FSET 1p12v0s0b28825T; TEXT ' 商品お届け先 ', L;
FSET 1p10v0s0b28752T; TEXT ' 商品発送係控え ';
MRP 0, .2;
BOX 6, 1;
MRP 0, .35;
FSET 1p9v0s0b28825T; TEXT " ご依頼人のお名前 ";
ENDM;

MCRO COPY;
UNIT C;
TPRS 1; CSET 19K;
FSET 1p12v0s0b28825T; TEXT " お客様控え ", L;
FSET 1p10v0s0b28752T; TEXT ' 商品到着まで大切に保管してください。 ';
MRP 0, .2;
BOX 6, 1;
MRP 0, .35;
FSET 1p9v0s0b28825T; TEXT ' お客様のお名前 ';
ENDM;

CCPY E;
PSRC 1; AMCR E,COVER; TERM;
PSRC 0; AMCR E,MAIL; TERM;
PSRC 1; AMCR E,COPY; TERM;
ENDC;

EXIT;

!R!
MZP 0, 2.7; CMNT <2.7> 適宜調整してください;
TEXT ' 小島 孝夫 ';
PAGE;
EXIT;

```

印刷結果

お客様控え

商品到着まで大切に保管してください。

お客様のお名前

小島 孝夫

商品お届け先

商品発送係控え

ご依頼人のお名前

小島 孝夫

ご登録用紙

登録される方のお名前、ご住所などを入力してください。

お名前

小島 孝夫

CDSK

ハードディスクの最適化

(Check hard DiSK)

書式

CDSK;

説明

CDSK コマンドは、ハードディスク中のデータを検査し、ハードディスクの最適化を行います。CDSK コマンドを送信すると、ただちに最適化が開始されデータシヨリチュウデスと表示されます。最適化にはハードディスクの容量によって、数分かかります。

CDSK コマンドを使用しても、ハードディスクに格納されているデータに影響はありません。また、コマンド実行後に情報ページなどは自動的に印刷されません。

例

IR! CDSK; EXIT;

CID カラー・イメージデータの割り当て (Configure color-Image Data)

書式	CID 色空間, エンコード;
パラメータ	色空間 0 RGB(デフォルト) 1 CMY 3 CIE L*a*b エンコード 1 ピクセルインデックス(デフォルト) 3 ピクセルによる直接エンコード

説明 CID コマンドは、現在アクティブなパレットに割り当てられている ID を使用して、新しいカラーパレットを作成します。このコマンドによって、現在アクティブなパレットは削除されます。

このパレットにカラーを追加したり、このパレット上でカラーを変更したりすることができます。ただし、CID コマンドによって新しいパレットが作成されても、現在アクティブなカラーは変わりません。

RGB カラースペースが指定される際に、0～7 のインデックスに対して、シンプルカラーと同じカラーが定義されます。ACLI コマンドを使用して、これらの指数に対するカラー割り当てを変更することができます。

エンコードパラメータは、パレットにカラーを割り当てます。これは、テキストオブジェクトとベクトルオブジェクトをレンダリングするために使用されます。ピクセルによる直接エンコードは、ピクセルにカラーを直接割り当てるエンコードで、ビットマップイメージに使用されます。

例

```

!R! RES;
UNIT C;
TPRS 1; CSET 19K;
CPAL C, 1; SPAL 1;
CID 0, 1; CMNT RGB 色空間;
ACLI 1, 0, 0, 255;
MZIP 1, 1; SCOL 1;
TEXT 'RGB パレットを使用';
CID 3, 1; CMNT L*a*b 色空間;
ACLI 2, 100, 75, 0;
MZIP 1, 2; SCOL 2;
TEXT 'L*a*b パレットを使用';
PAGE; EXIT;
    
```

印刷結果

RGB パレットを使用

L*a*b パレットを使用

CIR

円を描く

(draw CIRcle)

書式

CIR 半径 ;

パラメータ

半径

円の半径

説明

CIR コマンドは、現在のカーソル位置を中心にして円を描きます。円の線の太さは SPD コマンドで指定します。

PARC コマンドを使用して、パスモードによって円を描くこともできます。詳しくは 173 ページの PARC コマンドの説明を参照してください。

例

```
!R! RES; SEM 6; UNIT C;
```

```
SPD .01; MAP 10, 1;
```

```
CIR .1; MRP 0, .1;
```

```
CIR .2; MRP 0, .2;
```

```
CIR .4; MRP 0, .4;
```

```
CIR .8; MRP 0, .8;
```

```
SPD .02;
```

```
CIR 1.6; MRP 0, 1.6;
```

```
CIR 3.2; MRP 0, 3.2;
```

```
SPD .05; CIR 6.4;
```

```
SPD .2;
```

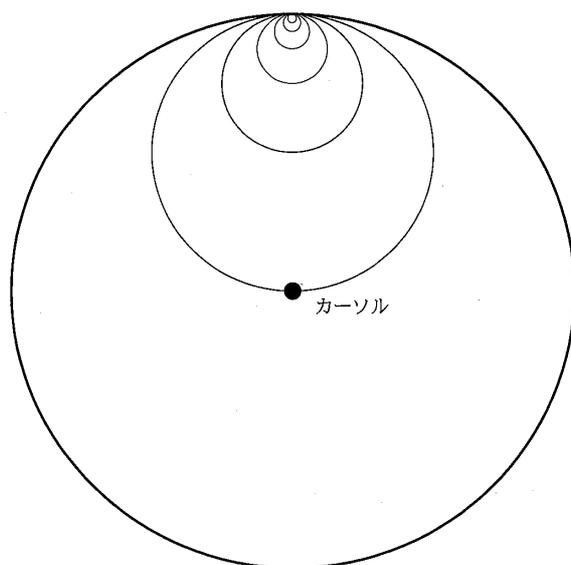
```
CIR .1; MRP .5, .5;
```

```
TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p12v0s0b28752T;
```

```
TEXT 'カーソル';
```

```
RES; EXIT;
```

印刷結果



CLIP

パスをクリップする

(CLIP current path)

書式

CLIP モード ;

パラメータ

モード 0 EOクリップ
 1 ノンゼロウィンド・クリップ

説明

CLIP コマンドは、カレントのパスをクリップパスにします。クリップパスより外側には描画されません。

DAP、DRP、DRPA、DZP、BOX、BLK、CIR、ARC、PIE コマンドなどの非パスモードのコマンドで描画したグラフィックスには、CLIP コマンドによるクリップは適用されません。

クリップパスは、RES コマンドによってクリップなしに初期化されます。

CLPR

クリップ領域の設定

(CLiP Rectangular area)

書式

CLPR [x1 座標, y1 座標, x2 座標, y2 座標] ;

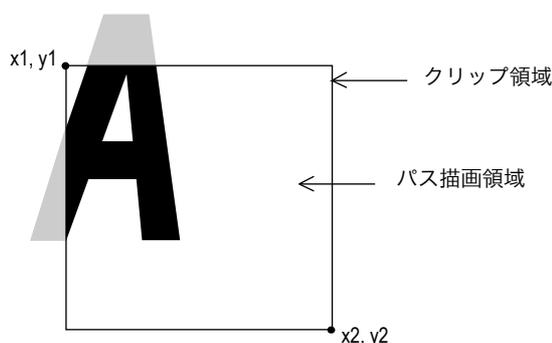
パラメータ

x1 座標 クリップ領域上左端の x 座標
 y1 座標 クリップ領域上左端の y 座標
 x2 座標 クリップ領域下右端の x 座標
 y2 座標 クリップ領域下右端の y 座標

説明

CLPR コマンドは、2つの座標を対角とする矩形をクリップ領域として設定し、パスのクリップを行います。クリップ領域外のパスは描画されません。CLPR で設定できるクリップ領域は1つのみです。

図2 クリップ領域の例



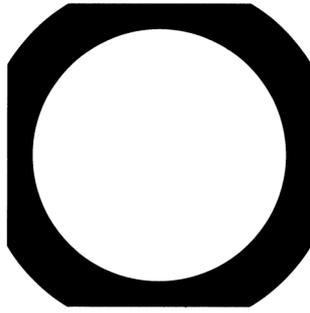
パラメータを省略すると、最大印刷領域（デフォルト）をクリップパスとします。x1 > x2 または y1 > y2 となるような指定を行うと、エラーとなり、クリップ領域は指定されません。また、座標値が印刷領域を超えている場合、クリップは印刷領域内に自動的に調整されます。

CLPR によるクリップは、RES コマンドで初期設定（最大印刷領域）にもどります。

例

```
IR! RES; UNIT C;
NEWP;
SPD 1;
PMRA 6., 9, 3, 0;
PARC 6, 9, 3, 0, 360;
CLPR 3, 6, 9, 12;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



CLSP

サブパスを閉じる

(CLoSe Path)

書式

CLSP;

説明

CLSP コマンドは、サブパスを閉じます。すなわち、カレント・ポイントとサブパスの始点を接続する線分を付け加えてパスを作成します。

パスを開いたままで描画する場合は、CLSP コマンドを使う必要はありません。また、パスが開いたままで FILL コマンドを実行すると、強制的にパスは閉じられます。

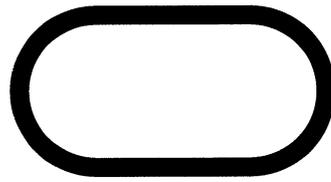
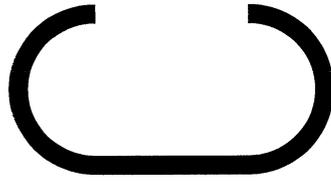
例

```
IRI RES; UNIT C;
NEWP;
CMNT パスを閉じずに描画;
SPD .25;
PMZP 5, 10;
PMRA 5, 10, 1, 90;
PARC 5, 10, 1, 90, 270;
PARC 7, 10, 1, 270, 90;
STRK;

NEWP;
CMNT CLSP でパスを閉じて描画;
PMZP 5, 14;
PMRA 5, 14, 1, 90;
PARC 5, 14, 1, 90, 270;
PARC 7, 14, 1, 270, 90;
CLSP;
STRK;

PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

NEWP

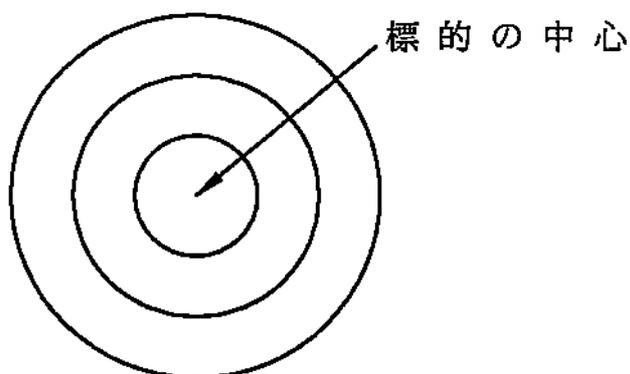
CMNT

注釈

(CoMmeNT)

書式	CMNT 文字列;
パラメータ	文字列 注釈となる文字列
説明	<p>CMNT コマンドは、プログラムやファイル中に、コマンドの意味や目的を注釈として記述するのに使います。CMNT コマンドとその文字列は印刷されません。</p> <p>CMNT コマンドの文字列は引用符でかこむ必要はありません。ただし、文字列内に引用符やセミコロンを含む場合には、文字列の最初と最後に引用符が必要となります。</p>
例	<pre>IRI RES; UNIT C; MAP 5,5; CMNT 標的の円を描く; TPRS 1; CSET 19K; SKFT 'DFHSMINCHO-W3-SJ',16; CIR 0.6; CIR 1.2; CIR 1.8; CMNT 矢印; ARC 0,0.3,40,60; DRPA 2.3,50; TEXT '標的の中心'; RES; EXIT;</pre>

印刷結果



CMOD カラーモード

(Color MODe)

書式 CMOD カラーモード;

パラメータ カラーモード 0 モノクロ
1 カラー (デフォルト)

説明 CMOD コマンドは、モノクロモードとカラーモードの切り換えを行います。

モノクロモードでも、他のカラーコマンドの使用は可能ですが、カラーデータは白黒またはグレースケールに変換されて印刷されます。

このコマンドは、改ページを行います。

COPY

印刷枚数の設定

(set number of COPIES)

書式

COPY 数;

パラメータ

数

印刷枚数

説明

COPY コマンドは各ページを印刷する枚数を設定します。設定した枚数は、あらたな COPY コマンドか RES コマンドが発行されるまで有効です。設定枚数は最大 999 枚までです。

COPY コマンドは、通常ファイルやプログラムの先頭に置きます。同一ページに複数の COPY コマンドがある場合は、最後の COPY コマンドが有効です。

例

```
!R! COPY 2;
EXIT;
```

お知らせ

歓迎パーティ 今夜 6 時 喫茶〈ダコタ〉にて

```
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

```
お知らせ
```

```
歓迎パーティ 今夜6時 喫茶〈ダコタ〉にて
```

```
お知らせ
```

```
歓迎パーティ 今夜6時 喫茶〈ダコタ〉にて
```

CPAL パレットを削除 / コピー

(Control PALette)

書式	CPAL モード [, ID 番号];
パラメータ	<p>モード A パレットを全て削除</p> <p> S スタックずみパレットを全て削除</p> <p> D ID 番号で指定するパレットを削除</p> <p> C アクティブなパレットを ID 番号のパレットにコピー</p> <p>ID 番号 0 ~ 32767 の番号 (デフォルトは 0)</p>
説明	<p>CPAL コマンドは、モードで指定する方法で、パレット ID 番号で指定するパレットを削除します。ID 番号が指定されていない場合は、ID 番号 0 のパレットに適用されます。指定する ID 番号がすでに存在するかどうかの確認は行われません。</p> <p>モード A は既存のパレットを全て削除し、パレットをデフォルト状態 (ID 番号 0) に戻します。アクティブでないパレットは削除されません。モード A では、ID 番号は無効です。</p> <p>モード S は、アクティブでないパレットを全て削除します。アクティブなパレットは削除されません。モード S では ID 番号は無効です。</p> <p>モード D は、ID 番号で指定されたアクティブまたは非アクティブのパレットを削除します。削除されたパレットがアクティブであった場合は、削除されたパレットと同じ ID 番号を持つ、モノクロパレットが現在のパレットとして作成されます。</p> <p>モード C は、現在アクティブなパレットを、ID 番号によって指定される新しい ID 番号を持つ新しいパレットにコピーします。同じ ID 番号を持つパレットがすでに存在する場合は、そのパレットに上書きされます。</p> <p>RES コマンドによって、ID 番号は 0 にリセットされます。</p>

CPTH

文字パス

(Character PaTH)

書式	CPTH '文字列';
パラメータ	文字列 ASCII コード 31(16 進数 1F) 以下のコードを除く、任意の文字列
説明	<p>CPTH コマンドは、文字の輪郭をパスとすることにより、文字による特殊効果を作成します。文字パスは内蔵アウトライン・フォントにのみ有効です。</p> <p>文字列は引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。</p> <p>作成したパスは、PAT コマンド、FPAT コマンド、または GPAT コマンドで指定するパターンで塗りつぶす (FILL) ことができます。</p> <p>文字パスとして長い文字列を指定した場合、プリントシステムのメモリ環境によっては、メモリアオーバーフローが発生する場合があります。漢字は ANK フォントと比較してより多くのメモリを必要とします。</p>
例	<pre>!RI SEM 6; MZP 1, 1; NEWP; GPAT .5; TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p48v0s0b28752T; CPTH '文字パス'; FILL 1; PAGE; EXIT;</pre>

印刷結果

文字パス

CRKF 漢字フォントヘッダの生成

(CReate Kanji Font header)

書式 CRKF フォント番号, 文字の高さ, 文字の幅, y 軸オフセット, x 軸オフセット, セルの幅, センタ, 回転;

パラメータ

フォント番号	1000 ~ 65535 の整数	
文字の高さ	文字の高さ	0 ~ 3999 dots
文字の幅	文字の幅	0 ~ 3999 dots
y 軸オフセット	ベース・ラインから文字の上端までの距離	-32768 ~ 32767 μ dots
x 軸オフセット	文字セルの左端から文字自身のビット・マップの左端までの距離	-32768 ~ 32767 μ dots
セルの幅	文字セルの幅	0 ~ 32767 μ dots
センタ	文字セルの左端から文字の中心までの距離	0 ~ 32767 μ dots
回転	0 のみ	

説明 CRKF コマンドは、LDKC コマンドでダウンロードする漢字フォントのヘッダを生成します。フォント番号は、他のフォントのフォント番号と重複しないよう注意してください。すでにダウンロードされているフォントのフォント番号が有効です。

文字の高さなどで使用されるマイクロドット (μ dots) は、1/32 ドットの単位です。いずれのパラメータも整数のみが有効です。y 軸オフセットの値は正が上方向、負が下方向への移動となります。x 軸オフセットの値は正が左方向、負が右方向への移動となります。

CRKF コマンドは、改ページを行います。

関連コマンド LDKC、DKJF

CSET

シンボルセットの選択

(Change symbol SET by symbol-set ID)

書式

CSET シンボルセット ;

パラメータ

シンボルセット	0D	ISO 60 Norway
	0E	Roman Extension
	0F	ISO 25: French
	0G	HP German
	0I	ISO 15 Italian
	0K	ISO 14 JISASCII
	0N	ECMA-94 Latin 1
	0S	ISO 11 Swedish
	0U	ISO 6 ASCII
	1D	ISO 61 Norwegian
	1E	ISO 4 U.K.
	1F	ISO 69 France
	1G	ISO 21 Germany
	1S	ISO 15 Spanish
	1U	US Legal
	2K	ISO 57 Chinese
	2N	ISO Latin 2
	2S	ISO 17 Spain
	2U	ISO 2 1RV
	3S	ISO 10 Swedish
	4S	ISO 16 Portuguese
	4U	Roman-9
	5M	PS Math
	5N	ISO Latin 5
	5S	ISO 84 Portuguese
	5T	ISO Windows Latin 5
	6J	MS Publishing
	6M	Ventura Math
	6N	ISO8859/10 Latin 6
	6S	ISO 85 Spanish
	7J	Desktop
	8G	Greek-8
	8M	Math 8
	8Q	PC Set 1 IBM
	8T	Turkish-8
	8U	Roman-8
	9E	Windows Latin 2
	9G	Windows 3.1 Latin/Greek
	9J	PC-1004

9L	Ventura ITC Zapf Dingbats
9N	ISO Latin 9
9Q	PC Extension
9R	Windows3.1 Latin/Cyrillic
9T	PC-Turkish
9U	Windows 3.0
10G	PS-851 Latin/Greek
10J	PS Text
10N	ISO8859/5 Latin/Cyrillic
10R	PS-855 Cyrillic/Serbia
10U	IBM PC-8
11G	PC-869 Latin/Greek
11U	IBM PC-8 Danish/Norwegian
12G	PC-8 Latin/Greek
12J	Macintosh
12N	ISO8859/7 Latin/Greek
12R	USSR-GOST
12U	IBM PC-850
13P	ABICOMP Brazil/Portugal
13R	PC-8 Bulgarian
13U	PC-858
14G	Greek Alternate 437G
14P	ABICOMP International
14R	PC Ukrainian
15U	Pi Font
16U	PC-857
17U	PC-852
18N	ISO-10646
18U	PC-853 Turkish/Latin 3
19K	Windows 3.1 J
19L	Windows 3.1 Baltic
19M	Symbol (Symbol-Set-SWM font only)
19U	Windows Latin 1
20U	PC-860 Portugal
21U	PC-861 Iceland
23U	PC-863 Canada-French
24Q	PC-8 Polish Mazovia
25U	PC-865 Norway
26U	PC-775 Baltic
27Q	PC-8 PC Nova
579L	Windings (More Wingbats-RegularSWM font only)

説明

シンボル・セットとは、アルファベット、数字、およびその他の記号を組み合わせた特定グループを指します。CSET コマンドは、現在のフォントで利用可能

なシンボル・セットを指定します。工場出荷時は選択されるエミュレーションによって、シンボル・セットが自動的に選ばれるよう設定されています。

プリントシステムは、フォントの選択時には、シンボル・セットを最も高い優先順位に置いて複数フォントからフォントを選択します。

指定のシンボル・セットが存在しない場合、シンボル・セットは変更されません。

例

```
IR! SEM 6;  
TPRS 1; CSET 19K; CMNT Windows3.1J シンボルセット ;  
FSET 1p16v0s0b28752T;  
MAP 1, 1.5;  
TEXT "Windows3.1J シンボルセットによる日本語明朝体";  
PAGE; EXIT;
```

印刷結果

Windows3.1J シンボルセットによる日本語明朝体

CSTK

コレート排紙

(select Collator STacker)

書式	CSTK[トレイ, トレイ, ...];
パラメータ	トレイ トレイ番号 (上段から下段)
説明	<p>CSTK コマンドは、印刷したページをコレートモードでソータのトレイに排紙します。コレートモードは、印刷される文書の最初のページが指定した最初のトレイに、2 番目のページが指定した 2 番目のトレイに排紙、というようにソータに排紙されます。パラメータを省略すると、トレイは、最上段から最下段のトレイへ順番に排紙されます。</p> <p>各トレイに排紙される枚数は、COPY コマンドで選択します。トレイの最大収容枚数は、ソータ機種によって異なります。詳細については、ソータの使用説明書をお読みください。トレイの最大収容枚数を超えて用紙が出力されると、プリントシステムは停止します。トレイの用紙を全て取り除いた後、オンラインキーを押すと、指定された最初のトレイから再び用紙が排紙されます。</p>
例	<pre>!R! RES; CSTK 1, 2; COPY 2; EXIT; Page 1 (2 枚印刷、トレイ 1)!R! PAGE; EXIT; Page 2 (2 枚印刷、トレイ 2)!R! PAGE; EXIT; Page 3 (2 枚印刷、トレイ 1)!R! PAGE; EXIT; Page 4 (2 枚印刷、トレイ 2)!R! PAGE; EXIT;</pre>

CTXT

センター揃えテキストの印刷

(print Centered TeXT)

書式

CTXT['文字列'] [, オプション] [, U オプション] ;

パラメータ

文字列	テキスト文字列	
オプション	印刷後のカーソル位置	B 文字列の中心 (デフォルト) E 文字列の終わり L 1行下 N 次行の始め
U オプション	アンダーライン	

説明

CTXT コマンドは現在のカーソル位置を中心に、センター揃えで文字列を印刷します。印刷後はカーソルをオプションで指定された位置に移動させます。

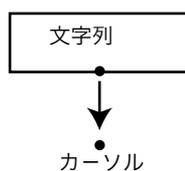
● B オプション



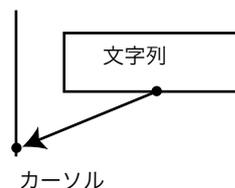
● E オプション



● L オプション



左マージン ● N オプション



文字列は引用符 (`) または、二重引用符 (") でかこみます。文字列内に引用符または、二重引用符が含まれる場合は、それぞれ二重引用符または引用符で文字列をかこみます。次の例を参照してください。

CTXT " 英語では引用符 (`) を、引用文中の引用文に使用します。";

CTXT ' 二重引用符は (") は、直接話法に用いられます。';

U オプションは文字列にアンダーラインを付けます。アンダーラインの太さと位置は、SULP コマンドで設定します。

文字列の中央となるカーソル位置は、ページ上の左右のマージンの間に位置している必要があります。CTXT コマンドの実行の前に、MAP または MRP コマンドでカーソルを移動させます。

文字列の長さは、コマンド全体として 255 文字以内におさまることが必要です。文字列中ではスペース以外の制御コード（キャリッジ・リターンやラインフィードなど）は無視されます。ただし、漢字イン (ESC K、ESC t) や漢字アウト (ESC H など) のエスケープ・シーケンスは有効です。

例

```
!R! SEM 6; UNIT C; MAP 4, 1;  
TPRS 1; CSET 19K;  
CTXT 'フリータイム ホノルル 6 日間', L, U;  
CTXT '料金 15,9000 円より', L;  
CTXT 'ご出発日 7 月 1 日から 8 月 31 日までの毎日';  
RES; EXIT;
```

印刷結果

```
フリータイム ホノルル 6 日間  
料金 15,9000 円より  
ご出発日 7 月 1 日 ~ 8 月 31 日までの毎日
```

関連コマンド

RTXT、TEXT

CUOS

印刷位置の調整

(Change User OffSet)

書式

CUOS x, y;

パラメータ

x x方向調整値(デフォルトは0)

y y方向調整値(デフォルトは0)

説明

CUOS コマンドは、ページ全体の印刷位置を上下左右に調整します。縮小 / 拡大印刷や、用紙にパンチ穴をあける場合などにページ全体を移動させます。移動原点はページ上の左上であり、正および負の値をパラメータとすることで、ページ全体を左右上下方向に移動します。

拡大や縮小を行うと、調整した距離も拡大または縮小されます。調整値は UNIT コマンドで単位を変更して設定できます。単位ごとの調整値の有効範囲は、x 方向および y 方向とも以下のとおりです。

表 21 調整値範囲

単位	調整値範囲
インチ	-3 インチ～ +3.00 インチ
cm	-7.62 センチ～ +7.62 センチ
ポイント	-216 ポイント～ +216 ポイント
ドット	-900 ドット～ +900 ドット

オフセット値が上記の有効範囲を越えた場合は、負の場合は負の最大値に、正の場合は正の最大値に自動的に設定されます。

設定されたオフセット値は、プリントシステムの電源が切られるとリセットされて 0 になります。電源投入時の調整値を変更するには、FRPO K0/K1、FPRO K2/K3 コマンドで設定します。

CUOS コマンドは、改ページを実行します。

DAF 外部フォントの一括削除 (Delete All Fonts)

書式	DAF;
説明	<p>DAF コマンドは、プリントシステムのメモリから全ての外部フォントを削除します。特定の外部フォントを削除するには DELF コマンドを使用します。</p> <p>SFNT コマンドでフォント番号を設定したアウトラインフォントも、DAF コマンドによってフォント番号が削除されます。</p>
例	<p>SFNT コマンドでフォント番号 2000 を設定したフォントを、メモリから削除する例を示します。</p> <pre>!R! UNIT P; SLS 16; SFNT 'Helvetica-Bd' , 15, 2000, 277, 2, 0; SFNT 'Helvetica' , 15, 2001, 277, 1, .5; FONT 10; TEXT '1. FAREWELL TO', E; FONT 2000; TEXT ' FONT 2000', N; FONT 2001; TEXT 'AND FONT 2001', N; TEXT, N; DAF; FONT 10; TEXT '2. FAREWELL TO', E; FONT 2000; TEXT ' FONT 2000', N; FONT 2001; TEXT 'AND FONT 2001'; PAGE; EXIT;</pre>

印刷結果

```
1. FAREWELL TO FONT 2000  
AND FONT 2001  
  
2. FAREWELL TO FONT 2000  
AND FONT 2001
```

関連コマンド	DELF
--------	------

DAM マクロの一括削除

(Delete All Macros)

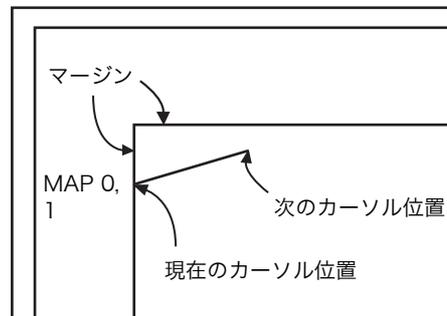
書式	DAM ;
説明	DAM コマンドは、プリントシステムのメモリから全てのマクロを削除します。 特定のマクロを削除するには、DELM コマンドを使用します。
例	<p>次の例は、実行する前に ENDM コマンドの例を実行させて、マクロを作成しておく必要があります。</p> <pre>IR! RES; UNIT C; CMNT ENDM コマンドを先に参照 ; CMNT ENDM ページにファイルを作る ; TPRS 1; CSET 19K; MAP 5, 3; CALL 10 BX; MAP 5.5, 5; CALL SCREEN, 9, 2; MAP 8, 6; TEXT 'BOX と SCREEN マクロは ', L; TEXT 'どちらもメモリにあります。' DAM; MAP 5, 6; CALL 10 BX; MAP 5, 7; CALL SCREEN, 9, 2; MAP 6.5, 8; TEXT '全てのマクロはメモリより消去されました。'; RES; EXIT;</pre>
関連コマンド	DELM

DAP 絶対位置まで線を描画

(Draw to Absolute Position)

書式	DAP x, y;
パラメータ	x 左マージンからの距離 y 上マージンからの距離
説明	DAP コマンドは、現在のカーソル位置から、上マージンと左マージンから絶対座標で指定した位置まで線を描きます。

図3 絶対座標のカーソル位置

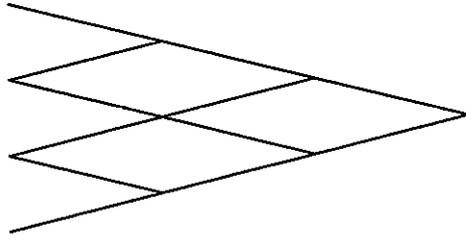


単位は UNIT コマンドで設定します。線の太さは SPD コマンドで指定します。

座標は正または負の数で指定可能です。上マージンおよび左マージンより外側の座標位置まででも、印刷領域内では有効です。

例	<pre> !R! RES; UNIT C; STM 1; SLM 1; CMNT 樹形図; MAP 0, 0; DAP 2, 0.5; DAP 4, 1; DAP 6, 1.5; MAP 0, 1; DAP 2, 0.5; MAP 0, 1; DAP 2, 1.5; DAP 4, 2; MAP 0, 2; DAP 2, 1.5; DAP 4, 1; MAP 0, 2; DAP 2, 2.5; DAP 4, 2; MAP 0, 3; DAP 2, 2.5; DAP 4, 2; DAP 6, 1.5; RES; EXIT; </pre>
---	--

印刷結果



関連コマンド

DRP、DRPA、DZP

DCT

文字飾りの指定

(DeCorate Text)

書式

DCT モード;

パラメータ

モード	修飾
0	なし
1	袋文字
2	影文字
3	袋付き影文字
4	影付き袋文字
128	斜体
129	袋文字、斜体
130	影文字、斜体
131	袋付き影文字、斜体
132	影付き袋文字、斜体

説明

DCT コマンドは、TEXT コマンドで指定した文字列に袋文字や影文字、斜体などの修飾を加えます。

これらの修飾はビットマップフォントにのみ有効です。また、文字の種類やサイズにかかわらず有効です。修飾を行った後の文字間隔などに影響はありません。

DCT コマンドによる修飾は、RES コマンドまたは DCT 0; コマンドによって解除されます。

DCT コマンドは、カラー機ではサポートされていません。

例

```
!R! RES; UNIT C;
SEM 12; CMNT IBM エミュレーション;

SLS 1; TSCL 2, 2;
DCT 1;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 袋文字;
DCT 2;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 影文字;
DCT 3;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 袋付き影文字;
DCT 4;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 影付き袋文字;
DCT 128;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT イタリック;
DCT 129;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 袋文字、イタリック;
DCT 130;
TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 影文字、イタリック;
```

DCT 131;
 TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 袋付き影文字、イタリック;
 DCT 132;
 TEXT '修飾文字の印刷 ABCabc 123', N; CMNT 影付き袋文字、イタリック;
 RES; PAGE; EXIT;

印刷結果

修飾文字の印字	ABCabc	123
修飾文字の印字	<i>ABCabc</i>	<i>123</i>

DELF 外部フォントの削除

(DElete Font)

書式	DELF フォント番号;
パラメータ	フォント番号 削除するフォントの番号
説明	<p>DELF コマンドは、プリントシステムのメモリから外部フォントを削除します。フォント番号は、そのフォントをダウンロードした際の番号です。</p> <p>SFNT コマンドでフォント番号を設定したアウトラインフォントも、DAF コマンドによってフォント番号が削除されます。SFNT コマンドに関しては、272 ページの SFNT を参照してください。</p> <p>外部フォントを一括して削除するには、DAF コマンドを使用します。くわしくは、68 ページの DAF コマンドを参照してください。</p>
例	<pre>!R! UNIT P; SLS 16; SFNT 'Helvetica-Bd' ,15, 2000, 277, 1.5, 0; SFNT 'Helvetica' , 15, 2001, 277, 1, 0.5; FONT 2000; TEXT '1. FAREWELL TO' , E; FONT 2001; TEXT ' ITALICS' , N; TEXT, N; DELF 2001; FONT 2000; TEXT '2. FAREWELL TO' , E; FONT 2001; TEXT ' ITALICS' ; PAGE; EXIT;</pre>
印刷結果	<p>1. FAREWELL TO <i>ITALICS</i></p> <p>2. FAREWELL TO ITALICS</p>
関連コマンド	DAF

DELM

マクロの削除

(DElete Macro)

書式	DELM マクロ名 ;
パラメータ	マクロ名 MCRO コマンドで定義したマクロ名
説明	DELM コマンドは、指定したマクロをプリントシステムのメモリから削除します。マクロを全て削除するには DAM コマンドを使用します。
例	<pre> IRI RES; UNIT C; CMNT ENDM コマンドの例を先に実行 ; MCRO STAR; SPD %1; DRPA %2, 18; DRPA %2, 306; DRPA %2, 90; DRPA %2, 18; DRPA %2, 162; DRPA %2, 90; DRPA %2, 234; DRPA %2, 162; DRPA %2, 306; DRPA %2, 234; MRP %2,0; MRP %2, 0;MRP %2, 0; ENDM; MAP 5, 3; CALL 10 STAR, 0.03, 0.3366; MAP 5.2, 4.2 ; CALL SCREEN, 9.2, 1.7; TPRS 1; CSET 19K; SKFT 'DFHSMINCHO-W3',16; MAP 7, 5; TEXT 'STAR と SCREEN マクロは', L; TEXT 'メモリ上にあります。'; DELM SCREEN; MAP 5, 8; CALL 10 STAR, 0.03, 0.3366; MAP 5, 9; CALL SCREEN, 9.2, 1.7; MAP 6, 10; TPRS 1; CSET 19K; SKFT 'DFHSMINCHO-W3',16; TEXT 'SCREEN マクロは消去されました。'; RES; EXIT; </pre>

印刷結果



STAR とSCREEN マクロは
メモリ上にあります。



SCREEN マクロは消去されました。

関連コマンド

DAM

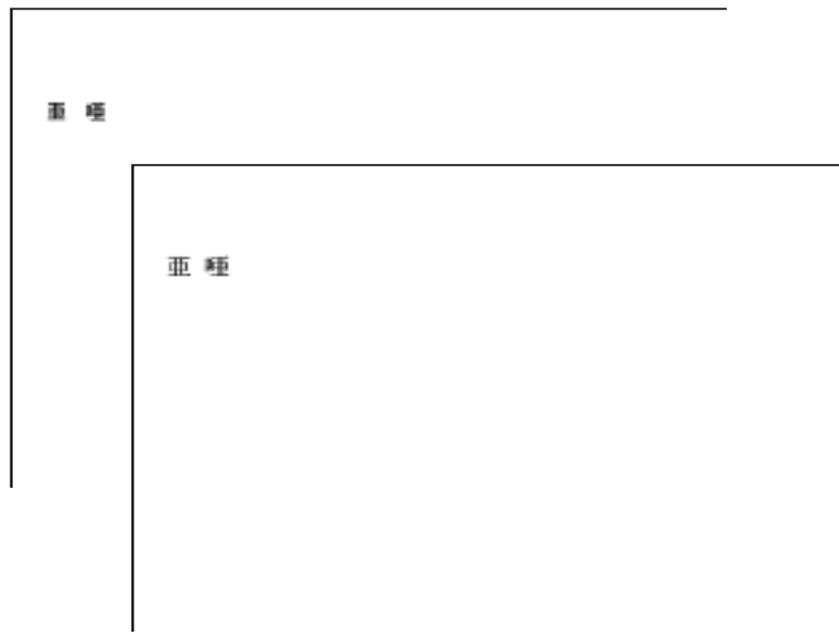
DKJF

外部漢字フォントの削除

(Delete KanJi Font)

書式	DKJF フォント番号;
パラメータ	フォント番号 削除する外部漢字フォントのフォント番号
説明	DKJF コマンドは、プリントシステムのメモリから外部フォントを削除します。フォント番号は、そのフォントを作成する際に CRKF コマンドで割り当てた番号です。
例	<pre> IR! RES; SEM 12; CMNT IBM エミュレーション; CRKF 1000, 32, 32, 947, 0, 1056, 534, 0; LDKC 1000, 12321; 000000G/?//8G/?/8G/?//8A<N@0A<N@0A<N@0A<N@0A/?/~0A/?/ ~0A/?/~0Aq<NN0Aq<NN0Aq<NN0Aq<NN0Aq<NN0A/?/~0A/?/~0A/?/ ~0Aq<NN0Aq<NN0A<N@0A<N@0A>N@0o/?//<o/?//<o/?//<000000; LDKC 1000, 12322; 000000C?//<C?//<C?//<O 0yp0O 0yp0O 0yp0N¥0yp0N¥?//8N¥?// 8N¥?//8N¥<ys8N¥<ys8N¥<ys8N¥<ys8N¥<ys8N¥<ys8N¥<ys8N¥?//8O ?// 8O ?//8O <ys8N@<ys8N@0yp00yp00yp0G?//>G?//>G?//>0000; KFNT 1000; CMNT フォント 1000 で印刷; EXIT; 唾唾 IR! PAGE; DKJF 1000; CMNT フォント 1000 を削除; EXIT; 唾唾 IR! PAGE; EXIT; </pre>

印刷結果



関連コマンド

CRKF、LDKC

DPAT

破線種類の選択

(select Dashed PATtern)

書式	DPAT 番号;						
パラメータ	<table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">番号</td> <td>破線種類</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">1 ~ 10</td> <td>内蔵の破線種類</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">11 ~ 20</td> <td>ユーザ定義の破線種類</td> </tr> </table>	番号	破線種類	1 ~ 10	内蔵の破線種類	11 ~ 20	ユーザ定義の破線種類
番号	破線種類						
1 ~ 10	内蔵の破線種類						
11 ~ 20	ユーザ定義の破線種類						
説明	<p>DPAT コマンドは、STRK コマンドで描画する内蔵およびユーザ定義の破線の種類を選択します。1 ~ 10 は内蔵の破線（80 ページの例を参照）を、11 ~ 20 は SPD コマンドで作成された破線を選択します。電源投入時のパターン番号は 1 になっています。作成した破線（11 ~ 20）は、RES コマンドで消去されます。20 を超える番号を指定すると、DPAT コマンドは無視されます。また、11 ~ 20 のうち、破線が登録されていない番号を指定すると実線で描画されます。</p> <p>内蔵の破線については、下の例を参照してください。SPD によるユーザ定義の破線の生成の方法については、296 ページの SPD コマンドを参照してください。</p> <p>破線は始点から終点に向かって描画されます。始点と終点を逆にすると端の部分の描画状態が異なることがあります。</p> <p>DPAT コマンドは、ベクトル・グラフィック・コマンド (DRP、BOX、ARC など) には影響がありません。</p>						
例	<pre> !R! RES; UNIT C; DELM DPAT; MCRO DPAT; NEWP; SPD .2; SCP; TEXT 'DPAT %1'; PMRP 1.4, 0; DPAT %1; PDRP 9, 0; RPP; PMRP 0, .7; STRK; ENDM; MZP 5,5; FONT 13; CALL DPAT, 1; CALL DPAT, 2; CALL DPAT, 3; CALL DPAT, 4; CALL DPAT, 5; CALL DPAT, 6; CALL DPAT, 7; </pre>						

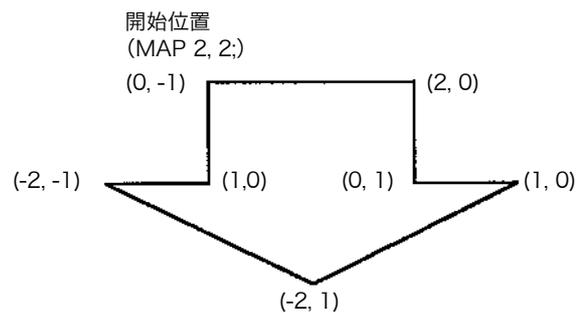
DRP

相対位置まで線を描く

(Draw to Relative Position)

書式	DRP x, y;
パラメータ	x/y 現在のカーソル位置からの座標
説明	<p>DRP コマンドは、現在のカーソル位置を基準として指定された座標までの線を描きます。線の太さは SPD コマンドで設定します。</p> <p>座標値は正または負の数を指定できます。x と y の座標を一組として、複数の座標を一度に指定することが可能です。たとえば、DRP 1, 2, 3, 4; は DRP 1, 2; DRP 3, 4; と同じです。</p> <p>DRP コマンドは、パスの中では無効です。パスの中で線を描く場合は、PDRP コマンドを使用します。</p>
例	<pre>IRI RES; UNIT C; CMNT 矢印の外枠 ; MAP 2, 2; CMNT 開始位置 ; DRP 2, 0, 0, 1, 1, 0, -2, 1, -2, -1, 1, 0, 0, -1; RES; EXIT;</pre>

印刷結果



関連コマンド DAP、DRPA、DZP、PDRP

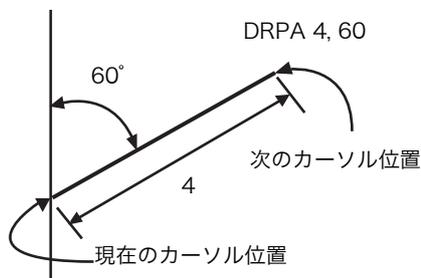
DRPA 角度指定により相対位置まで線を描画 (Draw to Relative Position specified by Angle)

書式 DRPA 長さ, 角度;

パラメータ
 長さ 線の長さ
 角度 度数(上向きの垂直線から右回り)

説明 DRPA コマンドは、現在のカーソル位置から指定した角度と長さの線を描きます。角度は上向きの垂直線から右回りとします。線の太さは SPD コマンドで指定します。下の例は DRPA 4, 60; とした場合です。

図4 長さと角度



DRPA コマンドはパスの中では無効です。

例

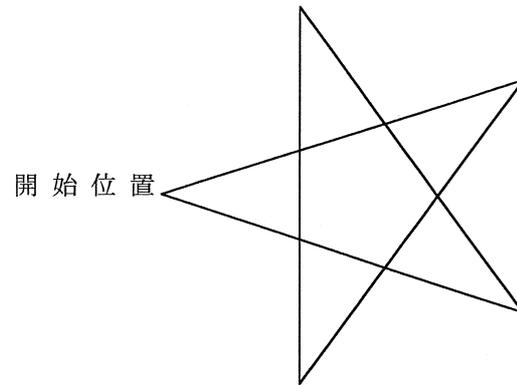
```

!R! RES; UNIT C;

CMNT 星;
MAP 2.5, 5;
RTXT '開始位置';
DRPA 5, -288;
DRPA 5, -144;
DRPA 5, 0;
DRPA 5, 144;
DRPA 5, 288;

RES; EXIT;
    
```

印刷結果



関連コマンド

DAP、DRP、DZP

DUPX

両面印刷

(select/deselect DUPlEX mode)

書式

DUPX モード;

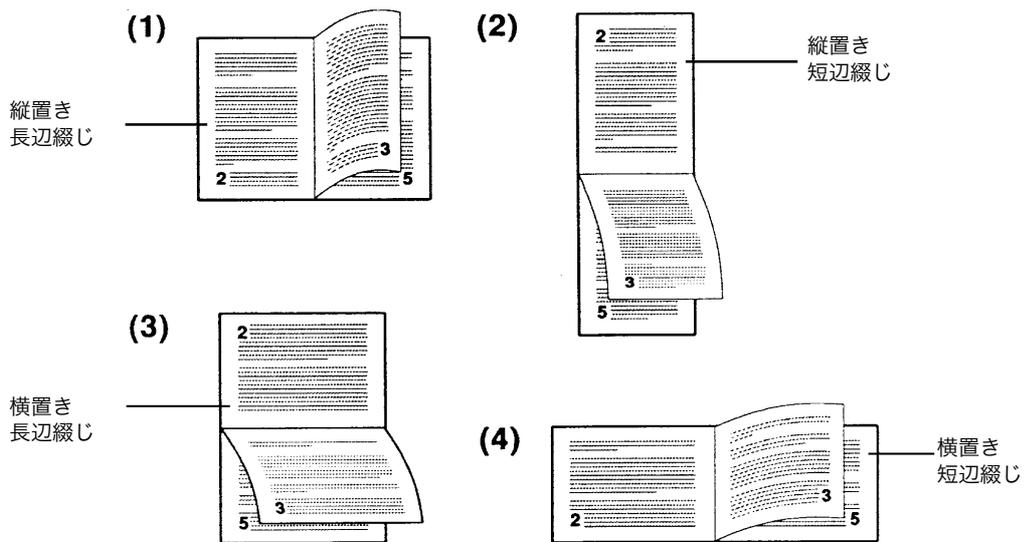
パラメータ

- モード 0 片面印刷
- 1 両面印刷、長辺綴じ
- 2 両面印刷、短辺綴じ

DUPX コマンドは、両面印刷ユニットにより両面印刷モードを起動し、長辺または短辺綴じを行います。

縦置きページあるいは横置きページに応じて、長辺および短辺綴じでは下図のような両面印刷になります。

図 5 両面印字モード



日本語エミュレーションと英語エミュレーションとでは、横置き（ランドスケープ）時の印刷方向が異なります。

DXPG

両面印刷時の第 1 印刷面の選択

(select Duplex PaGe side)

書式	DXPG 印刷面 ;
パラメータ	印刷面 0 通常の両面印刷 1 表面 2 裏面
説明	DXPG コマンドは両面印刷時に、最初のページを用紙の表または裏面から強制的に印刷します。
例	<pre> !R! SEM 6; UNIT C; SPSZ 8; TPRS 1; CSET 19K; FSET12V; DUPX 1; DXPG 2; MAP 1, 1; TEXT "1 ページ: このページは、DXPG 2; によって強制的に「裏面」に印刷されます。"; PAGE; MAP 1, 1 TEXT "2 ページ: 続いてこのページは「表面」に印刷されます。"; PAGE; DPXG 1; MAP 1, 1; TEXT "3 ページ: このページは、DXPG 1; によって強制的に「表面」に印刷されます。"; PAGE; DXPG 0; MAP 1, 1; TEXT "4 ページ: DXPG 0; によって、通常の両面印刷に戻ります。"; PAGE; EXIT; </pre>
印刷結果	省略

DZP ゼロ点を基準に線を描く

(Draw to Zero-relative Position)

書式 DZP x, y;

パラメータ x 印刷領域の左端からの距離
 y 印刷領域の上端からの距離

説明 DZP コマンドは、現在のカーソル位置から印刷領域の上端と左端からの距離で指定した位置まで線を描きます。線の太さは SPD コマンドで指定し、単位は UNIT コマンドで指定します。

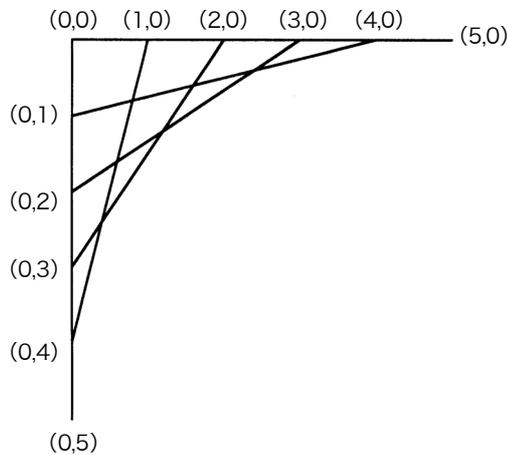
座標値は正または 0 とし、負の座標値は 0 とみなします。

例 !R! RES; UNIT C;

MZP 0, 0; DZP 0, 5; MZP 1, 0; DZP 0, 4;
 MZP 2, 0; DZP 0, 3; MZP 3, 0; DZP 0, 2;
 MZP 4, 0; DZP 0, 1; MZP 5, 0; DZP 0, 0;

PAGE; EXIT;

印刷結果



関連コマンド DAP、DRP、DRPA

EMCR

カセット選択によるオートマクロ登録

(Enable MaCRo by paper source)

書式 EMCR モード, カセット番号 [=印刷面], [繰り返し数] マクロ名 [, パラメータ ...];

パラメータ

モード	E	オートマクロ登録
	D	オートマクロ停止
カセット番号	0	多目的トレイ
	1	カセット 1
	2	カセット 2
	3	カセット 3
	4	カセット 4
	5	カセット 5
	6	カセット 6
	99	封筒フィーダまたはユニバーサルフィーダ
印刷面		両面印刷時にマクロが実行される印刷面
	0	表面
	1	裏面
繰り返し数		マクロの実行回数
マクロ名		実行されるマクロ名
パラメータ		マクロ登録の際に与えられたダミーパラメータ

説明 EMCR コマンドは、給紙カセットにオートマクロを登録します。両面印刷を行う場合は、印刷面ごとにマクロを割り当てます。

マクロが登録されたカセットから給紙が行われると、登録されたマクロが自動的に実行されます。マクロはプリントシステムの電源が切られるまで有効です。オートマクロを停止するには、EMCR D によって、マクロを停止する給紙カセットを指定してください。

例 下の例は A4 ページの中央に「社外秘」というすかし（ウォーターマーク）を入れるマクロです。

```
!R!
SEM 6;
SPSZ 8;
DELM WATERMARK;
MCRO WATERMARK;
MAP 2.3, 5.5;
NEWP;
GPAT 0.7;
```

TPRS 1; CSET 19K;
FSET 1p72v0s0b28752T;
CPTH " 社外秘 " ;
FILL 1;
ENDM;
EMCR E, 1, WATERMARK;
PAGE;
EXIT;

印刷結果

社外秘

ENDB

2次元バーコードデータの終了

(End a two dimensional bar code string)

書式

ENDB;

説明

ENDB コマンドは、XBAR コマンドで開始される 2次元バーコードデータ列を終了させます。プリントシステムは、そのデータ列をバーコードに変換して印刷します。プリントシステムは、;ENDB;を検出するまで、データ文字列内の全ての文字またはバイナリデータを、バーコードデータと見なします。

;と ENDB;の間にはスペースを入れないでください。

例

339 ページの XBAR コマンドを参照。

ENDC

カーボンコピー登録の終了

(END carbon Copy)

書式

ENDC;

説明

ENDC コマンドは、CCPY E (カーボンコピーの登録) コマンドの登録を終了します。

例

57 ページの COPY コマンドを参照

ENDD

ダンプの終了

(END Dump)

書式	ENDD;
説明	ENDD コマンドは、RDMP コマンドで開始された 16 進ダンプを終了します。
例	RDMP コマンド (204 ページ) を参照
関連コマンド	RDMP

ENDM マクロ定義の終了

(END Macro)

書式	ENDM;
説明	ENDM コマンドは、マクロの定義を終了します。詳細については、152 ページの MCRO コマンドを参照してください。
例	! RES; DAM; UNIT C; MCRO BX; SPD 0.05; BOX 0.8, -0.8; MRP 1, 0; ENDM; MCRO SCREEN %; CMNT 四角を描くマクロ; SPD 0.08; BOX %1, %2; ENDM; RES; EXIT;
印刷結果	CALL、DAM、DELM コマンドを参照
関連コマンド	CALL、DAM、DELM、MCRO

ENDR

ラストデータ処理の終了

(END Raster data)

書式

ENDR;

説明

ENDR コマンドは、ラストデータの処理を終了させます。

例

次の例は RVRD および ENDR コマンドを使って、次ページのようなラスターイメージを印刷します。

```
IRI RES; DAM; DAF; UNIT C; SRO 1;
MAP 5, 5;

RVRD;
5, 0, 0, 7, 0, 0; 5, 0, 0, 24, 192, 0;
5, 0, 0, 32, 32, 0; 5, 0, 0, 64, 16, 0;
5, 0, 0, 64, 16, 0; 5, 0, 0, 128, 8, 0; 5, 0, 0, 128, 8, 0;
5, 0, 0, 128, 8, 0; 5, 0, 0, 64, 16, 0;
5, 0, 0, 64, 16, 0; 5, 0, 0, 32, 32, 0;
5, 0, 0, 120, 192, 0; 5, 0, 0, 103, 0, 0;
5, 0, 0, 96, 0, 0; 5, 0, 0, 144, 0, 0;
5, 0, 0, 144, 0, 0; 5, 0, 0, 144, 0, 0;
5, 0, 1, 8, 0, 0; 5, 0, 1, 8, 0, 0;
5, 0, 1, 136, 0, 0; 5, 0, 2, 68, 0, 0;
5, 0, 2, 36, 0, 0; 5, 0, 2, 36, 0, 0;
5, 0, 6, 66, 0, 0; 5, 0, 5, 130, 0, 0;
5, 0, 4, 6, 0, 0; 5, 0, 8, 9, 0, 0;
5, 0, 8, 17, 0, 0; 5, 0, 14, 17, 0, 0;
5, 0, 17, 9, 128, 0; 5, 0, 16, 134, 128, 0;
5, 0, 16, 128, 128, 0; 5, 0, 32, 128, 64, 0;
5, 0, 49, 0, 64, 0; 5, 0, 46, 0, 64, 0;
5, 0, 64, 28, 32, 0; 5, 0, 64, 34, 32, 0;
5, 0, 64, 65, 32, 0; 5, 0, 128, 65, 16, 0;
5, 0, 184, 65, 16, 0; 5, 0, 196, 34, 16, 0;
5, 1, 130, 28, 8, 0; 5, 1, 130, 0, 8, 0;
5, 1, 130, 0, 120, 0; 5, 2, 68, 0, 132, 0;
5, 14, 56, 97, 7, 0; 5, 10, 0, 145, 5, 0;
5, 11, 255, 255, 253, 0; 5, 8, 0, 0, 1, 0;
5, 15, 255, 255, 255, 0; 5, 4, 0, 0, 2, 0;
5, 52, 8, 1, 2, 192; 5, 76, 8, 1, 3, 32;
5, 76, 8, 1, 3, 32; 5, 68, 62, 7, 194, 32;
5, 34, 8, 1, 4, 64; 5, 34, 8, 1, 4, 64;
5, 18, 8, 1, 4, 128; 5, 13, 0, 0, 11, 0;
5, 1, 0, 0, 8, 0; 5, 0, 128, 0, 16, 0;
5, 0, 131, 12, 16, 0; 5, 0, 64, 144, 32, 0;
5, 0, 160, 96, 80, 0; 5, 1, 24, 1, 136, 0;
5, 14, 134, 6, 23, 0; 5, 48, 65, 248, 32, 192;
```

```
5, 192, 129, 8, 16, 48; 5, 0, 64, 144, 32, 0;  
5, 0, 32, 96, 64, 0; 5, 0, 16, 0, 128, 0;  
5, 0, 32, 0, 64, 0; 5, 0, 16, 0, 128, 0;  
5, 0, 8, 1, 0, 0; 5, 0, 6, 6, 0, 0;  
5, 0, 1, 104, 0, 0; 5, 0, 0, 144, 0, 0;  
ENDR;  
PAGE;  
EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

RVRD、STR

EPL

エコプリントの設定

(select EcoPrint Level)

書式

EPL レベル;

パラメータ

レベル	0	オフ (初期設定)
	2	オン (モノクロ機、50%)
	50	オン (カラー機、50%)
	75	オン (カラー機、75%)

説明

EPL コマンドは、印刷時のトナーの消費を抑えるエコプリントモードのオン/オフを行います。エコプリントモードをオンにすると、次のように印刷が薄くなります。

図 6 エコプリント効果 (モノクロ機、50%)



0 = オフ

2 = オン

例

```

!R!
SEM 6;
UNIT C; SPSZ 8;

TPRS 1;
CSET 19K;
FSET 1p24v0s0b28752T;

EPL 2;

MAP 1, 1; Sulp 0.3, 0.3;
TEXT 'エコプリントをオンにした印刷見本', U;

PAGE;
EXIT;

```

印刷結果

エコプリントをオンにした印刷見本

EXIT プリスクライブコマンドの終了

(EXIT from PRESCRIBE mode)

書式 EXIT[, E];

説明 EXIT コマンドはプリスクライブコマンドを終了します。

E パラメータを加えると (EXIT, E)、コマンドの直後の改行と行送りを無視します。下の例を参照してください。

例

```
!R! RES; EXIT;  
コマンドが EXIT; で終わると、  
1 行の空きが印刷されます。  
!R! CMNT 次の行参照;  
EXIT;  
EXIT,E; でコマンドを終了すると、  
!R! CMNT 下の行に注意;  
EXIT,E;  
改行は行われず、行は空きません。  
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

```
コマンドが EXIT; で終わると、  
1 行の空きが印刷されます。  
  
EXIT, E; でコマンドを終了すると、  
改行は行われず、行は空きません。
```

FDIR

MP（手差し）トレイの給紙方向

(MP tray Feed DIRection)

書式

FDIR 給紙方向；

パラメータ

給紙方向 0 縦送り
1 横送り

説明

FDIR コマンドは、A3 サイズ対応機の MP（手差し）トレイからの用紙の給紙方向を、縦送りまたは横送りに設定します。

通常 MP トレイには用紙設定のセンサがないため、FDIR コマンドによる制御が必要です。設定は MP トレイの用紙が A4 またはレターサイズの場合で、MP トレイがカセットモードの場合にのみ有効です。オプション・フィーダ（EF-1 や UF-1）には無効です。

電源投入時の MP トレイの給紙方向は、FRPO T8 コマンドで設定します。

FDIR コマンドは自動的に改ページを行います。

FILL 閉パスの塗りつぶし (FILL closed path)

書式 FILL 描画規則 ;

パラメータ

描画規則
 1 偶数奇数
 2 ノンゼロ・ワインド

説明

FILL コマンドは、パスで囲まれた領域を指定した描画規則によって塗りつぶします。また、パス内に含まれている独立した全てのサブパスも同時に塗りつぶします。開いているサブパスは、CLSP コマンドを発行したのと同様に塗りつぶされる前に強制的に閉じられます。FILL コマンドはパスを塗りつぶした後、現在のパスをクリアし、カーソルをそのパスの最後に移動します。

描画規則が偶数奇数(1)の場合、ある点がパスの内側にあるかどうかは、その点から任意の方向に放射線を描き、その放射線がパスのセグメントと交差する回数を数えることで決定されます。結果が奇数ならその点はパスの内側にあるとされます。結果が偶数の場合、その点はパスの外側にあるとされます。

描画規則がノンゼロ・ワインド(2)の場合、ある点から任意の方向に放射線を描き、その点がパスの内側にあるかどうかを決定し、パスのセグメントがその放射線と交差する点を調べます。次にゼロからカウントを行い、パスのあるセグメントがその放射線を左から右に交差するごとに 1 を加え、パスのあるセグメントがその放射線を右から左に交差するごとに 1 を引きます。全ての交差をカウントした結果がゼロの場合、その点は外側にあるとされます。ゼロ以外の場合は、その点はパスの内側にあると見なされます。

例

```
!R! RES; UNIT C;

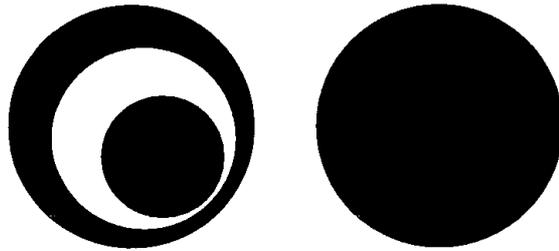
NEWP;
PMZP 5, 5;
PMRA 5, 5, 2, 0;
PARC 5, 5, 2, 0, 360;
PMRA 5.2, 5.2, 1.5, 0;
PARC 5.2, 5.2, 1.5, 0, 360;
PMRA 5.5, 5.5, 1, 0;
PARC 5.5, 5.5, 1, 0, 360;
FILL 1; CMNT 偶数奇数;

PMZP 10, 5;
PMZP 10, 5;
PMRA 10, 5, 2, 0;
PARC 10, 5, 2, 0, 360;
PMRA 10.2, 5.2, 1.5, 0;
PARC 10.2, 5.2, 1.5, 0, 360;
```

```
PMRA 10.5, 5.5, 1, 0;  
PARC 10.5, 5.5, 1, 0, 360;  
FILL2; CMNT ノンゼロ・ワインド ;
```

```
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

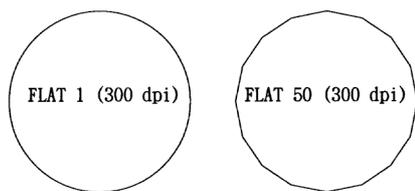
FPAT、GPAT、PAT、XPAT、SIMG

FLAT 曲線パスの平坦さの設定

(set FLATness)

書式	FLAT 平坦さ ;
パラメータ	平坦さ 1 ~ 100
説明	<p>FLAT コマンドは、パス内の曲線を STRK コマンドあるいは FILL コマンドで描画する際の曲線の平坦さを決定します。</p> <p>平坦さは曲線の任意の部分で、直線に近似させたピクセル数による最大エラー許容値で表わされます。数字が 1 に近いほど曲線は滑らかになります。曲線の平坦さは、印刷解像度が低いほど顕著です。</p> <p>曲線パスの平坦さは、RES コマンドでリセットすると 1 にリセットされます。</p>
例	<pre> !R! SEM 6; SPSZ 8; TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p12v0s0b28752T; UNIT C; SPD 0.02; RESL 300; NEWP; PMRA 7, 16.5, 2, 0; PARC 7, 16.5, 2, 0, 360; STRK; RTXT "FLAT 1 (300 dpi) "; NEWP; FLAT 50; PMRA 12, 16.5, 2, 0; PARC 12, 16.5, 2, 0, 360; STRK; RTXT "FLAT 50 (300 dpi) "; PAGE; RES; EXIT; </pre>

印刷結果



FLST フォントリストの印刷

(print Font LiST)

書式 FLST;

説明 FLST コマンドは、プリントシステムに内蔵されているフォントを一覧にしたフォントリスト(複数枚)を、その書体見本とともに印刷します。

フォントリストには、漢字、ANK、および欧文フォントが全て網羅され、それぞれの名称や属性および、そのフォントを選択する際のプリスクライブコマンド例が付いています。

例 !R! SEM 6; FLST;
RES; EXIT;

印刷結果

Internal Scalable and Bitmapped Fonts List			PRESCRI
KANJI Font Print Sample	Scalable/Bitmap	Password	Selection [SKFT]
D F平成ゴシック体	<Scalable>	None	SKPT "DFHSGOTHIC-W5";
D F平成明朝体	<Scalable>	None	SKPT "DFHSMINCHO-W3";
ANK Font Name (Japanese)	Scalable/Bitmap	Password	Selection [FSET]
DFHSGOTHIC-W5-SJ	<Scalable>	None	CSET 19K;FSET 1p##v0s0b28825T;
DFHSMINCHO-W3-SJ	<Scalable>	None	CSET 19K;FSET 1p##v0s0b28752T;
DFHSGOTHIC-W5-HANKAKU	<Scalable>	None	FSET 0p##h0s0b153T;
DFHSMINCHO-W3-HANKAKU	<Scalable>	None	FSET 0p##h0s0b80T;
0123ABCD	TypeBank-OCR-A-BM12 <Bitmap> FONT 90;	None	CSET 00;FSET 0p10.0h12.0v0s0b104T;
0123ABCD	TypeBank-OCR-AX-BM12 <Bitmap> FONT 92;	None	CSET 100;FSET 0p10.0h12.0v0s0b104T
0123ABCDabcd	TypeBank-OCR-B-BM12 <Bitmap> FONT 91;	None	CSET 10;FSET 0p10.0h12.0v0s0b110T;
0123ABCDabcd	TypeBank-OCR-BK-BM12 <Bitmap> FONT 93;	None	CSET 110;FSET 0p10.0h12.0v0s0b110T
アイエオカクケコ	TypeBank-OCR-K-BM12 <Bitmap> FONT 89;	None	CSET 120;FSET 0p10.0h12.0v0s0b110T
TypeBankG-B-Hankaku-BM10	<Bitmap> FONT 98;	None	FSET 0p15.0h9.6v0s3b153T;
TypeBankM-M-Hankaku-BM10	<Bitmap> FONT 99;	None	FSET 0p15.0h9.6v0s0b80T;
ANK Font Name	Scalable/Bitmap	Password	Selection [FSET]
Courier	<Scalable>	None	FSET 0p##h0s0b4099T;
CGTimes	<Scalable>	None	FSET 1p##v0s0b4101T;
CGTimes-Bd	<Scalable>	None	FSET 1p##v0s3b4101T;
CGTimes-It	<Scalable>	None	FSET 1p##v1s0b4101T;
CGTimes-BdIt	<Scalable>	None	FSET 1p##v1s3b4101T;
CGOmega	<Scalable>	None	FSET 1p##v0s0b4113T;
CGOmega-Bd	<Scalable>	None	FSET 1p##v0s3b4113T;
CGOmega-It	<Scalable>	None	FSET 1p##v1s0b4113T;
CGOmega-BdIt	<Scalable>	None	FSET 1p##v1s3b4113T;
Coronel	<Scalable>	None	FSET 1p##v1s0b4116T;
Clarendon-Cd	<Scalable>	None	FSET 1p##v4s3b4140T;

FOLD

ページ折り / ステープル

(FOLD printed pages)

書式	FOLD[ステープル];
パラメータ	ステープル 1 ステープルを行う
説明	<p>FOLD コマンドは、中綴じ機能搭載のフィニッシャ (DF-75 など) の装着時に、印刷されたページを中央で折りたたんで出力します。ステープルのパラメータを付けると、同時にステープルを行います。これらの機能を使う場合は、ジョブは JOBS コマンド (133 ページ) によって開始する必要があります。</p> <p>DF-75 を使用した場合、ステープルパラメータを省略してもステープルが実行されます。折りたたみの可能な用紙枚数は 10 枚で、10 ページ以上の文書を出力すると、10 枚単位に分けて振り分けで出力します。</p> <p>折りたたみ機能が可能な用紙サイズは A4 以上の用紙サイズで、縦置きされた用紙です。ページは横向きの状態の中央で折りたたまれ、ステープルされます。</p> <p>本コマンドは強制的に排紙先をフィニッシャに選びます。STAK コマンドは必要ありません。</p>
例	<pre> IR! SEM 6; TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p12v0s0b28752T; UNIT C; FOLD 1; JOBS 1, 1, 2, 0; TEXT " ステープルとフォールド : 1 ページ目 "; PAGE; TEXT " ステープルとフォールド : 2 ページ目 "; PAGE; TEXT " ステープルとフォールド : 3 ページ目 "; PAGE; TEXT " ステープルとフォールド : 4 ページ目 "; PAGE; TEXT " ステープルとフォールド : 5 ページ目 "; PAGE; JOBT; PAGE; RES; EXIT; </pre>

FONT フォント番号によるフォントの選択

(change current FONT)

書式	FONT フォント番号;
パラメータ	フォント番号
説明	<p>FONT コマンドは、フォント固有のフォント番号を指定することによってフォントを選択します。</p> <p>フォント番号を持つフォントは、通常ビットマップフォントのみですが、SFNT コマンドを使用すると、アウトラインフォントに明示的にフォント番号を付けることができます。</p> <p>プリントシステムに内蔵されているフォントの一覧とそのフォント番号は、FLST コマンドで、フォントの一覧を印刷して参照することができます。</p>
例	<pre>!R! SEM 6; CMNT HP PCL エミュレーション; SPSZ 8; CMNT A4 用紙; FONT 90; CMNT TypeBank-OCR-A-BM12; TEXT "THIS IS AN OCR FONT FOR OPTICAL RECOGNITION." PAGE; RES; EXIT;</pre>
印刷結果	<pre>THIS IS AN OCR FONT FOR OPTICAL RECOGNITION.</pre>

FPAT

パターンの生成 (8×8 ドット)

(Fill PATtern)

書式

FPAT #, #, #, #, #, #, #, #;

パラメータ

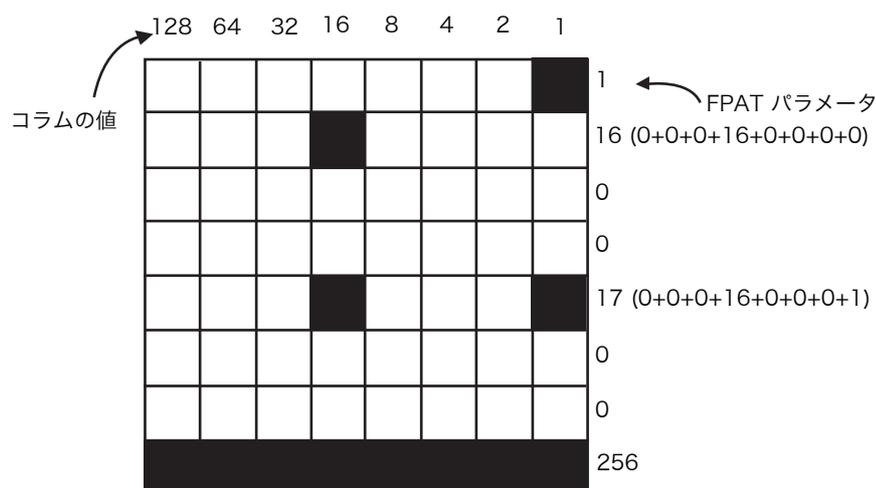
#

0 ~ 255

説明

FPAT コマンドは BLK、ARC、FILL コマンドで描いた四角形や弧を塗りつぶす網掛けパターンを作成します。パターンは、8×8 ドットを一単位として指定します。

8つのパラメータは8ドットの横一行に対応します。下の例では、1行目は1、2行目は16になります。5行目は右端(1)と5番目のコラム(16)が黒なので、1+16で17になります。



全てが白のドットの行は0、また、全てが黒のドットの行は255になります(1+2+4+8+16+32+64+128+255)。デフォルトの値はFPAT 255, 255, 255, 255, 255, 255, 255, 255;で、連続するいわゆるスミベタのパターンとなります。これはPATコマンドでPAT 1;としたときや、GPATコマンドでGPAT 0;とした場合と同様です。

プリントシステムに内蔵のパターン(60種類)を使うには、PATコマンドを使用してください。

関連コマンド

PAT、GPAT、XPAT

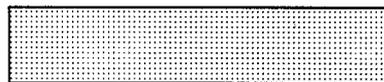
例

```
!RI RES; FONT 6; DAM; UNIT C;
MCRO PATTERN;
FPAT %1, %2, %3, %4, %5, %6, %7, %8;
```

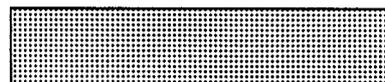
```
BOX 5, 1; BLK 5, 1; MRP 0, 1.55;  
SCS 0.14;  
TEXT 'FPAT %1, %2, %3, %4, %5, %6, %7, %8;' ,L;  
ENDM;  
MAP 2, 2; SCP;  
CALL PATTERN, 3, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0;  
CALL PATTERN, 255, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0;  
CALL PATTERN, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 255;  
RPP; MRP 5.5, 0;  
CALL PATTERN, 0, 0, 24, 60, 60, 24, 0, 0;  
CALL PATTERN, 1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128;  
CALL PATTERN, 8, 8, 8, 8, 8, 8, 8, 8;  
PAGE;  
EXIT;
```

印刷結果

図 7



FPAT 3, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0;



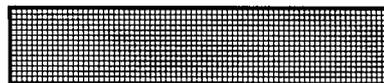
FPAT 0, 0, 24, 60, 60, 24, 0, 0;



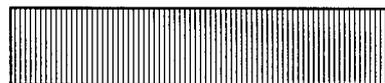
FPAT 255, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0;



FPAT 1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128;



FPAT 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 255;



FPAT 8, 8, 8, 8, 8, 8, 8, 8;

FRPO

ファームウェア再設定

(Firmware RePrOgram)

書式	FRPO パラメータ, 値 ;
パラメータ	パラメータ ファームウェア項目の識別コード 値 設定値
説明	<p>FRPO コマンドは、プリントシステムの電源投入時に設定される、各環境値の初期値を設定します。環境値を一時的に変更するには、FRPO コマンドではなく、プリスクライプコマンドを使用します。</p> <p>FRPO コマンド 1 つにつき、1 つの環境値を設定します。各設定項目コードとその意味、および指定できる値については、製品に付属の使用説明書を参照してください。</p> <p>現在の各環境値は、プリントシステムからステータス・ページを印刷して、一覧表示で確認できます。ステータス・ページを印刷するには、STAT コマンドを使用します。</p> <p>FRPO コマンドは、ファイルやプログラムの先頭に置いてください。変更した FRPO の設定値は、FRPO INIT コマンドによって、工場出荷状態にもどすことが可能です。</p>
例	<pre>!R! CMNT 電源オン時のエミュレーションを IBM エミュレーションに設定 ; FRPO P1, 12; CMNT 同時にステータスページを印刷 ; STAT 1; RES; EXIT;</pre>
関連コマンド	FRPO INIT

FRPO INIT 環境値の初期化

(FRPO-INITialize)

書式	FRPO INIT;
説明	FRPO INIT コマンドは、FRPO コマンドによって変更された各環境値を初期化し、工場出荷状態にもどします。 このコマンドは改ページを伴います。
例	!R! FRPO INIT; EXIT;

FSET

属性によってフォントを選択

(change current Font SETting by characteristic)

書式

FSET F/P, ピッチ, 高さ, スタイル, 太さ, タイプフェイス;

パラメータ

F/P	固定フォントまたはプロポーショナルフォントの識別。ターミネータ p が続く。 0 固定フォント 1 プロポーショナル・フォント
ピッチ	1 インチあたりの文字数 (dpi)。プロポーショナル・フォントの場合は省略。ターミネータ h が続く。 0.44 ~ 99.99
高さ	文字の高さ (ポイント)。ターミネータ v が続く。 0.25 ~ 999.25
スタイル	正体またはイタリック体、コンデンス体の識別。ターミネータ s が続く。 0 正体 1 イタリック体 4 コンデンス体 5 コンデンス・イタリック体
太さ	0 が通常。ターミネータ b が続く。 7 ~ +7
タイプフェイス	0 LinePrinterBM8.5-Roman 3 CourierBM 4 Swiss721BM 5 Dutch801BM 6 LetterGothicBM 8 PrestigeEliteBM 80 平成明朝 W3 半角 104 TypeBank-OCR-A 110 TypeBank-OCR-B 153 平成ゴシック W5 半角 4099 Courier 4101 CG Times 4102 Letter Gothic 4113 CGOmega 4116 Coronet 4140 Clarendon-Cd 4148 Univers 4168 AntiqueOlive 4197 GaramondAntiqua 4297 Marigold 4362 Albertus

16602 Arial
 16686 Symbol
 16901 TimesNewRoman
 24579 CourierPS
 24591 Palatino
 24580 Helvetica
 24607 ITCAvantGardeGothic-Bk
 24703 NewCenturySchoolbook
 24623 ITCBookman
 25093 Times
 28752 平成明朝 W3-SJ
 28825 平成ゴシック W5-SJ
 31402 Wingdings
 45099 ITCZapfChancery-MdIt
 45101 ITCZapfDingbats
 45358 SymbolPS

説明

FSET コマンドは、フォントの各種属性を指定することにより、希望のフォントを複数のフォントの中から消去法で選択します。フォントには、以下のような属性がありますが、各属性に選択の優先度を持たせることで、希望したフォントに合致した、あるいは特性的にもっとも近似なフォントを選択することができます。

フォントの属性の優先順位は、高い属性から優先順位の低い属性へ次のようになっています。

優先順位最高	シンボル・セット
	スペーシング (ピッチ)
	フォント・ピッチ
	ポイント・サイズ (高さ)
	スタイル
	太さ
	タイプフェイス
	位置
優先順位最低	方向

システム内部では、FSET コマンドを受け取ると、最上位であるシンボルセットに一致するフォントを探し出します。シンボル・セットは、選択されたエミュレーションによって、自動的に選ばれます。シンボル・セットを明示的に指定するには、FSET コマンドの前に CSET コマンドを指定します。特に日本語フォントを選択する場合は、CSET 19K; (Windows 3.1J) を指定します。属性ごとに一致するフォントが複数ある場合、ピッチ→高さ→スタイル→太さ→タイプフェイスの順で一致するフォントを探し、1つのフォントが残るまでフォント選択を行います。

下の例は、プロポーショナルピッチ (1p)、12 ポイント (12v)、正体 (0s)、通常太さ (0b) の平成明朝 (28752T) フォントを選択する FSET コマンド列です。

ピッチ=プロポーショナル スタイル=正体
 CSET 19K; FSET 1p12v0s0b28752T;
 高さ=12ポイント タイプフェイス=平成明
 太さ=通常

FSET コマンドの各パラメータはすべて指定する必要はありません。現在選択されているフォントのサイズなどを変更したい場合、FSET コマンドでフォントの高さのみを変えることができます。上の例で平成明朝フォントが選ばれた後、高さを 13 ポイントに変えるには、次のコマンド列で十分です。(ただし、ターミネータを大文字にすることが必要です。)

```
FSET 13V;
```

ピッチと高さの単位は、現在の単位 (UNIT コマンドで設定) に無関係に、それぞれ cpi とポイントとなります。

アウトライン・フォントのタイプフェイスは、2 バイトの値を使用します。ダウンロードフォントなどの外部フォントのタイプフェイス値は、フォントリストを印刷して確かめてください。フォントリストを印刷するには、FLST コマンドまたはコントロール・パネルから行ってください。

例

```
IR!
```

```
SEM 6; CMNT HP PCL エミュレーション;
```

```
SPSZ 8; CMNT A4 用紙サイズ;
```

```
TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p8v0s0b28752T;
```

```
TEXT "DF 平成明朝体 8 ポイントです。", N;
```

```
FSET 14V;
```

```
TEXT,L;
```

```
TEXT "FSET 14V; でフォント高さを 14 ポイントにしました。", N;
```

```
FSET 28825T;
```

```
TEXT,L;
```

```
TEXT
```

```
"そのまま FSET 28825T; でタイプフェイスを平成ゴシックにしました。";
```

```
PAGE;
```

```
EXIT;
```

印刷結果

DF 平成明朝体8 ポイントです。

FSET 14V; でフォント高さを14 ポイントにしました。

そのままFSET 28825T; でタイプフェイスを平成ゴシックにしました。

FTMD

フォントモード（フォント属性の自動調整）

(FonT MoDe)

書式

FTMD 値；

パラメータ

値

0～15の整数

説明

フォントはそれぞれ固有の文字間隔や行間隔、固定またはプロポーショナル・スペースの別、横置き（ランドスケープ）または縦置き（ポートレート）の別といった属性を持っています。FTMD コマンドは、あるフォントが選択されたときに、これらの属性をそのフォントに固有のものに変更するかどうかを決定します。

各属性を組み合わせて制御するために、プリントシステム内部では属性ごとに次の値を定義しています。

水平移動量（文字間隔）	1
垂直移動量（行間隔）	2
固定スペースまたはプロポーショナルスペース	4
用紙の縦置きまたは横置き	8

これらの指定値の合算により、属性の変更は次のように行われます。（属性ごとに自動変更が有効なものを「有効」と表しています。）

フォントモード値

表 22

フォントモード値	自動変更する属性			
	文字間隔	行間隔	F/P	用紙方向
0	—	—	—	—
1	有効	—	—	—
2	—	有効	—	—
3	有効	有効	—	—
4	—	—	有効	—
5	有効	—	有効	—
6	—	有効	有効	—
7	有効	有効	有効	—
8	—	—	—	有効
9	有効	—	—	有効
10	—	有効	—	有効

表 22

フォントモード値	自動変更する属性			
	文字間隔	行間隔	F/P	用紙方向
11	有効	有効	—	有効
12	—	—	有効	有効
13	有効	—	有効	有効
14	—	有効	有効	有効
15	有効	有効	有効	有効

FTMD コマンドを実行すると、プリントシステムは指定された属性のみを現在のフォントの標準値に調整します。標準値は下の表のように、エミュレーションモードによって異なります。

エミュレーションごとのフォントモード

表 23

エミュレーション	フォントモード	自動設定
IBM Proprinter (1)	0	なし
LaserJet Series (6)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P
KC-GL (8)	7	文字間隔、行間隔、F/P
PC-PR201/65A (11)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P
IBM 5577 (12)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P
EPSON VP-1000 (13)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P
NEC N5263/N5273 (14)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P
FMPR-359F1 (15)	13	ページの縦置き・横置き、文字間隔、F/P

たとえば、ページの縦置き・横置きのみを自動的に調整するには、次のコマンドを使用します。

```
!R! FTMD 8; EXIT;
```

文字間隔と、固定またはプロポーションアルスペースを自動的に調整するには、次のようになります。

```
!R! FTMD 5; EXIT;
```

例

```
!R! RES; SLM 1; STM 2;
```

```
FTMD 5;
```

```
UNIT C; SLS 1;
```

```
BOX 0.5, -0.5; MRP 1, 0; FONT 47;
```

```
TEXT 'Font 47, correctly spaced at 16 . 6 cpi' ,N;
```

```
BOX 0.5, -0.5; MRP 1, 0; FONT 37;
```

```
TEXT 'Font 37, correctly spaced at 10 cpi' ,N;
```

```
BOX 0.5, -0.5; MRP 1, 0; FONT 52;
```

```
TEXT 'Font 52, proportionally spaced' ,N;
```

RES; EXIT;

印刷結果

図 8

- Font 47, correctly spaced at 16.6 cpi*
- Font 37, correctly spaced at 10 cpi*
- Font 52, proportionally spaced***

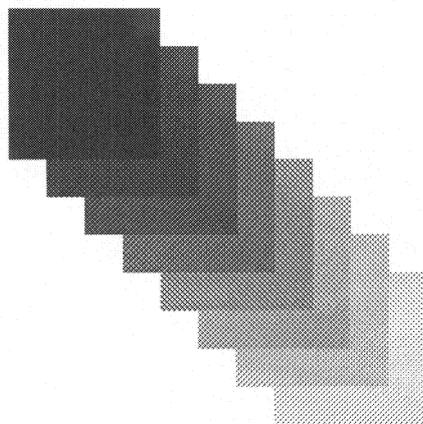
GPAT 灰色パターンの設定

(set Gray PATtern)

書式	GPAT 灰色レベル;
パラメータ	灰色レベル 0(黒)から 1(白)の任意の数(小数点以下 4 桁まで)
説明	GPAT コマンドは、ベクトル・グラフィックおよびパス・グラフィックで領域を塗りつぶすパターンを指定します。小数点 4 桁までの数が指定できます。デフォルト値は 0(黒)です。
例	<pre> !R! RES; UNIT C; MCRO GP; NEWP; GPAT %1; PDRP 2, 0, 0, 2, -2, 0, 0, -2; FILL; PMRP 0.5, 0.5; ENDM; CALL GP, 0; CALL GP, 0.125; CALL GP, 0.25; CALL GP, 0.375; CALL GP, 0.5; CALL GP, 0.625; CALL GP, 0.75; CALL GP, 0.875; PAGE; EXIT; </pre>

印刷結果

図 9



関連コマンド PAT、FPAT

GRAY

灰色モード

(represent GRAY)

書式	GRAY 灰色モード；
パラメータ	灰色モード 0 灰色を K(黒)で生成 (デフォルト) 1 灰色を CMY で生成
説明	<p>RGB 値がそれぞれ同一のイメージを処理する場合、CMY (シアン / マゼンタ / 黄色) の各色が等量のトナーを使用するか、または K トナーのみを使用してグレーあるいは黒を生成することができます。ただし、$C = M = Y$によって表現される黒は、K のみによって表現される黒と同じではありません。GRAY コマンドはカラー機において、グラフィックのグレーの発色に、黒色を使用するか、または CMY の組み合わせを使用するかを決定します。</p> <p>RGB 信号の各値が同じ場合は、対応する領域が無彩色 (グレー) となります。$R = G = B = 0$ の場合、対応する領域は黒になります。$R = G = B = 100$ の場合、対応する領域はグレーになります。$R = G = B = 255$ の場合、対応する領域が白となります。</p> <p>灰色が CMY によって表現される場合と、K のみによって表現される場合ではそのイメージの外観や印象が異なります。どちらの灰色モードを使用するかは、印刷される対象や目的、好みなどによって異なります。</p>

GRRD グラフィックデータの読み込み

(GGraphic data Read)

書式 GRRD フォーマット , 広さ , 高さ ; <イメージ>;ENDG;

パラメータ

フォーマット	イメージフォーマット
B	Bitmap
J	JPEG
T	TIFF
幅	0 ~ 65535
高さ	0 ~ 65535
<イメージ>	指定フォーマットに対応したファイル名

説明 GRRD コマンドは、指定された書式のイメージデータを指定された位置に、指定されたサイズで描きます。コマンドは、ENDG コマンドで完結されます。

各フォーマットのイメージの色空間は、RGB とのみ互換性があります。TIFF フォーマットの場合は非圧縮、LZW、パックビットと互換性があります。互換性のないフォーマットや色空間によるデータを受信した場合、このコマンドは無視されます。

幅および高さは、現在の単位 (UNIT) に左右されます。出力イメージの幅が 0 に指定された場合、イメージは出力イメージの高さに応じて変化する幅で印刷され、当初のイメージデータの縦横比が維持されます。出力イメージの高さが 0 に指定された場合、イメージは出力イメージの幅に応じて変化する高さで印刷され、当初のイメージデータの縦横比が維持されます。出力イメージの幅と高さが共に 0 に指定されると、出力イメージは STR コマンドによって指定されたラスタ解像度に従って印刷されます。

GRRD コマンドは ;ENDG; で終了するため、先行する ‘;’ と ENDG の間にスペースを入れないようにしてください。スペースを入れると、コマンドが無視されます。

モノクロ・モードが指定された場合、出力はグレースケール・イメージとして印刷されます。

例 下記の例では、DOS プロンプトを使用して、コマンドとグラフィックスデータをプリントシステムの平行インタフェースに転送します。

```
C:¥> echo !R! STR 300; MZP 1,1; GRRD J,0,0; > lpt1
C:¥> copy /b fluit.jpg lpt1
C:¥> echo ;ENDG; PAGE; EXIT; > lpt1
```

印刷結果(例)

図 10



HUE 色相を調整する

(adjust HUE)

書式

HUE 色, 角度 [, 形式];

パラメータ

色 下記の数字で表す
 0 全色
 1 R(赤)
 2 Y(黄)
 3 G(緑)
 4 C(シアン)
 5 B(青)
 6 M(マゼンタ)

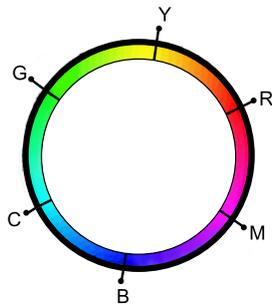
角度 HUE 回転角度
 色= 0 -180 ~ 180 (デフォルト= 0)
 色= 1-6 -10 ~ 10 (デフォルト = 0)

形式 オブジェクトの形式

説明

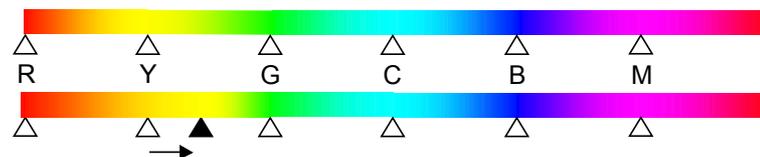
HUE コマンドは、カラーの色相を調整します。色相の調整は、下図に示すようにカラーリングの角度で表現することができます。カラーリングを時計回りに 60 度回転すると、赤がマゼンタに、黄色が赤にシフトします。色パラメータが 0 の場合、HUE コマンドは全色を指定された角度だけシフトします。

図 11



特定の色の色相をシフトするには、色パラメータで選択します。下記の例は、黄色の色相が緑の方向にシフトしており、黄色の画像がわずかに赤みを帯びて、黄緑付近の画像が黄色になることを示しています。色相を隣の色相の域を越えて移動することはできません。

図 12



色相全体が回転されている状態でこのコマンドが発行された場合、色相はデフォルト状態にリセットされた状態からあらたに回転されます。HUE コマンドは、全ての色空間、全てのカラーモード、全てのモニタシミュレーションモードに対して有効です。

特定のインクシミュレーションが NONE 以外に設定されている場合、HUE コマンドは無効となります。

INTL 欧文文字セットの選択

(INTernational character set)

書式 INTL 文字セット [, コード・セット];

パラメータ 文字セット

0	US ASCII
1	フランス
2	ドイツ
3	イギリス
4	デンマーク
5	スウェーデン
6	イタリア
7	スペイン
8	日本
9	US リーガル

コードセット

1	HP LasterJet Series コード・セット
4	IBM Proprinter コード・セット
7	VP-1000 コード・セット

説明 INTL コマンドは特定の言語に適合した文字セットを選び、フランス語の「é」などのような特殊な文字を印刷する際に使用します。

文字セットのデフォルト値は、FRPO コマンドで設定した U6 パラメータの値です。工場出荷時の設定は 8 = 日本 (JIS ASCII) です (HP PCL エミュレーション)。8 (日本) の文字セットは、キャラクター 92 (Hex 5C) がバック・スラッシュ (\) の代わりに円マーク (¥) であることを除いて、US ASCII と同じです。また、9 の US リーガル文字セットには、© や ™ などのような文字が含まれません。

コードセットは、エミュレートするプリンタのコードセットに合わせます。また、コード・セット値を省くと、コード・セットは現在のエミュレーション・モードに一致します。

INTL コマンドは、ダウンロードフォントを使用する場合は、無視されることがあります。

INTL コマンドで設定した文字セットは、プリントシステムの電源を切るとリセットされます。特定の文字セットを常時使用したい場合は、下の例のように FRPO U6 コマンドで変更してください。

例 !R! RES; INTL 2, 1; SLM 1; STM 2; EXIT;
Diese [pfel sind eine]berraschung!

```
IR! RES; EXIT;
```

印刷結果

図 13

Diese Äpfel sind eine Überraschung!

JOB D

ジョブの消去

(JOB Deletion)

書式

JOB D [モード [, 番号 [, パスワード]]];

パラメータ

モード	消去モード
1	一時コードジョブを一括削除
2	保存コードジョブを一括削除
8	メールボックス番号によって指定された仮想メールボックス内のジョブを削除
9	メールボックス番号によって指定された仮想メールボックスを削除
15	全てのメールボックスをクリーンな状態にリセット
番号	ジョブ番号またはメールボックス番号(文字列または数字)
0	モード 8、9、15 で有効。全てのメールボックスに影響
1 ~ 255	JOBS コマンドで指定されたトレイ番号
文字列	[' '] " "] で囲まれた仮想メールボックス名、またはジョブ番号
パスワード	メールボックスを保護する VMPW コマンドで指定された4桁の数字

説明

JOB D コマンドは、ハードディスク内のジョブを削除します。このコマンドを使用して不要なジョブを削除し、ハードディスクの空き容量を増やすことができます。

モード 1、2 はそれぞれ一時コードジョブと保存コードジョブを削除します。(JOBS コマンドで指定される) ジョブ番号を与えることによって、対応するジョブのみを削除することができます。

モード 8、9、15 は、仮想メールボックス内に保存されたジョブを削除するために使用されます。モード 8 は、メールボックス番号によって指定されたメールボックス内のジョブを全て削除します。ただし、メールボックスに定義されているエイリアスやパスワードを削除することはありません。メールボックスのエイリアスやパスワード保護の詳細については、それぞれ VMAL と VMPW コマンドを参照してください。

モード 9 は、仮想メールボックス内のジョブとともに、そのエイリアスやパスワードもすべて削除します。

モード 15 は、仮想メールボックス内のジョブとともに、そのエイリアスやパスワードも削除し、さらに全てのメールボックスをクリーンな状態にリセットします (JOB D 15, 0, 0)。

例

ジョブ ID が「4H90058F0」の一時コードジョブを削除する例。

!R! JOB 1, "4H90058F0"; EXIT;

ハードディスク内の保存コードジョブを一括して削除する例。

!R! JOB 2; EXIT;

ハードディスク内の保存コードジョブのみを一括して削除する例。

!R! JOB; EXIT;

パスワードが「9999」、仮想メールボックス番号が「3」の仮想メールボックスに保存されたジョブを一括して削除する例。

!R! JOB 8, 3, 9999; EXIT;

JOBL ジョブリストを出力する

(print JOB List)

書式 JOB� モード ;

パラメータ モード

1 一時コードジョブリスト (TEMPORARY CODE JOB LIST) を出力

2 保存コードジョブリスト (PERMANENT CODE JOB LIST) を出力

8 仮想メールボックスリスト (VIRTUAL MAILBOX LIST) を出力

説明 JOB� コマンドは、ハードディスク内の一時コードジョブまたは保存コードジョブの一覧、および仮想メールボックスの使用状況を示す一覧を印刷出力します。

一時コードジョブおよび保存コードジョブのリストの内容は以下のとおりです。

表 24 一時コードジョブおよび保存コードジョブのリスト

項目	説明	例
上限設定値	一時コードまたは保存コードジョブの格納用に割り当てられたハードディスク容量です。変更に関しては、JOBP コマンドを参照してください。	950MB
使用済	一時コードまたは保存コードジョブの格納にすでに使用されている容量です。	147MB
使用可能	一時コードまたは保存コードジョブをあらたに格納できる空き容量です。	803MB
ジョブ出力	この欄のバーコードをオプションのバーコードリーダーでスキャンすることにより、再印刷ができます。バーコード下の文字列 ({1NE015VK0} など) は内部ジョブ名です。	
ジョブ名	プリンタドライバから渡される文書名	Microsoft Word - 連絡 .doc
ユーザ名	プリンタドライバから渡されるユーザ名	山本
セーブ日時	ハードディスクに保存された日時	04/09/2008 13:00
ジョブ消去開始	このバーコードを先にスキャンし、次のジョブ消去欄の所定のバーコードをスキャンすると、そのジョブをハードディスクから消去します。	
ジョブ消去	所定のジョブを消去するのに使用します (上参照)。	-

仮想メールボックスリストの内容は以下のとおりです。

表 25 仮想メールボックスリスト

項目	説明	例
上限設定値	仮想メールボックスとして割り当てられたハードディスク容量です。変更に関しては、JOBP コマンドを参照してください。	950MB
使用済	仮想メールボックスのすでに使用されている容量です。	12MB
使用可能 トレイ番号	仮想メールボックスの空き容量です。 JOBP コマンドで定義した、仮想メールボックスの識別番号です。	938MB 1
別名	JOBP コマンドで定義した、仮想メールボックスのエイリアス(別名)です。	User 1
ジョブ数	仮想メールボックスに現在保存されているジョブ数です。	6
ページ数	仮想メールボックスに現在保存されているジョブの総ページ数です。	33
通常 / 共通ジョブ サイズ	kB	12564/36
出力または消去 選択・実行	リスト上のジョブを印刷出力または消去する際に、あらかじめスキャンします。 該当するジョブを印刷出力または消去する際に、上の出力または消去のバーコードに続いてスキャンします。	—

仮想メールボックスリストの場合、仮想メールボックス内に現在ジョブがあるなしにかかわらず、少なくとも一度使用されたメールボックスに関しては、情報が表示されます。ジョブが現在保存されている仮想メールボックスには、左欄に  が表示されます。

仮想メールボックスへのジョブの書き込み中にエラーが発生した場合は、その仮想メールボックスの通常 / 共有ジョブサイズの左欄に「Full!!!」と表示されます。この場合、仮想メールボックス内のジョブを印刷出力したときに、エラー内容を説明したログが印刷されます。

例

一時コードジョブリスト、保存コードジョブリスト、仮想メールボックスリストを一括して印刷出力するコマンド例。

```
IR! PSRC 1; CMNT 給紙元を選択;  
    JOBL 1;  
    JOBL 2;  
    JOBL 8;  
EXIT;
```

JOBO

ジョブの出力

(JOB Output)

書式 JOBO モード, 'ジョブ ID' または '仮想メールボックス番号' [, パスワード];

パラメータ

モード	0	普通	
	8	仮想メールボックス	
ジョブ ID (モード 0)			ジョブ ID または ページ ID
仮想メールボックス番号 (モード 8)			仮想メールボックス番号、1 ~ 255 またはエイリアス
仮想メールボックスのパスワード (モード 8 のみ)			仮想メールボックスのパスワード

説明 JOBO コマンドは、ハードディスクに保存されているジョブを出力します。ジョブは、保存時に指定された仕上げ設定に従って出力されます。

出力するジョブが一時コードまたは保存コードジョブの場合 (モード 0) は、ジョブ ID または ページ ID で指定します。ジョブ ID は、JOBS コマンドが発行された際に、プリントシステム内部で自動的に与えられます。

JOBS コマンドによるジョブ定義の際にバーコード印刷が指定され、バーコード印刷位置のパラメータが 128 ~ 135 の範囲であった場合、ページごとにページ ID が自動的に与えられます。

ジョブ ID およびページ ID は、ジョブリストを印刷して確認することができます。これらのリストの印刷については、JOB L コマンドを参照してください。

ハードディスクに指定したジョブが存在しない場合やジョブが破損した場合は、オペレータパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

[ハードディスク・エラー 99] ジョブが存在しません。
[ハードディスク・エラー 98] ジョブが破損しています。

仮想メールボックスに保存されたジョブを出力するには、モード 8 を使用します。モード 8 の場合は、仮想メールボックスの番号またはエイリアスを指定します。この場合は、指定された仮想メールボックス内のジョブが一括して印刷出力されます。出力が終了すると、仮想メールボックス内のジョブは全て削除されます。

仮想メールボックスに、VMPW コマンドによってマスターパスワードが設定されている場合は、パスワードが設定される全仮想メールボックスに対して、そのマスターパスワードが有効となります。パスワードが指定されていない場合、または間違ったパスワードが指定された場合、オペレータパネルにエラーが表示されます。また、エイリアスに対応した仮想メールボックスが存在しない

い場合や、指定された仮想メールボックス内にジョブが存在しない場合にもエラーが発生します。

仮想メールボックスのジョブの出力時に CANCEL キーを押すと、処理が停止し、プリントシステムが準備状態に戻りますが、出力中のジョブや仮想メールボックス内のジョブは出力されます。

ジョブは全て、現行の排紙先に出力されます。ただし、ステープルが指定されている場合は、ステープルユニットに強制的に送られます。JOBO に続いて JOBP を実行すれば、出力ページ数や、出力へのバーコード印刷の有無などの設定を行うことができます。

例

ジョブ ID が「4H90058F0」のジョブをバーコード印刷なしで 7 部出力する例。

```
IR! JOBP 0, 7;
    JOBP 1, 2;
    JOBO 0, '4H90058F0';
EXIT;
```

仮想メールボックス番号「3」に保存されている、パスワードなしのジョブを印刷出力する例。

```
IR! JOBO 8, 3; EXIT;
```

仮想メールボックスに記憶されている、パスワードが「9999」、ジョブ名が「Jonathan」のジョブを印刷出力する例。

```
IR! JOBO 8, 'Jonathan', 9999; EXIT;
```

JOBP

出力オプション

(JOB, print with Print options)

書式

JOBP オプション, パラメータ;

パラメータ

オプション 下表で指定する出力オプションの数字
 パラメータ 下表で指定するパラメータの数字または文字列

表 26 JOBP パラメータ (1 / 2)

出力オプション	機能	パラメータ	影響を受けるコマンド
0	印刷枚数	1 ~ 999	
1	バーコード印刷	0 = 第 1 ページのみ 1 = 全ページ 2 = なし	
2	両面印刷	0 = なし 1 = 長端綴じ 2 = 短端綴じ	JOBO
3	排紙先	1 = 下向き 2 = 上向き 3 = ソータ トレイ 4 = サブトレイ 上向き (Scorpio 装着時) 7 = フィニッシャ サブトレイ 下向き 9 = フィニッシャ サブトレイ 2 上向き 11 = マルチトレイ ビン 1 / メールボックス ビン 1 下向き 12 = マルチトレイ ビン 1 / メールボックス ビン 1 上向き 13 = メールボックス 全段 下向き 14 = メールボックス 全段 上向き 21 = メールボックス ビン 2 下向き 22 = メールボックス ビン 2 上向き 31 = メールボックス ビン 3 下向き 32 = メールボックス ビン 3 上向き 41 = メールボックス ビン 4 下向き 42 = メールボックス ビン 4 上向き 51 = メールボックス ビン 5 下向き 52 = メールボックス ビン 5 上向き 61 = メールボックス ビン 6 下向き 62 = メールボックス ビン 6 上向き 71 = メールボックス ビン 7 下向き 72 = メールボックス ビン 7 上向き	JOBO

表 26 JOBП パラメータ (2 / 2)

出力オプション	機能	パラメータ	影響を受けるコマンド
4	ステープル	0 = なし 1 = 左下 (斜め) 2 = 左上 (斜めまたは垂直) 3 = 中心 2 か所	JOBO
5	バーコード位置	0 ~ 7 または 128 ~ 135 (ページ ID 印刷)	
6	ステープル動作	M または m = 最大可能枚数 0 = 最大枚数を越えた場合ステープルしない -1 = 最大枚数を越えた用紙のみステープル 2 ~ 20 = 指定された枚数をステープル	
7	中綴じ	0 = なし 1 = 中綴じ + ステープル	
8	パンチ	0 = なし 1 = 主位置 2 = 副位置	
9	OHP 合紙	0 = なし 1 = 白紙を挿入 2 = 印刷紙を挿入	
10	OHP 合紙トレイ	給紙トレイ番号	
11	回転ソート	0 = なし 1 = あり	
13	ブックレット	0 = なし 1 = 縦送り左綴じ 2 = 縦送り右綴じ 3 = 横送り左綴じ 4 = 横送り右綴じ	
14	部門管理コードの設定	" 部門管理コード "	
16	振り分け出力	0 = なし 1 = あり	JOBO

説明

JOBП コマンドは、JOBS コマンドによって定義されたジョブの出力を実行します。JOBП コマンドを使用すると、出力ジョブに対して元の設定とは異なる印刷枚数や両面印刷、ステープルなどの設定が可能になります。たとえば、JOBS コマンドの定義の際に、両面印刷が定義されていなくても、保存後の印刷出力を JOBП 2, 1; で行えば、ジョブが両面印刷されます。また、JOBS コマンドでの定義の際に、ステープル定義が行われていたジョブを、JOBП 4, 0; と指定することで、ステープルなしで出力できます。

出力オプション 2、3、4、16 は、JOBO コマンドと JOBП コマンドを続けて使用する場合にのみ有効なオプションとなります。たとえば、先行するジョブが JOBS によって出力される場合、JOBП コマンド JOBП 2, 1; は両面印刷を実行しません。

例

バーコード印刷オプション付きで保存した「4H90058I0」というジョブ ID のジョブを 15 部印刷する例。

```
!R! JOBP 0, 15; JOBP 1, 2; JOBO 0, '4H9005810'; EXIT;
```

JOBS

ジョブ定義の開始

(JOB Start)

書式	JOBS 保存モード, コピー, 0, 0[, 0, 'ジョブ名','ユーザ名','日付'];																																							
パラメータ	<table> <tr> <td>保存モード</td> <td>0</td> <td>電子ソートジョブ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>一時コードジョブ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>保存コードジョブ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8</td> <td>仮想メールボックスジョブ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>129</td> <td>Quick Copy</td> </tr> <tr> <td></td> <td>130</td> <td>Proof-and-Hold</td> </tr> <tr> <td></td> <td>131</td> <td>Private Print</td> </tr> <tr> <td></td> <td>132</td> <td>Stored Jobs</td> </tr> <tr> <td>コピー</td> <td>印刷部数</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>1 ~ 999</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョブ名</td> <td>80 バイトまでの文字列</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ユーザ名</td> <td>80 バイトまでの文字列</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日付</td> <td>80 バイトまでの文字列</td> <td></td> </tr> </table>	保存モード	0	電子ソートジョブ		1	一時コードジョブ		2	保存コードジョブ		8	仮想メールボックスジョブ		129	Quick Copy		130	Proof-and-Hold		131	Private Print		132	Stored Jobs	コピー	印刷部数			1 ~ 999		ジョブ名	80 バイトまでの文字列		ユーザ名	80 バイトまでの文字列		日付	80 バイトまでの文字列	
保存モード	0	電子ソートジョブ																																						
	1	一時コードジョブ																																						
	2	保存コードジョブ																																						
	8	仮想メールボックスジョブ																																						
	129	Quick Copy																																						
	130	Proof-and-Hold																																						
	131	Private Print																																						
	132	Stored Jobs																																						
コピー	印刷部数																																							
	1 ~ 999																																							
ジョブ名	80 バイトまでの文字列																																							
ユーザ名	80 バイトまでの文字列																																							
日付	80 バイトまでの文字列																																							

JOBS コマンドは、ジョブを定義します。その後のジョブは、ハードディスクにスプールされます。PJL と KPDL 以外のエミュレーションにおいては電子ソートが可能です。このコマンドは、JOB T (136 ページ) で終了させます。

なお、e-MPS 機能の全てが、ハードディスクを必要とするわけではありません。たとえば、ステープル機能を使用する場合は、ハードディスクまたは RAM ディスクは必要ありません。

保存モードが一時または保存コードの場合、ハードディスクに割り当てられたそれぞれの保存容量の上限に達すると、保存モードは強制的に電子ソートモード (0) になります。

第 3、第 4、第 5 パラメータについては、予約済みパラメータであり、いずれも 0 としてください。

Stored Jobs は、ユーザー名=ディスクのディレクトリ名となります。ファイルシステム上、以下に挙げる文字はディレクトリ名として使用不可能なため、Stored Jobs のユーザー名に含ませることはできません。

¥ / : * ? " < > |

次に説明するコマンドで実現する動作について、JOBS コマンドで使用する場合の注意点を説明します。

STAK (排紙先), DUPX (両面印刷)

定義されたジョブの排紙先は、ジョブをハードディスクに保存した際の STAK 設定によって確定します。保存ジョブを印刷出力する際に、あらたに JOBO コマンドと共に STAK コマンドを指定しても無効です。保存ジョブの保存時の排紙先と異なる排紙先に出力させたい場合は、JOBO と共に JOBP コマンドを使用することで可能になります。

同様に、保存ジョブの両面印刷モードを出力の際に変更したい場合も、DUPX コマンドでなく、JOBP コマンドを使用します。

JOG (振り分け)

JOG コマンドが JOBS と JOBT のそれぞれのコマンド間にある場合、振り分け動作は無視されます。

STPL (ステーブル)

ステーブルは、ジョブ単位で有効となるため、JOBS コマンドでジョブ定義を行ったジョブに対してのみ有効です。STPL コマンド単体では動作しません。

仮想メールボックス

保存モードに 8 を指定することにより、仮想メールボックスモードが使用可能になります。

最初のメールボックス値が最後のメールボックス値より小さい場合、最初のメールボックスのみが有効になります。

仮想メールボックスをエイリアスで指定した際に、エイリアスに対応する仮想メールボックスが存在しない場合、プリントシステムにはエラー 85 が表示され、エラーログが印刷されます。

ジョブ名、ユーザ名、および日付パラメータの指定は、最大 31 バイトまでです。いずれか 1 つのパラメータでも 31 バイトを超える文字列が指定されると、コマンドは無効となります。この場合、ジョブはそのまま印刷出力されて、仮想メールボックスには保存されません。

最初のメールボックス値と最後のメールボックス値に有効な仮想メールボックス番号 (1 ~ 255) が指定されていない場合、または JOBP コマンドに有効な仮想メールボックス番号が指定されない場合、ジョブは仮想メールボックスに保存されず、印刷も行われません。また、エラーも表示されません。

例

ジョブ名「Project-report1」、ユーザ名「T.Anderson」、日付「07/29/02」のジョブを 25 部印刷する例。保存モードは電子ソートモードです。

```
!R! JOBS 0, 25, 0, 0, 0, "Project-report1", "T. Anderson", "07/29/02";
印刷データ
EXIT;
```

ジョブ名「Beauty-parlor-list」、ユーザ名「Saltlake」、日付「01/12/02」のジョブを 3 部印刷する例。保存モードは保存コードモードです。

```
!R!  
JOBS 2, 3, 2, 2, 0, "Beauty-parlor-list", "Saltlake","01/12/02";  
TEXT "Page 1..."; PAGE;  
TEXT "Page 2..."; PAGE;  
TEXT "Page 3..."; PAGE;  
JOB;  
EXIT;
```

ジョブ名「Inventory List 2002」、ユーザ名「Susan」、日付「02/12/02」のジョブを3部印刷する例。保存モードは一時コードです。

```
!R!  
JOBS 1, 1, 1, 0, 0, "Inventory List 2002", "Susan", "02/12/02";  
TEXT "Page 1..."; PAGE;  
TEXT "Page 2..."; PAGE;  
TEXT "Page 3..."; PAGE;  
JOB;  
EXIT;
```

ジョブを「Sales」というエイリアスの仮想メールボックスに保存する例。

```
!R! JOBS 8, 3, "Sales", 0, 0, "Invoice", "Sales", "01/14/02 16:30:25";  
UNIT C; MZP 5, 10; BOX 6, 6; PAGE;  
TEXT "November Result"; PAGE;  
TEXT "To Mr. Johnson"; PAGE;  
JOB; EXIT;
```

ジョブを仮想メールボックス3～15に保存する例。

```
!R! JOBS 8, 3, 3, 15, 0, "Service", "Repair", "01/14/02 16:30:25";  
UNIT C; MZP 5, 10; BOX 6, 6; PAGE;  
TEXT "ABCDE"; PAGE;  
TEXT "Domestic"; PAGE;  
JOB; EXIT;
```

JOBT

ジョブの終了

(JOB Terminate)

書式

JOBT;

説明

JOBT コマンドは、JOBS コマンドによるジョブ定義を終了させます。JOBS コマンドは、ジョブ定義を有効とするためにはかならず JOB T と組み合わせて使用することが必要です。

例

JOBS コマンドを参照。

JOG

ジョブの振り分け

(JOG)

書式

JOG;

説明

JOG コマンドは、JOBS コマンドで定義したジョブを 1 部ごと振り分けて排紙します。振り分けを行うには、オプションのスタッカを設置し、STAK コマンドでそのスタッカを排紙先に指定することが必要です。

振り分け排紙は初期状態では、1 部ごとが振り分けられますが、FRPO S8 コマンドにより、先頭ページのみ振り分けと切り替えることも可能です。JOG コマンドで、先頭のページのみを振り分けるには、次のコマンドを送信します。

```
IR! FRPO S8, 1; EXIT;
```

1 部ごとの振り分けにもどすには、次のコマンドを送信します。

```
IR! FRPO S8, 0; EXIT;
```

オプションフィニッシャによっては、MSTK コマンドでスタッカ中の排紙先を指定することもできます。くわしくは、163 ページの MSTK コマンドを参照してください。

なお、振り分け機能はステープル機能 (STPL) と同時に実行させることはできません。両方の機能を同時に指定した場合、ステープル機能のみが実行されてジョブの振り分け機能は無視されます。たとえば、印刷時間を短縮するために、DF-30/DF-31 は先頭ページのみ振り分けで、ST-30 は全ページの振り分けで使用すると便利です。

例

ジョブの先頭ページのみを振り分けで、3 部出力する例。

```
IR!
```

```
FRPO S8, 1; CMNT 先頭ページのみを振り分け ;
```

```
STM 0.5; STAK 3; CMNT 排紙先をスタッカに ;
```

```
JOG;
```

```
JOBS 2, 3, 1, 2, 1, " 電話帳 ", " 小阪花子 ", "2003, Jan., 10";
```

```
CSET 19K; TPRS 1; FSET 1p12v0s0b28752T;
```

```
TEXT " 電話帳 ", U; PAGE;
```

```
TEXT "03-1234-5673----- 青木 隆夫 ", N;
```

```
TEXT "06-1234-5673----- 上田 順子 ", N;
```

```
TEXT "042-123-4562----- 大木 薫 ", N; PAGE;
```

```
TEXT "03-1234-5672----- 佐々木 聡子 ", N;
```

```
TEXT "06-1234-5672----- 鈴木 恵子 ", N;
```

```
TEXT "042-123-4561----- 瀬川 一 ", N; PAGE;
```

```
JOBT;
```

```
EXIT;
```

KFNT

漢字ビットマップフォントの選択

(change current Kanji FoNT)

書式

KFNT フォント番号;

パラメータ

フォント番号	漢字フォントのフォント番号
1	明朝体
2	ゴシック体

説明

KFNT コマンドは、漢字ビットマップフォントを選択します。FONT コマンドでは、漢字フォントの選択は行えません。漢字アウトラインフォントの選択は、SKFT コマンドで行います。出荷時のフォントは、カナと漢字は明朝標準に、英数字はクーリエになっています。

漢字ビットマップフォントを明朝体やゴシック体に変更した場合、かなも自動的にそれぞれ明朝体またはゴシック体に変更されます。ただし、ASKF コマンドでかな書体を指定している場合は、ASFK コマンドの設定にしたがいます。

例

```
!R! RES; SEM 12;
      KFNT 2; EXIT;E;
●フィットネスクラブ《マーシー》
!R! KFNT 1; EXIT;
もっとのびやかに、もっとリラックスしてからだを動かせたら
ーそんな願いにこたえて相模原・淵野辺に生まれた、新時代の
フィットネスクラブ!R! KFNT 2; EXIT; 《マーシー》!R! KFNT 1; EXIT; ゆっ
たりとしたスペース
と最新の設備の中、リゾート感覚でエクササイズをお楽しみく
ださい。
!R! PAGE; EXIT;
```

印刷結果

```
● フィットネスクラブ 《マーシー》
もっとのびやかに、もっとリラックスしてからだを動かせたら
ーそんな願いにこたえて相模原・淵野辺に生まれた、新時代の
フィットネスクラブ 《マーシー》 ゆったりとしたスペース
と最新の設備の中、リゾート感覚でエクササイズをお楽しみく
ださい。
```

KWM

日本語縦書き / 横書き方向の設定

(Kanji Writing Mode)

書式

KWM 方向;

パラメータ

方向

H 横書き

V 縦書き

説明

KWM コマンドは日本語の縦書きと横書きを選択します。縦書き (KWM V;) の場合は、印刷方向に対して文字を半時計回りに 90 度回転させた方向に印刷します。文字列中に英数字が混在している場合は、それらは横書きで印刷されます。

KWM コマンドは RES コマンドによって、横書き (KWM H;) に戻ります。

例

```
!R! RES; UNIT P; SKCS 13,13;
TPRS 1;
CSET 19K;
SKFT 'DFHSMINCHO-W3',14; EXIT;
これは通常の横書きで印刷していますが…
!R! KWM V; EXIT;
このように KWM コマンドで縦書きにすることもできます。
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

これは通常の横書きで印字していますが…

LAPI

API プログラムのロード

(Load API program)

書式	LAPI ダウンロードするプログラムタイプ, 登録を行うプリスクライブコマンド名, ユーザプログラムスタート関数名;
パラメータ	<p>ダウンロードするプログラムタイプ "PRE" プリスクライブコマンド</p> <p>登録を行うプリスクライブコマンド名 2 ~ 4 文字の英数文字列 ("PRE" の場合のみ)</p> <p>ユーザプログラムスタート関数名 最大 31 文字の英数文字列 ("PRE" の場合のみ)</p>
説明	<p>LAPI コマンドは、API プログラムのダウンロードを行います。</p> <p>使用例にもありますが、ダウンロードするデータの最後に終端文字列として WRED という文字列を付加してください。この文字列が付加されていない場合、ダウンロードはできません。</p> <p>WRED の文字列は変更することが可能です。これはダウンロードを行うプログラムデータに WRED の文字列が含まれている場合は変更する必要があるためです。この変更を行うには RWR F T コマンドを使用してください。</p> <p>新規プリスクライブコマンド追加において、登録を行うプリスクライブコマンド名で指定したコマンド名かすでに登録されているコマンド名であった場合、送信したデータは無効となります。</p> <p>LAPI コマンドでダウンロードしたデータはシステム再起動で削除（無効）されます。</p>
例	<pre>!R! LAPI "PRE" , "XXXX" , "XXXXXXXX" ;[Program Data]WRED; EXIT; RWR F コマンドにて WRED を TEST に変更すると、次のような書式になります。 !R! LAPI "PRE" , "XXXX" , "XXXXXXXX" ;[Program Data]TEST; EXIT;</pre>

LDFC

文字の生成

(LoaD Font Character)

書式	LDFC フォント番号, コード, 文字の高さ, 文字の幅, y 軸オフセット, x 軸オフセット, セルの幅, センタ, 回転; ビットマップ;																				
パラメータ	<table> <tr> <td>フォント番号</td> <td>1000 ~ 65535</td> </tr> <tr> <td>文字コード</td> <td>ASCII コード 0 ~ 255</td> </tr> <tr> <td>文字の高さ</td> <td>文字の高さ、整数ドット単位 0 ~ 3999</td> </tr> <tr> <td>文字の幅</td> <td>文字の幅、整数ドット単位 0 ~ 3999</td> </tr> <tr> <td>y 軸オフセット</td> <td>ベースラインから文字の上端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767</td> </tr> <tr> <td>x 軸オフセット</td> <td>文字セルの左端から文字の左端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767</td> </tr> <tr> <td>セルの幅</td> <td>文字セルの幅 (プロポーショナルの場合)、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 0 ~ 65535</td> </tr> <tr> <td>センタ</td> <td>文字のセルの左端 ~ 文字の中心までの距離、整数マイクロドット単位 0 ~ 65535</td> </tr> <tr> <td>回転</td> <td>文字の回転 (向き) 0 正常 1 右回り 90 度 2 180 度 3 左回り 90 度</td> </tr> <tr> <td>ビットマップ</td> <td>文字のビットマップ、文字列により表記</td> </tr> </table>	フォント番号	1000 ~ 65535	文字コード	ASCII コード 0 ~ 255	文字の高さ	文字の高さ、整数ドット単位 0 ~ 3999	文字の幅	文字の幅、整数ドット単位 0 ~ 3999	y 軸オフセット	ベースラインから文字の上端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767	x 軸オフセット	文字セルの左端から文字の左端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767	セルの幅	文字セルの幅 (プロポーショナルの場合)、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 0 ~ 65535	センタ	文字のセルの左端 ~ 文字の中心までの距離、整数マイクロドット単位 0 ~ 65535	回転	文字の回転 (向き) 0 正常 1 右回り 90 度 2 180 度 3 左回り 90 度	ビットマップ	文字のビットマップ、文字列により表記
フォント番号	1000 ~ 65535																				
文字コード	ASCII コード 0 ~ 255																				
文字の高さ	文字の高さ、整数ドット単位 0 ~ 3999																				
文字の幅	文字の幅、整数ドット単位 0 ~ 3999																				
y 軸オフセット	ベースラインから文字の上端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767																				
x 軸オフセット	文字セルの左端から文字の左端までの距離、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767																				
セルの幅	文字セルの幅 (プロポーショナルの場合)、整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 0 ~ 65535																				
センタ	文字のセルの左端 ~ 文字の中心までの距離、整数マイクロドット単位 0 ~ 65535																				
回転	文字の回転 (向き) 0 正常 1 右回り 90 度 2 180 度 3 左回り 90 度																				
ビットマップ	文字のビットマップ、文字列により表記																				

説明 LDFC コマンドは、特殊文字や記号を作成します。LDFC コマンド列 1 つについて、1 つの文字が作成されます。

フォント番号は、作成したフォントを FONT コマンドなどで選択する際に使用されます。すでに作成したフォントのフォント番号と重複すると、コマンドは無効です。

オフセット値は、正值は上方向へ、負値は下方向への距離をあらわします。

例

次の例は、◆マークを LDFC コマンドによって作成し、フォント番号 51000、文字コード 43 として定義しています。実際に印刷するときには、+ 記号 (文字コード = 43) をキーボードより入力します。

```

!R! RES;
DELF 51000;
LDFC 51000, 43, 39, 28, 1216, 0, 1216, 608, 0;
@@2@@@0
@@2@@@0
@@2@@@0
@@2@@@0
@@7@@@0
@@7@@@0
@@7@@@0
@@?`@0
@@?`@0
@A?p@0
@A?p@0
@C?x@0
@G?|@0
@O?~@0
@_?/@0
@/?/`0
A/?/p0
G/?/x0
O/?/~0
//?//8
O/?/~0
G/?/x0
A/?/p0
@/?/`0
@_?/@0
@O?~@0
@G?|@0
@C?x@0
@A?p@0
@A?p@0
@@?`@0
@@?`@0
@@7@@@0
@@7@@@0
@@7@@@0
@@2@@@0
@@2@@@0
@@2@@@0
@@2@@@0;

```

```

FONT 51000; SLM 1; SCPI 6; SLPI 6;
TEXT '+ + + + + + + + + + +', N;

```

```
TEXT '+++++', N;  
TEXT '+++++', N;  
TEXT '+++++', N;  
TEXT '+++++', N;
```

```
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



LDFN C 文字の登録

(generate bitmap character for LoadIng FoNt)

書式 LDFN C, フォント番号, 文字コード, 高さ, 幅, y 軸オフセット, x 軸オフセット, 文字幅; ビットマップデータ;

パラメータ

フォント番号	1000 ~ 65535
文字コード	ASCII コード、または 16 進表記 1 byte 0 ~ 255 2 byte 0 ~ 65535
高さ	ビットマップの高さ、ドット単位 / 解像度 0 ~ 65535
幅	ビットマップ幅、ドット単位 / 解像度 0 ~ 65535
y 軸オフセット	整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767
x 軸オフセット	整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 -32768 ~ 32767
文字幅	文字幅整数マイクロドット (1/32 ドット) 単位 0 ~ 65535
ビットマップ	ビットマップデータ、BBN フォーマット

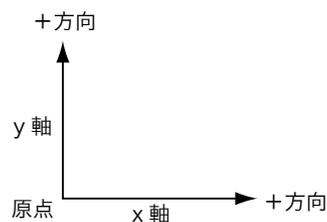
説明 LDFN C コマンドは、各文字コードのビットマップキャラクタを、定義済みのダウンロードフォントヘッダに登録します。

定義する各文字コードは、すでに生成したフォントヘッダのフォント番号、シンボルセットなどと一致している必要があります。このコマンドで転送されるビットマップデータは、LDFC/LDKC コマンドで使用している転送フォーマット (BBN フォーマット) を使用します。

ビットマップの高さ、幅、x 軸 / y 軸オフセット、文字幅のマイクロドット単位は、フォントヘッダで定義した解像度で指定します。

LDFN C コマンドでビットマップフォントに登録する時の座標系は、次のように定義します。

図 14 フォント座標系



LDFN F フォントヘッダの生成

(create header for LoadIng FoNt)

書式 LDFN F, フォント番号, ビットマップ, フォント名, シンボルセット, F/P, ピッチ, 高さ, スタイル, ストローク, タイプフェース, フォントタイプ;

パラメータ

フォント番号	1000 ~ 65535
ビットマップ	0 300 dpi 1 600 dpi
フォント名	最大 31 byte の ASCII 文字列、引用符 (') または二重引用符 (") で囲む
シンボルセット	1 byte 1 ~ 65535 (619 = シフト JIS) 2 byte J
固定またはプロポーショナル	0 固定 1 プロポーショナル
ピッチ	dot、フォントフォーマットの解像度 3 ~ 3000
高さ	dot、フォントフォーマットの解像度 4 ~ 4165
スタイル	0 ~ 32767
ストローク	-127 ~ 127
タイプフェース	0 ~ 32767
フォントタイプ	0 文字コード 32 ~ 127 1 文字コード 32 ~ 127 および 160 ~ 255 2 文字コード 0 ~ 255

説明 LDFN F コマンドは、ダウンロードフォント用にフォントヘッダを生成します。このコマンドに続けて、ビットマップフォントのダウンロードを行います。定義するフォントヘッダは、ANK 系 (1 バイト系) の拡張として登録が可能です。2 バイト文字で使用する場合は、ASFN コマンドで割り付けを行ってからフォントの選択を行ってください。

登録するフォント番号と同じフォント番号が既に存在する場合は、後のフォント番号は無視されます。

LDFN S TrueType フォントのダウンロード (LoaD truetype FoNt)

書式 LDFN S, フォーマット, フォント番号, フォント名, [データ長, シンボルセット値, スタイル値, ストローク, タイプフェース]; <バイナリデータ> WRED;

パラメータ

フォーマット
 0 TrueType フォント
 1 日本語 TrueType フォント
 2 日本語 TrueType Collection
 3 外字 TrueType フォント

フォント番号
 1000 ~ 65535

フォント名
 最大 31 byte の ASCII 文字列、引用符 (") または二重引用符 (") で囲む

データ長
 フォントデータ長 (バイナリデータのバイト数)

シンボルセット値
 1 ~ 65535 (619 = シフト JIS コード)

スタイル値
 0 ~ 32767

ストローク
 -127 ~ 127

タイプフェース
 0 ~ 32767

<バイナリデータ>
 フォントデータ (TrueType 形式)

説明 LDFN S コマンドは、TrueType フォントをダウンロードします。このコマンドの後に続く <バイナリデータ> は、TrueType 形式のフォントデータであり、データサイズは <データ長> で指定したサイズと一致している必要があります。

フォントデータは、上の書式で示すように WRED; コマンドで終了します。WRED; の 5 バイトはフォントデータ長には含まれません。

ダウンロード可能な TrueType フォントの数は、最大 256 フォント (または 512 組) までです。ただし、プリントシステムのユーザメモリ量に制限されます。ダウンロードするフォント番号と同じフォント番号が既に存在する場合は、ダウンロードは無効です。

LDFN S(および RWER S) コマンドにおいて、入力パラメータのフォントフォーマットが TrueType Collection (フォーマット= 2) の場合は、次の制限があります。

日本語 TrueType フォントはフォントヘッダが複数個あるために、自動的にその分を加えたフォント番号になります。したがってフォーマット= 2 の場合は、1000 ~ 65534 になります。

TrueType Collection は、基本的に 2 つのフォントを含んでいます。登録フォント名は (F) が固定スペースで (P) がプロポーショナルスペースで表されます。3 つ以上のフォントで構成されている場合そのフォント名は、(2)、(3) . . . (9)、(A)、(B) というようにその登録数分を、数字とアルファベットで表しています。

LDFN コマンドでのダウンロード時には、指定フォント番号のチェックをプリントシステム内部で行います。指定されたフォント番号とその番号に 1 を加えたフォント番号が空いているかをチェックし、空いていればダウンロードを行います。しかし、3 つ以上のフォント構成である場合は、指定フォント +2 以降の番号の空きがあるかどうかのチェックは行いません。3 つ目以降のフォント番号に空きがない場合、登録済みのフォント番号が優先されます。

また、3 つ以上のフォントで構成数で 65535 を超えてしまう場合は、それ以降のフォント登録を無視します。

ダウンロードしたフォントは、1 バイト系のフォントの場合は FONT、SFNT コマンドで、また 2 バイト系のフォントの場合は KFNT、SKFN コマンドで選択することができます。

登録した TrueType フォントを削除するには、DELF コマンドを使用してください。

フォントをダウンロードする場、フォントの知的所有権の所有者による許諾が必要です。

LDKC 漢字フォントのダウンロード (LoaD Kanji Character)

書式 LDKC フォント番号, 文字コード; ビットマップ;

パラメータ

フォント番号	1000 ~ 65536
文字コード	JIS 漢字コード、3021H ~ 7424H
ビットマップ	文字により表記

説明 LDKC コマンドは、漢字フォントのダウンロードを行います。LDKC で漢字フォントをダウンロードする前に、CRKF(フォントヘッダの生成)コマンドで、そのフォントのヘッダを作成することが必要です。

文字コードは JIS 漢字コードを使用し、10 進数で記述します。例えば、[亜] は 12321(3021H) となります。

関連コマンド CRKF、DKJF、LDFC

LGHT

明度の調整

(adjust LiGHtness)

書式	LGHT モード, 明度;
パラメータ	モード 明度の調整方法 0 ガンマモード 1 コントラストモード 明度 明度レベル -10 ~ 10 (デフォルトは 0)
説明	<p>LGHT コマンドは、指定された明度調整法に基づいて、明度をコントロールします。明度調整法を指定することによって、ガンマとコントラストをそれぞれ別個に設定することができます。</p>

このコマンドは、各色空間、カラーモード、モニターシミュレーションに対して有効です。ガンマおよびコントラストモードとも、色相別に適用することはできません。

インクシミュレーションが「なし」以外に設定されている場合は、このコマンドは無効です。

ガンマ調整モード

ガンマ調整モードは、明度のガンマを変えることによって、画像の明度を調整します。たとえば、低明度域を少なくすると、暗い画像が明るめになるなどの明度変化を得ることができます。色相 R(赤)を例にとった場合の明度のガンマ変化を下図に示します。最上段のカラーバーが、デフォルトでの明度変化を表します ($\gamma = 1.0$)。△マークが中心値で、左側が低明度域、右側が高明度域を示します。中段のカラーバーは、明度を明るくした例です ($\gamma > 1.0$)。下段のカラーバーは、明度を暗くした例です ($\gamma < 1.0$)。

図 15 ガンマモードによる明度調整

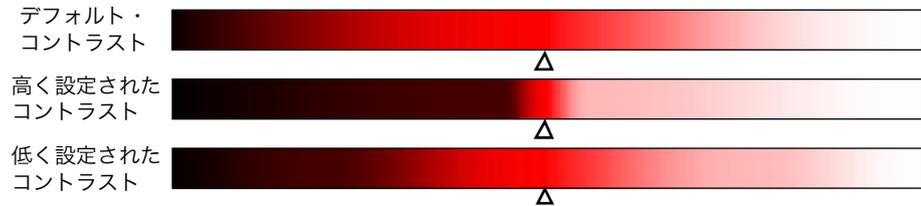


コントラスト調整モード

コントラスト調整モードは、濃度のコントラストを変えることによって、画像の濃淡差を明確にします。コントラストの強弱によって画像の濃淡差が変化します。下図のカラーバーはコントラスト調整モードにおいて、色相 R(赤)を例

にとつた場合の、明度のコントラスト変化を表したものです。上段のカラーバーがデフォルト状態のコントラスト変化を表し、 Δ の印を付けたところが中心値です。カラーバーの左側が低濃度域、右側が高濃度域を示します。中段のカラーバーは、上段のカラーバーに対してコントラストを高く設定した場合、下段のカラーバーはコントラストを低く設定した場合です。

図 16 コントラストモードにより明度調整



MAP

絶対位置へのカーソル移動

(Move to Absolute Position)

書式

MAP x座標, y座標;

パラメータ

パラメータ

x座標 左マージンからの距離

y座標 上マージンからの距離

説明

MAP コマンドは UNIT コマンドで指定した単位により、上マージンおよび左マージンからの距離で、指定した位置にカーソルを移動します。

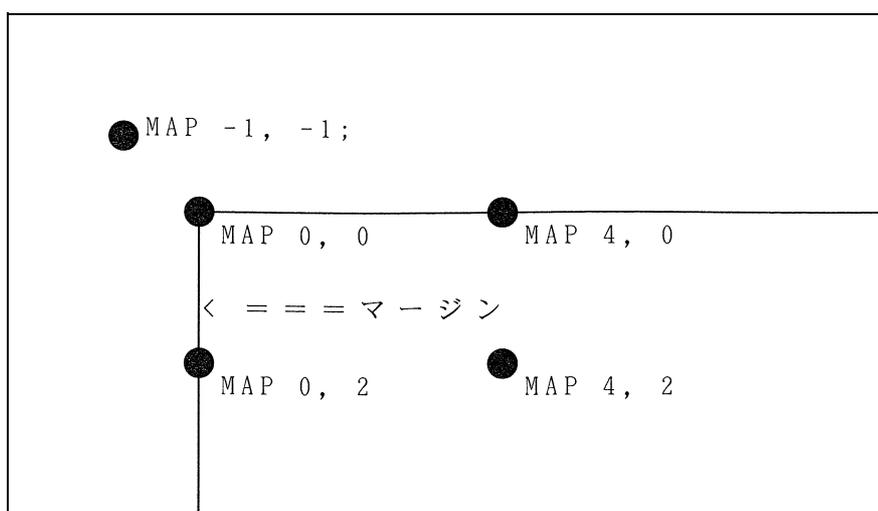
座標値の指定は正・負ともに可能ですが、負の座標を指定すると、カーソルはマージンの外側へ出ます。

MAP コマンドはパス・モードの中では無効です。

例

```
!R! RES; UNIT C; STM 2; SLM 2;
TPRS 1;
CSET 19K;
MAP 0,0; BOX 40, 40; SPD 0.2;
MAP 0, 1.4; TEXT '< ===マージン';
MAP 0, 0; CIR 0.1; TEXT, L; TEXT ' MAP 0, 0';
MAP 4, 0; CIR 0.1; TEXT, L; TEXT ' MAP 4, 0';
MAP 0, 2; CIR 0.1; TEXT, L; TEXT ' MAP 0, 2';
MAP 4, 2; CIR 0.1; TEXT, L; TEXT ' MAP 4, 2';
MAP -1, -1; CIR 0.1; TEXT, E;
TEXT ' MAP -1, -1';
RES; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

MAP、MRPA、MZIP

MCRO マクロの作成

(define MaCRO)

書式 MCRO マクロ名 [ダミー記号 [, 注釈]];

パラメータ

マクロ名	任意の英数字
ダミー記号	任意の英数字 (デフォルトは %)
注釈	文字列

説明 MCRO コマンドは、マクロを作成します。作成されたマクロは、そのマクロ名を CALL や AMCR コマンドで指定することで実行されます。

マクロ名の長さには制限はありませんが、最初の 4 文字だけが認識され、残りは無視されます。また大文字・小文字は区別されません。たとえば、次のマクロ名は全て同じマクロ名とみなされます。

ABCD abcd ABCDE abcdxyz

マクロ名には英数字の他、ハイフン (-) などの記号も使えますが、最初の文字は必ずアルファベットでなければなりません。たとえば、F-1 や GRY2 などが有効です。

ダミー記号は、マクロ内部で変数を扱うときのダミー記号を指定します。ダミー記号は、数字と組み合わせて指定します。たとえば %1 は最初のダミー記号、%2 は 2 番目のダミー記号で、%10 は、10 番目のダミー記号となります。CALL コマンドでマクロを呼び出したときに、マクロ名の後に指定する数値がダミー値として、マクロ内の対応するコマンドに代入されます。% マークを実際に文字として印刷する必要がある場合などに、ダミー記号を % 以外にします。注釈には、ダミーパラメータの内容を説明しておく便利です。

あるマクロ名がすでにプリントシステム内に定義されている場合、MCRO コマンドによってあらたにそのマクロ名でマクロを作成することはできません。同名のマクロを再定義したい場合は、DELM コマンドか DAM コマンドによってすでに定義されているマクロを削除してから行ってください。

下の表は、マクロに関する制限事項をまとめたものです。

表 27 マクロの制限事項

定義できる最大マクロ数	プリントシステムのメモリ容量に依存
最大ネesting (子マクロ) 数	20
マクロの最大長	4 bytes
最大パラメータ	19
最大 CALL コマンド長	255 bytes
マクロ内で無効となるプリスクライブコマンド	EXIT, LDFC, MCRO, DELM, DAM, RDMP, ENDD, ICCD

例

```
IR! RES; UNIT I;  
TPRS 1; CSET 19K;  
SKFT 'DFHSMINCHO-W3',18;  
DELM SIGN;  
MCRO SIGN, %, 文, ボックスの長さ +0.3;  
SPD 0.03; KFNT 2; UNIT D; UNIT I;  
BOX %2, 0.30; MRP 0.15, 0.20;  
TEXT %1; MRP -0.15, 0.35;  
ENDM;  
CALL SIGN, '注意', 0.6;  
CALL SIGN, '飲んではいけません', 1.8;  
CALL SIGN, '本製品はフロンガスを使用していません', 3.4;  
CALL SIGN, 'このラベルをはがさないでください', 3.0;  
RES; EXIT;
```

印刷結果

注意

飲んではいけません

本製品はフロンガスを使用していません

このラベルをはがさないでください

関連コマンド

CALL、DAM、DELM、ENDM、MLST

MDAT 用紙種類の属性変更

(set MeDia type ATtribute)

書式 MDAT [用紙種類[, 用紙重さ, 温度, 両面印刷[, 濃度]]];

パラメータ

用紙種類

- 1 普通紙
- 2 OHP シート
- 3 プレプリント
- 4 ラベル
- 5 ボンド
- 6 再生紙
- 7 薄紙
- 9 レターヘッド
- 10 カラー
- 11 穴あき用紙
- 12 封筒
- 13 ハガキ
- 14 加工紙
- 16 厚紙
- 17 上質紙
- 21 カスタム 1
- 22 カスタム 2
- 23 カスタム 3
- 24 カスタム 4
- 25 カスタム 5
- 26 カスタム 6
- 27 カスタム 7
- 28 カスタム 8

重さ

- 0 普通 (64 ~ 90 g/m²)
- 1 重い (90 g/m²)
- 2 軽い (60 ~ 64 g/m²)
- 3 極厚 (90 g/m² 以上)
- 10 Light
- 11 Normal 1
- 12 Normal 2
- 13 Normal 3
- 14 Heavy 1
- 15 Heavy 2
- 16 Heavy 3
- 17 Extra heavy

定着温度

- 0 高温

1	普通
2	低温
3	薄紙用低温
両面印刷	
0	可能
1	不可
濃度	
1	Light
2	Medium Light
3	Normal
4	Medium Heavy
5	Heavy

説明

MDAT コマンドは、用紙の種類に応じた最適な印刷設定を行います。用紙種類のパラメータで設定する用紙に応じて、それぞれの重さ、最適な定着温度、両面印刷の許可について印刷制御を行います。

用紙種類以外のパラメータを省略して MDAT コマンドを発行すると、各属性を初期化します。また、用紙種類を含めた全パラメータを省略すると、全用紙種類の属性を初期化します。各メディアタイプの初期設定はプリントシステムの取扱い説明書を参照してください。

特定の用紙を使用する場合に、カスタムとして 8 種類の設定を保存できます。「カスタム」の初期状態は、紙の重さが「普通」、定着器の温度が「普通」、両面印刷が「可」で設定されています。

例

「カスタム 1」を紙の重さを「重い」、定着温度を「高温」、両面印刷を「不可」に設定する例。

```
IR! MDAT 21, 1, 0, 1; EXIT;
```

MID 識別名 (ID) 特定トレイ選択 (Multi-tray ID)

書式	MID 番号;
パラメータ	番号 トレイグループ (1 ~ 15)
説明	MID コマンドは、指定したトレイグループにソート排紙を行います。ソート排紙は、ソータが装着されている場合で、ソータモードがマルチモード (FRPO SO, 1;)時に可能です。ソータモードについては、製品に付属の説明書を参照してください。ソータが装着されていない場合や、ソータモードが共有モード場合は、MID コマンドは無視されます。

15 ビンソータの場合の、初期設定のトレイグループは以下のとおりです。

表 28 ソータのデフォルトトレイグループ

トレイ番号	MID コマンド
1 ~ 5	MID 1;
6 ~ 10	MID 2;
11 ~ 15	MID 3;

MID コマンドに続いて CSTK コマンドや SSTK コマンドを発行すると、該当するトレイグループにそれぞれコレート排紙およびソート排紙を行うことができます。各トレイグループ最上部のトレイが、一段目のトレイとなります。

任意のトレイをまとめてグループ化するには、ASTK コマンドを使用します。

指定した MID コマンドは、新たに MID コマンドで再設定するまで有効です。MID コマンドは、ファイルやプログラムの先頭に記述してください。

例	ソータをマルチモード (FRPO SO, 1;)に設定し、トレイグループ 3(トレイ 11 から 1[MID 3;])を選択した後、そのグループの 2 番目のトレイ (SSTK 2)、つまりソータの 12 番目のトレイに排紙する例。
---	--

```
!R! FRPO SO, 1; SEM 12;
      MID 3; SSTK 2; EXIT;
この用紙は、ソータの 12 番目のトレイに排紙されます。
!R! RES; EXIT;
```

関連コマンド	ASTK、CSTK、SSTK
--------	----------------

MLST

マクロリストの印刷

(print Macro LiST)

書式

MLST;

説明

MLST コマンドは、プリントシステムのメモリ内のマクロについて、名称や種類などの情報を一覧印刷します。プリントシステムに装着されている、メモリカードのマクロについても同じく情報を印刷します。

次にマクロリストの例と、各項目について説明します。

図 17 マクロリスト例

1	2					3	4	5	6
Location: RAM	Type	Macro ID	I/F	Attr./Auto	Size (Byte)				
	PRE	FW0	PAR	Permanent	26				
	PRE	FW	PAR	Permanent	238				
	PRE	LIN2	PAR	Permanent	28				
Location: EPROM	Type	Macro ID	I/F	Attr./Auto	Size (Byte)				
	PCL	123		Permanent	296				
	PRE	VLIN		Permanent	28				
	PRE	FORM		Permanent	83				
	PRE	HLIN		Permanent	28				

上の例の各数字に対応した、次の表の説明を参照してください。

表 29 マクロリストの項目説明

項目	説明
1 Location	マクロの登録場所。RAM はプリントシステムのメモリ内
2 Type	マクロの種類。PRE はブリスクリップマクロ。PCL は PCL マクロ
3 Macro ID	マクロ名
4 I/F	マクロがダウンロードされたインタフェース。PAR はパラレルインタフェース
5 Attr./Auto	マクロの属性。Permanent は恒久マクロ。/E の付いたものは、オートマクロ
6 Size	マクロのサイズ (bytes)

MPSS

e-MPS の機能別保存容量

(Multiple Printing System Storages)

書式	MPSS 'ジョブタイプ', 'リミット', サイズ;		
パラメータ	ジョブタイプ	CODE	一時コードジョブもしくは保存コードジョブ
		VMB	仮想メールボックスジョブ
		JOBR	Job Retention ジョブ
	リミット	TEMPLIMITSIZE	一時コードジョブ保存の制限値
		PERMLIMITSIZE	一時コードジョブ保存の制限値
		VMBLIMITSIZE	仮想メールボックス容量の制限値
		QUICKLIMITCOUNT	Quick Copy ジョブセーブ数の制限値
	サイズ	0 ~ 9999 (QUICKLIMITCOUNT には 0 ~ 50), MB 単位	

説明 MPSS コマンドは、一時コードジョブや保存コードジョブ、仮想メールボックスジョブの、ハードディスクへの保存容量の限界値を割り当てます。または、Quick Copy ジョブの保存数を割り当てます。

パラメータの指定は、保存されるジョブのタイプ(形式)およびその限界値をそれぞれ文字列で指定し、最後に容量を MB 単位で指定します。ジョブタイプとリミットの組み合わせは、次の例を参照してください。ジョブタイプと限界値を示す文字列は、引用符 (') または二重引用符 (") で囲む必要があります。

例 保存コードジョブの保存制限値を 600MB に設定する例。

```
!R! MPSS 'CODE', 'PERMLIMITSIZE', 600; EXIT;
```

仮想メールボックスの容量制限値を 800MB に設定する例。

```
!R! MPSS 'VMB', 'VMBLIMITSIZE', 800; EXIT;
```

Quick Copy ジョブのセーブ数制限値 (ジョブ保持数) を 50 に設定する例。

```
!R! MPSS 'JOBR', 'QUICKLIMITCOUNT', 50; EXIT;
```

MPTE

手差しトレイ用紙有無の表示変更

(MP Tray Empty)

書式

MPTE モード ;

パラメータ

モード

- 0 手差しトレイに用紙が無い場合に、用紙なしメッセージを表示しない。
- 1 手差しトレイに用紙が無い場合に、用紙なしメッセージを表示する。

説明

手差しトレイをデフォルトの給紙元に設定しているプリントシステムにおいて、手差しトレイに用紙がセットされていない場合に、メッセージディスプレイに用紙なしメッセージを表示するか、表示しないかを設定します。

モードが1（デフォルト）の設定では、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、常に用紙なしメッセージが表示されます。

モードが0の設定では、手差しトレイに用紙がセットされていなくても、手差しトレイを除く給紙元のどこかに用紙があれば、用紙なしメッセージは表示されません。「印刷できます。」など、通常が表示がされます。

RES コマンドでリセットしませんので、設定を変更する場合は MPTE コマンドで設定し直す必要があります。

例

IR! FRPO R4, 0; MPTE 0; EXIT;

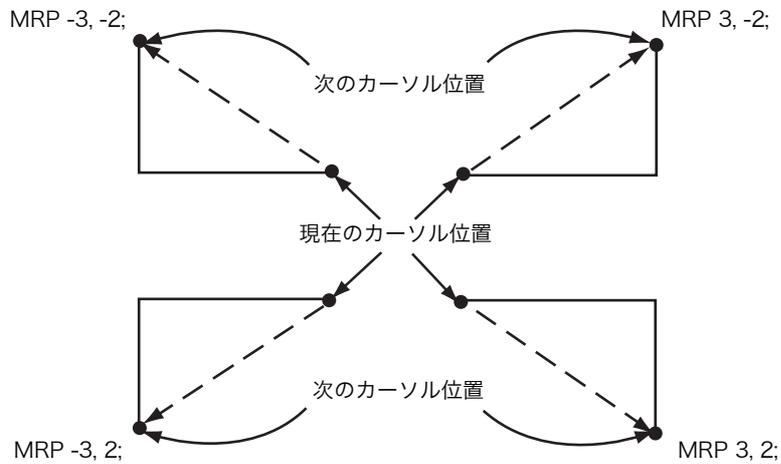
MRP 相対位置へのカーソル移動

(Move to Relative Position)

書式 MRP x 座標, y 座標;
x 座標 /y 座標現在のカーソル位置を基準とした相対座標

説明 MRP コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位により、現在のカーソル位置を基準とした相対位置にカーソルを移動します。座標は、正または負の値で指定できます。

図 18 相対位置へのカーソル移動



MRP コマンドはパスモードでは無効です。パスモードでは、PMRP コマンドを使用してください。

関連コマンド MAP、MRPA、MZP

MRPA

角度による相対位置へのカーソル移動

(Move to Relative Position specified by Angle)

書式

MRPA 距離, 角度;

パラメータ

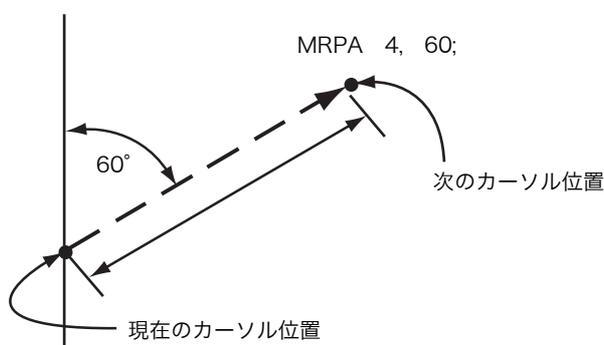
距離 移動の距離

角度 上向きの垂直線から右回りに測った度数

説明

MRPA コマンドは、角度を指定することによって現在の位置からカーソルを移動します。距離には UNIT コマンドで指定した単位を使います。

図 19 MRPA によるカーソル移動

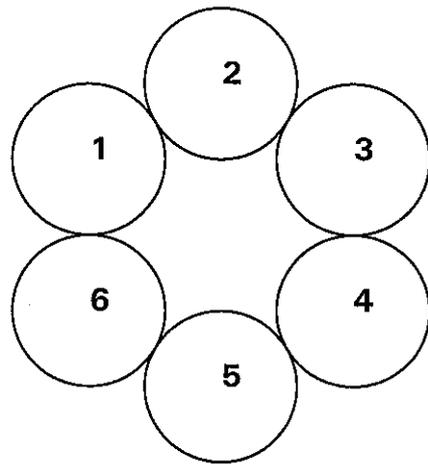


MRPA コマンドは、パスモードでは無効です。パスモードでは、PMRA コマンドを使用してください。

例

```
!R! RES; UNIT C;
MAP 6, 12; CIR 1; TEXT '1';
MRPA 2, 60; CIR 1; TEXT '2';
MRPA 2, 120; CIR 1; TEXT '3';
MRPA 2, 180; CIR 1; TEXT '4';
MRPA 2, 240; CIR 1; TEXT '5';
MRPA 2, 300; CIR 1; TEXT '6';
RES; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド MAP、MRP、MZP

MSTK

メールボックスの選択

(Mail-box STackEr)

書式 MSTK [トレイ番号, トレイ番号, …];

パラメータ トレイ番号 0～15

説明 MSTK コマンドはオプションソータが装着されている場合に、用紙をメールボックスモードで排紙します。メールボックスモードは、パラメータで指定したトレイに用紙を排紙しますが、帳合いを行いません。最初に指定したトレイがいっぱいになると、次に指定したトレイに継続して排紙します。

指定したトレイがすべていっぱいになると、それ以後の用紙をバルクトレイに排紙します。バルクトレイがいっぱいになった場合は、印刷は停止します。用紙を取り除くと印刷は再開します。

パラメータのトレイ番号を省略すると、バルクトレイをのぞくすべてのトレイに順番に排紙します。パラメータ 0 は、用紙をバルクトレイに排紙します。

MSTK コマンドは自動的に改ページを行います。

MSTK コマンドは、プリントシステムにソータが装着されていない場合は無視されます。

例 !R! RES; MSTK; COPY 2; EXIT;
PAGE 1 (2 copies, tray 15)!R! PAGE; EXIT
PAGE 2 (2 copies, tray 15)!R! PAGE; EXIT

関連コマンド SSTK、CSTK

MTYP メディアタイプの選択

(select Media TYPE)

書式 MTYP メディアタイプ;

パラメータ 用紙の種類

1	普通紙
2	OHP シート
3	プレプリント
4	ラベル
5	ボンド
6	再生紙
7	薄紙
8	ザラ紙
9	レターヘッド
10	カラー
11	穴あき用紙
12	フウトウ
13	はがき
14	ツヤ紙
15	裏紙
16	厚紙
17	上質紙
21	カスタム 1
22	カスタム 2
23	カスタム 3
24	カスタム 4
25	カスタム 5
26	カスタム 6
27	カスタム 7
28	カスタム 8
99	メディアタイプ指定なし

説明 MTYP コマンドは、指定したメディアタイプ(用紙種類)をプリントシステムに送信します。メディアタイプと用紙サイズ (SPSZ) の両パラメータが送信されることによって、プリントシステムの持つ全給紙元の中から、これらが一致する用紙を持つ給紙元が自動選択され、印刷が行われます。

MTYP コマンドを使用するには、プリントシステムを給紙選択モードを自動切替えモードにする必要があります。次のコマンドをプリントシステムに送ってください。(給紙制御の詳細に関しては、PSRC コマンドを参照してください。)

!R! PSRC 100; EXIT;

メディアタイプと用紙サイズの一致する用紙が複数の給紙元に存在する場合は、1つの給紙元の用紙がなくなった後で次の給紙元から自動的に給紙されます。

プリントシステムはメディアタイプを受信すると、あらかじめそのメディアタイプに設定された (MDAT) 転写 / 分離制御、定着温度、両面印字許可の3つのパラメータをエンジンに設定して、印字の最適化を行います。

各給紙元には、デフォルトで普通紙がメディアタイプとして設定されています。給紙元のメディアタイプの変更を行うには、FRPO X0-X7 コマンドを使用します。たとえば、用紙サイズが A4 であるカセット 1 のメディアタイプを普通紙に設定するには、次のコマンドを使用します。

```
FRPO X1, 1; CMNT カセット 1 のメディアタイプを普通紙に設定;  
MTYP 1; SPSZ 8; CMNT カセット 1 から給紙;
```

例

MP トレイから A4 のラベル紙を自動給紙する例。

```
!R! RES; PSRC 100;  
FRPO X0, 4;  
SPSZ 8; MTYP 4;  
RES; EXIT;
```

MZP

ゼロ点からのカーソル移動

(Move to Zero-relative Position)

書式 MZP x 座標, y 座標;

パラメータ
 x 座標 印刷領域の左端からの距離
 y 座標 印刷領域の上端からの距離

説明 MZP コマンド、は UNIT コマンドで指定した単位により、印刷領域の左上端からの距離で指定した位置にカーソルを移動します。

座標値は正の数で指定します。

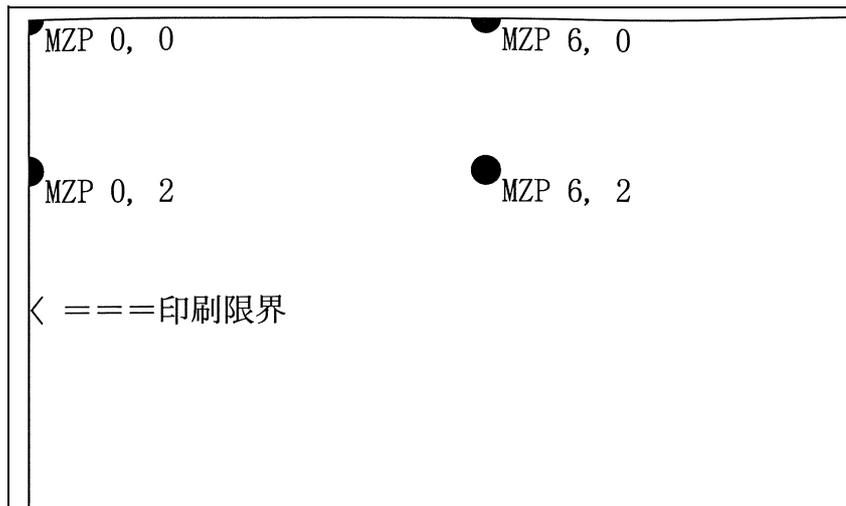
MZP コマンドはパスの中では無効です。パスモード時は、PMZP コマンドを使用します。

例

```

!R! RES; UNIT C;
TPRS 1;
CSET 19K;
MZP 0, 0; BOX 40, 40; SPD .2;
MZP 0, 4; TEXT '< ===印刷限界';
MZP 0, 0; CIR .1; TEXT, L; TEXT ' MZP 0, 0';
MZP 6, 0; CIR .1; TEXT, L; TEXT ' MZP 6, 0';
MZP 0, 2; CIR .1; TEXT, L; TEXT ' MZP 0, 2';
MZP 6, 2; CIR .1; TEXT, L; TEXT ' MZP 6, 2';
RES; EXIT;
    
```

印刷結果



関連コマンド MAP、MRP、MRPA

NEWP

パスの開始

(start a NEW Path)

書式

NEWP;

説明

NEWP コマンドは、パスの作成を開始します。パスは CLSP コマンドまたは STRK コマンド、FILL コマンドで終了します。

例

```
IR! RES; UNIT C;  
NEWP;  
PMZP 5, 5;  
PDRP 1, -2, 3, 0, -1, 2, -3, 0;  
STRK; CMNT パスをストローク;  
NEWP;  
PMZP 10, 5;  
PDRP 1, -2, 3, 0, -1, 2, -3, 0;  
GPAT 0.5; FILL; CMNT パスを塗りつぶす;  
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

CLSP、FILL、STRK

OTRY

排紙トレイの選択

(select Output TRaY)

書式

OTRY トレイ;

パラメータ

トレイ	1	本体フェイスダウントレイ
	2	本体フェイスアップトレイ / フィニッシャメイントレイ・フェイスアップ出力
	3	フィニッシャメイントレイ・フェイスダウン出力
	4	フィニッシャサブトレイ・フェイスアップ出力
	5	ジョブセパレーター 1・フェイスダウン出力
	6	フィニッシャサブトレイ 2・フェイスアップ出力
	7	フィニッシャサブトレイ 1・フェイスダウン出力
	9	フィニッシャサブトレイ 2・フェイスダウン出力
	11	マルチトレイ 1・フェイスダウン出力
	12	マルチトレイ 1・フェイスアップ出力
	15	ジョブセパレーター 2・フェイスダウン出力
	21	マルチトレイ 2・フェイスダウン出力
	22	マルチトレイ 2・フェイスアップ出力
	31	マルチトレイ 3・フェイスダウン出力
	32	マルチトレイ 3・フェイスアップ出力
	41	マルチトレイ 4・フェイスダウン出力
	42	マルチトレイ 4・フェイスアップ出力
	51	マルチトレイ 5・フェイスダウン出力
	52	マルチトレイ 5・フェイスアップ出力
	61	マルチトレイ 6・フェイスダウン出力
	62	マルチトレイ 6・フェイスアップ出力
	71	マルチトレイ 7・フェイスダウン出力
	72	マルチトレイ 7・フェイスアップ出力

説明

OTRY コマンドは、印刷された用紙を選択された排紙トレイに排紙します。選択された排紙トレイは、あらたに OTRY コマンドで排紙先を変更するまで有効です。

OTRY コマンドは、マルチトレイを持つフィニッシャで、各マルチトレイにおいてフェイスダウンまたはフェイスアップの指定を可能にするためのコマンドです。

パラメータ 2 は、フィニッシャ装着時にはフィニッシャのメイントレイへのフェイスアップ出力を指定します。

排紙トレイの選択は、STAK コマンドでも可能です。STAK コマンドは過去互換のために設けられており、マルチトレイを出力先として指定する場合は、マルチトレイ全体（メールボックス）を、フェイスダウンまたはフェイスアップ

に切り替えます。詳しくは、313 ページの STAK コマンドを参照してください。

例

```
IR! OTRY 2; EXIT;
```

第 1 ページは、フェイスアップ・トレイに排紙されます。

```
IR! OTRY 1; EXIT;
```

第 2 ページは、フェイスダウン・トレイに排紙されます。

```
IR! RES; EXIT;
```

印刷結果

第 1 ページは、フェイスアップ・トレイに排紙されます。

第 2 ページは、フェイスダウン・トレイに排紙されます。

PAGE 改ページの実行

(start new PAGE)

書式

PAGE;

説明

PAGE コマンドは改ページを実行します。改ページ以降のデータは、次ページに印刷されます。

PAGE コマンドが実行されるページに印刷すべきデータがない場合は、PAGE コマンドは無視され、改ページは行われません。

例

```
!R! RES; SKFT 'DFHSMINCHO-W3';  
      TPRS 1; CSET 19K; SLM 0.5;
```

EXIT, E;

日本恐竜博物館コレクション

恐竜研究の世界的権威で、日本恐竜博物館の館長をつとめる小野瀬祐夫氏が発掘した化石の恐竜の卵やカモノハシ竜などを展示します。恐竜の子育てというユニークなテーマで、恐竜の社会生活を復元します。

```
!R! PAGE; EXIT;
```

《入場料》大人 3000 円・その他 500 円

《会期》9 月 6 日から 10 月 21 日

《会場》目黒区博物館

```
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

《入場料》大人3000円・その他500円
《会期》9月6日から10月21日
《会場》目黒区博物館

日本恐竜博物館コレクション
恐竜研究の世界的権威で、日本恐竜博物館の館
掘した化石の恐竜の卵やカモノハシ竜などを展
ユニークなテーマで、恐竜の社会生活を復元し

PANT

COLOR

パントンカラーパレットの作成

(create PANTone color palette)

書式

PANT パントン番号または'パントンカラー名';

パラメータ

パントンカラー番号 100 ~ 5999 の整数、PANTONE COLOR MATCHING SYSTEM に準じる

パントンカラー名 PANTONE COLOR MATCHING SYSTEM のカラー中、名前で表される下記の 45 色

Processs Yellow
 Process Magenta
 Process Cyan
 Process Black
 Process Blue
 Red 032
 Warm RedRubine
 Red
 Rhodamine Red
 Blue 072Reflex
 Blue
 Orange 021
 Yellow
 Green
 Purple
 Violet
 Black
 Black 2
 Black 3
 Black 4
 Black 5
 Black 6
 Black 7
 Warm Gray 1
 Warm Gray 2
 Warm Gray 3
 Warm Gray 4
 Warm Gray 5
 Warm Gray 6
 Warm Gray 7
 Warm Gray 8
 Warm Gray 9
 Warm Gray 10
 Cool Gray 11
 Cool Gray 1

Cool Gray 2
 Cool Gray 3
 Cool Gray 4
 Cool Gray 5
 Cool Gray 6
 Cool Gray 7
 Cool Gray 8
 Cool Gray 9
 Cool Gray 10
 Cool Gray 11

説明

PANT コマンドは、PANTONE 社のアンコーテッドカラーを、番号または名前で指定し、パレットを作成します。(パントンカラーの詳細については、<http://www.pantone.com> を参照することをおすすめします。)

パントンカラーには Coated および Uncoated の区別のために、番号や名前の後に 100 C や Process Yellow C などのように記号が付きますが、PANT コマンドには不要です。これらの記号をつけると、PANT コマンドは無効となります。パントン番号の範囲内であっても、指定した番号に色が存在しないときは黒色が指定されます。

名前によるパントンカラーの指定を行う場合は、上に示す 45 色が可能です。名前の場合は、その文字列を引用符 (') または (") で囲みます。文字列は大文字または小文字のどちらで記述してもかまいませんが、スペースの有無は上の表で示すとおりに入力してください。存在しない名前を指定した場合、このコマンドは無視されます。

パントンカラーを指定する場合は、RGB 色空間によるパレットを作成し、指定された色番号の色をパレット上に指定して、その色を選択します。色は常にインデックス番号 0 に指定します。

新たなパレットが作成されない限り、このパレットは有効です。PANT コマンドで作成した色は、SCOL 0; で選択します。このパレットに色の追加または変更を行うことが可能です。ただし、インデックス番号 0 に色を指定すると、PANT コマンドで作成した色は無効になります。

PANT コマンドを複数回発行した場合、最後に発行したコマンドの色が有効となります。それ以前に発行したコマンドの色は全て削除されます。

パレット ID 番号は、現在アクティブである番号のまま変更されません。

KPDL エミュレーションでは、PANT コマンドは使用できません。

例

```
!R! PANT 'Warm RedRubine'; SCOL 0; EXIT;
```

PARC

PATH

円弧パスを追加

(in Path, draw ARC)

書式

PARC x 座標、y 座標、半径、開始角度、終了角度；

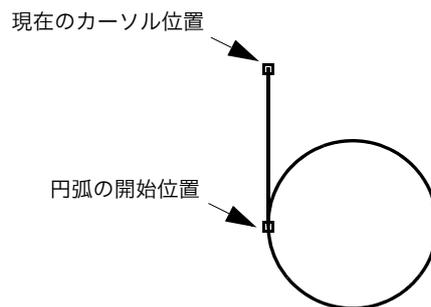
パラメータ

x 座標 /y 座標	左上端から測る円弧の中心
半径	円弧の半径
開始角度	正の x 軸から反時計回りに測る開始角度
終了角度	正の x 軸から反時計回りに測る終了角度

説明

PARC コマンドは、現在のパスに円弧を追加します。座標と半径は、UNIT コマンドで指定する単位にしたがいます。開始角度と終了角度は、正の x 軸から反時計回りに測定します。

現在のカーソル位置と円弧の始点が異なる場合、現在の開始位置と円弧の始点は直線で自動的に接続されます。円弧のみを描くには、PMRA コマンドを使用して、カーソルを円弧の始点に移動させておきます。



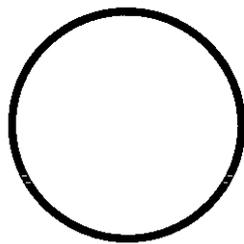
円弧は、開始角度から終了角度まで反時計回りに描画されます。カーソルは円弧の終了角度にとどまります。

PARC コマンドはパスモードでのみ有効です。通常のグラフィクスモードで円弧を描くには、ARC コマンドを使用します。

例

```
IR! RES; UNIT C;
NEWP; SPD 0.1;
PMZP 5.0, 10.0;
PARC 6.5, 12.5, 1.5, 180, 270; CMNT 最初の円弧;
STRK;
NEWP;
PMRA 6.5, 18, 1.5, 0;
PARC 6.5, 18, 1.5, 0, 360; CMNT 2番目の円弧;
STRK;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



PAT

網掛けパターンの選択

(select PATtern)

書式

PAT パターン番号 ;

パラメータ

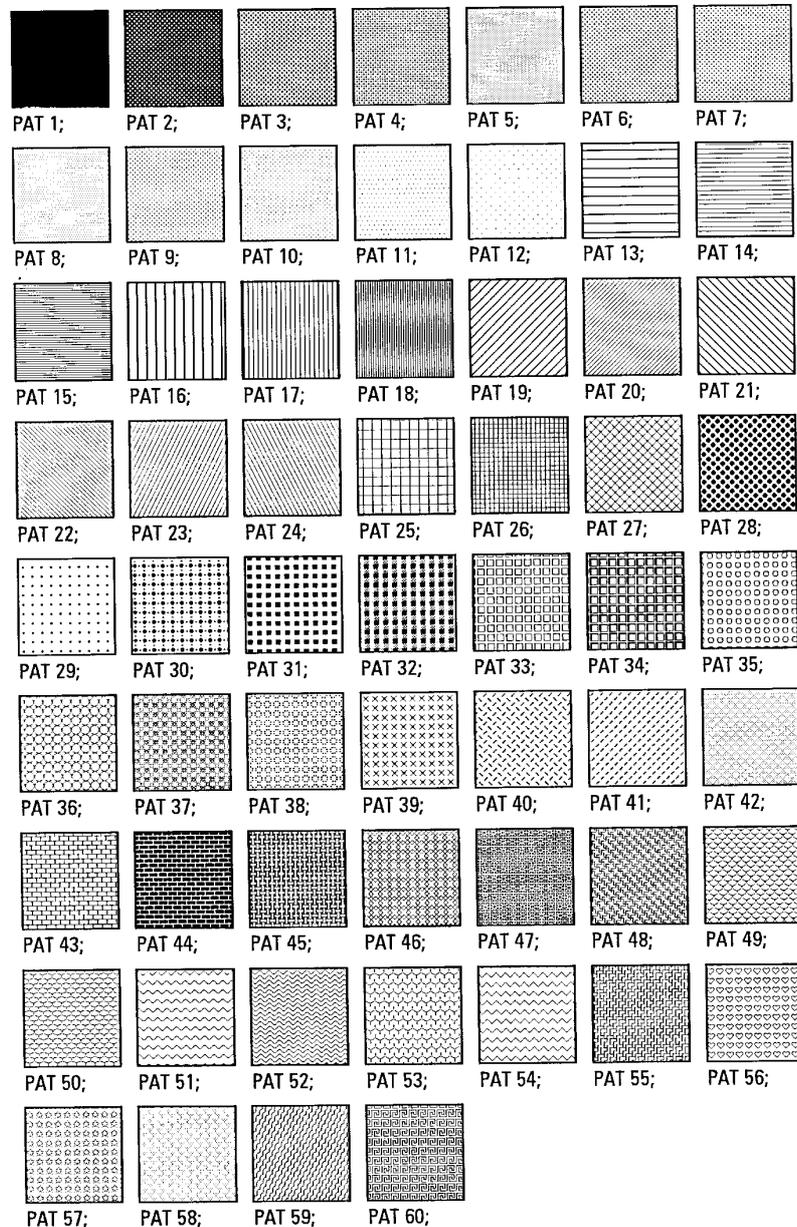
パターン番号

1 ~ 60 または 100 ~ 105 の整数

説明

PAT コマンドは、四角形や円弧を塗りつぶす網掛けパターンを選びます。プリントシステムには、あらかじめ 1 ~ 60 のパターンが内蔵されています。

図 20 内蔵塗りつぶしパターン (1 ~ 60)

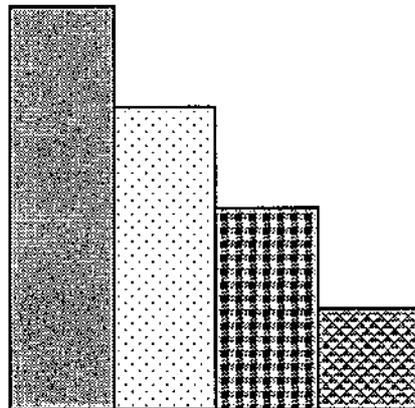


パターン番号 100 ~ 105 には、XPAT コマンドを使用してユーザが独自のパターンを登録できます。ユーザ登録が行われていない番号を指定すると、PAT 1 が黙示的に選ばれます。

例

```
!R! RES; UNIT C; MAP 5, 5;  
PAT 5; BOX 1, -4; BLK 1, -4, H;  
PAT 12; BOX 1, -3; BLK 1, -3, H;  
PAT 32; BOX 1, -2; BLK 1, -2, H;  
PAT 42; BOX 1, -1; BLK 1, -1;  
RES; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

FPAT、XPAT

PCRP

PATH

曲線パスを相対的な位置に追加

(in Path, Curve to Relative Position)

書式

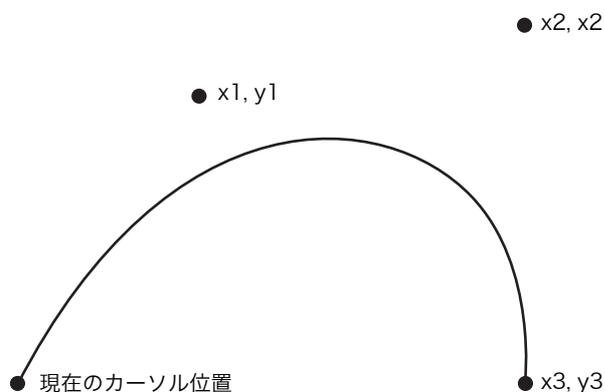
PCRP x1, y1, x2, y2, x3, y3;

パラメータ

x1, y1 現在のカーソル位置から測った最初の制御点の座標
 x2, y2 現在のカーソル位置から測った 2 番目の制御点の座標
 x3, y3 現在のカーソル位置から測った終了点の座標

説明

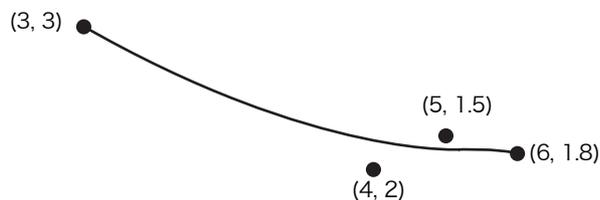
PCRP コマンドは、ベジェ曲線セグメントをパスに追加します。曲線は現在のカーソル位置から開始し、2つの制御点(x1, y1)と(x2, y2)によって制御され、(x3, y3)で終了します。



例

```
IRI RES; UNIT C;
NEWP;
SPD .1;
PMZP 3, 3;
PCRP 4, 2, 5, 1.5, 6, 1.8;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果

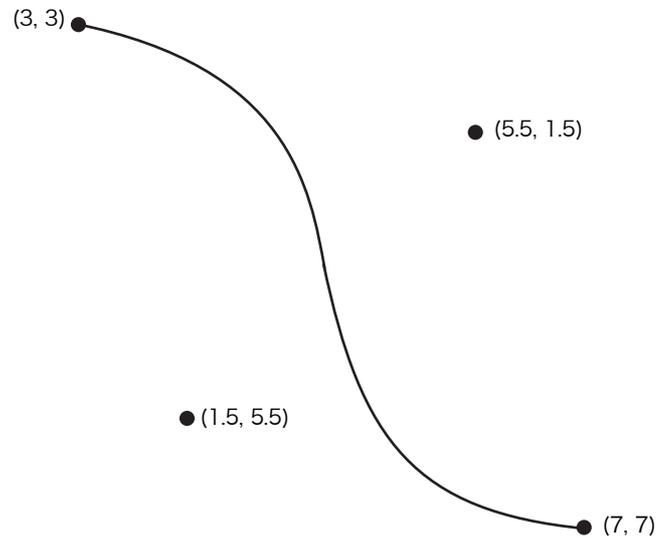


例

```
IRI RES; UNIT C;
NEWP;
SPD .1;
PMZP 3, 3;
PCRP 5.5, 1.5, 1.5, 5.5, 7, 7;
```

STRK;
PAGE;
EXIT;

印刷結果



PCZP

PATH

曲線パス内をゼロ点からの位置に追加

(in Path, Curve to Zero-relative Position)

書式

PCZP X1, y1, x2, y2, x3, y3;

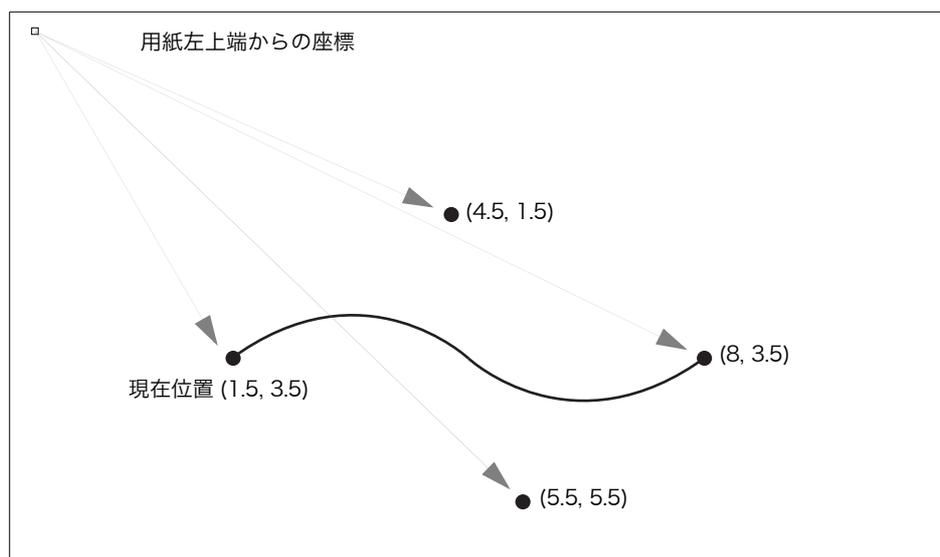
パラメータ

x1, y1 紙の左上端から測った最初の制御点の座標
 x2, y2 紙の左上端から測った2番めの制御点の座標
 x3, y3 紙の左上端から測った終了点の座標

説明

PCZP コマンドは、ベジェ曲線セグメントをパスに追加します。現在のカーソル位置から開始し、紙の左上端から測る座標 (x1, y1) と座標 (x2, y2) によって制御され、(x3, y3) で終了します。

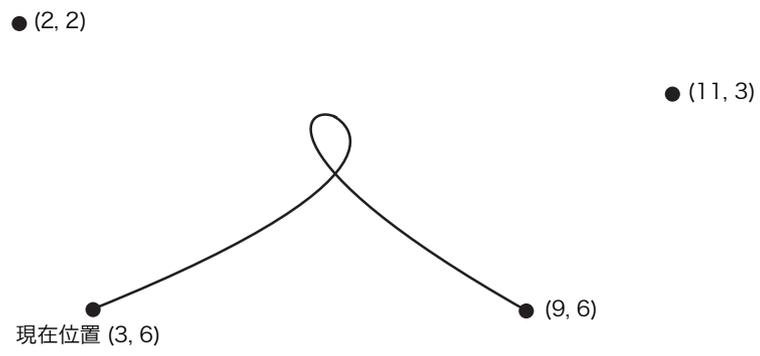
```
PMZP 1.5, 3.5;
PCZP 4.5, 1.5, 5.5, 5.5, 8, 3.5;
```



例

```
!RI RES; UNIT C;
PMZP 3, 6;
PCZP 11, 3, 2, 2, 9, 6;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



PDIR

論理ページ方向の設定

(set Print DIRection)

書式

PDIR 方向;

パラメータ

方向	反時計回りに 90 度ずつの角度で指定
0	ポートレート (縦置き)
90	ランドスケープ (横置き)
180	ポートレート (縦置き) の逆
270	ランドスケープ (横置き) の逆

説明

PDIR コマンドは、論理ページの座標を回転することで方向を設定します。現在のページの縦横 (オリエンテーション) には影響ありません。

論理ページの座標系を変換すると、図 182 ページの図 21 に示すようにマージンは同じ印刷可能領域を保つように自動的に設定されます。カーソルの現在位置は、直前の印刷方向での座標と同じ値を保ちます。方向、行間隔、および現在のフォントの文字間隔は、新しい印刷方向に影響されます。ラスタ・グラフィックスとパターン・グラフィックスも新しい印刷方向に影響されます。

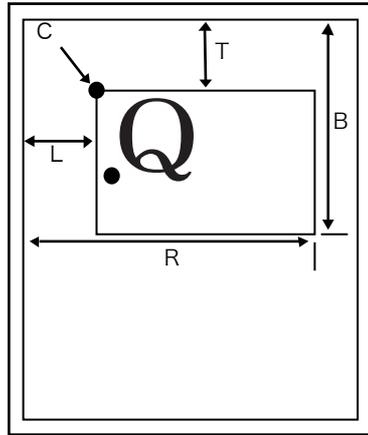
異なるページ方向でテキストを印刷する場合は、アウトラインフォントを使用します。PDIR コマンドは、現在のページ方向上の論理ページの座標を回転するだけで、現在のページ方向には影響がありません。ビットマップフォントはフォントモード (FTMD) にしたため、現在のページ方向に従ってテキスト方向も変更されます。

PDIR コマンドは改ページを行いません。次のページの印刷例のように、同一ページ上で、異なる方向でテキストを印刷できます。

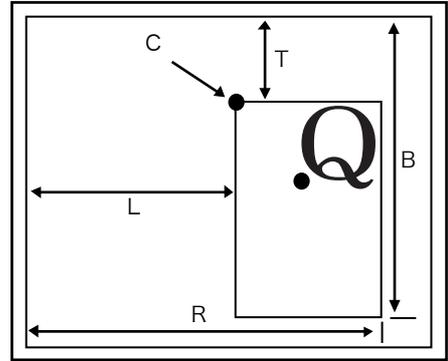
図 21 論理ページの方法

C= 現在位置
 T= 上マージン
 B= 下マージン
 L= 左マージン
 R= 右マージン

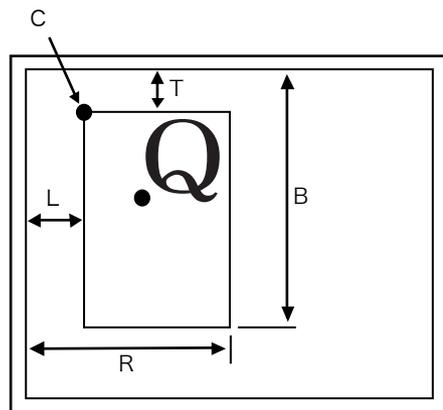
縦置き (PDIR 0;)



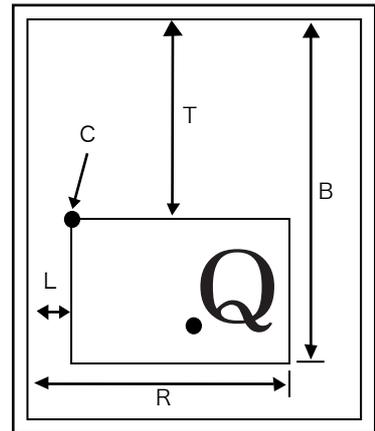
横置き (PDIR 90;)



横置きの逆 (PDIR 270;)



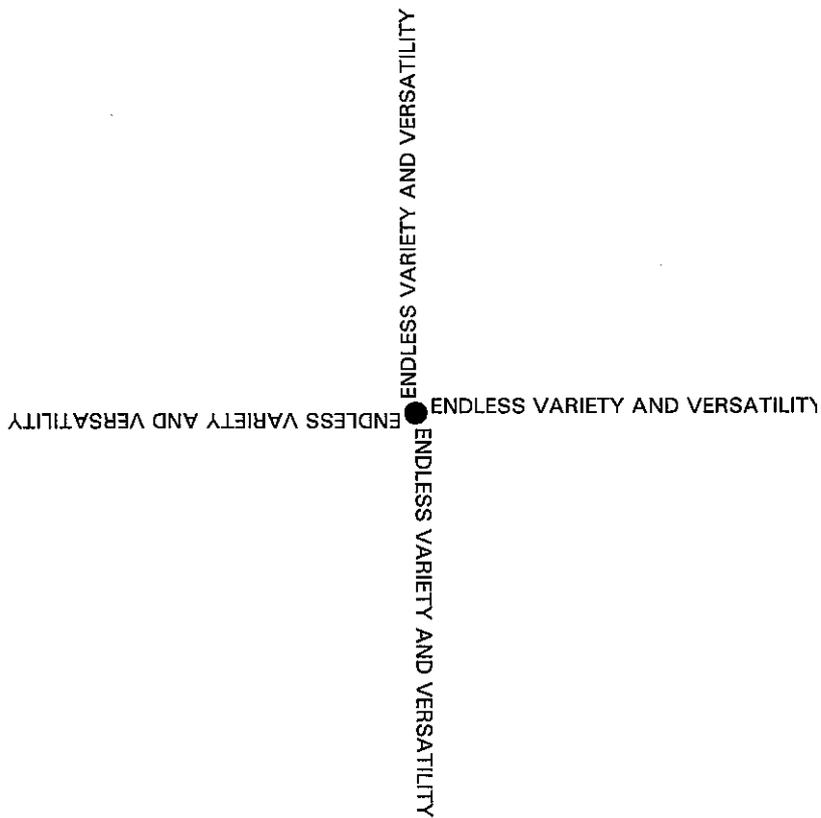
縦置きの逆 (PDIR 180;)



例

```
!R! RES;
UNIT P; SFNT 'Univers-Md', 8;
UNIT C; MZP 10, 12; SPD 0.144; CIR 0.075;
PDIR 270; TEXT ' ENDLESS VARIETY AND VERSATILITY';
PDIR 180; TEXT ' ENDLESS VARIETY AND VERSATILITY';
PDIR 90; TEXT ' ENDLESS VARIETY AND VERSATILITY';
PDIR 0; TEXT ' ENDLESS VARIETY AND VERSATILITY';
PAGE;
EXIT;
```

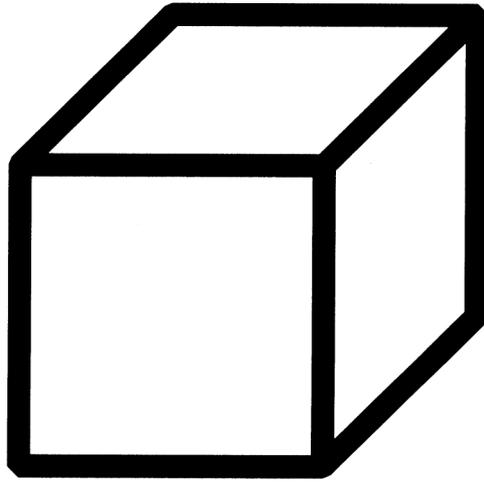
印刷結果



PDRP 線分パスを相対位置に追加 (in Path, Draw to Relative Position)

書式	PDRP x 座標, y 座標;
パラメータ	x 座標 /y 座標現在のカーソル位置から測った座標
説明	<p>PDRP コマンドは、現在のカーソル位置から指定した位置まで、UNIT コマンドで指定した単位による相対座標で線分パスを追加します。</p> <p>カーソルは指定の座標に移動します。座標は正でも負でもかまいません。線の太さは、SPD コマンドで指定します。</p> <p>パラメータは、PDRP 1, 2, 3, 4; のように、複数同時に指定できます。これは、PDRP 1, 2; PDRP 3, 4; と同じです。</p> <p>PDRP コマンドはパス内でのみ有効です。パスモード以外では DRP コマンドを使用します。</p>
例	<pre>!R! UNIT C; SPD 0.3; CMNT Cube; NEWP; SLJN 2; PMZP 5, 7; PDRP 4, 0, 2, -2, 0, -4, -4, 0, -2, 2, 0, 4; CLSP; PMRP 4, 0; PDRP 0, -4, -4, 0, 4, 0, 2, -2; STRK; PAGE; EXIT;</pre>

印刷結果



関連コマンド

PDZP

PDZP

線分パス内をゼロ点からの位置に追加

(in Path, Draw to Zero-relative Position)

書式

PDZP x, y;

パラメータ

x 印刷領域の左端からの座標
y 印刷領域の上端からの座標

説明

PDZP コマンドは、現在のカーソル位置から指定した位置まで、UNIT コマンドで指定した単位により、ページの印字可能領域の左上端からの座標で線分パスを追加します。

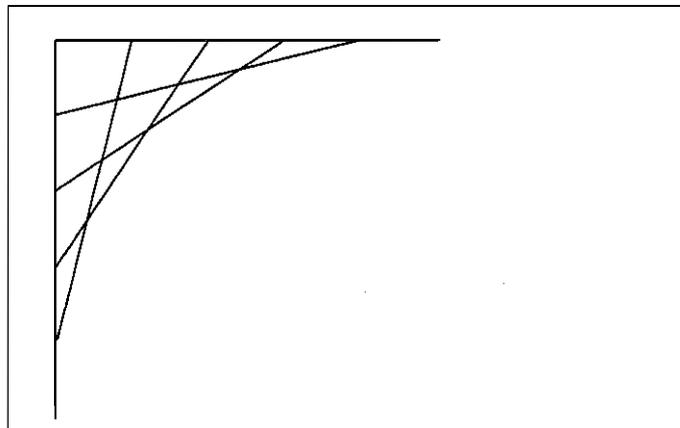
カーソルは指定の座標に移動します。座標は正でも負でもかまいません。負の座標は、現在のページの外側に論理的に描画します。線の太さは、SPD コマンドで指定します。

PDZP コマンドはパス内でのみ有効です。ベクトルモードでは、DZP コマンドを使用します。

例

```
!R! RES; UNIT C;
NEWP;
PMZP 0, 0; PDZP 0, 5;
PMZP 1, 0; PDZP 0, 4;
PMZP 2, 0; PDZP 0, 3;
PMZP 3, 0; PDZP 0, 2;
PMZP 4, 0; PDZP 0, 1;
PMZP 5, 0; PDZP 0, 0;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

PDRP

PELP

PATH

楕円パスの追加

(in Path, draw ELLipse)

書式

PELP x1, y1 [, x2, y2, x3, y3 [, モード]];

パラメータ

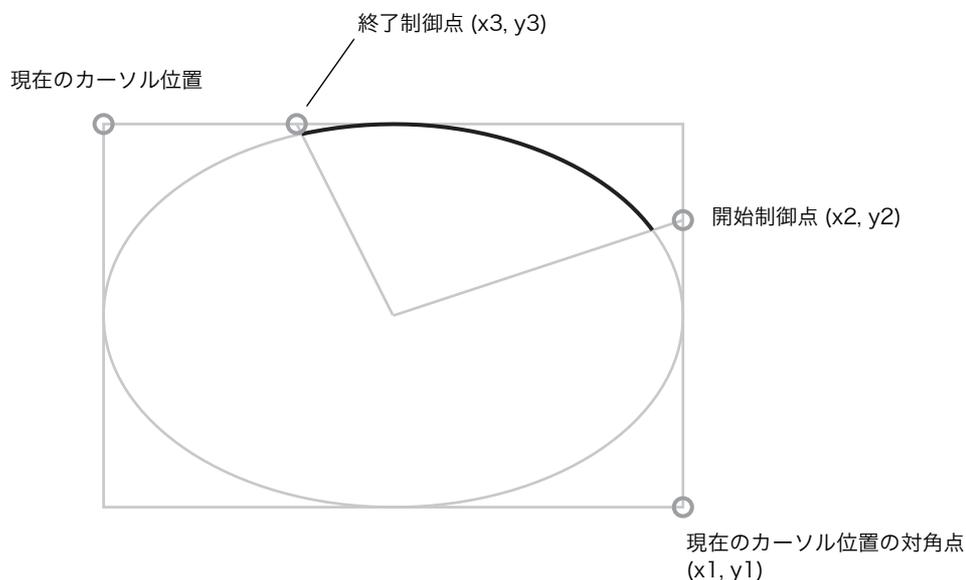
x1, y1 現在位置から楕円の対角点となる x 座標および y 座標
 x2, y2 楕円の開始制御点の現在位置を基準とした x 座標および y 座標
 x3, y3 楕円の終了制御点の現在位置を基準とした x 座標および y 座標
 モード 楕円の種類
 N 楕円
 C 弦
 P パイ

説明

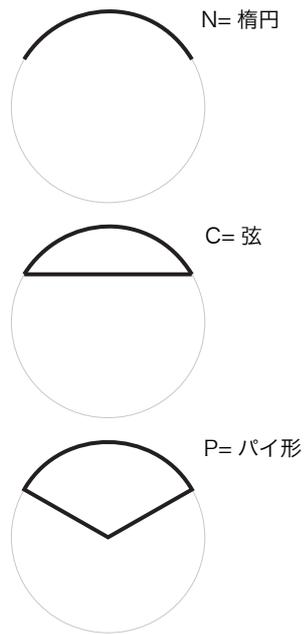
PELP コマンドは、現在のカーソル位置を基点にして対角となる点の相対座標を指定することで、楕円パスを追加します。

開始点(x2, y2)および終了点(x3, y3)を指定すると、円弧またはパイ形を描画することが可能です。いずれも現在位置からの相対座標として指定します。開始点と終了点は、楕円の中心から楕円を包摂する四角形の辺と交わる座標とし、終了点は開始点より反時計方向に指定します。

図 22 楕円パスの概要



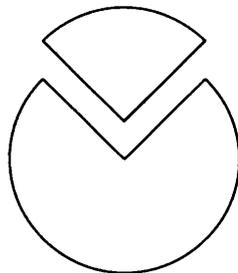
モードパラメータは、楕円の他に弦またはパイ形として描画するときに、それぞれを指定します。モードを省略すると楕円を描画します(Nと同様)。



例

```
!R! RES; UNIT C;  
NEWP;  
PMZP 3.5, 6;  
PELP 3, 3, 2, 1, 1, 1, P;  
STRK;  
NEWP;  
PMZP 3.5, 6.5;  
PELP 3, 3, 1, 1, 2, 1, P;  
STRK;  
RES; EXIT;
```

印刷結果



PIE

円グラフを描く

(draw PIE chart)

書式

PIE 半径, 角度, サイズ, ...;

パラメータ

半径 円グラフの半径
 角度 最初の扇形の起点角度
 サイズ 各扇形の相対的なサイズ

説明

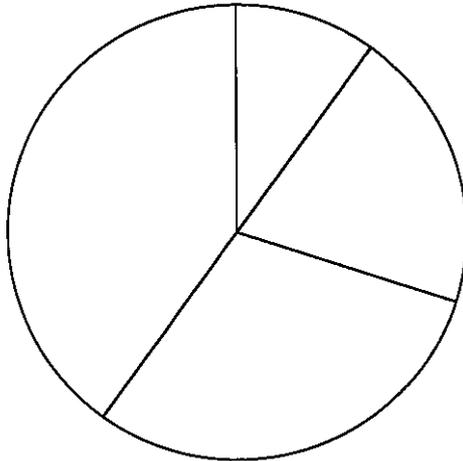
PIE コマンドは、現在のカーソル位置を中心にして円グラフを描きます。円を切り分ける扇形のサイズは、正の整数で相対的に指定します。負の数や小数は、無効となります。サイズは、 360° を 100 とするとわかりやすく便利です。角度で指定した起点角度で最初の扇形が描かれ、順に右回りに扇形が描かれます。

線の太さは SPD コマンドで指定します。

例

```
!R! RES; UNIT C;
MZP 10, 10;
PIE 3, 0, 10, 20, 30, 40;
RES; EXIT;
```

印刷結果



PMRA

PATH

角度による相対位置へのカーソル移動 (パスモード)

(in Path, Move to Relative position specified by Angle)

書式

PMRA x, y, 距離, 角度;

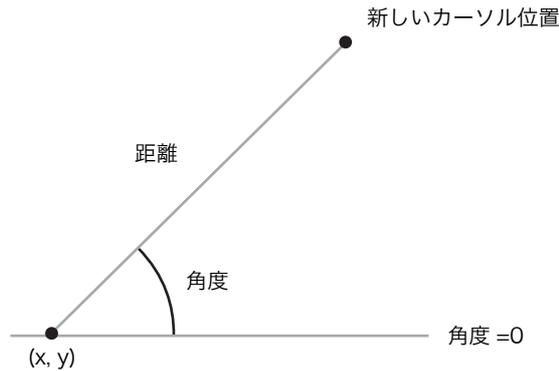
パラメータ

x, y ページの左上端からの座標
 距離 移動距離
 角度 正の x 軸から反時計回りの角度

説明

PMRA コマンドは、指定した座標から距離と角度によって、カーソルをパス内で移動させます。x 座標と y 座標には、ページの左上端からの距離を使用します。

座標と距離には、UNIT コマンドで指定した単位を使用します。角度は、正の x 軸から反時計回りに測定されます。



例

```
!R! RES; UNIT C; SPD 0.2;
NEWP;
PMRA 10, 19, 5, 45;
PARC 10, 19, 5, 45, 135;
STRK;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



PMRP

PATH

相対位置へのカーソル移動 (パスモード)

(in Path, Move to Relative Position)

書式

PMRP x, y;

パラメータ

x, y 相対座標

説明

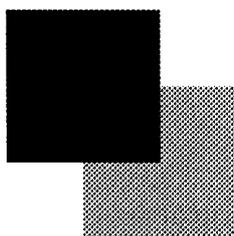
PMRP コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、パス内の指定した座標にカーソルを移動します。移動先の座標は、現在位置を原点とした相対座標で指定します。

このコマンドは、パス内でのみ有効です。

例

```
!R! RES; UNIT C;
  NEWP;
  PMZP 5, 5;
  PDRP 2, 0, 0, 2, -2, 0, 0, -2; GPAT 0.2; FILL 1;
  PMRP 2, 1;
  PDRP 1, 0, 0, 2, -2, 0, 0, -2; GPAT 0.8; FILL 1;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

PMZP

PMZP

PATH

ゼロ点からのカーソル移動 (パスモード)

(in Path, Move to Zero-relative Position)

書式	PMZP x, y;
パラメータ	x 印刷領域の左端からの距離 y 印刷領域の上端からの距離
説明	PMZP コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、パス内の指定した位置にカーソルを移動します。移動先の位置は、印刷領域の左上端を原点とした座標で指定します。 このコマンドは、パス内でのみ有効です。
例	!R! RES; UNIT C; STM 2; SLM 2; TPRS 1; CSET 19K; NEWP; PMZP 0, 0; SPD 0.2; PMZP 0, 4; TEXT '< ===印刷限界'; PMZP 0, 0; PARC 0, 0, 0.1, 0, 360; PMRP 0, 0.333; TEXT ' PMZP 0, 0;'; PMZP 4, 0; PARC 4, 0, 0.1, 0, 360; PMRP 0, 0.333; TEXT ' PMZP 4, 0;'; PMZP 3, 6; PARC 3, 6, 0.1, 0, 360; PMRP 0, 0.333; TEXT ' PMZP 3, 6;'; PMZP 7, 7; PARC 7, 7, 0.1, 0, 360; PMRP 0, 0.333; TEXT ' PMZP 7, 7;'; STRK; PAGE; EXIT;

印刷結果

▣ PMZP 0, 0; ◐ PMZP 4, 0;

<===印刷限界

● PMZP 3, 6;

● PMZP 7, 7;

関連コマンド

PMRP

PNCH

パンチ穴開け

(PuNCH)

書式 PNCH [パンチユニット];

パラメータ

パンチユニット

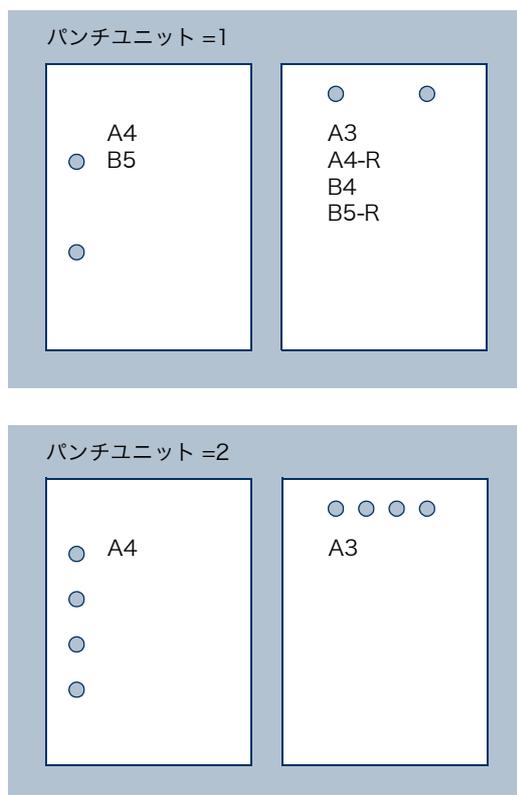
1	メイン
2	サブ
51	メイン、左
52	サブ、左
61	メイン、右
62	サブ、右
71	メイン、上
72	サブ、上

説明 PNCH コマンドは、オプションフィニッシャに出力される用紙にパンチ穴を開けます。排紙先の自動切換えは行なわないため、STAK コマンドで排紙先をオプションフィニッシャに指定しておく必要があります。

パンチ穴開けは、ステイプルなど同様にジョブ単位で実行されます。したがって PNCH コマンドは、JOBS コマンドに続いて使用されます。パンチ穴開け動作は、JOBT または PJJ の UEL などのジョブ終了条件によってクリアされず。

使用するフィニッシャが DF-75 などのメインパンチユニットのみの場合は、開けるパンチ穴の仕様は紙サイズによって自動的に決定されるため、パラメータの指定は不要です。DF-70P などのようにメインおよびサブのパンチユニットを備えたフィニッシャの場合は、パラメータの指定によりメインまたはサブいずれかのパンチ穴を選択することができます。パラメータを省略するとデフォルトのパンチユニットが作動します。

図 23 用紙サイズによりパンチ穴仕様



パンチ穴の仕様に関しては、フィニッシャまたはプリントシステムの使用説明書のパンチ穴に関する項目を参照してください。

無効なパラメータを指定した場合は、コマンドは無効となります。サブパンチユニットがないフィニッシャの場合に、パラメータ 2 を指定した場合も無効です。

例

```
!R! RES;
  SPSZ 8;
  SLM 1;
  TPRS 1; CSET 19K;
  STAK 3;
  PNCH 1;
  JOBS 1, 1, 2, 0, 0;
  TEXT 'このページは、2 穴でパンチされて出力されます。';
  JOBT;
EXIT;
```

PRBX

PATH

角丸ボックスパスを追加

(in Path, draw Round BoX)

書式

PRBX 幅, 高さ, 半径;

パラメータ

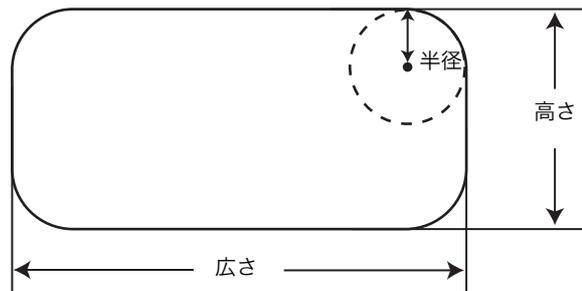
幅 ボックスの幅
高さ ボックスの高さ
半径 角丸の半径

説明

PRBX コマンドは、角丸ボックスをパスに追加します。実際の描画は STRK または FILL で実行されます。

角丸の大きさは、角に内接する円の半径で定義します。

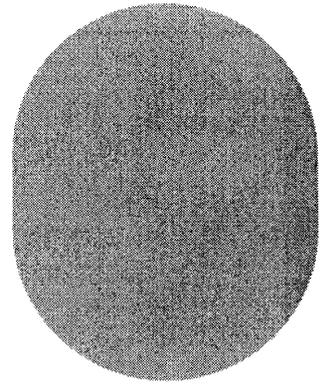
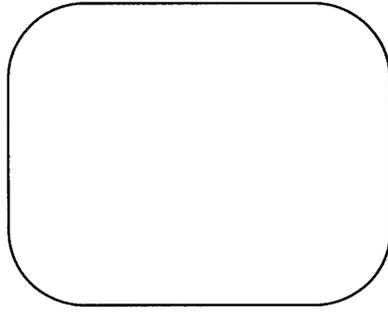
図 24 角丸パスの定義



例

```
!R! RES; UNIT C;
  NEWP;
  PMZP 0.5, 0.5;
  PRBX 5, 4, 1;
  STRK;
  PAT5;
  NEWP;
  PMZP 7, 0.5;
  PRBX 4, 5, 2;
  FILL;
RES; EXIT;
```

印刷結果



PRRC

PATH

円弧パスを相対座標に追加

(in Path, at Relative position, draw aRC)

書式

PRRC x, y, 半径, 開始角度, 終了角度;

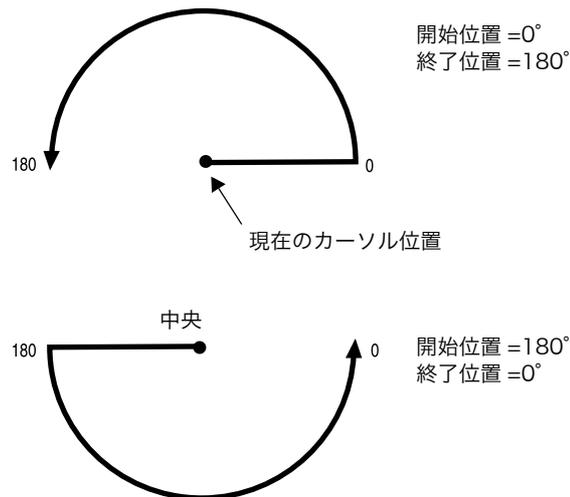
パラメータ

x	円弧の中心点の x 座標
y	円弧の中心点の y 座標
半径	円弧の半径
開始角度	正の x 軸から円弧の開始点までの角度
終了角度	正の x 軸から円弧の終了点までの角度

説明

PRRC コマンドは、円弧をパスに追加します。円弧の中心は現在のカーソル位置となります。円弧の中心から円弧の開始点までは、自動的に線セグメントが追加されます。開始角度および終了角度は、正の x 軸より反時計回りに定義します。

図 25 開始角度と終了角度

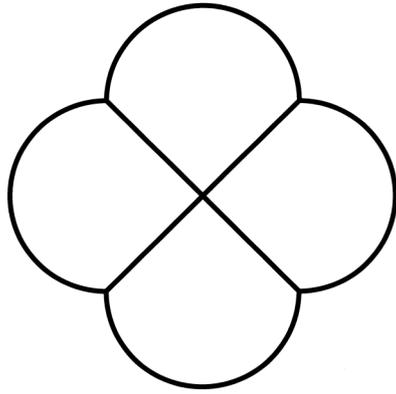


座標位置と半径の単位は UNIT コマンドで定義します。

例

```
!R! RES; SPD 0.05;
MZP 4.5, 5;
NEWP;
PRRC -1, 0, 1, 90, 270;
PRRC 1, -2, 1, 0, 180;
PRRC 2, 1, 1, -90, 90;
PRRC -1, 2, 1, 180, 0;
STRK;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



PSRC

給紙元を選択

(select Paper SouRCe)

書式

PSRC 給紙元;

パラメータ

給紙元

0	MPトレイ
1	1 段目カセット
2	2 段目カセット
3	3 段目カセット
4	4 段目カセット
5	5 段目カセット
6	6 段目カセット
99	EF フィーダまたは UF フィーダ
100	自動 (最上段からサーチ)
101	自動 (カセット 1 からサーチ)
102	自動 (カセット 2 からサーチ)
103	自動 (カセット 3 からサーチ)
104	自動 (カセット 4 からサーチ)
105	自動 (カセット 5 からサーチ)
106	自動 (カセット 6 からサーチ)

説明

PSRC コマンドは、給紙元のカセットを選択します。選択したカセットは、あらたに PSRC コマンドで別のカセットを選択するか、RES コマンドを実行して FRPO R4 の値にもどるまで有効です。

給紙元パラメータが 100 の場合は、ジョブ内の用紙種類設定に従って自動給紙が行われ、SPSZ で指定した紙サイズと MTYP で指定したメディアタイプに一致したカセットから給紙されます。

プリントシステムは PSRC コマンドを受信すると、自動的に改ページします。このコマンドは、ファイルやプログラムの始まりに書いてください。

PXPL

ピクセル配置

(PiXel PLacement)

書式

PXPL 配置 ;

パラメータ

配置

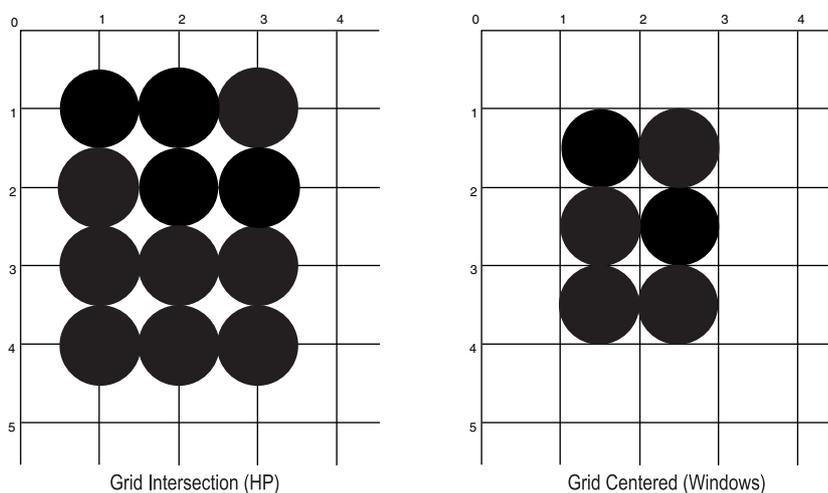
0 PCL (格子交差上)

1 Windows (格子内)

説明

PXPL コマンドは、ベクトルモードでのピクセル配置のモードを切り替えます。配置パラメータが 0 (PCL) では、ピクセルは仮想の格子の交差点上に配置され、1 の場合 (Windows) は、格子の内部に配置されます。

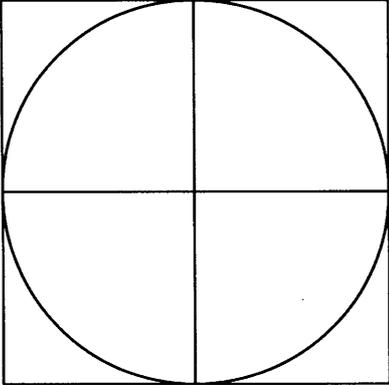
図 26 ピクセル配置モード



初期設定は 0 (PCL) で、RES または FRPO INIT コマンドで、0 に戻ります。

PXPL コマンドによるピクセル配置の選択は、文字列およびラスターイメージに対しては無効です。また、DAP、DRP、DRRP、DZP、BOX、BLK、CIR、ARC および PIE などのベクトルコマンドによる描画に対しても無効です。

!R! プリスクライブモードの起動 (PRESCRIBE start sequence)

書式	!コマンド識別文字!
パラメータ	コマンド識別文字大文字の R
説明	<p>!R! コマンドは、プリスクライブモードを起動します。プリントシステムは、!R! に続くデータをプリスクライブコマンド列として処理します。プリスクライブモードは、EXIT コマンドで終了します。</p> <p>!R! コマンドと直後のコマンドの間には、スペースか改行が必要です。</p> <p>コマンド識別文字は R 以外の文字に変更することができます。SCRC コマンドまたは FRPO P9 コマンドを参照してください。SCRC コマンドで設定したコマンド識別文字は、RES コマンドによって、R または FRPO P9 で登録した文字にもどります。</p>
例	<pre>!R! RES; UNIT C; SLM 2; CSET19K; TPRS 1; EXIT; この行を印刷した後、 プリントシステムは プリスクライブモードとなり、 コマンドを実行します。 !R! BOX 4, 4; BOX 2, 2, E; CIR 2; BOX 2, 2; PAGE; EXIT;</pre>
印刷結果	<p>この行を印刷した後、 プリントシステムは プリスクライブモードとなり、 コマンドを実行します。</p> 
関連コマンド	EXIT、SCRC

RCLT

回転コレート

(sort by Rotated CoLlaTion)

書式

RCLT;

説明

RCLT コマンドは、複数部数の印刷出力時に、1 部ごとを交互に横給紙と縦給紙することによって帳合い(コレート)を行います。ハードディスクまたは RAM ディスクが必要です。このコマンドは、JOBS コマンドによって定義されるジョブに対して有効です。

回転コレートを使用するジョブは、全ページが A4、レター、B5 のうちいずれか 1 種類用の紙サイズに統一されていることが必要です。プリントシステムの給紙カセットには、指定する用紙サイズで縦方向と横方向の 2 カセットに入れておきます。

カセットに指定の用紙がない場合、プリントシステムは印刷を中止して MP トレイから給紙するよう要求します。MP トレイは、カセットモードにしておきます。

RCLT コマンドによる出力の排紙先は、STAK コマンドでフェースダウン (下向き) トレイとします。ブックレット印刷、パンチ穴開け、中綴じなどのオプションが同時に指定されている場合は、RCLT コマンドは無効となります。

例

```
!R! RES;
      CSET 19K; TPRS 1;
      RCLT; STAK 1;
      JOBS 0, 5, 0, 0;
      TEXT "RCLT コマンドによる回転コレート :1 ページ目 "; PAGE;
      TEXT "RCLT コマンドによる回転コレート :2 ページ目 "; PAGE;
      TEXT "RCLT コマンドによる回転コレート :3 ページ目 "; PAGE;
      JOBT;
EXIT;
```

RDMP 受信データのダンプ

(Received-data DuMP)

書式 RDMP;

説明 RDMP コマンドは、プリントシステムから 16 進コードでデータを印刷させます。RDMP コマンドを受信すると、プリントシステムは ENDD コマンドを受け取るか、またはデータがなくなってタイムアウトするまで、全てのデータを 16 進コードで印刷します。

印刷見本

```

1B 25 2D 31 32 33 34 35 58 40 50 4A 4C 20 45 4E      .%-12345X@PJL EN
54 45 52 20 4C 41 4E 47 55 41 47 45 3D 50 43 4C    TER LANGUAGE=PCL
0A 1B 45 1B 26 6C 31 47 1B 26 6C 31 58 1B 26 6C    ..E.&l1G.&l1X.&l
30 53 1B 26 6C 30 6F 32 61 34 64 31 65 34 32 46    0S.&l0o2a4d1e42F
1B 26 6C 31 48 1B 2A 74 33 30 30 52 1B 2A 70 30    .&l1H.*t300R.*p0
59 1B 2A 70 30 58 1B 2A 70 32 33 32 58 1B 2A 70    Y.*p0X.*p232X.*p
2B 33 39 39 59 1B 2A 62 32 4D 1B 2A 72 31 41 1B    +399Y.*b2M.*r1A.
2A 62 31 36 57 00 01 F8 FF 00 E0 F8 00 01 1F F0    *b16W.....
F3 00 01 3F E0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B    ...?..*rB.*p-1Y.
2A 70 31 32 38 38 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 33    *p1288X.*r1A.*b3
57 01 FE 1F 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A    W....*rB.*p-1Y.*
70 31 35 39 32 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 31 36    p1592X.*r1A.*b16
57 00 03 FD FF 00 E0 E1 00 00 07 FD FF 02 E1 FF    W.....
E0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 32 33 32 58 1B 2A 72 31    ..*rB.*p232X.*r1
41 1B 2A 62 32 33 57 00 01 F8 FF 04 E0 7F FF FF    A.*b23W.....
F0 FD 00 03 01 FF FF 80 F5 00 02 03 FF FE 1B 2A    .....*
72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A 70 31 32 38 30 58    rB.*p-1Y.*p1280X
1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 35 57 03 07 FC 7F 80 1B    .*r1A.*b5W.....
2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A 70 31 35 39 32    *rB.*p-1Y.*p1592
58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 32 34 57 00 1F FD FF    X.*r1A.*b24W....
00 E0 EB 00 04 01 FF FF FC 00 00 07 FD FF        .....
02 E1 FF FC 1B 2A 72 42 1B 2A 70 32 33 32 58 1B    .....*rB.*p232X.
2A 72 31 41 1B 2A 62 32 34 57 00 01 F8 FF 04 E0    *r1A.*b24W.....
7F FF FF F0 FD 00 03 03 FF FF C0 F5 00 03 0F FF    .....
FF 80 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A 70 31    ...*rB.*p-1Y.*p1
32 38 30 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 35 57 03 1F    280X.*r1A.*b5W..
FD FF E0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A 70    ....*rB.*p-1Y.*p
31 35 38 34 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 32 34 57    1584X.*r1A.*b24W
00 03 FC FF 00 E0 EB 00 04 01 FF FF FF C0 FC 00    .....
00 07 FD FF 02 E1 FF FF 1B 2A 72 42 1B 2A 70 32    .....*rB.*p2
33 32 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62 32 34 57 00 01    32X.*r1A.*b24W..
F8 FF 04 E0 7F FF FF F0 FD 00 03 07 FF FF F0 F5    .....
00 03 1F FF FF E0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31 59    .....*rB.*p-1Y
1B 2A 70 31 32 38 30 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62    .*p1280X.*r1A.*b
35 57 03 3F F9 FF E0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 2D 31    5W.?....*rB.*p-1
59 1B 2A 70 31 35 38 34 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A    Y.*p1584X.*r1A.*
62 32 35 57 00 0F FC FF 00 E0 EB 00 04 01 FF FF    b25W.....
FF C0 FC 00 00 07 FD FF 03 E1 FF FF C0 1B 2A 72    .....*r
42 1B 2A 70 32 33 32 58 1B 2A 72 31 41 1B 2A 62    B.*p232X.*r1A.*b
32 34 57 00 01 F8 FF 04 E0 7F FF FF F0 FD 00 03    24W.....
0F FF FF F8 F5 00 03 1F FF FF F0 1B 2A 72 42 1B    .....*rB.
2A 70 2D 31 59 1B 2A 70 31 32 38 30 58 1B 2A 72    *p-1Y.*p1280X.*r
31 41 1B 2A 62 35 57 03 FF F9 FF F0 1B 2A 72 42    1A.*b5W.....*rB
1B 2A 70 2D 31 59 1B 2A 70 31 35 38 34 58 1B 2A    .*p-1Y.*p1584X.*
72 31 41 1B 2A 62 32 37 57 06 3F FF FE FF FF FF    r1A.*b27W.?.....
E0 EB 00 04 01 FF FF FF C0 FC 00 00 07 FD FF 03    .....
E1 FF FF F0 1B 2A 72 42 1B 2A 70 32 33 32 58 1B    .....*rB.*p232X.
    
```

関連コマンド ENDD

RES

リセット

(RESet)

書式

RES;

説明

RES コマンドは、プリントシステムの各環境パラメータを、工場出荷時の状態または FRPO コマンドで設定した値に再設定します。

RES コマンドは、次の各項目のリセットや削除は行いません。

- ・ メモリ上のマクロやフォント
- ・ 保存されたカーソル位置 (SCP コマンド)
- ・ 保存されたフォント (SCF コマンド)
- ・ SFA コマンドで保存されたフォントの属性

RES コマンドは、FRPO コマンドで変更した初期値のリセットは行いません。FRPO コマンドで変更した初期値を工場出荷時の初期値にもどすには、FRPO INIT コマンド (108 ページ) を参照してください。

RES コマンドは、自動的に改ページを行います。

表 30 RES 発行後の状態 (1 / 2)

環境	RES 後の状態 (および関連 FPRO パラメータ)		
	日本語エミュレーション	HP LaserJet Series	IBM Proprinter
コマンド識別文字 ^a	R (P9)	←	←
エミュレーションモード ^a	06 (P1)	←	←
単位	インチ	←	←
印刷部数	1	←	←
カセット	1(R4)	←	←
用紙のサイズ	カセットサイズ (R2)	←	←
上マージン	0 ^a	150 dots	0 (A1/2)
左マージン	0 ^a	論理左端	0 (A3/4)
右マージン	最大 ^a	論理右端	最大 (A5/6)
下マージン	最大 ^a	150 dots	最大 (A7/8)
用紙方向	縦置き ^a	縦置き (C5/2/3 に依存)	←
行間隔	6lpi ^b	6lpi (C5/2/3 に依存)	←
文字間隔	10cpi	10cpi (C5/2/3 に依存)	10cpi (U2/3 に依存)
アンダーラインの太さ	4 ドット	←	←
アンダーラインのベースラインからの距離	7 ドット	←	←
初期設定 ANK ビットマップフォント	FONT 1	FONT 1 (C5/2/3)	FONT 8
	FONT99 (IBM5577)		
初期設定 ANK アウトラインフォント	なし	←	←

表 30 RES 発行後の状態 (2 / 2)

環境	RES 後の状態 (および関連 FPRO パラメータ)		
	日本語エミュレーション	HP LaserJet Series	IBM Proprinter
フォント・モード	13	←	0
代替フォントの割り当て	0	なし	
国別コード	エミュレーションに依存	8 (6U) ^a	←
グラフィックの線の太さ	3 ドット	←	←
ラスタ・グラフィック 解像度	75 ドット / インチ	←	←
日本語の書式	横書き	—	—
漢字ビットマップ・ フォント	明朝体 (K4)	—	—
かなビットマップ・ フォント	明朝体 (K5)	—	—
漢字アウトライン・ フォント	なし	—	—
かなアウトライン・ フォント	TypeBankM-M-Kana	—	—
漢字ビットマップ・フォ ントのスペーシング	45 ドット / インチ	—	—
漢字フォントの拡大率	縦横 1 倍	—	—
漢字フォントの アトリビュート	修飾なし	—	—
漢字フォントの サイド・ライン	距離 0 ドット、太さ 4 ド ット	—	—
文字修飾	修飾なし	—	—

a. FPRO コマンドにより変更可能

b. エミュレーションにおけるデフォルト値を採用

例

```

!R! RES; SPO L; UNIT C; SLM 1;
TPRS 1;
CSET 19K;
SKFT 'DFHSMINCHO-W3',14; EXIT;
プリントシステムに以前の
印刷設定が残っていると、
印刷結果が予想したものと
異なることがあります。
RES コマンドを使うことに
よって、解決できます。
!R! RES;
TPRS 1;
CSET 19K;
SKFT 'DFHSMINCHO-W3',14; EXIT;
プリントシステムに以前の
印刷設定が残っていると、
印刷結果が予想したものと
異なることがあります。
RES コマンドを使うことに
よって、解決できます。
!R! RES; EXIT;
    
```

印刷結果

以前の、と
 前にいるもの
 に残っています。
 システムが予想
 設定が予想あり
 プリント結果が
 印字結果が異な
 異なることあり
 RESコマンドを
 よって、解決で
 きます。

以前の、と
 前にいるもの
 に残っています。
 システムが予想
 設定が予想あり
 プリント結果が
 印字結果が異な
 異なることあり
 RESコマンドを
 よって、解決で
 きます。

RESL

印刷解像度

(select RESoLution)

書式

RESL 解像度 ;

パラメータ

印刷解像度
300 300 dpi
600 600 dpi
1200 1200 dpi

説明

RESL コマンドは、印刷解像度を切り替えます。

解像度を変更しても UNIT コマンドで設定された単位には影響しませんが、システムのページ環境（用紙サイズ、ページ方向、クリップ領域）およびメモリ環境は再設定または再構築されます。また、プリントシステムのユーザメモリにダウンロードされている PCL リソース（フォント、マクロ、パターン、シンボルセット）は消去されます。

設定した解像度は、新たな RESL コマンドを受信するまで有効ですが、リセットが伴うコマンド (RES、FRPO および SEM) を受信すると初期値または FRPO N8 で設定した値に戻ります。

600 dpi および 1200 dpi に対応しないエミュレーションでは、それらの解像度には設定はできず、プリントシステムは低い解像度で動作します。

プリントシステムは RESL コマンドを受信すると、現在プリントシステムに残っているデータを強制排紙します。

解像度が 600dpi や 1200dpi の場合、両面印刷を行った場合やページプロテクトモードで VRAM 値が拡大された場合など、メモリが少ない環境では解像度が黙示的に低い解像度に設定されることがあります。

RGBL

COLOR

RGB レベルを調整する

(control RGB Level)

書式

RGBL カラー, レベル;

パラメータ

カラー

0 赤

1 緑

2 青

レベル RGB の調整量、-10 ~ +10

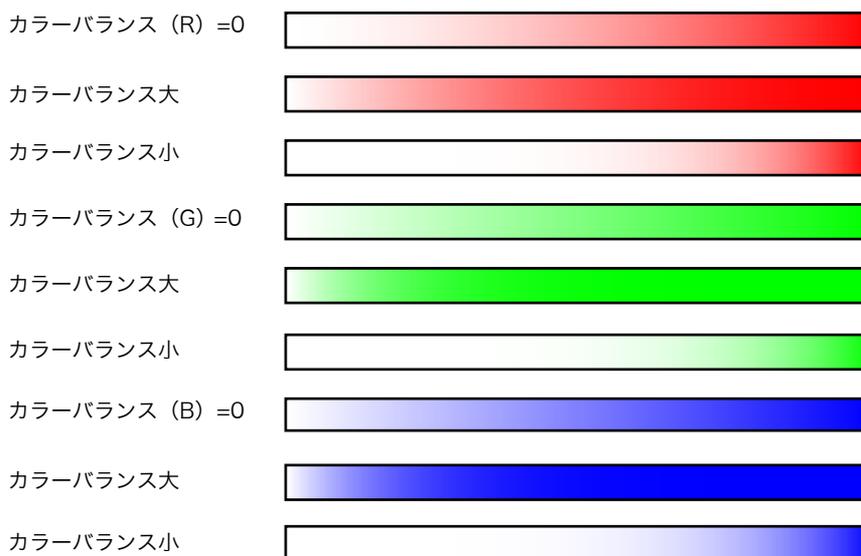
説明

RGBL コマンドは、RGB 各色に対応するガンマのレベルを個別に補正し、RGB 色のバランスを補正します。

RGB レベルの補正の概念を、次のようなカラーバーを用いて説明します。最上段の R カラーバーは、初期状態での彩度変化を表しています。初期状態では、入力値に対する出力結果が線形に保たれていることがわかります。続く 2 本目の R カラーバーは、ガンマカーブで $\gamma > 1.0$ の状態を示し、入力値に対する出力値の増加は鋭くなります。3 本目の R カラーバーは、 $\gamma < 1.0$ の状態で、入力値に対する出力値の増加は鈍くなります。

以下、G カラーバー、B カラーバーも同様にガンマカーブによりそれぞれの色のガンマの増減を示します。

図 27 RGB 調整カラーバー



各色のカラーバランスを変化することで、カラー画像の出力結果を補正することが可能です。

RGBL コマンドは、全てのカラースペース、全てのカラーモード、全てのモニタシミュレーションモードで有効です。インクシミュレーションが NONE 以外に設定されている場合、このコマンドは無効となります。

カラーバランスの調整は、RES コマンドにより初期状態にリセットされます。電源投入時のカラーバランスはデフォルト状態になります。

RGST

オフセット登録

(offset ReGiSTration)

書式	RGST 水平オフセット, 垂直オフセット;				
パラメータ	<table> <tr> <td>水平オフセット</td> <td>物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの水平オフセット値</td> </tr> <tr> <td>垂直オフセット</td> <td>物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの垂直オフセット値</td> </tr> </table>	水平オフセット	物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの水平オフセット値	垂直オフセット	物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの垂直オフセット値
水平オフセット	物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの水平オフセット値				
垂直オフセット	物理的な給紙方向に対する絶対座標 (0, 0) からの垂直オフセット値				
説明	<p>RGST コマンドは、指定された値に応じて水平および垂直方向に座標原点を移動します。単位は UNIT コマンドにしたがい、正または負の値も有効です。</p> <p>現在の印刷可能領域とオフセットによってあらたに登録された印刷可能領域の交点が、有効な印刷可能領域となります。</p> <p>このコマンドは改ページを行いません。このコマンドにより設定されたオフセット値は、PCL エミュレーションモードでも有効です。RGST コマンドは PCL の $\langle \text{Esc} \rangle \&\#U$, $\langle \text{Esc} \rangle \&\#z$ と互換であり、オフセット値はソフトウェアリセット ($\langle \text{Esc} \rangle E$) によってのみクリア可能です。すなわち、エミュレーションが PCL の場合にのみ、RES コマンドまたは FRPO INIT コマンドによってクリアされます。</p> <p>上記以外のコマンド書式が使用された場合はエラーとなり、コマンドは無視されます。指定された水平オフセットまたは垂直オフセットの値が用紙サイズの物理的な長さを超える場合はエラーとなり、値は無視されます。</p>				

RPCS

保存したコードセットへの復帰

(Return to Previous Code Set)

書式

RPCS;

説明

RPCS コマンドは、SCCS コマンドによって保存されたコードセットを復帰させます。複数のコードセットが、複数の SCCS コマンドの実行によってネスティング保存されている場合は、各 SCCS コマンドによって保存された順番とは逆の順番でコードセットが復帰されます。

RPF

保存したフォントへの復帰

(Return to Previous Font)

書式

RPF;

説明

RPF コマンドは、SCF コマンドによって保存されたフォントを復帰させます。複数のフォントが、複数の SCF コマンドの実行によってネスティング保存されている場合は、各 SCF コマンドによって保存された順番とは逆の順番でフォントが復帰されます。

例

```
!R! RES;  
    MCRO ITALIC;  
    SCF;  
    SFNT 'ITCAvantGardeGothic-DmOb' ,14; TEXT %1, E;  
    RPF; ENDM;  
    SFNT 'ITCAvantGardeGothic-Dm' ;14; EXIT;  
    Certainly the most frequently discussed items about an  
    office network printer are !R! CALL ITALIC, 'economy' ;  
    EXIT; and !R! CALL ITALIC, 'ease of operation' ; EXIT; .  
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

**Certainly the most frequently discussed items about an
office network printer are *economy* and *ease of operation* .**

関連コマンド

SCF

RPG

直前のグラフィック状態に戻る

(Return to Previous Graphics state)

書式

RPG;

説明

RPG コマンドは、SCG コマンドで保存されたグラフィック環境を復帰させます。SCG コマンドで保存される環境は次のとおりです。各環境に関しては、カッコ内の関連コマンドの説明を参照してください。

- ・ パスとカーソル位置
- ・ ペン直径 (SPD)
- ・ 線結合タイプ (SLJN)
- ・ 線終端タイプ (SCAP)
- ・ マイター限界 (SMLT)
- ・ 破線パターン (SDP)
- ・ 平坦さ (FLAT)
- ・ 塗りつぶしパターン (XPAT)
- ・ クリップ矩形 (CLIP)
- ・ ラスタ解像度 (STR)
- ・ イメージモデル (SIMG)

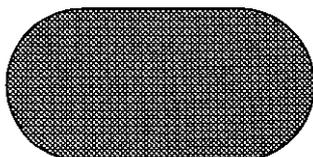
RPG コマンドは、パスをストローク (STRK) した後で同じパスを塗りつぶす (FILL) 場合などに便利です。次の例を参照してください。

RPG コマンドは、ページの方向、長さの単位などの環境には影響しません。

例

```
!R! RES; UNIT C;
    NEWP;
    PMZP 4, 2;
    PARC 3, 3,1, 90, 270;
    PARC 5, 3, 1, 270, 90;
    CLSP;
    SCG; CMNT グラフィックス状態を保存;
    STRK; CMNT パスをストローク;
    RPG; CMNT グラフィックス状態を復元;
    GPAT 0.5;
    FILL 1; CMNT パスを塗りつぶす;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

SCG

RPP

保存したカーソル位置への復帰

(Return to Previous Position)

書式

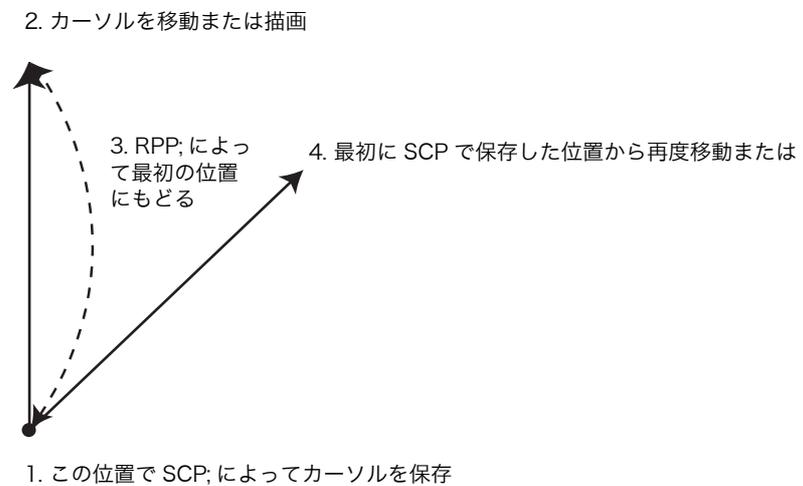
RPP;

説明

RPP コマンドは、カーソルを SCP コマンドで記憶した位置に移動します。

複数のカーソル位置が複数の SCP コマンドの実行によって、ネスティング保存されている場合は、各 SCP コマンドによって保存された順番と逆の順番でカーソル位置が復帰されます。次に例を示します。

図 28 カーソル位置の保存

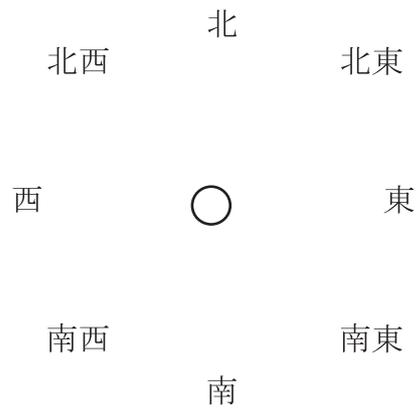


SCP コマンドで保存されたカーソル位置が存在しない場合に RPP コマンドを実行すると、カーソルが予測できない位置に移動する場合があります。

例

```
!R! RES; UNIT C;
CSET 19K; TPRS 1;
MAP 8, 8; CIR 0.2;
MRP -0.5, 0.1;
CMNT 現在位置を 7 回記憶;
SCP; SCP; SCP; SCP; SCP; SCP; SCP;
MRPA 2, 0; TEXT '北';
RPP; MRPA 2, 45; TEXT '北東';
RPP; MRPA 2, 90; TEXT '東';
RPP; MRPA 2, 135; TEXT '南東';
RPP; MRPA 2, 180; TEXT '南';
RPP; MRPA 2, 225; TEXT '南西';
RPP; MRPA 2, 270; TEXT '西';
RPP; MRPA 2, 315; TEXT '北西';
RES; EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド SCP

RPPL

保存したパレットへの復帰

(Return to Previous PaLette)

書式

RPPL;

説明

RPPL コマンドは、SCPL コマンドによって保存されたパレットを復帰させます。復帰したカラーパレットはアクティブパレットになります。

保存されたパレットが存在しない場合は、このコマンドは無視されます。

例

SCPL コマンド (259 ページ) を参照。

RPU

保存した単位への復帰

(Return to Previous Unit)

書式

RPU;

説明

RPU コマンドは、SCU コマンドによって保存された UNIT コマンドによる単位設定（インチ、センチメートル、ポイントあるいはドット）および UOM（インチあたり単位）コマンドによって保存された単位設定を復帰させます。

例

!R! RPU; EXIT;

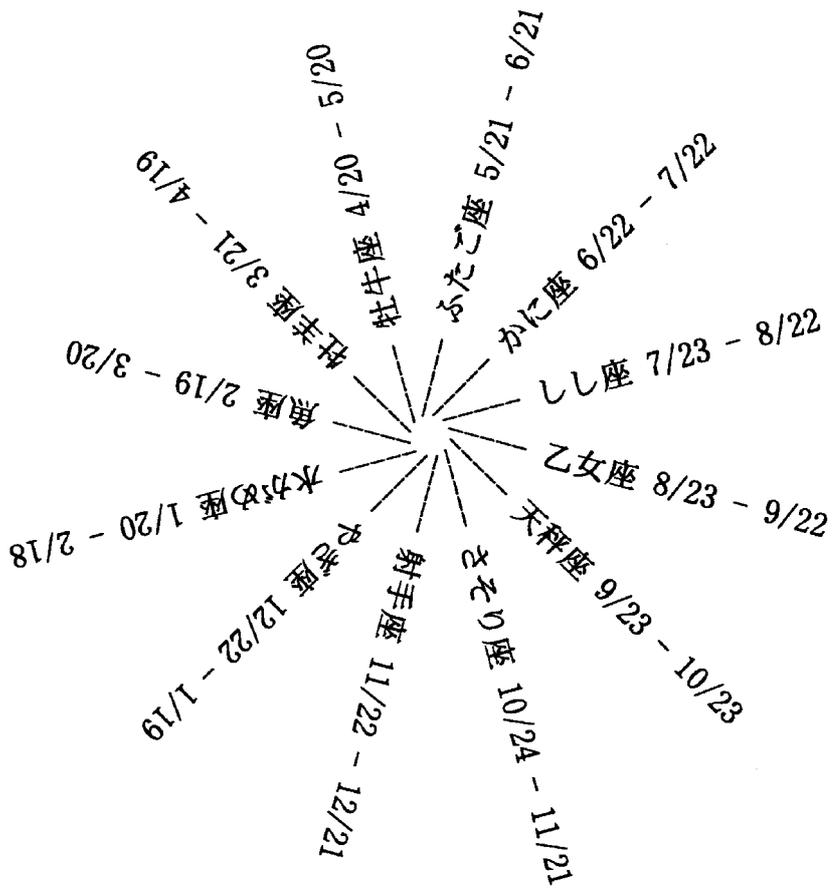
RTTX

テキストの回転

(RoTate TeXt)

書式	RTTX 角度, '文字列' [, U];						
パラメータ	<table> <tr> <td>角度</td> <td>回転角度</td> </tr> <tr> <td>文字列</td> <td>印刷する文字列</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>アンダーラインを付加</td> </tr> </table>	角度	回転角度	文字列	印刷する文字列	U	アンダーラインを付加
角度	回転角度						
文字列	印刷する文字列						
U	アンダーラインを付加						
説明	<p>RTTX コマンドは、指定した文字列を回転して印刷します。文字列はその開始位置を中心点として、水平の状態の 0° から反時計回りに回転されます。文字列は、引用符 (') または二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>RTTX コマンドはアウトラインフォントのみに有効です。</p> <p>漢字フォントは PCL エミュレーションで、TRPS コマンドによってテキストパーシングを行うことで回転が可能です。日本語エミュレーションの場合、日本語フォントと ANK フォントの切替えは、TEXT、CTXT、RTXT コマンドと同様に、漢字イン / 漢字アウトのエスケープシーケンスが有効です。</p>						
例	<pre> IRI RES; TPRS 1; SFNT "DFHSMINCHO-W3-SJ", 10; MZP 3, 3; RTTX 15, " ---- しし座 7/23 - 8/22"; RTTX 45, " ---- かに座 6/22 - 7/22"; RTTX 75, " ---- ふたご座 5/21 - 6/21"; RTTX 105, " ---- 牡牛座 4/20 - 5/20"; RTTX 135, " ---- 牡羊座 3/21 - 4/19"; RTTX 165, " ---- 魚座 2/19 - 3/20"; RTTX 195, " ---- 水がめ座 1/20 - 2/18"; RTTX 225, " ---- やぎ座 12/22 - 1/19"; RTTX 255, " ---- 射手座 11/22 - 12/21"; RTTX 285, " ---- さそり座 10/24 - 11/21"; RTTX 315, " ---- 天秤座 9/23 - 10/23"; RTTX 345, " ---- 乙女座 8/23 - 9/22"; PAGE; EXIT; </pre>						

印刷結果



RTXT

右ぞろえテキスト

(print Right-aligned TeXT)

書式 RTXT [文字列][, オプション][, U オプション];

パラメータ

文字列	文字列
オプション	印刷後のカーソル位置
	B 文字列の終わり
	E 文字列の始め
	L 1 行下
	N 次行の始め
U オプション	アンダーライン

説明 RTXT コマンドは、文字列をカーソル位置で右ぞろえで印刷します。

印刷する文字列は引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。文字列内にどちらかの引用符または二重引用符が含まれる場合には、それぞれ二重引用符または引用符で文字列をかこみます。文字列を省略すると何も印刷されません。

オプションは、印刷後のカーソル位置を選びます。オプションを省略すると、カーソルは文字列の終りに動きます (オプション B と同じ)。U オプションは、文字列にアンダーラインを付けます。アンダーラインの太さと位置は、SULP コマンドで設定します。

文字列の長さの制限としては、コマンド全体として 255 文字以内となります。文字列中では、スペース以外のコントロール・コード (キャリッジ・リターンやラインフィードなど) は無視されます。ただし、漢字イン (ESC K、ESC t)・漢字アウト (ESC H など) のエスケープ・シーケンスは有効です。

例

```
IRI RES;
DAM;
MCRO PF;
MRP 0.15, 0;
BOX 0.1, -0.1; MRP 0.5, 0;
BOX 0.1, -0.1; MRP -0.65, 0;
ENDM;
MAP 0.5, 0.5;
TPRS 1; SFNT "DFHSMINCHO-W3-SJ", 10;
TEXT "合格 不合格", L, U;
CALL PF; RTXT "学科", L;
CALL PF; RTXT "面接";
RES; EXIT;
```

印刷結果

	合格	不合格
学科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
面接	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

関連コマンド CTXT、TEXT

RVCD

ラスタデータの受信

(ReceiVe Compressed raster Data)

書式 RVCD [圧縮モード]; 長さ, データ, ...; ... 長さ, データ, ...;

パラメータ

圧縮モード	
0	圧縮なし
1	run length エンコード
2	TIFF rev. 4.0
長さ	ラスタデータのバイト数 (最大 255 バイト)
データ	バイナリ・ラスタデータ (OH ~ FFH)

説明 RVCD コマンドは、ラスタデータをエンコードして印刷します。

圧縮モードの値が 0 または省略されている場合、ラスタデータは圧縮なしのバイナリ書式として展開されます。1 ビットが 1 ドットを意味します。最初のバイトの 7 番目のビットがそのラスタ行の開始ドットを指し、ビット 0 が 8 番目のドットを指します。

圧縮モード 1 の run length エンコードの場合、ラスタデータはバイトのペアごとに処理されます。各ペアの最初のバイトが、2 番目のパターン・バイトのデータの繰り返しカウントです。繰り返しカウントには、0 から 255 の任意の値が指定されます。

圧縮モード 2 (TIFF rev. 4.0) の場合、ラスタデータは制御バイトがラスタデータの前にあるパックビットとして解釈されます。TIFF rev.4.0 でエンコードされたデータ列の例は次のとおりです。

制御バイト (1 バイト) + データ (1 ~ 128 バイト) + 制御バイト (1 バイト)
+ データ (1 ~ 128 バイト) ...

-127 から -1 (81H から FFH) の負の値の制御バイトは、後続するデータの繰り返しカウントを示します。0 から 127 (0H から 7FH) という制御バイトは、続くデータのバイト数を示します。-128 (80H) という制御バイトは、機能しない制御バイトを示します。

関連コマンド STR、ENDR

RVCL カラーラスタデータの受信

(ReceiVe CoLor raster data)

書式 RVCL [圧縮モード] 長さ, データ;

パラメータ

圧縮モード	
0	圧縮なし
1	run length エンコード
2	TIFF rev. 4.0
長さ	ラスタデータのバイト数
データ	バイナリラスタデータ (0H ~ FFH)

説明 RVCL コマンドは、カラーのラスタデータをエンコードし、プリントシステムに転送します。カラーのイメージデータを送信する場合、各ピクセルに対して直接色指定を行ってください。各ピクセルの各色データは 8bps の指定となります。また、カラースペースは RGB のみ有効となります。したがって、カラー・イメージを転送する場合、ピクセルを描画するのに 3 バイトのデータを転送することとなります。

このコマンドはモノクロ / カラーデータを問わずエンコード処理しますが、アクティブパレットに依存するため、データに適合したパレットを使用してください。

ラスタデータの終了は ENDR コマンドで行います。

RVCL コマンドを使用してカラーデータを転送する場合は、必ず CID コマンドでパレットを指定してください。SIMP コマンドまたは PANT コマンドでパレットを指定した場合には、データが正しく処理されません。

受信したデータの長さが、指定のソースデータの幅または高さを超える場合は、イメージの一部がクリップされます。

RVRD

ラスタデータ処理の開始

(Receive Raster Data)

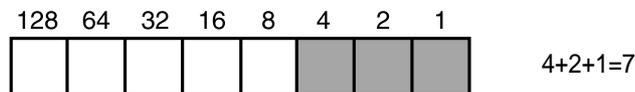
書式

RVRD;

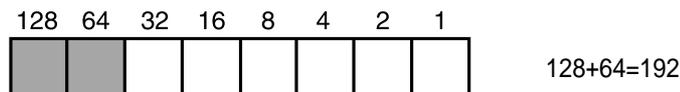
説明

RVRD コマンドは、受信したラスタデータの処理を行います。このコマンド以降のデータはラスタデータとみなされ、ラスタグラフィックの作図が開始されます。

次の図は、マス目行とドットごとの数値でラスタデータを表したものです。各行は 8 ドットのマス目に分割されており、ドットで埋められたマス目をそれぞれに指定されている数値に変換して、行ごとに合計します。例えば、次の行は合計して 7 になります。

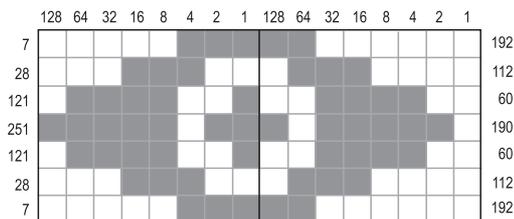


同じく、次の行は 192 になります。



RVRD コマンドでラスタデータの処理を行う場合は、1 行が 8 ビット × 2 のマス目を使用して、エンコードを行います。次のようなラスタイメージを例として説明します。

図 29 ラスタ処理の例



上図のイメージを処理する RVRD コマンドは、次のようになります。

IR! STR 75; RVRD;

2, 7, 192;

2, 28, 112;

2, 121, 60;

2, 251, 190;

2, 121, 60;

2, 28, 112;

2, 7, 192;
 ENDR; RES; EXIT;

ラスタデータの各行の最初の 2 はその後続くデータ列の数を表しています。この値は 1 ~ 511 までの整数となります。以下、225 ページの図 29 で得た値が続きます。各データはカンマで区切り、終わりにはセミコロンを書きません。

カンマの後の改行 (キャリッジ・リターン) は無視されますので、改行は次のようにカンマの直後に行ってください。

34, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,(改行)
 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1;

データが 0 のときは、区切りのカンマだけを残して省略することができます。行の終わりが 0 のときは、カンマも省略することもできます。例えば、次の 2 つのラスタ・データは同じ結果となります。

7, 0, 0, 15, 0, 15, 0, 0;
 7,,15,,15;

次の 2 つのラスタ・データはいずれも空白のラスタ行を意味します。

1, 0;
 1,;

次の表は、無効なラスタデータの例です。

表 31 無効なラスタデータ処理の書式

例	理由
0,;	先頭に 0 を置くことは不可
1;	空白行は [1,] のようにカンマで示す
2, 1, 1, 1;	2 に対してデータ行が 3 つある
2, -1, -1;	負の値は使用不可
2, 1(改行)カンマの前の改行は不可	
,1;	

無効のラスタデータ行があると、後に続く正しいラスタデータ行も無効になります。

ラスタデータは、LDFC コマンドと同じ書式でも作成することが可能です。くわしくは LDFC コマンド (141 ページ) の説明を参照してください。

関連コマンド

LDFC

RWER D 外部メディアのデータ削除

([Read/Write External Resource] Delete data on external media)

書式	RWER D, メディア ID, データタイプ, 'パーティション名';
パラメータ	<p>メディア ID</p> <p>0 ハードディスク</p> <p>A メモリカード (スロット A)</p> <p>データタイプ</p> <p>1 フォント</p> <p>2 プリントブルデータ</p> <p>16 マクロ</p> <p>112 ファイル</p> <p>128 API データ</p> <p>パーティション名 最大 15 バイトの英数字文字列</p>
説明	<p>RWER D コマンドは、指定したパーティション名のデータをハードディスクまたはメモリカードから削除します。メディア内のパーティションは、RWER L; コマンドでパーティションの一覧リスト (PARTITION LIST) を印刷することができます。</p> <p>KPDL や PJI のコマンドによってその外部メディアが書き込み禁止である場合、このコマンドは無効です。</p> <p>パーティション名は、最大 15 バイトの ASCII 文字列 (20H ~ 7EH) であり、大文字小文字の区別はありません。パーティション名にはスペースを使用できません。また、パーティション名は、引用符 (') または二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>このコマンドは、改ページを行います。</p>
例	<p>ハードディスク内のプリントブルデータ、DataH001 を削除する例</p> <pre>IR! RWER D, 0, 2, 'DataH001'; EXIT;</pre>

RWER F 外部メディアのフォーマット

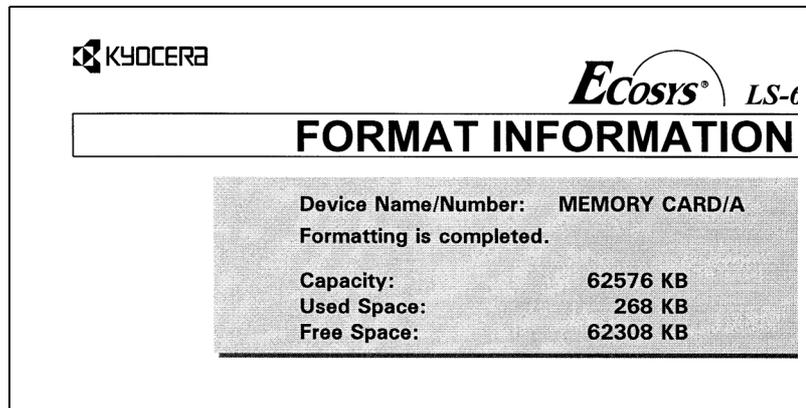
([Read/Write External Resource] Format external media)

書式 RWER F, メディア ID;

パラメータ メディア ID
 0 ハードディスク
 A メモ리카ード (スロット A)

説明 RWER F コマンドは、ハードディスクまたはメモ리카ードのフォーマットを行います。メモ리카ードの場合は、物理フォーマットを実行するため、自動的に FORMAT INFORMATION ページが印刷されます。

図 30 FORMAT INFORMATION ページ例



このコマンドは、メディア内のデータを全て消去します。誤って使用しないよう注意してください。

KPDL や PJL のコマンドによって、その外部メディアが書き込み禁止である場合、このコマンドは無効です。

例 メモ리카ードのフォーマットを行う例

!R! RWER F, A; EXIT;

RWER I 外部メディアの書き込み結果の自動印刷

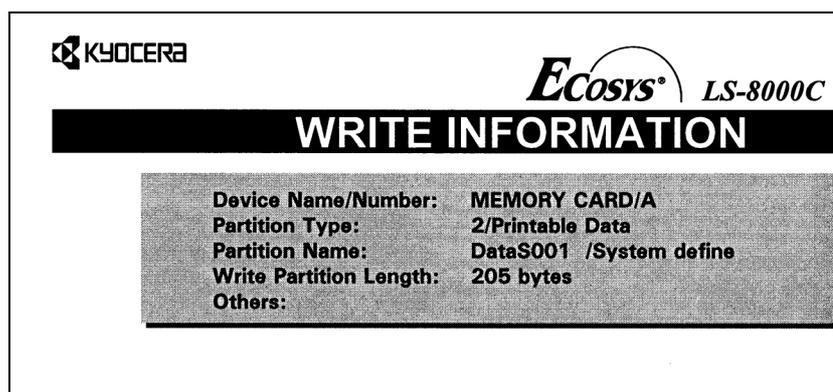
([Read/Write External Resource] automatically print partition Information)

書式 RWER I, 自動印刷;

パラメータ 自動印刷
E 行う
D 行わない

説明 RWER I コマンドは、外部メディアに書き込みを行った際に、書き込み結果リスト (WRITE INFORMATION ページ) を自動印刷するか否かを切り替えます。初期設定は自動印刷は行いません (D と同じ)。

図 31 WRITE INFORMATION ページ例



RWER L 外部メディア内のパーティションリストの出力

([Read/Write External Resource] print partition List)

書式 RWER L[, メディア ID];

パラメータ

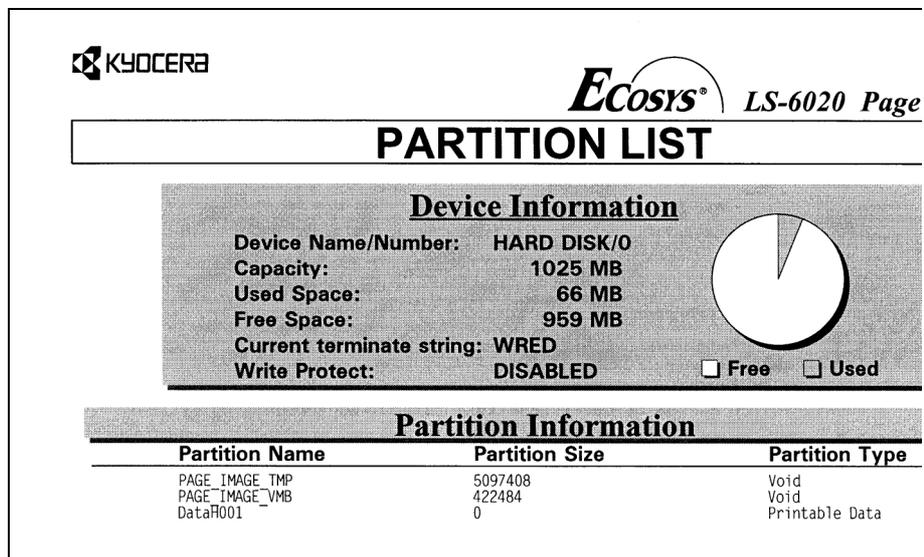
メディア ID
 O ハードディスクまたは RAM ディスク
 A メモリカード (スロット A)
 E EPROM

説明 RWER L コマンドは、ハードディスクやメモリカード、および RAM ディスクや EPROM などの指定した外部メディア内のパーティションリストを印刷します。

メディア ID を省略すると、全メディアのパーティションリストを出力します。

パーティションリストは、Device Information と Partition Information に分かれ、それぞれその外部メディアの容量や利用状況、パーティションデータの名前やサイズ、形式などを一覧表示します。

PARTITION LIST 例



例 メモリカードのパーティションリストの出力を行う例

!R! RWER L, A; EXIT;

RWER R

外部メディアの読み込み

([Read/Write External Resource] Read data from external media)

書式	RWER R, メディア ID, データタイプ, 'パーティション名';
パラメータ	<p>メディア ID</p> <p>0 ハードディスク</p> <p>A メモリカード (スロット A)</p> <p>E EPROM</p> <p>データタイプ</p> <p>2 プリンタブルデータ</p> <p>128 API データ</p> <p>パーティション名 最大 15 バイト</p>
説明	<p>RWER R コマンドは、指定したパーティション名のデータを外部メディアから読み込みます。このコマンドで読み込むデータはプリンタブルデータと API データですが、フォントやマクロは自動的に読み込まれるので、このコマンドを使用する必要はありません。</p> <p>パーティション名は、最大 15 バイトの ASCII 文字列 (20H ~ 7EH) であり、大文字小文字の区別はありません。パーティション名にはスペースを使用できません。また、パーティション名は、引用符 (') または二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>FRPO IO コマンドによって、プリントシステムにデフォルトで読み込むパーティションが指定されている場合は、プリントシステムは電源投入時に FRPO IO コマンドでの指定にしたがいます。</p> <p>複数の外部メディア内で重複したパーティション名が存在した場合は、メモリカード→ハードディスク→EPROM の優先順位で読み込みます。</p> <p>このコマンドは、改ページを行います。</p>
例	<p>メモリカード内のプリンタブルデータ、DataS001 を読み込む例</p> <pre>IR! RWER R, A, 2, 'DataS001'; EXIT;</pre>

RWER S フォントのダウンロード

([Read/Write External Resource] Store TrueType font)

書式 RWER S, メディア ID, フォントフォーマット, ファイル名, フォント名, データ長 [, シンボルセット, スタイル, ストローク, タイプフェース]; <バイナリデータ> WRED;

パラメータ	メディア ID	0	ハードディスク
		A	メモ리카ード (スロット A)
フォントフォーマット		0	TrueType フォント
		1	日本語 TrueType フォント
		2	日本語 TrueType Collection
ファイル名		最大 11 バイトの ASCII 文字	
フォント名		最大 31 バイトの ASCII 文字、フォントフォーマットが 2 の場合は最大 28 文字	
フォントデータ長		<バイナリデータ>のデータ長(バイト)	
シンボルセット		1 ~ 65535 [619 = JIS コード]	
スタイル		0 ~ 32767	
ストローク		-127 ~ 127	
タイプフェース		(0 ~ 65535) フォントデータ (TrueType 形式)	
<バイナリデータ>		フォントデータ (フォントデータ長と一致すること)	

説明 RWER S コマンドは、TrueType フォントを指定したメディアに一括ダウンロードして格納します。

ファイル名およびフォント名は、引用符 (') または二重引用符 (") で囲みます。ファイル名には内部で .inf が付加されます。フォント名は最大 31 バイトの ASCII 文字を使用しますが、ダウンロードするフォントフォーマットが日本語 TrueType Collection (フォントフォーマット=2) の場合は、28 バイトまでとなります。日本語 TrueType Collection の場合、プリントシステムはプロポーショナルフォントであれば (P) を、固定フォントであれば (F) を自動的に付加します。また TrueType Collection に 3 つ以上のフォントが含まれている場合は、(1)、(2)、(3) ... (9) を自動的に付加します。

シンボルセットからタイプフェースのパラメータは省略することができますが、フォント選択を確実に行うためにはこれらのフォント属性を省略しないことをおすすめします。

<バイナリデータ>の後には、WRED; コマンドを付加してください。「WRED;」の 5 バイトはフォントデータ長には含まれません。

登録可能なフォント数は、同一メモ리카ードでは最大 512、またハードディスクでは最大 4096 まで可能です。

登録した日本語 TrueType フォントを削除するには、RWER D コマンドで RWER D, xxxxxx.TTF; または RWER D, xxxxxx.INF; などのように、ファイル名を指定してください。くわしくは、それぞれのコマンドの説明を参照してください。

フォントをダウンロードして使用するには、フォントの知的所有権上の所有者による許諾が必要です。

RWER T RWER ターミネータの設定

([Read/Write External Resource] set Terminate string)

書式 RWER T[, '文字列'];

パラメータ 文字列 最大 4 バイトまでの ASCII 文字

説明 RWER T コマンドは、RWER S コマンドによってバイナリデータを外部メディアに送信する際の、ターミネータ文字列を設定します。通常は WRED がターミネータです。

文字列は引用符 (') または二重引用符 (") で囲みます。

文字列のパラメータを省略すると、ターミネータを初期の WRED に設定します。

例 !R! RWER T, 'WXYZ'; EXIT;

RWER W 外部メディアへの書き込み

([Read/Write External Resource] Write data to external media)

書式 RWER W, メディア ID, データタイプ [, 'パーティション名']; <バイナリデータ> WRED;

パラメータ

メディア ID	0	ハードディスク
	A	メモ리카ード
データタイプ	1	フォント
	2	プリンタブルデータ
	16	マクロ
	112	ファイルデータ
	128	API データ
パーティション名	最大 15 バイトの英数字文字列	

説明 RWER W コマンドは、ハードディスクなどの外部メディアにデータの書き込みを行います。書き込み可能なファイル数の制限はありませんが、外部メディアの容量に依存します。書き込まれたデータはデータタイプに応じて、パーティション名で管理されます。

パーティション名は、引用符 (') または (") で囲みます。外部メディア内にすでに存在するパーティション名で書き込みを行うと、プリントシステムは默示的に別のパーティション名で保存します。

フォントを含むメモ리카ードに書き込みを行うと、メモ리카ード内のデータ構成が再編成されるため、フォントの再評価が発生し異なるフォントが選択される場合があります。

書き込み終了時には、書き込み情報ページ (WRITE INFORMATION) が自動的に印刷されます。

RWRF D 外部デバイスのデータの削除

([Read/Write Resource File] Delete)

書式 RWRF D, メディア ID, 'データの種類', "ファイル名";

パラメータ

メディア ID	
0	ハードディスク
A	メモリカード
データの種類	
"API"	API プログラム
"FNT"	フォント
"MCR"	マクロ
"PRN"	プリンタブルデータ
ファイル名	最大 15 バイトの英数字文字列

説明 RWRF D コマンドは、ハードディスクなどの外部デバイスに書き込まれたデータの削除を行います。

データの種類とファイル名は、' ' で囲みます。

KPDL や PJI のコマンドによってその外部メディアが書き込み禁止である場合、このコマンドは無効です。

このコマンドは改ページをとまいません。

ファイル削除時は書き込み情報ページ (WRITE INFORMATION) は印刷されません。

例 ファイル名 "TEST" でハードディスクに登録したマクロファイルを削除する。

```
!R! RWRF D,0, "MCR" , "TEST"; EXIT;
```

RWRF F 外部デバイスのフォーマット

([Read/Write Resource File] Format)

書式	RWRF F, メディア ID;	
パラメータ	メディア ID	0 ハードディスク A メモリカード
説明	<p>RWRF F コマンドは、ハードディスクなどの外部デバイスの、コマンドによる書き込みが可能な領域 (Printer 使用領域) の物理フォーマットおよびソフトフォーマットを行います。</p> <p>KPDL や PJI のコマンドによってその外部メディアが書き込み禁止である場合、このコマンドは無効です。</p> <p>このコマンドは改ページをともしません。</p>	
例	<p>ハードディスクをフォーマットする。</p> <pre>!R! RWRF F , 0; EXIT;</pre>	

RWRF L リソースファイルリストの出力

([Read/Write Resource File] print resource file List)

書式	RWRF L [, メディア ID];
パラメータ	メディア ID 0 ハードディスク A メモリカード 省略時は全デバイスのリソースファイルリストを出力
説明	RWRF L コマンドは、外部デバイスに登録されているリソースファイルリストを印刷します。
例	ハードディスクのリソースファイルリストを出力する。 !R! RWRF L , 0; EXIT;

RWRF P 隠しファイルの設定

([Read/Write Resource File])

書式 RWRF P, メディア ID, 'データの種類', "ファイル名";

パラメータ

メディア ID	0	ハードディスク
	A	メモリカード
データの種類	"API"	API プログラム
	"FNT"	フォント
	"MCR"	マクロ
ファイル名最大	15 バイトの英数文字列	

説明 RWRF P コマンドは、指定されたファイルを隠しファイルに設定します。

データの種類とファイル名は、' ' で囲みます。

指定されたファイルが隠しファイルとなり、PC からアクセスできなくなります。

このコマンドは改ページをとまいません。

例 メモリカードのマクロファイル名 "TEST" を隠しファイルに設定する。

```
!R! RWRF P, A, "MCR", "TEST"; EXIT;
```

RWRF R 外部デバイスの読み込み

([Read/Write Resource File] Read)

書式	RWRF R, メディア ID, "PRN", "ファイル名";
パラメータ	<p>メディア ID</p> <p>0 ハードディスク</p> <p>A メモリカード</p> <p>ファイル名 最大 15 バイトの英数字文字列（大文字・小文字は区別されず。）</p>
説明	<p>RWRF R コマンドは、指定したファイル名のデータを外部デバイスから読み込みます。このコマンドで読み込むデータはプリンタブルデータのみです。複数の外部メディアに重複したファイル名がある場合は、メモリカード→ハードディスクの順で読み込みます。</p> <p>プリントシステムの電源投入時に自動的にファイルを読み込むには、外部メディアの PRE フォルダの中に、02autostart という名前のファイルを置いてください。この場合、RWRF R コマンドで指定する必要はありません。</p> <p>このコマンドは、改ページを行います。</p>
例	<p>ハードディスク内のプリンタブルデータ、DataS001 を読み込む。</p> <p>!R! RWRF R, 0, "PRN", "DataS001"; EXIT;</p>

RWRF T

RWRF ターミナータの設定

([Read/Write Resource File] set Terminate string)

書式

RWRF T [, " 終端文字列 "];

パラメータ

終端文字列 最大 4 バイトの英数文字列
省略時はデフォルト値 "WRED" に設定

説明

RWRF T コマンドは、終端文字列（デフォルト：WRED）を変更します。

このコマンドによって終端文字列を変更すると、API プログラムをロードする LAPI コマンドの終端文字列に対しても有効になります。

プリンタの電源が再起動された後に、"WRED" に戻ります。

例

終端文字列を "TEST" に変更する。

```
!R! RWRF T , "TEST"; EXIT;
```

RWRF W 外部デバイスへの書き込み (API プログラム) ([Read/Write Resource File] Write)

書式	RWRF W, メディア ID, 'API', "プログラムタイプ", 登録を行うプリスクライブコマンド名, API プログラムスタート関数名, "保存ファイル名";		
パラメータ	メディア ID	0 ハードディスク A メモリカード	
	プログラムタイプ	PRE プリスクライブコマンド	
	登録を行うプリスクライブコマンド名	最大 4 バイトの英数文字列	
	API プログラムスタート関数名	最大 31 バイトの英数文字列	
	保存ファイル名	最大 15 バイトの英数文字列 省略した場合は、システムが自動的にファイル名を付加	
説明	RWRF W コマンドは、ハードディスクなどの外部デバイスにデータの書き込みを行います。		
	書き込み可能なファイル数の制限はありませんが、外部メディアの容量に依存します。保存中に空き容量が不足した場合には、残りのデータは破棄されます。		
	既に保存されているファイル名と同じファイル名を指定した場合、システムがファイル名を変更して保存します。		
例	プリスクライブコマンド FILT をハードディスクに書き込み、登録する。		
	!R! RWRF W , 0 , "API" , "PRE" , "FILT" , "apl_main";[Program Data]WRED; EXIT;		

RWRFW W 外部デバイスへの書き込み（フォント）

([Read/Write Resource File] Write)

書式 RWRFW W, メディア ID, 'FNT', フォントタイプ, "ファイル名", "フォント名", フォントデータ長, シンボルセットの値, フォントスタイル, ストロークウェイト, タイプフェース;

パラメータ	メディア ID	0	ハードディスク
		A	メモリカード
フォントタイプ		0	TrueTypeFont
		1	日本語 TrueTypeFont
		2	日本語 TrueType Collection
		RSF	RomSlotFormat
ファイル名	最大 11 バイトの英数文字列 フォントタイプが RSF の場合は最大 15 バイト		
フォント名	最大 31 バイトの英数文字列 フォントタイプが 2 の場合は最大 28 バイト		
フォントデータ長	ダウンロードするフォントデータのバイト数		
シンボルセットの値	1 ~ 65535 (619 = ShiftJIS コード)		
フォントスタイル	0 ~ 32767		
ストロークウェイト	-127 ~ +127		
タイプフェース	0 ~ 32767		

説明 RWRFW W コマンドは、ハードディスクなどの外部デバイスにデータの書き込みを行います。

登録可能なフォント数は、同一メモリカードでは最大 512、またハードディスクでは最大 4096 です。

既に保存されているファイル名と同じファイル名を指定した場合、システムがファイル名を変更して保存します。

日本語 TrueType Collection の場合、プリントシステムはプロポーショナルフォントであれば (P) を、固定ピッチフォントであれば (F) を自動的に付加します。また、TrueType Collection に 3 つ以上のフォントが含まれている場合は、(1)、(2)、(3) … (9) を自動的に付加します。

シンボルセット～タイプフェースのパラメータは省略することができますが、フォント選択を確実に行うためにはこれらのフォント属性を省略しないことをおすすめします。

書き込むフォントデータ長は、コマンドで指定したフォントデータ長と一致させる必要があります。一致していない場合はエラーとなり、書き込みできません。

<バイナリデータ>の後には、WRED; コマンドを付加してください。
「WRED;」の5バイトはフォントデータ長には含まれません。

登録した日本語 TrueTypeFont を削除するには、RWRf D コマンドを使用します。

フォントを外部メディアに書き込んで使用するためには、フォントの知的所有権上の所有者による許諾が必要です。

例

フォントタイプ RFS、ファイル名 "testfont" をハードディスクに書き込み、登録する。

```
!R! RWRf W , 0 , "FNT" , "RSF" , "testfont"; [FontData] WRED; EXIT;
```

フォントタイプ TrueTypeFont、ファイル名 "testfile"、フォント名 "testfont"、シンボルセット 619 (ShiftJIS)、フォントスタイル 10、ストロークウェイト 0、タイプフェイス 100 をハードディスクに書き込み、登録する。

```
!R! RWRf W , 0 , "FNT" , 0 , "testfile" , "testfont" , , 619 , 1 , 10 , 0 , 100;  
[FontData] WRED; EXIT;
```

RWRF W 外部デバイスへの書き込み（プリンタブルデータ）

([Read/Write Resource File] Write)

書式	RWRF W, メディア ID, "PRN", "保存ファイル名";		
パラメータ	メディア ID	0	ハードディスク
		A	メモ리카ード
	保存ファイル名	最大 15 バイトの英数文字列 省略した場合は、システムが自動的にファイル名を付加	
説明	<p>RWRF W コマンドは、ハードディスクなどの外部メディアにデータの書き込みを行います。</p> <p>書き込み可能なファイル数の制限はありませんが、外部メディアの容量に依存します。保存中に空き容量が不足した場合には、残りのデータは破棄されます。</p> <p>既に保存されているファイル名と同じファイル名を指定した場合、システムがファイル名を変更して保存します（上書きは行いません）。</p> <p>書き込みたいプリンタブルデータの後は WRED; コマンドを付加してください。</p>		
例	<p>プリンタブルデータ (!R! TEXT "TEST"; PAGE; EXIT;) を、ハードディスクに書き込み登録する。</p> <p>!R! RWRF W, 0, "PRN", "TEST"; !R! TEXT "TEST"; PAGE; EXIT; WRED; EXIT;</p>		

RWRF W 外部デバイスへの書き込み (マクロ) ([Read/Write Resource File] Write)

書式	RWRF W, メディア ID, "MCR", マクロタイプ, " マクロ名 ID またはマクロ名 ", " 保存ファイル名 ";																		
パラメータ	<table border="0"> <tr> <td>メディア ID</td> <td>0</td> <td>ハードディスク</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>メモ리카ード</td> </tr> <tr> <td>マクロタイプ</td> <td>"PRE"</td> <td>プリスクライブマクロ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>"PCL"</td> <td>PCL マクロ</td> </tr> <tr> <td>マクロ ID またはマクロ名</td> <td colspan="2">PCL マクロの場合はマクロ ID (0 ~ 32767) プリスクライブマクロの場合はマクロ名 (最大 4 文字の英数文字列)</td> </tr> <tr> <td>保存ファイル名</td> <td colspan="2">最大 15 文字の英数文字列 省略した場合は、システムが自動的にファイル名を付加</td> </tr> </table>	メディア ID	0	ハードディスク		A	メモ리카ード	マクロタイプ	"PRE"	プリスクライブマクロ		"PCL"	PCL マクロ	マクロ ID またはマクロ名	PCL マクロの場合はマクロ ID (0 ~ 32767) プリスクライブマクロの場合はマクロ名 (最大 4 文字の英数文字列)		保存ファイル名	最大 15 文字の英数文字列 省略した場合は、システムが自動的にファイル名を付加	
メディア ID	0	ハードディスク																	
	A	メモ리카ード																	
マクロタイプ	"PRE"	プリスクライブマクロ																	
	"PCL"	PCL マクロ																	
マクロ ID またはマクロ名	PCL マクロの場合はマクロ ID (0 ~ 32767) プリスクライブマクロの場合はマクロ名 (最大 4 文字の英数文字列)																		
保存ファイル名	最大 15 文字の英数文字列 省略した場合は、システムが自動的にファイル名を付加																		
説明	<p>RWRF W コマンドは、ハードディスクなどの外部デバイスにデータの書き込みを行います。</p> <p>書き込み可能なファイル数の制限はありませんが、外部メディアの容量に依存します。保存中に空き容量が不足した場合には、残りのデータは破棄されません。</p> <p>既に保存されているファイル名と同じファイル名を指定した場合、システムがファイル名を変更して保存します (上書きは行いません)。</p>																		
例	<p>プリスクライブマクロ TEST をハードディスクに書き込み、登録する。</p> <pre>!R! RWRF W,0, "MCR", "PRE", "TEST", "test_macro"; %[Macro Data]WRED; EXIT;</pre> <p>PCL マクロ (マクロ ID : 1111) をハードディスクに書き込み、登録する。</p> <pre>!R! RWRF W,0, "MCR", "PCL", 1111, "test_macro"; [Macro Data]WRED; EXIT;</pre>																		

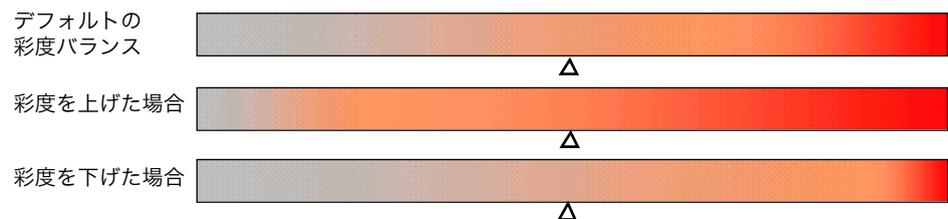
SATU

彩度の調整

(adjust SATUration level)

書式	SATU レベル;
パラメータ	レベル 彩度レベル、-10 ~ 10(デフォルトは 0)
説明	<p>SATU コマンドは、色の彩度(サチュレーション)のレベル調整を行います。</p> <p>下の図の上段のカラーバーは、R 色相の初期状態での彩度変化を表しています。△記号が中心値で、左側が低彩度レベル域を表し、右側が高彩度レベル域を表しています。彩度レベルを上げると中段のカラーバーのように、高彩度レベル域が増大し、彩度レベルを下げると下段のカラーバーのように、低彩度レベル域が増大します。</p>

図 32 R 色相での彩度レベルの増減



彩度レベルは、低彩度の画像をより鮮明な発色にしたり、逆に高彩度の画像を淡くする場合などに調整します。彩度レベルは色相ごとに調整することはできませんが、色相全体の印象が変わるため調整は慎重に行う必要があります。

SATU コマンドは、全ての色空間およびカラーモード、モニタシミュレーションモードで有効です。インクシミュレーションが NONE 以外では、このコマンドは無効です。

このコマンドによる彩度調整は、リセットまたは電源を切る際にデフォルト状態にもどります。

SBM 下マージンの設定

(Set Bottom Margin)

書式	SBM 長さ ;
パラメータ	長さ 用紙の上から下マージンまでの距離
説明	<p>SBM コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、用紙の印刷領域の上端からの距離で下マージンを設定します。</p> <p>下マージンより下のテキストは、次のページに印刷されます。</p> <p>文書ファイル内での下マージンの設定は、ファイルの先頭や改ページ後に書いてください。</p> <p>SPL (ページの長さの設定) と SLPP (1 ページの行数の設定) コマンドでも下マージンが設定されますが、それぞれ上マージンからの距離で設定されます。</p>
例	<pre>!R! RES; UNIT C; STM 1; SLS 1; SBM 11; SFNT 'DFHSMINCHO-W3-SJ'; CSET 19K; TPRS 1; EXIT, E; 1 cm の上マージンと 11 cm の下マージン (1 行目) 2 行目 3 行目 4 行目 5 行目 6 行目 7 行目 8 行目 9 行目 10 行目 11 行目 12 行目 !R! PAGE; EXIT;</pre>

印刷結果

1 cmの上マージンと11 cmの下マージン (1行目)

2行目

3行目

4行目

5行目

6行目

7行目

8行目

9行目

10行目

関連コマンド

SLPP、SPL

SCAP

線終端の設定

(Set line CAP)

書式

SCAP 線終端 ;

パラメータ

線終端

- 1 角終端
- 2 バット終端
- 3 丸終端

説明

SCAP コマンドは、線パスがストロークされるときに終端の形を決定します。デフォルトの終端はバット (2) です。

図 33 線終端



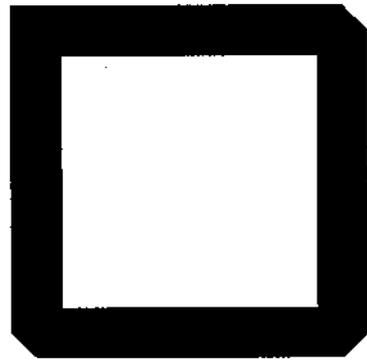
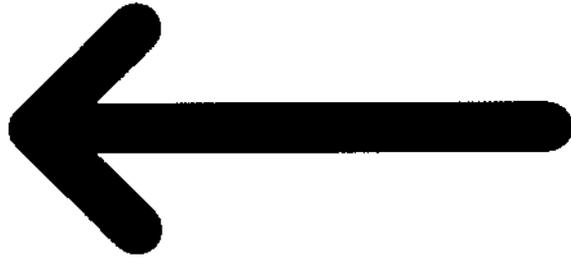
角終端の場合、終端後の線の長さが、線幅の半分終点より長くなります。丸終端の場合、終端後の線の長さが、線幅を直径とする半円形のみだけ長くなります。

例

```
!R! UNIT C; SPD 0.5;
NEWP; CMNT 各終端を丸タイプにする ;
SCAP 3;
PMZP 6, 6;
SCP; SCP;
PDRP 1, -1; RPP;
PDRP 1, 1; RPP;
PDRP 5, 0;
STRK;

NEWP; CMNT 左上端を角タイプにする ;
SCAP 1;
PMZP 6, 9;
PDRP 3, 0, 0, 3, -3, 0, 0, -3;
STRK;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



SCCS コードセットの保存

(Save Current Code Set)

書式

SCCS;

説明

SCCS コマンドは、現在のコードセットを保存します。

コードセットの保存は、一時的にコードセットを変更した後でもとのコードセットにもどすのに使用します。

例

```
!R! RES; SFNT 'TimesNewRoman'; SCCS;
      TEXT 'The following line is printed using IBM PC-8 code set.', L;
      TEXT '@ABCDEFGF', L;
      TEXT "Now changing to Math8.",L;
      CSET 8M; TEXT '@ABCDEFGF', L;
      RPCS;
      TEXT 'Now bringing the previous code set back by a RPCS
command.', L;
      TEXT '@ABCDEFGF';
      PAGE;
EXIT;
```

印刷結果

```
The following line is printed using the default (IBM PC-8) code set.
@ABCDEFGF
Now changing to Math8.
∴ABΓΔEZH
Now bringing the previous code set back by a RPCS command.
@ABCDEFGF
```

関連コマンド

RPCS、RPF、SCF

SCF

現在のフォントの保存

(Save Current Font)

書式

SCF;

説明

SCF コマンドは、現在のフォントを保存します。

フォントの保存は、一時的にフォントを変更した後でも元のフォントにもどすのに使用します。

複数の SCF コマンドを使用して、8 フォントまで保存できます。保存したフォントは、RPF コマンドによって保存と逆の順序で呼出されます。

例

```
!R! RES;  
SFNT 'ITCAvantGardeGothic-Dm';  
TEXT 'Certainly the most frequently discussed items ', N;  
TEXT 'about an office network printing are ', N;  
SCF;  
SFNT 'ITCAvantGardeGothic-DmOb';  
TEXT 'economy and ease of operation.', N;  
PAGE;  
EXIT;
```

印刷結果

**Certainly the most frequently discussed items
about an office network printing are
*economy and ease of operation.***

関連コマンド

RPF

SCG

現在のグラフィック状態を保存

(Save Current Graphics state)

書式

SCG;

説明

SCG コマンドは、次のグラフィック状態を保存します。

- ・ パスとカーソル位置（定義されている場合）
- ・ ペン直径（線の幅）
- ・ 線結合タイプ
- ・ 線終端タイプ
- ・ マイター限界
- ・ 破線パターン
- ・ 平坦さ
- ・ 塗りつぶしパターン（16×16 ドット）
- ・ クリップ矩形
- ・ ラスタ解像度
- ・ イメージモデル

グラフィック状態を保存すると、必要なときに RPG コマンドを実行して元の状態に戻すことができます。作成したグラフィックを保存すれば、FILL コマンドを実行して現在のパスがクリアされた後でも、同じパスを再作成せずに復元できるので便利です。

グラフィック状態は、ユーザメモリ領域に保存可能なグラフィック状態を保持できます。グラフィックがメモリ領域より大きい場合、メモリエラーが起きる場合があります。

例

```
!R! SEM 6; UNIT C;
    CSET 19K; TPRS 1;
    NEWP;
    PMZP 5, 5;
    FSET 1p32v0s0b28825T;
    CPTH '平成ゴシック';
    SCG;
    STRK;
    RPG;
    GPAT 0.9;
    FILL 1;
    PAGE;
EXIT;
```

印刷結果

平成ゴシック

関連コマンド

RPG

SCOL 色を選択する

(Select COlor)

書式	SCOL 番号 ;
パラメータ	番号 0 ~ 255
説明	<p>SCOL コマンドは、現在アクティブなパレットから色を選択します。</p> <p>色は番号のパラメータで指定されて、アクティブとなります。指定した番号に色が割り当てられていない場合や、指定した番号が有効な範囲を超える場合、このコマンドは無視されます。</p> <p>SCOL コマンドによる色指定は、次のオブジェクトに対して有効です。</p> <ul style="list-style-type: none">• テキスト• ベクトルグラフィック• モノクロパターン• モノクロラスタイメージ <p>また、次のオブジェクトに対しては無効となります。</p> <ul style="list-style-type: none">• カラーパターン• カラーラスタイメージ <p>一度色が指定されると、あらたに色指定を行わない限り、パレットの作成や変更や削除が行われてもアクティブな色は変わりません。</p>
例	15 ページの ACLI コマンドを参照。
関連コマンド	ACLI

SCP

現在カーソル位置の保存

(Save Current Position)

書式

SCP;

説明

SCP コマンドは、現在のカーソル位置を保存します。その位置に戻るときには、RPP コマンドを使います。

複数の SCP コマンドを使うことによって、8 つまでのカーソル位置を保存できます。RPP コマンドは、保存したときの逆の順序で、カーソルを保存した位置に戻します。

例

RPP コマンド (215 ページ) を参照。

関連コマンド

RPP

SCPI 1 インチあたり文字数の設定

(Set Characters Per Inch)

書式	SCPI 値;
パラメータ	値 1 インチあたりの文字数
説明	<p>SCPI コマンドは、1 インチあたりの文字数を指定します。単位には UNIT コマンドに関係なく、インチが使われます。</p> <p>プロポーショナルフォントに対しては、パラメータとして 0 を使用します。0 以外では、プロポーショナルフォントも指定した値で固定間隔で印刷されます。フォントモード (FTMD) が 4 ~ 7 および 12 ~ 15 の場合には、SCPI コマンドに関係なく、プロポーショナルフォントはプロポーショナルスペースで印刷されます。</p>
例	<pre>!R! RES; SLM 1; STM 1; EXIT; This line has 10 characters per inch. !R! SCPI 8; EXIT; This line has 8 characters per inch. !R! FONT 2; SCPI 16; SCPI 0; EXIT; These line have proportional spacing. The SCPI 16; command controls the width of the space character. !R! RES; EXIT;</pre>
印刷結果	<pre>This line has 10 characters per inch. This line has 8 characters per inch. These line have proportional spacing. The SCPI 16; command controls the width of the space character.</pre>
関連コマンド	SCS

SCPL アクティブパレットの保存

(Save Current PaLette)

書式

SCPL;

説明

SCPL コマンドは、現在有効となっている（アクティブ）パレットを保存します。保存したパレットは、RPPL コマンドで復帰できます。

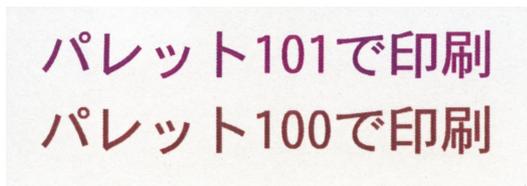
保存できるパレットは、メモリ容量に依存します。メモリが不足する場合、メモリオーバーフローとなってパレットが保存されない場合があります。

このコマンドは、アクティブパレットを変更するものではありません。RPPL コマンドは、SCPL で保存した順番と逆の順番でパレットを復帰させます。

例

```
IR! RES;
SEM 6;
UNIT C;
CSET19K; TPRS 1; FSET 1p20v0s0b28825T;
SPAL 100; CID 0, 1; ACLI 1, 128, 64, 64; SCPL;
SPAL 101; CID 0, 1; ACLI 1, 128, 0, 128; SCPL;
MZP 1, 1; RPPL; SCOL 1;
TEXT 'パレット 101 で印刷';
MZP 1, 2; RPPL; SCOL 1;
TEXT 'パレット 100 で印刷';
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



パレット101で印刷
パレット100で印刷

SCRC コマンド識別文字の設定

(Set Command Recognition Character)

書式 SCRC 文字 ;

パラメータ 文字 コマンド識別文字 : アポストロフ (')、引用符 (")、セミコロン (;) を除く ASCII コード 33(!) からコード 126(=) までの文字

説明 SCRC コマンドは、プリスクライブコマンド列の始まりを表わすコマンド識別文字を設定します。コマンド識別文字の初期設定は大文字の R です (ASCII コード 82)。設定されたコマンド識別文字は、電源を切るか RES コマンドが実行されるまで有効です。

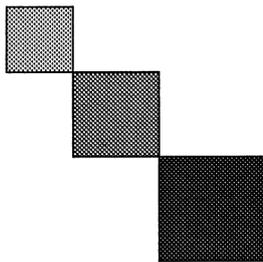
例

```
!R! RES;
      UNIT C;
      GPAT 0.7; BLK 1, 1;BOX 1, 1, E;
      GPAT 0.5; BLK 1.3, 1.3;BOX 1.3, 1.3, E;
      GPAT 0.3; BLK 1.6, 1.6;BOX 1.6, 1.6, E;
```

CMNT ボックスを書いた後リストを印刷 ;

```
      SCRC L; EXIT;
      !R! RES; UNIT C;
      GPAT 0.7; BLK 1, 1; BOX 1, 1,E;
      GPAT 0.5; BLK 1.3, 1.3; BOX 1.3, 1.3, E;
      GPAT 0.3; BLK 1.6, 1.6; BOX 1.6, 1.6, E;
      PAGE; EXIT;
      !L! RES; EXIT;
```

印刷結果



```
!R! RES; UNIT C;
GPAT .7; BLK 1, 1; BOX 1, 1, E;
GPAT .5; BLK 1.3, 1.3; BOX 1.3, 1.3, E;
GPAT .3; BLK 1.6, 1.6; BOX 1.6, 1.6, E;
PAGE; EXIT;
```

関連コマンド !R!

SCS

文字間隔の設定

(Set Character Spacing)

書式

SCS 距離 ;

パラメータ

距離 文字間隔、または 0

説明

SCS コマンドは、文字から次の文字までの距離を設定します。

プロポーショナルフォントに対しては、距離パラメータは 0 に設定します。0 以外ではプロポーショナルフォントが固定間隔で印刷され、不自然になります。

フォント・モード (FTMD) が 4 ~ 7 および 13 ~ 15 の場合には、SCS コマンドや SCPI コマンドに関係なく、プロポーショナルフォントはプロポーショナルスペースで印刷されます。

距離パラメータが 0 の場合、空白 (スペース) 文字の幅は変更されません。

文字間隔は SCPI コマンドでも指定することができます。くわしくは、258 ページを参照してください。

例

```
!R! RES; UNIT C; SLM 1; STM 2; EXIT;
This line has the default spacing.
!R! UNIT C; SCS 0.3; EXIT;
This line has a slightly wider spacing.
!R! FONT 2; SCS 0.2; EXIT;
This is a proportional font printed with fixed spacing.
!R! SCS 0; EXIT;
This is correct proportional spacing.
!R! RES; EXIT;
```

印刷結果

```
This line has the default spacing.
This line has a slightly wider spacing.
This is a proportional font printed with fixed spacing.
This is correct proportional spacing.
```

関連コマンド

SCPI

SCSZ カスタム紙サイズの設定

(Set Custom paper SiZe)

書式 SCSZ 幅, 高さ, 単位;

パラメータ

幅	用紙の幅
高さ	用紙の高さ
単位	M ミリ
	I インチ

説明 SCSZ コマンドは、非定型などの任意の用紙サイズを給紙カセットに設定します。このコマンドで作成した非定型用紙サイズは、SPSZ 19; で選択されます。

このコマンドは、UNIT コマンドで設定した単位に依存せずに、単位パラメータで設定した単位を使用します。このコマンドで定義する用紙サイズには、エミュレーションに関係なく、5mm×5mm の非印刷領域が内側に設けられません。

このコマンドで設定した用紙サイズは、リセットまたは FRPO の初期化コマンドによって初期化され、カセットの最大寸法になります。

SCSZ コマンドは改ページを伴うので、ファイルやプログラムの先頭、またはページの始めに配置してください。

例 !R! SCSZ 260, 300, M; EXIT;

SCU

現在の単位の保存

(Save Current Unit)

書式

SCU;

説明

SCU コマンドは、現在の単位を保存します。同時に、UOM コマンドで設定されるインチあたり単位も保存されます。

SCU コマンドで保存した単位設定は、RPU コマンドで復帰させることができます。

例

```
!R! FRPO N8, 0; SEM 6;  
CSET 19K; TPRS 1;  
FSET 1p10v0s0b28825T;  
UNIT C; SCU;  
MZP 1.5, 1.5;  
TEXT " 島での生活: パート 1", U;  
MCRO TITLE;  
FSET 24V;  
UNIT I;  
MZP 4, 3;  
CIR 2;  
MRP -1.5, .125;  
TEXT %1;  
ENDM;  
CALL TITLE, " 第 1 章: プロローグ";  
RPU;  
SLM 2;  
STM 13;  
FSET 12v;  
DAM;  
EXIT;
```

印刷結果

島での生活: パート 1



第1章: プロローグ

関連コマンド SCF、SCP、UNIT

SDP

破線パターンの登録

(Store Dash Pattern)

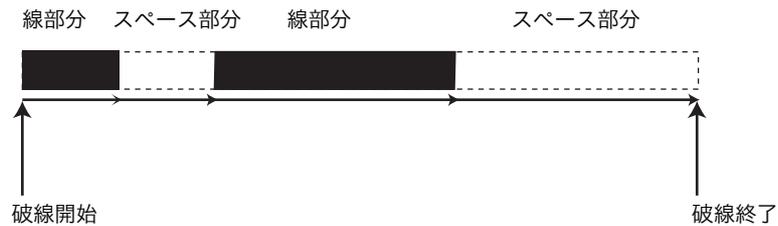
書式 SDP 番号, 線 1, スペース 1, ..., 線 10, スペース 10;

パラメータ
 番号 11 ~ 20
 線 1 ~ 10 破線の線部分の長さ
 スペース 11 ~ 10 破線のスペース部分の長さ

説明 SDP コマンドは、新たな破線パターンを登録します。登録したパターンは、DPAT コマンドで番号指定して使用します。

破線パターンを線分で終わる場合は、最後のスペース部分を省略できます。また、線およびスペースのパラメータを全て省略すると、実線になります。線およびスペースの指定に使用する単位は、作成した破線を DPAT コマンドで実行するとき有効となっている単位です。

図 34 破線パターン



線部分とスペース部分は、10 組まで指定することができます。

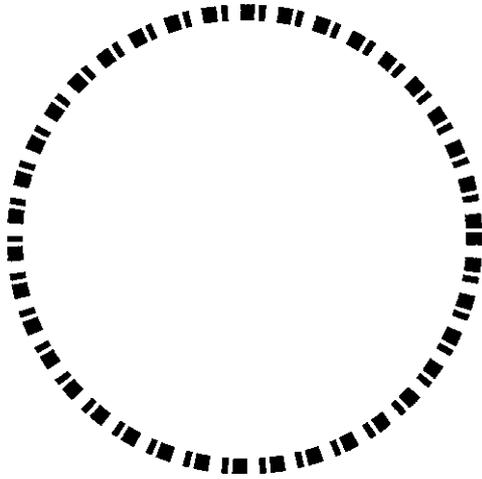
作成した破線パターンが他の描画と重なる場合、上書き描画されます。

登録パターンは、電源を切るまで有効です。RES コマンドでは破線パターンは消去されません。

例

```
!R! RES; UNIT P;
SDP 11, 2, 2, 5, 5;
NEWP;
UNIT C;
SPD 0.2;
PMRA 10, 10, 3, 0;
DPAT 11; PARC 10, 10, 3, 0, 360;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

DPAT

SEM

エミュレーションモードの設定

(Set Emulation Mode)

書式	SEM モード ;
パラメータ	<pre> モード 1 IBM ProprinterX24E 6 PCL 8 KC-GL (プロッタモード) 9 KPDL 11 PC-PR201/65A (日本語モード) 12 IBM5577 (日本語モード) 13 VP-1000 (日本語モード) 14 N5263/N5273 (日本語モード) 15 FMPR-359F1 (日本語モード) </pre>
説明	<p>SEM コマンドは、エミュレーションモードを変更します。設定したエミュレーションモードは、あらたに SEM コマンドで変更するか、RES コマンドによってリセットを行うまで有効です。エミュレーションを恒久的に変更するには、FRPO P1 コマンドで設定します。</p> <p>SEM コマンドは、マージンやフォントなどをそのエミュレーションでの初期値に設定するため、プログラムやファイルの先頭を書いてください。</p>
例	<pre> IR! CMNT HP PCL エミュレーションに設定 ; RES; SEM 6; EXIT; </pre>

SETF 代替フォントの設定

(SET alternate Font)

書式	SETF 代替番号, フォント番号;
パラメータ	代替番号 0 ~ 31 フォント番号 0 ~ 65535
説明	SETF コマンドは、フォントに任意の番号を割り当てます。以後そのフォントは、割り当てた番号で ALTF コマンドによって選択することができます。
例	17 ページの ALTF コマンド参照。
関連コマンド	ALTF

SFA フォント属性の設定

(Set bitmap Font Attributes)

書式	SFA hmi, vmi, F/P[回転, シンボルセット, 高さ, U/l, 太さ, 書体][フォントタイプ];		
必須パラメータ	hmi	水平移動量 (固定フォントでは、ある文字の中心から次の文字の中心までの距離。プロポーショナル・フォントでは、スペース文字の幅)	
	vmi	垂直移動量 (行間スペース)	
	F/P	F	固定スペース
		P	プロポーショナル・スペース
HP LaserJet 用	回転	0	正体
		1	右回り 90 度
		2	180 度
		3	左回り 90 度 [ページ横置きモード]
		0	正体
	シンボルセット	0 ~ 65535	
		4	ISO 60: Danish/Norwegian
		6	ISO 25: French
		7	German
		9	ISO 15; Italian
		11	ISO 14: JIS ASCII
		14	ECMA-94 Latin 1 [ISO 8859/1]
		19	ISO 11; Swedish for Names
		21	ISO 6: ASCII
		36	ISO 61; Norwegian version 2
		37	ISO 4: United Kingdom
		38	ISO 69: I French
		39	ISO 21 ; German
		51	Spanish
		53	Legal
		75	ISO 57: Chinese
		83	ISO 17:Spanish
		85	ISO 2 1RV
		115	ISO 10: Swedish
		147	ISO 16: Portuguese
		179	ISO 84: Portuguese
		211	ISO 85: Spanish
		277	Roman-8
		341	PC-8
		373	PC-8 Danish/Norwegian
		405	PC-850
	高さ	フォントの最大高さ	

U/I	U	正体
	I	イタリック体
太さ		-7(ライト) ~ +7(ボールド)
書体	0	Line Printer
	1	Pica
	2	Elite
	3	Courier
	4	Swiss 721
	5	Dutch 801
	6	Gothic
	7	Script
	8	Pret.Elite
	9	Caslon
	10	Orator
フォントタイプ	0	7ビット /96 文字 (32 ~ 127)
	1	8ビット /192 文字 (32 ~ 127 および 160 ~ 255)
	2	8ビット /256 文字 (キャラクタセット内の全文字。ただし PCL トランスペアレンシーモード使用)

説明

SFA コマンドは欧文フォントの属性を変更します。新たに SFA コマンドで変更するか、または電源を切るまでは変更された属性は有効であり、RES コマンドでもリセットされません。

SFA コマンドは必須および選択の 2 種類のパラメータ群を持っています。必須パラメータ群は、フォントの基本的な動きを調整するものです。LaserJet パラメータは、HP LaserJet 特有のフォント属性を設定します。

必須パラメータ

hmi、vmi、F/P の 3 つのパラメータは、必ず指定しなければなりません。

hmi は文字間隔を指定します。プロポーショナルフォントの場合はスペースのみ影響します。vmi は行間隔を指定します。vmi と hmi はともに、UNIT コマンドで指定された単位を使います。

F/P は固定フォントかプロポーショナル・フォントかを指定します。固定フォントには F を、プロポーショナルフォントには P を指定します。

フォント・モード (FTMD コマンド) の値が 15 のときは、上記で指定したフォント属性は全て有効となります。FTMD コマンド (113 ページ) をお読みください。

HP LaserJet パラメータ

SFA コマンドの 4 番目以降のパラメータは、LaserJet エミュレーションにおいて、エスケープシーケンスによってダウンロードフォントを選択するのに使用します。またこれらのパラメータによって、内蔵フォントの属性を変えることもできます。

回転パラメータは、縦置き（ポートレート）フォントでは0、横置き（ランドスケープ）フォントでは3にしてください。（1と2の値は使用しません。）なお、このパラメータは、フォントの回転属性の設定を行うだけで、実際に文字を回転させるものではありません。

シンボルセットは、そのフォントのコードセットの属性を設定するもので、実際に印刷の際に文字セットを変更するものではありません。

高さはUNITコマンドで指定した単位を使用します。

例

```
IR! RES; SEM 6; FTMD 15; UNIT C;
    SLM 1; STM 1;
    FONT 1; SFA 0.25, 1, F;
    FONT 2; SFA 0.15, 0.5, P;
    FONT 1; EXIT, E;
```

At these settings, in
font mode 15, font 1 is
double spaced (1 cm),
IR! FONT 2; EXIT,E;
while font 2 is automatically single
spaced (0.5 cm)with 1.5
mm spaces between words.
IR! FONT 1; EXIT;
The printer remembers
the spacing assigned
to each font.
IR! RES; EXIT;

印刷結果

```
At these settings, in

font mode 15, font 1 is

double spaced (1 cm),

while font 2 is single
spaced (0.5 cm) with 1.5
mm spaces between words.

The printer remembers

the spacing assigned

to each font.
```

SFNT フォントをフォント名で選択

(Select current FoNT by typeface)

書式 SFNT 'フォント名 [, 高さ [, フォント番号 [, シンボルセット , 長体 , 斜体]]]];

パラメータ

フォント名	フォント名を示す文字列
高さ	0.25 ~ 999.75 pt. (0.25 pt. 単位)
フォント番号	1000 ~ 65535
シンボルセット	0 ~ 65535
4	ISO 60: Danish/Norwegian (0D)
5	Roman Extension (0E)
6	ISO 25: French (0F)
7	German (0G)
9	ISO 15: Italian (0I)
11	ISO 14: JISASCII (0K)
14	ECMA-94 Latin 1 [ISO 8859/1] (0N)
19	ISO 11: Swedish for Names (0S)
21	ISO 6: ASCII (0U)
36	ISO 61: Norwegian version 2 (1D)
37	ISO 4: United Kingdom (1E)
38	ISO 69: French (1F)
39	ISO 21: German (1G)
51	Spanish (1S)
53	Legal (1U)
75	ISO 57: Chinese (2K)
83	ISO 17: Spanish (2S)
85	ISO 2 IRV (2U)
115	ISO 10: Swedish (3S)
147	ISO 16: Portuguese (4S)
173	PS Math (5M) ^a
179	ISO 84: Portuguese (5S)
202	Microsoft Publishing(6J) ^a
205	Ventura Math (6M) ^a
211	ISO 85: Spanish (6S)
234	Desktop (7J) ^a
269	Math-8 (8M) ^a
277	Roman-8 (8U)
300	Ventura ITC Zapf Dingbats (9L) ^b
309	Windows (9U) ^a
330	PS Text (10J) ^a
332	PS ITC Zapf Dingbats (10L) ^b
341	PC-8(10U)
364	ITC Zapf Dingbats 100 (11L) ^b

	373	PC-8 Danish/Norwegian (11U)
	396	ITC Zapf Dingbats 200 (12L) ^b
	405	PC-850(12U)
	426	Ventura International (13J) ^a
	428	ITC Zapf Dingbats (13L) ^b
	458	Ventura US (14J) ^a
	501	Pi Font (15U) ^a
長体		0.3 (狭い) < 1 (通常) < 3 (広い)
斜体		-1 (左斜め) < 0 (通常) < 1 (右斜め)

a. アウトラインフォントに有効

b. ITCZapfDingbats に有効

説明

SFNT コマンドは、フォント名パラメータで指定する欧文フォントを選択します。指定したフォントがアウトラインフォントの場合は、同時に文字の高さやフォント番号の割り当て、シンボルセットや長体斜体の指定を行うことができます。ビットマップフォント名を指定すると、フォント名以外のパラメータは無視されます。

フォント番号の指定は、FONT コマンドを使用してフォントの選択を行うのに使用します。アウトラインフォントの場合、指定したシンボルセットや長体斜体も、FONT コマンドで呼び出した際に有効です。SFNT コマンドによってフォント番号を付けたフォントは、フォントリスト (Internal Scalable and Bitmapped Fonts List) のユーザ定義フォントリストページ (User Defined Scalable and Bitmapped Fonts List) で確認できます。フォントリストは、FLST コマンドで印刷できます。下の例を参照してください。

図 35 ユーザ定義フォントリストの例

User Defined Scalable and Bitmapped Fonts List			
ANK Font PrintSample		Scalable/Bitmap Password	Selection
ABCDabcd01234	CGTimes	FONT_2000 ; <Scalable>	None FSET 1p##v1
ABCDabcd01234	Univers-BdCd	FONT_2001 ; <Scalable>	None FSET 1p##v4

フォント名は、フォントリスト (Internal Scalable and Bitmapped Fonts List)//+・:@に記載されているとおりに指定してください。大文字・小文字も区別されます。フォント名が正しくない場合、FLST コマンドは無視され、現在のフォントは変更されません。

フォントの高さは、UNIT コマンドによる現在の単位設定に関わらず、point を用いて指定します。高さの値が範囲外の場合、SFNT コマンドは無視されます。高さパラメータを省略すると、現在のフォント高さが使用されます。

次に異なる高さのフォント例を示します。

図 36 フォント高さ (point)



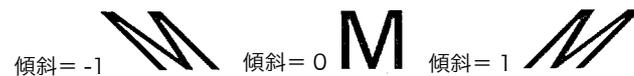
長体パラメータは、文字を水平方向に圧縮または伸張させます。1 で標準となります。

図 37 長体



斜体パラメータは、文字に傾きを与えます。正の値は文字を右に傾け、負の値は左に傾けます。0 で傾きなしの標準となります。

図 38 斜体



SFNT コマンドで行ったシンボルセットの指定や長体・斜体の指定は、他のフォント選択コマンドでフォント選択を行うまで有効です。

例

```
!R! RES; SPO P;  
SFNT 'Helvetica-Nr' , 9, 3000, 277, 2, 0.3;  
FONT 3000;  
TEXT 'This is 9-point Helvetica-Nr, with Roman-8 symbol set, ', N;  
TEXT 'compression 2, and shear 0.3. You can later recall ', N;  
TEXT 'this font by the FONT 3000; command.';  
PAGE; EXIT;
```

印刷結果

*This is 9-point Helvetica-Nr, with Roman-8 symbol set,
compression 2, and shear 0.3. You can later recall
this font by the FONT 3000; command.*

SGPC

KCGL ペンの色を設定する

(Set kcGl Pen Color)

書式

SGPC 番号, 色;

パラメータ

ペン番号	1 ~ 8
色	0 黒
	1 赤
	2 緑
	3 黄
	4 青
	5 マゼンタ
	6 シアン
	7 白

説明

SGPC コマンドは、KCGL で使用されるペン 1 ~ 8 の色を、指定された色に設定します。色パラメータはそれぞれ FRPO コマンドの G1 ~ G8 に相当します。

SIMG

イメージ・モデルを設定

(Set IMaGe model)

書式

SIMG 操作モード

パラメータ

操作モード 1～6

	ソースイメージ	パターンイメージ
1	透明	—
2	不透明	—
3	透明	透明
4	透明	不透明
5	不透明	透明
6	不透明	不透明

説明

SIMG コマンドは、ソースイメージとパターンイメージが重ねられる場合の透明・不透明を制御します。

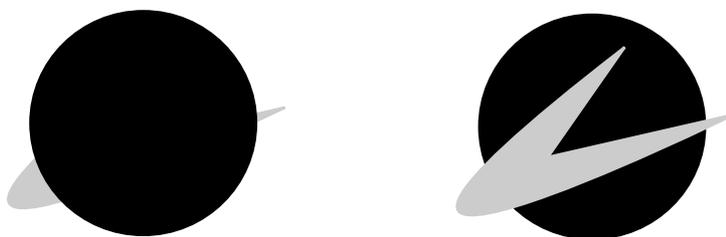
ソースイメージには、矩形領域や文字、または SIMG コマンドに続くラスターイメージが使用できます。パターンイメージには、PAT コマンドや FPAT コマンド、および GPAT コマンドが指定する塗りつぶしパターン、および階調(グレースケール)が使用できます。

操作モード 1 と 2 は、ソースイメージのみの透明または不透明を制御します。デフォルトは 1 です。操作モード 1 では、ソースイメージに白ピクセルがある場合、パターン側にはオーバーレイされません。たとえば、下の例の左側の黒い円(パターンイメージ)上には、例に見られるような矢(ソースイメージ)を描くことはできません。ソースイメージの白ピクセルをパターンイメージ側に直接重ねるには、操作モード 2 を使用します。同じく下の例の右側を参照してください。

図 39 操作モード 1 および 2

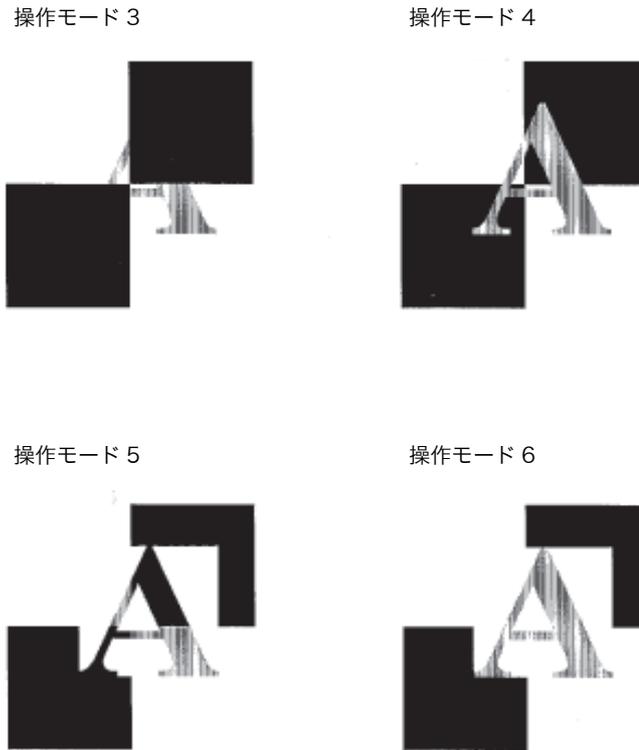
操作モード 1= ソースイメージは透明

操作モード 2= ソースイメージは不透明



以下の図は、操作モード 3～6 の効果を示したものです。この例では、文字「A」がパターンイメージでオーバーレイされたソースイメージを表し、2つの矩形が重ね先のイメージとなります。

図 40 操作モード 3～6



以下に各操作モードについて説明します。

操作モード 3

ソースイメージとパターンイメージとも透明です。例では、ソースイメージは透明ですから、文字「A」はパターンで埋められ、重ね先の 2 つの矩形に重ねられます。

操作モード 4

ソースイメージが透明で、パターンイメージは不透明です。パターンの白ピクセルが文字「A」の形で重ね先のイメージに重ねられます。

操作モード 5

ソースイメージが不透明で、パターンイメージは透明です。矩形に囲まれたソースイメージ(文字「A」)は重ね先イメージに重ねられます。パターンイメージは、白ピクセルでおおわれた重ね先イメージの領域のみを塗りつぶします。文字「A」は、相対する 4 分の 1 だけパターンで埋められることに注意してください。

操作モード 6

ソースイメージとパターンイメージも両方とも不透明です。文字「A」全体がパターンで埋められ、完全なソースイメージが重ね先イメージに重ねられます。

例

```
IR! RES; UNIT C;  
NEWP; SIMG 4;  
PMZP 5, 5;  
PMRP 2, 2;  
PDRP 0, -2, 2, 0, 0, 2, -2, 0, -2, 0, 0, 2, 2, 0, 0, -2;  
FILL 1;  
CSET 19K; TPRS 1; FSET 1p90v0s0b28825T;  
PMRP -3, 1.2;  
GPAT 0.6;  
TEXT 'あ';  
FILL 1;  
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



SIMP シンプルカラーパレットの作成

(creates SIMPle color palette)

書式	SIMP パレット;
パラメータ	パレット 1 モノクロパレット (デフォルト) 3 RGB パレット
説明	<p>SIMP コマンドは、システムによってあらかじめ定義されたパレットを作成します。</p> <p>パレットはモノクロおよび RGB による 8 色パレットです。デフォルトはモノクロパレットです。これらのパレットに新たに色を割り当てることはできません。</p> <p>パレットの色の指定は、SCOL コマンドで行います。各パレットによって指定可能な色と SCOL のパラメータは下記のとおりです。</p> <p>モノクロパレット (1)</p> <p>SCOL 0; 白 SCOL 1; 黒</p> <p>RGB パレット (3)</p> <p>SCOL 0; 黒 SCOL 1; 赤 SCOL 2; 緑 SCOL 3; 黄 SCOL 4; 青 SCOL 5; マゼンタ SCOL 6; シアン SCOL 7; 白</p>
例	<pre> !R! RES; UNIT C; NEWP; SIMG 4; PMZP 5, 5; PMRP 2, 2; PDRP 0, -2, 2, 0, 0, 2, -2, 0, -2, 0, 0, 2, 2, 0, 0, -2; FILL 1; CSET 19K; TPRS 1; FSET 1p90v0s0b28825T; SIMP 3; SCOL 1; PMRP -3, 1.2; GPAT 0.6; TEXT ' あ '; FILL 1; PAGE; EXIT; </pre>

印刷結果



SIR

KIR の設定

(Set Image Refinement level)

書式

SIR モード;

パラメータ

モード	0	オフ
	2	オン

説明

SIR コマンドは、KIR (Kyocera Image Refinement) 機能のオンまたはオフを行います。

KIR は初期設定ではオン (2) になっています。設定したモードは、新たにモードを設定するか、RES コマンドを受信するまで有効です。

例

!R! SIR 0; EXIT;

SKCS

文字間隔の設定

(Set Kanji Character Space)

書式	SKCS 水平移動量, 垂直移動量;
パラメータ	水平移動量 横書き時の文字間隔 垂直移動量 縦書き時の文字間隔
説明	<p>SKCS コマンドは、文字間隔を一時的に変更します。文字間隔は、文字から文字への移動量で指定し、UNIT コマンドで指定した単位に従います。このコマンドによる変更は、RES コマンドで標準にもどります。</p> <p>水平移動量は横書き時、垂直移動量は縦書き時の文字間隔を指定しますが、パラメータとしては両方を指定する必要があります。</p> <p>下の例では、文字の開始位置は 40 ドット移動した位置になります。</p>
例	<pre>IR! SEM 12; CMNT IBM エミュレーション; EXIT, E;</pre> <p>デフォルトでの文字間隔です。 下の例とくらべてみてください。</p> <pre>IR! UNIT D; SKCS 40, 40; EXIT, E;</pre> <p>文字間隔を 40 ドットに詰めました。 自然な感じを受けます。</p> <pre>IR! SKCS 60, 60; EXIT, E;</pre> <p>今度は 60 ドットに広げました。 IR! RES; EXIT;</p>
印刷結果	<p>デフォルトでの文字間隔です。 下の例とくらべてみてください。 文字間隔を 40 ドットに詰めました。 自然な感じを受けます。 今度は 60 ドットに広げました。</p>

SKFT

フォント名による漢字アウトラインフォントの選択

(Select Kanji Font by Typeface)

書式

SKFT 'フォント名 [, 高さ [, 長体, 斜体]];

パラメータ

フォント名	フォント名を示す文字列
高さ	0.25 ~ 999.75 pt. (0.25 pt. 単位)
長体	0.3 (狭い) < 1 (通常) < 3 (広い)
傾き	-1 (左斜め) < 0 (通常) < 1 (右斜め)

説明

SKFT コマンドは、フォント名パラメータで指定する漢字アウトラインフォントを選択します。同時に文字の高さや長体・斜体の指定を行うことができます。

文字の高さは、UNIT コマンドによる現在の単位設定に関わらず、point を用いて指定します。高さが範囲外の場合、SFNT コマンドは無視されます。

フォント名はフォントリスト (Internal Scalable and Bitmapped Font List) で確認できます。フォント名は、フォントリストに記載されているとおりに指定してください。大文字・小文字も区別されます。フォント名が正しくない場合、SKFT コマンドは無視され、現在の漢字フォントは変更されません。

文字の高さは、現在のプリントシステムの単位設定に関らずポイントで指定します。ポイントの指定が範囲外 (0.25 ~ 999.75 ポイント) であったり、省略した場合は現在設定されているポイントになります。

長体パラメータは、文字を水平方向へ縮小または拡大します。標準を 1 とし、0.3 ~ 3 までの値で指定します。次の例を参照してください。

図 41 長体



斜体パラメータは文字を傾斜させます。標準を 0 とし、-1 ~ 1 までの範囲で、負の値を指定すると左方向に、正の値を指定すると右方向に傾斜します。次の例を参照してください。

図 42 斜体

斜体 = -1

斜体 = 0 (標準)

斜体 = 1

例

```
IR! SEM 12; CMNT IBM エミュレーション; UNIT P;
SKCS 12,12; SLS 18;
SKFT 'DFHSMINCHO-W3', 12, 2, 0.5;
EXIT;
```

これは 12 ポイントの
明朝体ですが、圧縮を 2、
文字の傾斜を 0.5 に
設定しています。

```
IR! PAGE; EXIT;
```

印刷結果

これは 12 ポイントの
明朝体ですが、圧縮を 2、
文字の傾斜を 0.5 に
設定しています。

SLJN

線結合タイプ

(Set Line JoiN)

書式

SLJN 線結合タイプ;

パラメータ

線結合タイプ	1	ベベル結合
	2	マイター結合
	3	ラウンド結合
	4	ノッチ結合

説明

SLJN コマンドは、線パスの結合タイプを選択します。初期設定はベベル結合 (1) です。

ベベル結合は、結合される線の端が直角になるバット線端とし、間を三角形で埋めます。結合部は角を切り落とした形になります。バット線端については、250 ページの SCAP コマンドを参照してください。

マイター結合は、結合した角が尖った形になります。マイターは、SMLT コマンドによるマイター限界値の設定によって、マイター結合からベベル結合に切り換わる比率を制御できます。くわしくは、293 ページの SMLT コマンドを参照してください。

ラウンド結合は、線幅と等しい直径の円で線を結合し、角が丸い形になります。

ノッチ結合は、ベベル結合同様にバット線端として線を結合し、刻み目を残したままの形になります。

図 43 各線結合タイプ

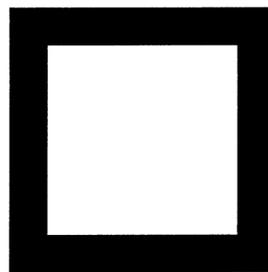
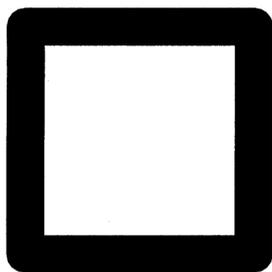


例

```
!R! RES; UNIT C;
NEWP;
SPD 0.5;
SCAP 3; CMNT 上左角は丸終端;
SLJN 3; CMNT 他の角はラウンド結合;
PMZP 5, 16.5;
PDRP 3, 0, 0, 3, -3, 0, 0, -3;
STRK;
NEWP;
SCAP 1; CMNT 上左角は角終端;
```

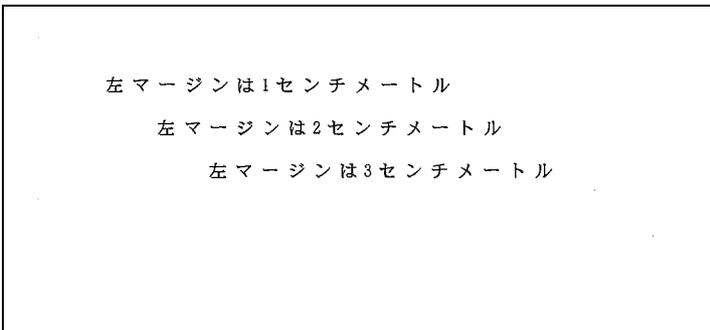
```
SLJN 2; CMNT 他の角はマイタード結合;  
PMZP 11, 16.5;  
PDRP 3, 0, 0, 3, -3, 0, 0, -3;  
STRK;  
PAGE;  
EXIT;
```

印刷結果



SLM 左マージンの設定

(Set Left Margin)

書式	SLM 距離 ;
パラメータ	距離 左マージンの長さ
説明	<p>SLM コマンドは、UNIT コマンドで指定する単位によって、用紙の印刷領域の左端からの距離で、左マージンを設定します。</p> <p>左マージンの位置が現在のカーソル位置より右に移動した場合には、カーソルは新たなマージン内に移動します。</p>
例	<pre>!R! SEM 12; CMNT IBM エミュレーション; UNIT C; SLM 1; EXIT; 左マージンは 1 センチメートル !R! SLM 2; EXIT; 左マージンは 2 センチメートル !R! SLM 3; EXIT; 左マージンは 3 センチメートル !R! RES; EXIT;</pre>
印刷結果	 <p>左マージンは1センチメートル 左マージンは2センチメートル 左マージンは3センチメートル</p>

SLPI

1 インチあたり行数の設定

(Set Lines Per Inch)

書式	SLPI 行数;
パラメータ	行数 インチあたりの行数
説明	SLPI コマンドは、1 インチあたりの行数を設定します。単位は UNIT コマンドに関係なく、インチが使われます。
例	<pre>IR! SEM 12; CMNT IBM エミュレーション; EXIT;</pre> <p>この 3 行は、初期設定 で、1 インチ当たり 6 行に設定しています。</p> <pre>IR! SLPI 2; EXIT;</pre> <p>この 3 行は、1 イン チ当たり 2 行に設定 してあります。</p> <pre>IR! RES; EXIT;</pre>

印刷結果

この 3 行は、初期設定
で、1 インチ当たり 6
行に設定しています。

この 3 行は、1 イン
チ当たり 2 行に設定
してあります。

関連コマンド SLPP、SLS

SLPP 1 ページあたり行数の設定

(Set Lines Per Page)

書式	SLPP 行数;
パラメータ	行数 1 ページあたりの行数
説明	<p>SLPP コマンドは、現在設定されている行間隔で、1 ページあたりの行数を設定します。</p> <p>行間隔を変更したり、カーソルを移動させるコマンドを使用しない限り、設定した 1 ページあたりの行数は変わりません。通常の下マージンの設定には、SBM や SPL コマンドを使用します。</p> <p>文書ファイル内での SLPP コマンドは、文書の先頭や改ページ後に書いてください。</p> <p>日本語エミュレーションで、行間隔を 1/6 インチ以下に設定すると、SLPP コマンドで設定したページあたり行数より、印刷可能な行数は少なくなります。</p>
例	<pre>!R! SEM 12; UNIT C; STM 1; SLS 1; SLPP 10; EXIT, E; 上マージン = 1 センチ、ページあたり 10 行に設定。 2 行目 3 行目 4 行目 5 行目 6 行目 7 行目 8 行目 9 行目 10 行目 11 行目 12 行目 !R! RES; EXIT;</pre>

印刷結果

上マージン=1センチ、ページあたり10行に設定。	
2行目	
3行目	
4行目	11行目
5行目	12行目
6行目	
7行目	
8行目	
9行目	
10行目	

関連コマンド

SLPI、SLS

SLS

行間隔の設定

(Set Line Spacing)

書式	SLS 距離;
パラメータ	距離 行間隔
説明	SLS コマンドは、行の下端から次の行の下端までの距離を設定します。単位は UNIT コマンドで指定します。
例	<pre>!R! RES; SEM 6; UNIT C; TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p10v0s0b28752T; EXIT,E; この3行は初期設定により、 1インチあたり6行(0.423 センチピッチ)になってい ます。 !R! SLS 0.6; EXIT,E; この3行は、0.6 センチピッチに設 定しています。 !R! RES; EXIT;</pre>

印刷結果

```
この3行は初期設定により、
1インチあたり6行(0.423
センチピッチ)になってい
ます。
この3行は、0.6
センチピッチに設
定しています。
```

関連コマンド SLPi、SLPP

SMLT

マイター限界の設定

(Set Miter Limit)

書式

SMLT 限界値 ;

パラメータ

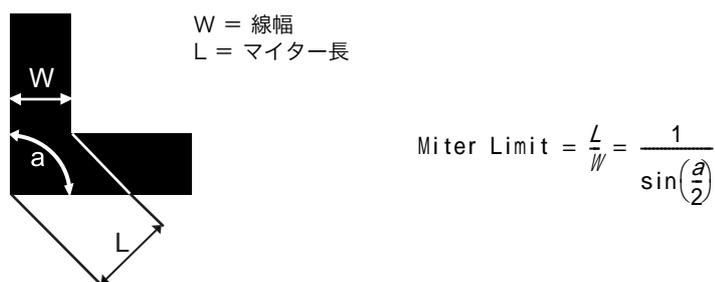
限界値 線パスが結合点を通過する長さの線幅に対する比率(説明参照)。
デフォルトは 10

説明

SMLT コマンドは、2つの線パスを結合する際のマイター結合が、自動的にベベル結合に切り換わるマイター限界値を設定します。線結合に関しては、286ページのSLJNコマンドの説明を参照してください。

マイター限界値は、2つの線パスの結合点を通過するマイター長と線幅の最大比率です。マイター限界値は次の式で求めます。

図 44 限界値



デフォルトのマイター限界値は 10 です。このマイター限界値では、次の例のように、2つの線パスが小さな角度でマイター結合される場合、角が非常に尖った形になります。このような場合に、限界値を小さくすることで自動的に線分をベベル結合で結合することができ、角の見栄えを調整することが可能です。

図 45 マイター結合とベベル結合の自動切換え

マイター限界 = 10



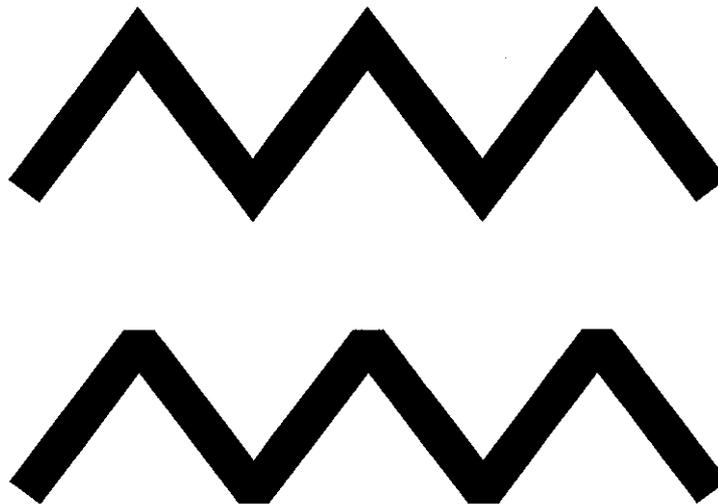
マイター限界 = 3



例

```
!R! RES; UNIT C;  
NEWP;  
PMZP 5, 15;  
SPD 0.5;  
SLJN 2; CMNT マイター結合 ;  
PDRP 1.5, -2, 1.5, 2, 1.5, -2, 1.5, 2, 1.5, -2, 1.5, 2;  
SMLT 10 ; CMNT マイター限界値 10;  
STRK;  
  
NEWP;  
PMZP 5, 19;  
SPD 0.5;  
SLJN 2; CMNT マイター結合 ;  
PDRP 1.5, -2, 1.5, 2, 1.5, -2, 1.5, 2, 1.5, -2, 1.5, 2;  
SMLT 1; CMNT マイター限界値 1;  
STRK;  
  
PAGE;  
EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

SLJN

SPAL

パレットの選択

(Select PALette)

書式	SPAL パレット番号;
パラメータ	パレット番号 0 ~ 32767 (デフォルトは 0)
説明	<p>SPAL コマンドは、作成されているパレット群の中からパレットを選択し、アクティブにします。指定した番号のパレットが存在しない場合、このコマンドは無視されます。</p> <p>指定したパレット番号のパレットがアクティブである場合に、パレットを作成するコマンドを受信すると、そのアクティブなパレットは削除されます。その際、アクティブなパレットのパレット番号は変わりません。</p> <p>RES コマンドを発行すると、デフォルトのパレット以外の全てのパレットが削除されます。</p>
例	15 ページの ACLI コマンドを参照。

SPD

ペンの太さ

(Set Pen Diameter)

書式

SPD 太さ ;

パラメータ

直径 線の太さ (直径)

説明

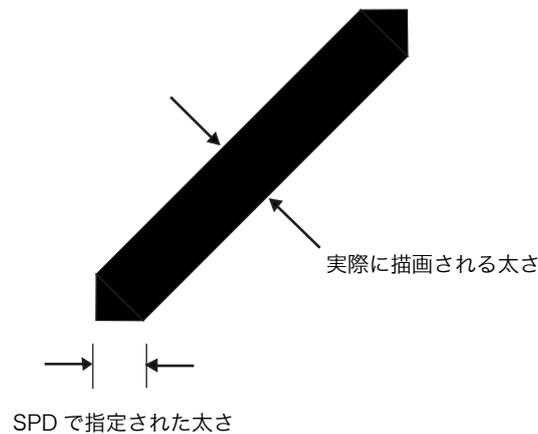
SPD コマンドは、線の太さを設定します。単位は UNIT コマンドに従います。

パスグラフィックモードでは、線の太さの最大 4200 ドット (14 インチまたは 35.56 cm)、ベクトルグラフィックモードでは、127 ドット (0.42 インチまたは 1.08 cm) です。最小の太さはいずれのモードとも 1 ドット (約 0.0033 インチまたは 0.01 cm) です。小数値を指定すると、最も近い整数値に丸めます。

SPD コマンドは、BOX、CIR、DAP、DRP、DRPA、DZP、および PIE の各コマンドで描画されるグラフィックセグメントに有効です。また、線の幅およびパスとしてストロークされた曲線セグメントなどにも影響をおよぼします。

DRP などのベクトルグラフィックコマンドで斜線を描くと、SPD コマンドで指定した太さよりも太くなります。この効果は次の図のように、45° の角度を持つ斜線でもっとも顕著となります。パスモードグラフィックの場合は、斜線は SPD で指定したとおりの太さに保たれるように自動的に調整されます。

図 46 ベクトルグラフィックでの斜線の太り



例

```
!R! RES; UNIT C; STM 2; SLM 2;SLS 0.6;
SFNT "Helvetica-Nr";
SPD 0.01; DRP 5, 0; TEXT ' 0.01 cm',N;
SPD 0.02; DRP 5, 0; TEXT ' 0.02 cm',N;
SPD 0.05; DRP 5, 0; TEXT ' 0.05 cm',N;
SPD 0.1; DRP 5, 0; TEXT ' 0.1 cm',N;
SPD 0.2; DRP 5, 0; TEXT ' 0.2 cm',N;
PAGE; EXIT;
```

印刷結果



SPL

ページ長さの設定

(Set Page Length)

書式	SPL 長さ;
パラメータ	長さ 上マージンから下マージンまでの距離
説明	SPL コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、上マージンから下マージンまでの距離によって、ページ長さを設定します。 下マージンより下に印刷を行うと、文字は次のページに印刷されます。 SPL コマンドは、ファイルの先頭か改ページ後に書いてください。
例	!R! RES; UNIT C;STM 1; SLS 1; SPL 8;TPRS 1;CSET 19K; EXIT, E; 上マージン= 1 センチ、ページ長さ= 8 センチ。 2 行目 3 行目 4 行目 5 行目 6 行目 7 行目 8 行目 9 行目 10 行目 11 行目 12 行目 !R! RES; EXIT;

印刷結果

上マージン=1センチ、ページ長さ=8センチ。	
2行目	
3行目	
4行目	9行目
5行目	10行目
6行目	11行目
7行目	12行目
8行目	

関連コマンド

SBM

SPO ページ方向の設定

(Set Page Orientation)

書式

SPO 方向;

パラメータ

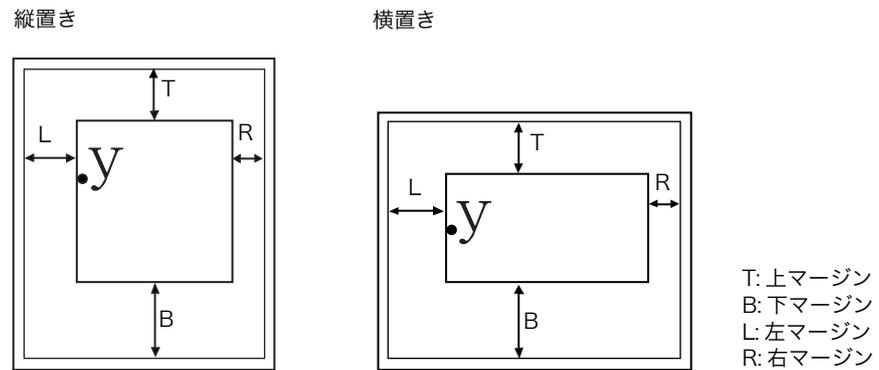
方向 P 縦置き (ポートレート)
L 横置き (ランドスケープ)

説明

SPO コマンドは、用紙の長辺を垂直方向 (縦置き) として印刷するか、水平方向 (横置き) として印刷するかを設定します。

SPO コマンドによって印刷方向を変更すると、用紙の印刷可能領域からの距離が縦置きと横置きで同一になるように、各マージンが自動的に設定されます。

図 47 縦置きと横置き時のマージン関係

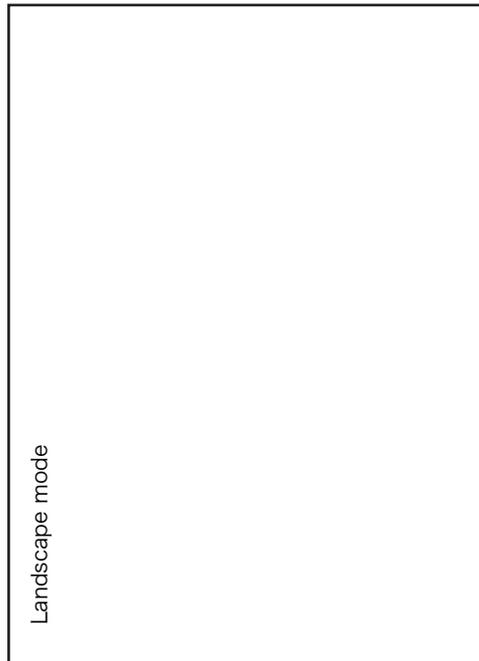


縦置き・横置きを変更した結果、マージンが大きくなり過ぎる場合、たとえば縦置き時の上マージンが紙幅より大きいときには、横置きに切替えると上マージン値は 0 になります。

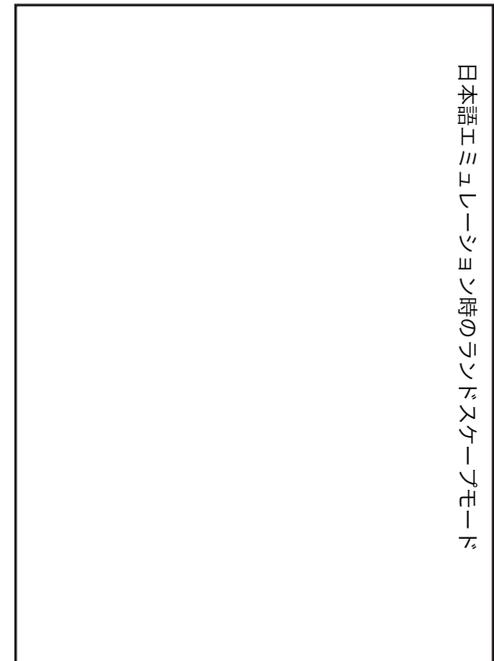
横置きの場合、日本語エミュレーションと英語エミュレーションでは、次のように印刷結果が異なります。

図 48 横置き時の英語エミュレーションと日本語エミュレーション

英語エミュレーション時



日本語エミュレーション時



ページの縦置き横置きは、例に示すようにページの途中で変更することができます。

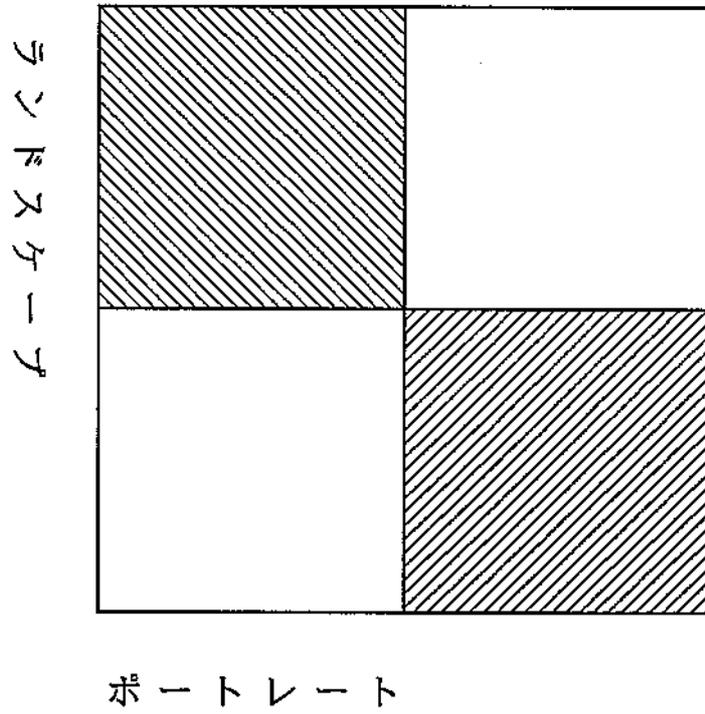
例

```

!R! CMNT 用紙は A4 を使用 ;
RES;
SEM 12;
PAT 19;
UNIT C;
MZP 4, 10; BOX 6, -6;
MZP 7, 10; BOX 3, -3; BLK 3, -3;
MZP 4, 10.9; TEXT 'ポートレート';
SPO L; CMNT ランドスケープ;
MZP 4, 13; BOX 3,3; BLK 3, 3;
MZP 4.2, 16.8; TEXT 'ランドスケープ';
RES; EXIT;

```

印刷結果



SPSZ

用紙サイズの設定

(Set Paper SiZe)

書式	SPSZ サイズ [, 拡大縮小率] ;		
パラメータ	サイズ	0	カセットサイズ
		1	モナーク (3-7/8×7-1/2 inch)
		2	ビジネス (4-1/8×9-1/2 inch)
		3	インターナショナル DL (11×22 cm)
		4	インターナショナル C5 (16.2×22.9 cm)
		5	エグゼクティブ (7-1/4×10-1/2 inch)
		6	レター (8-1/2×11 inch)
		7	リーガル (8-1/2×14 inch)
		8	A4 (21×29.7 cm)
		9	B5 (18.2×25.7 cm)
		10	A3 (29.7×42.0 cm)
		11	B4 (25.7×36.4 cm)
		12	レジャー (11×17 inch)
		13	A5 (14.8×21 cm)
		14	A6 (10.5×14.8 cm)
		15	B6 (12.8×18.2 cm)
		16	COM9 (3.875×8.875 inch)
		17	COM6 (3.625×6.5 inch)
		18	International B5 (17.6×25.0 cm)
		19	CUSTOM (8.5×14 inch)
		20	B4 → A4 縮小
		21	A3 → A4 縮小
		22	A4 → A4 98% 縮小
		23	ストックフォーム → A4 縮小
		24	ストックフォーム → B4 縮小
		30	C4 (22.9×32.4 cm)
		31	ハガキ (10.0×14.8 cm)
		32	往復ハガキ (14.8×20 cm)
		33	Oficio II (8.5×13 inch)
		36	A3 ワイド (31.0×43.3 cm)
		37	レジャーワイド (31.0×44.0 cm)
		38	12×18 (12×18 inch)
		39	8 開 (27.3×39.4 cm)
		40	16 開 (19.7×27.3 cm)
		50	Statement (5.5×8.5 inch)
		51	Folio (21.0×33.0 cm)
		52	洋形 2 号 (11.4×16.2 cm)
		53	洋形 4 号 (10.5×23.5 cm)
	拡大縮小率	0	100% [カセットのサイズ → カセットのサイズ]

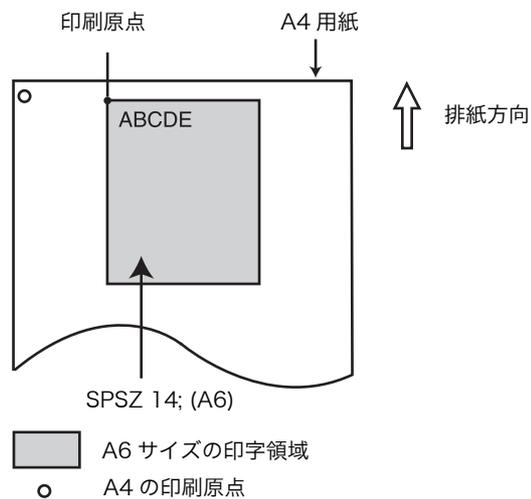
5	70% [A3 → A4] [B4 → B5]
6	81% [B4 → A4]
7	86% [A4 → B5]
8	94% [A4 → レター]
9	98% [A4 → A4 98%]

説明

SPSZ コマンドは、用紙サイズを設定します。プリントシステムは設定された用紙サイズにしたがって印刷開始位置を決め、要求されたマージンの設定を行います。初期状態では、用紙サイズは自動的に給紙カセットに設定されている用紙サイズと同じです。したがって給紙カセットから給紙を行う場合には、SPSZ コマンドを使用する必要はありません。

カセット内にある用紙のサイズが SPSZ コマンドで設定した用紙サイズと異なると、カセット内の用紙の中央から振り分ける形で、設定した用紙サイズの範囲で印刷されます。下の図を参照してください。

図 49 用紙と印刷原点



拡大縮小率パラメータを指定すると、サイズパラメータで設定した用紙サイズの領域を拡大または縮小することができます。たとえば、A4 用紙サイズ (8) を B5 用紙に縮小印刷するには、86% 縮小 (7) することが必要です。コマンドは次のとおりです。

SPSZ 8, 7;

この例では B5 の用紙が入った給紙カセットが、プリントシステムに装着されていることが必要です。

MP トレイの用紙サイズ

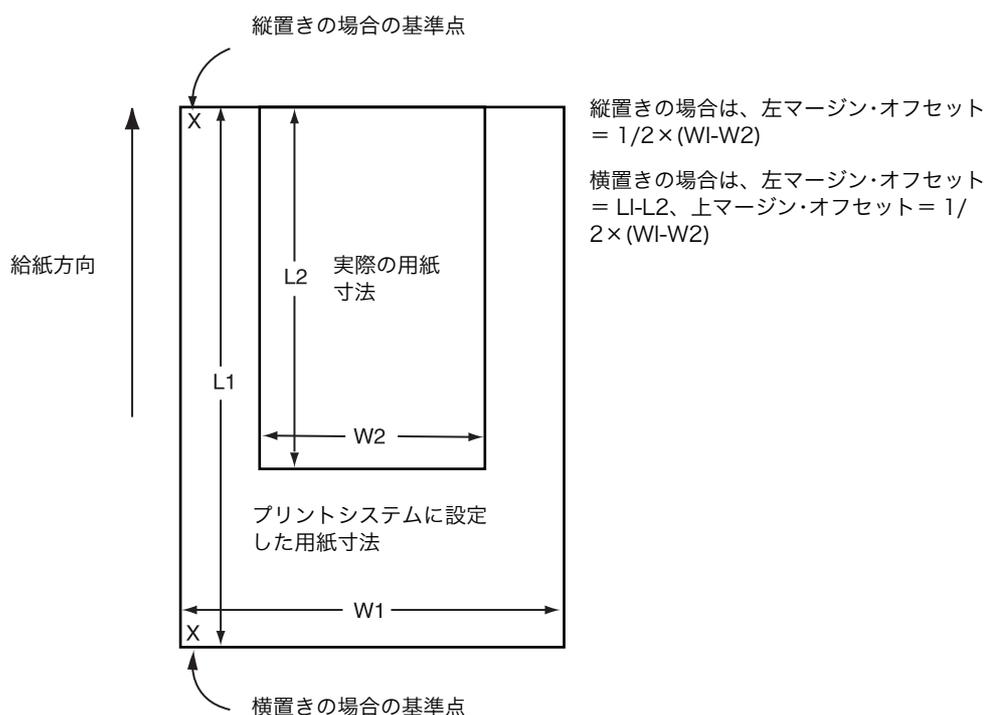
プリントシステムは PSRC 0; コマンドを受信すると、MP トレイ給紙モードになります。MP トレイから給紙を行う場合も、SPSZ コマンドで用紙サイズを設

定できます (303 ページの表参照)。また、FRPO R7(手差し用紙サイズの設定) コマンドで、電源投入時の用紙のサイズを設定することもできます。FRPO R7 の初期設定値は 0(A4 サイズ [A3 プリントシステムは A3 サイズ]) です。

いずれの場合も実際に印刷される領域は、指定した用紙サイズよりも縦横ともに 1 cm 小さくなります。これは、印刷領域が紙の縦横端から 5 mm 内側になっているためです。使用する用紙サイズが 303 ページの表中のいずれのサイズにも合わない場合には、少し大きめのサイズを選んで、マージンで調整してください (SBM、SLM、SRM、STM コマンドなどを参照)。

給紙する用紙がプリントシステムの設定よりも小さいときには、マージンを調整する必要があります。用紙が縦置きの場合には、左マージンを増やします。横置きでは、上マージンと左マージンの両方を増やしてください。次の図は、プリントシステムの設定と実際の用紙の関係、および、マージンの計算例です。

図 50 用紙サイズとマージン



SPW

ページ幅の設定

(Set Page Width)

書式	SPW 幅;
パラメータ	幅 左マージンから右マージンまでのページ幅
説明	<p>SPW コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、左マージンから右マージンまでの距離でページ幅を設定します。</p> <p>ページ幅の右端（右マージン）を越えて印刷しようとする、エミュレーションモードによって、次の行に文字を印刷する場合と、全く印刷を行わない場合があります。</p>
例	<pre>!R! SEM 12; UNIT C; SLM 1; TPRS 1; CSET 19K; SPW 10; EXIT; 左マージン= 1 センチ、ページ幅= 10 センチ。 !R! SPW 6; EXIT; 左マージン= 1 センチ、ページ幅= 6 センチ。 !R! SPW 4; EXIT; 左マージン= 1 センチ、ページ幅= 4 センチ。 !R! RES; EXIT;</pre>

印刷結果

左マージン=1センチ、ページ幅=10センチ。

左マージン=1センチ、ページ幅=6センチ。

左マージン=1センチ、ページ幅=4センチ。

関連コマンド SRM

SRM

右マージンの設定

(Set Right Margin)

書式	SRM 距離;
パラメータ	距離 右マージンの長さ
説明	<p>SRM コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって、用紙の印刷領域の左端からの距離で、右マージンを設定します。</p> <p>右マージンを越えて印刷しようとする、エミュレーションモードによって次の行に文字を印刷する場合と、印刷を行わない場合があります。</p> <p>右マージンの設定は SPW コマンドでも設定できます。SPW コマンドは左マージン位置から右マージン位置までの距離でページ幅を設定します。</p>
例	<pre>!R! SEM 12; UNIT C; SLM 1;TPRS 1;CSET 19K; CMNT PC-PR201/65A エミュレーション; SRM 11; EXIT; 左マージン= 1 センチ、右マージン= 11 センチ。 !R! SRM 7; EXIT; 左マージン= 1 センチ、右マージン= 7 センチ。 !R! SRM 5; EXIT; 左マージン= 1 センチ、右マージン= 5 センチ。 !R! RES; EXIT;</pre>

印刷結果

```
左マージン = 1 センチ、右マージン = 11 センチ。
```

```
左マージン = 1 センチ、右マージン = 7 センチ。
```

```
左マージン = 1 センチ、右マージン = 5 センチ。
```

関連コマンド

SPW

SRO ラスタ領域の設定

(Set Raster Options)

書式	SRO モード [, 幅 , 高さ] ;
パラメータ	モード プレゼンテーションモード : 0 物理ラスタ方向 1 論理ページ方向 幅 ラスタ領域の幅 : 1 ~ 4200 dots 高さ ラスタ領域の高さ : 1 ~ 4200 dots

説明 SRO コマンドは、プレゼンテーションモードを指定し、現在のカーソル位置を左上端として、指定した幅と高さのラスタ領域を定義します。プレゼンテーションモードは、ラスタデータの走査方向を決定し、領域方向が物理ラスタ方向であるか、論理ページ方向（現在のページオリエンテーション）であるかを指定します。

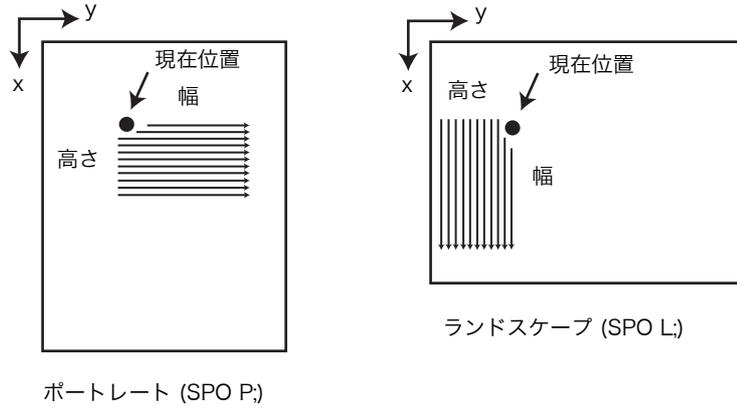
このコマンドによってラスタ領域が定義されると、RVRD コマンドで送られてくるラスタデータが、この領域内に作図されます。ラスタデータがラスタ領域の幅方向を超える場合、超えた部分はドット単位で削除されます。

1 ラスタデータを作図すると、現在位置が 1 解像度分下がります。すなわち、300dpi のときは 1 ドット、150dpi のときは 2 ドット、100dpi のときは 3 ドット、75dpi のときは 4 ドット下がります。

ラスタ領域にラスタデータを描画中 (RVRD コマンドから ENDR コマンドまでの間) は、カーソル移動のコマンドは無効となります。

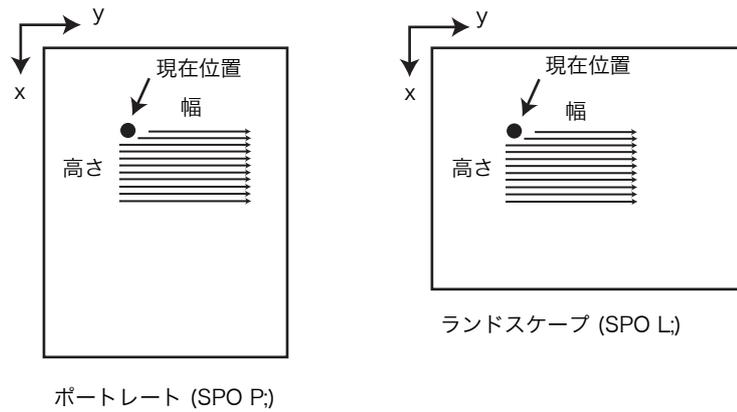
プレゼンテーションモードが物理ラスタ方向 (0) の場合、ラスタデータの走査方向は、物理的なラスタの走査方向と一致します。現在のカーソル位置は、現在のページオリエンテーション座標系で表わされます。

図 51 物理ラスタ方向 (0)



プレゼンテーションモードが論理方向(1)の場合、ラスタデータの走査方向は、ページオリエンテーション座標系の x 方向です。現在のカーソル位置は、現在のページオリエンテーション座標系で表わされます。

図 52 論理ラスタ方向



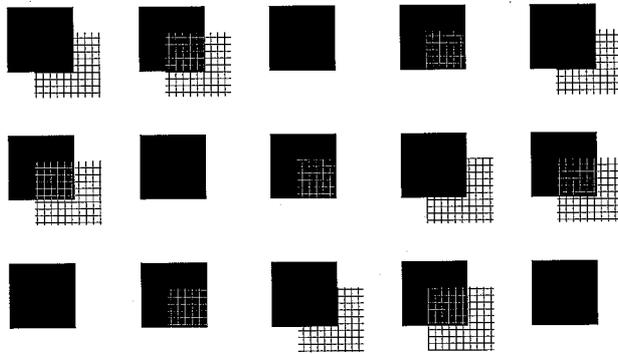
SROP ラスタオペレーションの設定

(Set Raster OPeration)

書式	SROP 値;
パラメータ	値 0 ~ 255(ROP 3 の値)
説明	<p>SROP コマンドは SIMG コマンドとの組み合わせで、ラスタ描画オペレーションを設定します。この機能は、HP LaserJet でサポートされている ROP 3 の互換です。</p> <p>RES および FRPO INIT コマンドで、初期値 (252) に戻ります。</p> <p>SROP コマンドの設定は、DAP、DRP、DRRP、DZP、BOX、BLK、CIR、ARC および PIE コマンドには無効です。また、ドットプリンタエミュレーション (IBM Proprinter X24E、VP-1000、PC-PR201/65A、FMPR-359F1) でサポートしているイメージデータにも無効です。</p>
例	<pre> !R! DAM; RES; MCRO DBOX; NEWP; PMRP 0,0; PDRP 0.5,0; PDRP 0,0.5; PDRP -0.5,0; CLSP; SROP 252; GPAT 0; FILL; NEWP; PMRP 0.2,0.2; PDRP 0.5,0; PDRP 0,0.5; PDRP -0.5,0; CLSP; SROP %1; PAT 25; FILL; MRP 0.8,-0.2; ENDM; MCRO TROP; MZP 0,2; CALL DBOX,0; CALL DBOX,1; CALL DBOX,2; CALL DBOX,3; CALL DBOX,4; MZP 0,3; CALL DBOX,5; CALL DBOX,6; CALL DBOX,7; </pre>

```
CALL DBOX,8;  
CALL DBOX,9;  
MZF 0,4;  
CALL DBOX,10;  
CALL DBOX,11;  
CALL DBOX,12;  
CALL DBOX,13;  
CALL DBOX,14;  
ENDM;  
  
CALL TROP;  
PAGE; RES; EXIT;
```

印刷結果



SSTK ソータトレイを選択

(select Sorter STacker)

書式	SSTK [トレイ, トレイ, ...] ;
パラメータ	トレイ トレイ番号
説明	<p>SSTK コマンドは、印刷された用紙を指定したソータのトレイに排紙します。ソータが装着されていないと、SSTK コマンドは無視されます。</p> <p>パラメータを省略すると、先頭の n 個のトレイが使用されます。n は印刷枚数であり、ソータが持つトレイの数以下となります。トレイのパラメータを省略する場合は、COPY コマンドで印刷枚数を設定します。トレイを指定する場合は、COPY コマンドは不要です。</p> <p>トレイ番号を 0 にすると、ソータのバルクトレイに排紙します。</p> <p>ソータに印刷出力できる最大部数は、トレイ数と同値です。トレイが収納できる最大枚数は、ソータのモデルごとに異なります。この最大枚数を超えるページはソータのバルクトレイに排紙されます。バルクトレイが満杯になるとプリントシステムは停止し、警告メッセージが表示されます。ユーザがソータ内の用紙を全て取り除くと、印刷を再開します。</p> <p>SSTK コマンドが実行されたときにソータ内にすでに紙がある場合、プリントシステムはオフラインになります。SSTK コマンドは、ファイルまたはプログラムの先頭に記入してください。</p>
例	<pre>!R! RES; TPRS 1; CSET 19K; FSET 1p12v0s0b2885T; SSTK 1, 3, 5; EXIT;</pre> <p>このファイルは 3 部出力されます。 トレイ 1、3、5 に排紙されます。</p> <pre>!R! PAGE; EXIT;</pre> <p>トレイパラメータが省略されると (SSTK; COPY 3;), トレイ 1、2、3 に出力されます。</p> <pre>!R! PAGE; EXIT;</pre>

STAK

排紙トレイの選択

(select paper STAcKer)

書式	STAK	トレイ;
パラメータ	トレイ	1 フェイスダウン(下向き排紙)トレイ 2 フェイスアップ(上向き排紙)トレイ 3 スタッカのフェイスダウントレイ 51 メールボックスのフェイスアップトレイ 52 メールボックスのフェイスダウントレイ 61 ジョブセパレータ(またはDF-610 サブトレイ)のフェイスダウントレイ 62 DF-610 サブトレイのフェイスアップトレイ

説明 STAK コマンドは、印刷された用紙を選択された排紙トレイに排紙します。選択された排紙トレイは、あらたに STAK コマンドで排紙先を変更するまで有効です。

プリントシステムにソータを装着している場合は、トレイパラメータに 3 を指定することで、ソータに排紙できます。ソータは印刷面を下にして排紙します。詳しくはソータの説明書を参照してください。

例 IR! STAK 2; EXIT;
第 1 ページは、フェイスアップ・トレイに排紙されます。

IR! STAK 1; EXIT;
第 2 ページは、フェイスダウン・トレイに排紙されます。

IR! RES; EXIT;

印刷結果

第 1 ページは、フェイスアップ・トレイに排紙されます。

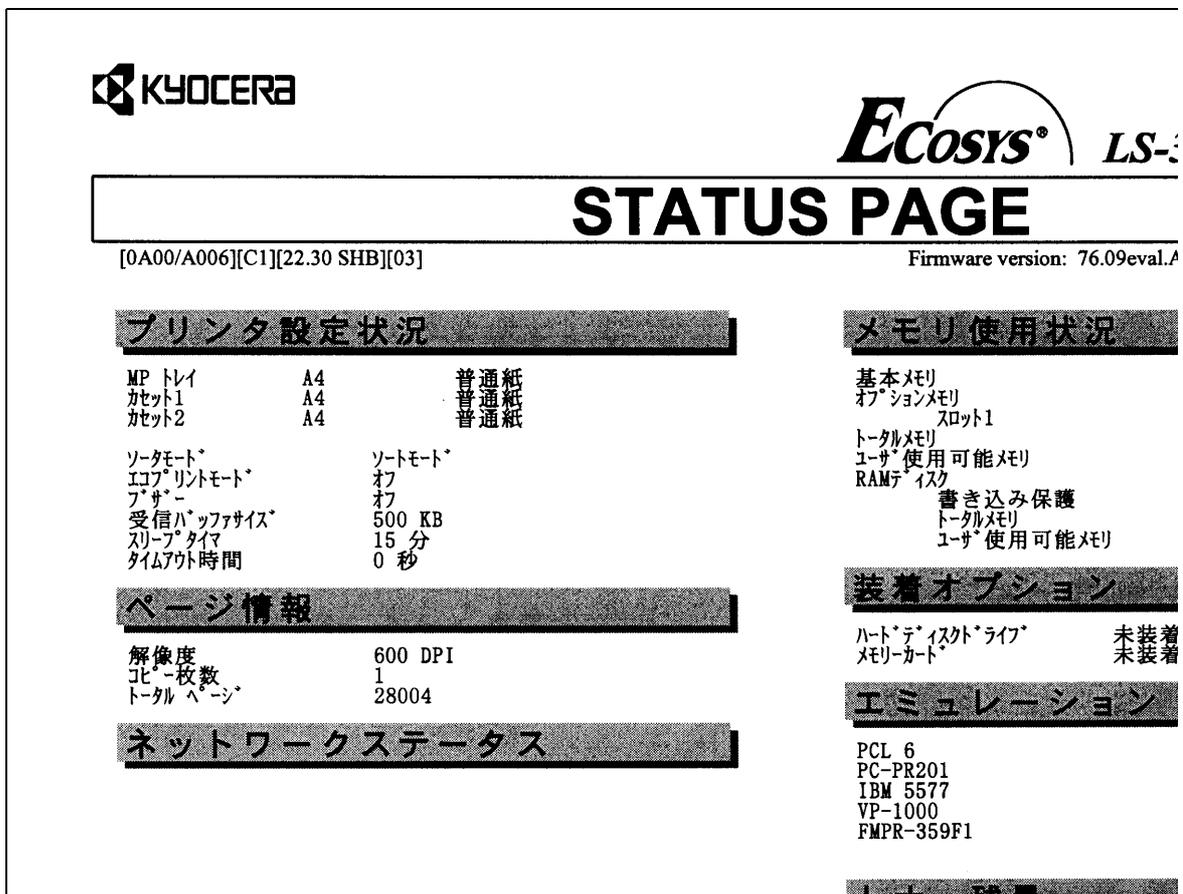
第 2 ページは、フェイスダウン・トレイに排紙されます。

STAT ステータスページの印刷

(STATus)

書式	STAT[1];
パラメータ	1 サービス用ステータスページを印刷
説明	STAT コマンドは、ステータスページ (STATUS PAGE) を印刷出力します。ステータスページには内蔵ファームウェアのバージョンやリリースの日付をはじめ、各種の設定情報が印刷されます。

図 53 ステータスページ例



ステータスページの内容について、説明します。

項目	説明	例
Firmware version	内蔵ファームウェアの版数	124.15-86
Released:	内蔵ファームウェアの発行日	18/Sep/2003 (2003年9月18日)
プリンタ設定状況		
MPトレイ	MPトレイの用紙サイズと用紙種類	A4 普通紙

項目	説明	例
カセット 1	第 1 カセットの用紙サイズと用紙種類	A4 普通紙
カセット 2	第 2 カセットの用紙サイズと用紙種類	A4 普通紙
ソータモード	ソータが装着されている場合のソータモード	ソートモード
エコプリントモード	エコプリント (省トナーモード) 機能の起動状態	オン
ブザー	ブザーの起動状態	オン
受信バッファサイズ	受信バッファの割り当て容量	500 kB
スリープタイム	スリープタイムの時間設定	15 分
タイムアウト時間	インタフェースの開放タイムの時間設定	30 秒
ページ情報		
解像度	印刷解像度	600 DPI
コピー枚数	印刷部数	1
トータルページ	累計印刷枚数	28000
ネットワークステータス		
各種ネットワーク情報がプロトコルごとに表示されます。		
メモリ使用状況		
基本メモリ	システムに内蔵の基本メモリ容量	16384 KB
オプションメモリ / スロット 1	オプションメモリのスロットごとの容量	無
トータルメモリ	基本メモリとオプションメモリの合計容量	16384 KB
ユーザ使用可能メモリ	トータルメモリ中で印刷に使用可能なメモリ容量	9583 KB
RAM ディスク / 書き込み保護	RAM ディスクの起動状態	オフ
/ トータルメモリ	RAM ディスクの書き込み保護状態	-
/ ユーザ使用可能メモリ	トータルメモリ中で RAM ディスクとして割り当てられているメモリ容量	0 KB
	RAM ディスクとして使用可能なメモリ	0 KB
装着オプション		
ハードディスクドライブ	ハードディスクドライブの装着状態	未装着
メモリーカード	メモリー (CF) カードの装着状態	未装着
エミュレーション		
内蔵エミュレーションの一覧 (SEM コマンド参照)		
トナー残量		
トナーコンテナ中のトナー残量のグラフィック表示。カラーモデルの場合は 4 色		
インタフェース		
パラレル	パラレルインタフェースに設定されているデフォルトエミュレーション、1 バイトおよび 2 バイトフォント、1 バイトフォントのコードセット	PCL6、 Courier、 DFHSMINCHO-W32、IBM PC-8

項目	説明	例
オプション 1	オプションインタフェースに設定されているデフォルトエミュレーション、1 バイトおよび 2 バイトフォント、1 バイトフォントのコードセット	未使用

パラメータ 1 を付けると、上記の通常の状態ページと異なるサービス用状態ページ (PAGE PRINTER STATUS PAGE) を印刷出力します。

図 54 サービス用状態ページ

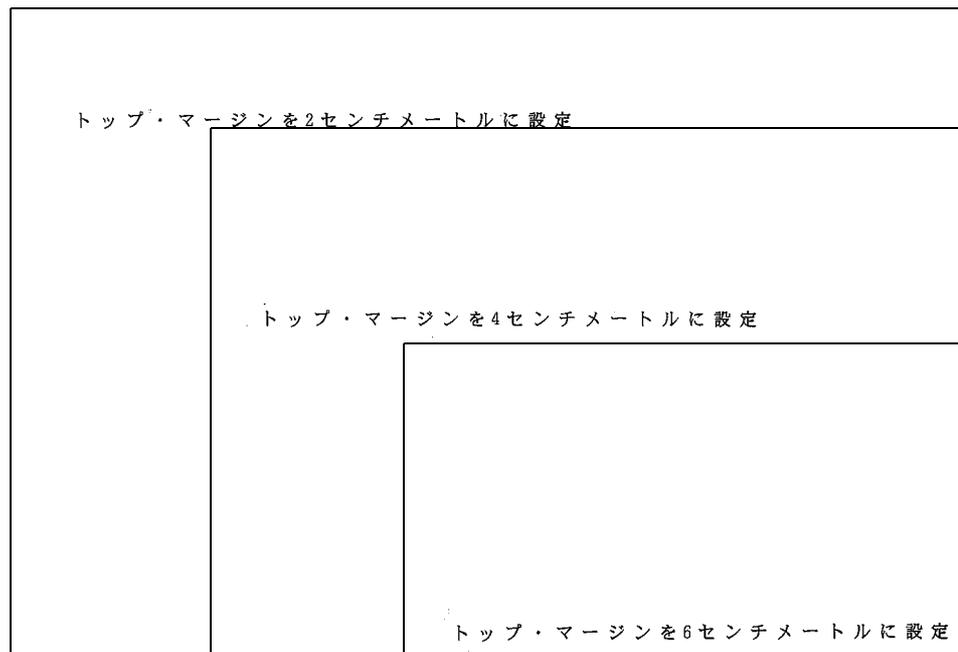
STM

上マージンの設定

(Set Top Margin)

書式	STM 距離;
パラメータ	距離 上マージンの長さ
説明	<p>STM コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位によって上マージンを設定します。</p> <p>上マージンの設定は、ファイルの先頭か改ページ後の位置においてください。</p> <p>上マージンの位置が現在のカーソル位置より下に移動した場合には、カーソルは自動的に新たなマージン内に移動されます。ただし、上マージンの位置が現在のカーソル位置より上に移動した場合には、カーソルは動きません。</p>
例	<pre>!R! RES; SEM 12; UNIT C; STM 6; EXIT,E; トップ・マージンを 6 センチメートルに設定 !R! SEM12; UNIT C; STM 4; EXIT,E; トップ・マージンを 4 センチメートルに設定 !R! SEM12; UNIT C; STM 2; EXIT, E; トップ・マージンを 2 センチメートルに設定 !R! RES; EXIT;</pre>

印刷結果



STPC

ステープル枚数の設定

(set STaPle Counter)

書式

STPC [枚数];

パラメータ

枚数	ステープル枚数の設定 (デフォルトは 0):
M または m	最大ステープル枚数
0	最大ステープル枚数 (M) を超えるジョブのステープル禁止
-1	最大ステープル枚数 (M) を超えたページのみステープル
2 ~ M	指定枚数毎にステープル

説明

STPC コマンドは、ステープル機能を持つフィニッシャの装着時に、ステープルされる枚数を設定します。実際のステープルの実行命令は、STPL コマンドで行います。

ステープルは、コマンド発行直後のジョブに対してのみ有効です。それ以降のジョブに対しては影響しません。STPC コマンドが発行されなかった場合、最大ステープル枚数以上は、枚数パラメータの -1 と同様の動作を行います。

例として、最大ステープル枚数が A4 で 50 枚のフィニッシャを使用して、52 ページのジョブをステープル指定した場合の、各パラメータに対するステープル動作をまとめます。

枚数パラメータ	ステープル動作 (52 ページのジョブの例)
M または m	1 ~ 50 ページをステープルした後、51 と 52 ページをステープル
0	ステープルなし
-1	1 ~ 50 ページをステープルなしで排紙した後、51 と 52 ページをステープルして排紙
15	1 ~ 15、16 ~ 30、31 ~ 45、46 ~ 52 のそれぞれのページをステープル

例

10 ページのジョブを、5 枚ごとにステープルして 5 部印刷出力

```
!R! RES;
    STPL 2;
    STPC 5;
    JOBS 2, 5, 1, 0, 1, "StapleTest", "Uehara", "2003/06/01 10:25";
    TEXT "Page 1"; PAGE;
    TEXT "Page 2"; PAGE;
    TEXT "Page 3"; PAGE;
    TEXT "Page 4"; PAGE;
    TEXT "Page 5"; PAGE;
    TEXT "Page 6"; PAGE;
```

```
TEXT "Page 7"; PAGE;  
TEXT "Page 8"; PAGE;  
TEXT "Page 9"; PAGE;  
TEXT "Page 10"; PAGE;  
JOBT;  
EXIT;
```

STPL

ステーブルの実行

(STaPLe)

書式

STPL [位置];

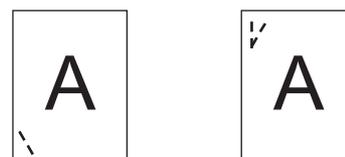
パラメータ

位置	1	手前左 1 個所
	2	奥左 1 個所斜めまたは平行
	3	中央左 2 個所
	50	奥左 1 個所
	51	奥右 1 個所
	52	中央左 2 個所
	53	中央右 2 個所
	54	上奥 2 個所

説明

STPL コマンドは、ステーブル機能を持つフィニッシャの装着時に、ステーブルを実行します。位置パラメータを与えると、ステーブル位置を決定します。

図 55 位置パラメータとステーブル位置



用紙サイズと位置パラメータの関係については、次の表を参照してください。位置パラメータ 2 は、用紙サイズに応じて、ステーブル位置が奥 1 個所斜めまたは奥 1 個所平行に切り替わります。

位置パラメータ	ステーブル位置	用紙サイズ
1	手前 1 個所	A3、B4、レジャー、リーガル
2	A4 奥 1 個所斜め 奥 1 個所平行	A3、B4、レジャー、A4、レター リーガル
3	中央 2 個所	A3、B4、レジャー、A4、レター

ステーブルを行う文書は、JOBS コマンドによってジョブ定義されていることが必要です。

ステーブル機能とジョブの振り分け機能は、同時に実行することはできません。両方の機能を同時に実行した場合は、ステーブル機能のみ行われ、ジョブの振り分け機能は無視されます。

例

319 ページの STPC コマンドの例を参照

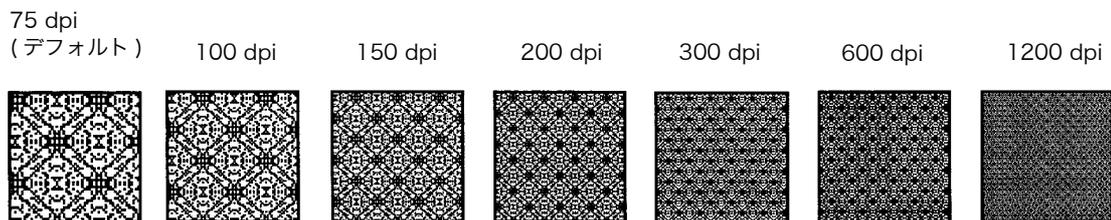
STR

ラスタグラフィックの解像度

(SeT dot Resolution)

書式	STR 解像度 ;
パラメータ	解像度 75、100、150、200、300、600、1200 (dpi)
説明	<p>STR コマンドは、ラスタグラフィックの解像度を 75、100、150、200、300、600、1200 dpi のいずれかに設定します。デフォルト値は 75 dpi です。</p> <p>RVRD コマンドによるラスタグラフィックの解像度は、HP エミュレーションでのラスタグラフィックの解像度と同じです。STR コマンドで設定した解像度は、HP エミュレーションでのラスタグラフィックの解像度にも影響します。</p> <p>STR コマンドで設定した解像度は、RES コマンドによってリセットされるまで有効です。</p> <p>STR コマンドは、ベクトルグラフィックには影響ありません。</p> <p>下の例は、同一のラスタ・データを異なる解像度で印刷したものです。</p>

図 56 各解像度によるラスタグラフィック



関連コマンド	ENDR、RVRD
--------	-----------

STRK

パスの描画

(STRoKe current path)

書式

STRK;

説明

STRK コマンドは、構築したパスを描画します。

パスの構築は NEWP コマンドで開始します。パスは、次のグラフィックス属性にしたがって描画されます。かっこ内は関連プリスクライブコマンドです。

- ・ 線幅 (SPD)
- ・ 破線のパターン (DPAT)
- ・ パターンの設定 (GPAT, XPAT, FPAT)
- ・ 線の結合形状 (SLJN)

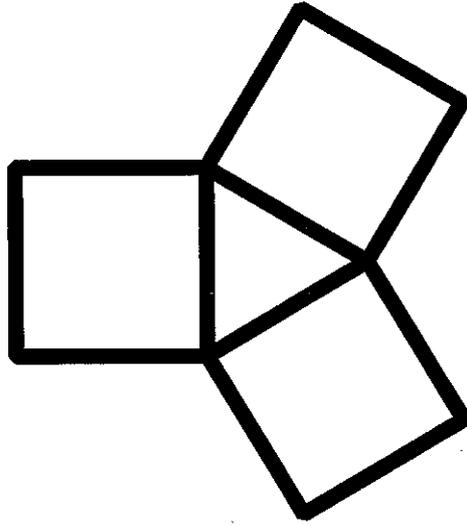
STRK コマンドは、線の終端の形状には影響しません。線の終端の形状は SCAP コマンドで指定します。STRK コマンドは、パスモードでのみ有効です。カレントパスが存在しない場合、STRK コマンドは無視されます。描画後、カレントパスはクリアされ、カーソル位置はパスの最終位置となります。

STRK コマンドの他に、構築したパスの塗りつぶしを行う FILL コマンドによっても、構築したパスの描画が行えます。

例

```
!R! RES; UNIT C;
NEWP;
SLJN 2; CMNT マイタード結合;
SCAP 1; CMNT 角終端;
SMLT 1;
PMZP 7, 7;
SPD 0.2;
PDRP -2.5, 0, 0, 2.5, 2.5, 0, 0, -2.5;
PDRP 2.1, 1.25, 1.25, -2.1, -2.1, -1.25, -1.25, 2.1;
PMRP 0, 2.5;
PDRP 2.1, -1.25, 1.25, 2.1, -2.1, 1.25, -1.25, -2.1;
STRK;
PAGE;
EXIT;
```

印刷結果



関連コマンド

NEWP、FILL

SULP アンダーラインの設定

(Set UnderLine Parameter)

書式	SULP 距離, 太さ;
パラメータ	距離 文字からアンダーラインまでの距離 太さ アンダーラインの太さ
説明	<p>SULP コマンドは、UNIT コマンドで指定した単位で、アンダーライン(下線)の太さと文字のベースラインからの距離を設定します。</p> <p>アンダーラインはページの下マージン以下には設定できません。また負の値を指定すると、オーバーライン(文字の上線)を引くことができます。</p> <p>指定できるアンダーラインの太さは、1 ドットから 127 ドットまでです。デフォルトの値は、文字からアンダーラインまでの距離が 7 ドット、アンダーラインの太さが 4 ドットです。</p> <p>SULP コマンドは、ASCII コード 95(Hex 5F) のアンダーライン文字(<u> </u>)には影響しません。アプリケーションソフトウェアによっては、プリントシステムの自動アンダーライン機能ではなく、アンダーライン文字を使用してアンダーラインを印刷する場合があります。その場合には、SULP コマンドは無視され、アンダーライン文字が使用されます。この場合、SULP コマンドは、TEXT などのプリスクライブコマンドの U オプションで印刷するアンダーラインに有効です。</p>
例	<pre>!R! SEM 12; UNIT C; SLS 1; TEXT 'デフォルトのアンダーラインです' E, U; TEXT '。';E; SULP 0.2, 0.2; TEXT '太くすることができます'; E, U; TEXT '。'; N; TEXT 'また、';E; SULP -0.32, 0.04; TEXT 'オーバーラインも可能です'; E, U; TEXT '!!'; RES; EXIT;</pre>

印刷結果

デフォルトのアンダーラインです。 **太くすることができます。**
 また、オーバーラインも可能です !

TEXT

テキスト印刷

(print TEXT)

書式

TEXT['文字列'][オプション][Uオプション];

パラメータ

文字列	印刷される文字列
オプション	印刷後のカーソル位置：
	B 文字列の始め
	E 文字列の終わり
	L 1行下
	N 次行の始め
Uオプション	アンダーラインを付ける

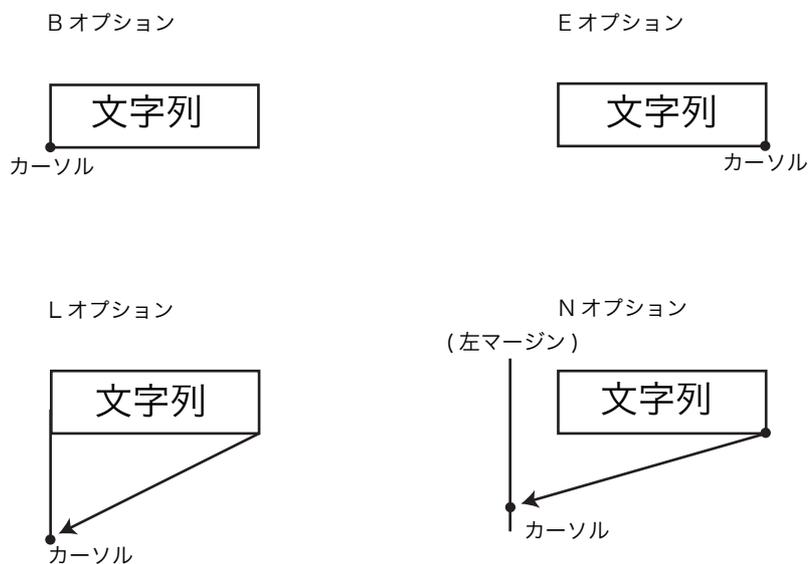
説明

TEXT コマンドは与えられた文字列をカーソル位置に印刷し、オプションで指定された位置にカーソルを移動します。

印刷する文字列は引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。文字列としていずれかの引用符が含まれる場合には、もう一方の引用符で文字列をかこみます。

文字列を省略すると何も印刷されません。したがって TEXT, N; を改行のかわりに使用することができます。

図 57 印刷後のカーソルの位置



オプションを省略すると、カーソルははじめの位置から動きません (オプション B と同じ)。U オプションは文字列にアンダーラインを付けます。アンダーラインの太さと位置は、SULP コマンドで設定します。

コマンド全体の長さは、255 文字以内 (512 バイト以内) でなければなりません。文字列の中ではスペース以外のコントロール・コード (キャリッジ・リターンやラインフィードなど) は無視されます。ただし、漢字イン (PC-PR201/65A エミュレーションでは ESC K、ESC t) および漢字アウト (同じく ESC H など) のエスケープ・シーケンスは有効です。

例

```
!R! RES; MAP 2, 2;
TPRS 1;
CSET 19K;
TEXT 'お好みのオプションをチェックしてください。';L, U;
BOX 0.1, -0.1; TEXT ' パワー・ステアリング';L;
BOX 0.1, -0.1; TEXT ' CD プレーヤー';L;
BOX 0.1, -0.1; TEXT ' オートマチック・トランスミッション';
RES; EXIT;
```

印刷結果

お好みのオプションをチェックしてください。
 パワー・ステアリング
 CDプレーヤー
 オートマチック・トランスミッション

関連コマンド

CTXT、RTXT

TPRS

2 バイトテキストの印刷

(Text PaRSing method)

書式

TPRS モード;

パラメータ

```
モード    0   ANK (1 バイト系)
          1   シフト JIS (2 バイト系)
```

説明

TPRS コマンドは、直後の文字列を 1 バイト文字として解釈するか、2 バイト文字として解釈するか (パーシング) を決定します。このコマンドは、HP エミュレーション時にのみ有効です。

現在のフォントとそのシンボルセットが、2 バイト系文字をサポートしている場合、文字列を 2 バイト文字として解釈して印刷するには、TPRS 1; を実行してパーシングモードを 2 バイトに切り替えます。

この設定は、TPRS 0; を新たに発行するか、RES コマンドで初期設定 (ANK = 0) にもどすまで有効です。

例

```
IR! RES;
      CSET 19K;
      TPRS 1;
      TEXT 'デフォルトフォントで印刷した文字列';
PAGE; EXIT;
```

印刷結果

デフォルトフォントで印刷した文字列

TSCLE 文字拡大率の設定

(Text SCaLe)

書式	TSCLE x, y;
パラメータ	<p>x 横方向の拡大率:</p> <p>×0.5</p> <p>×1</p> <p>×1.5</p> <p>×2</p> <p>×3</p> <p>×4</p> <p>y 縦方向の拡大率:</p> <p>×0.5</p> <p>×1</p> <p>×1.5</p> <p>×2</p> <p>×3</p> <p>×4</p>

説明 TSCLE コマンドは、文字を縦および横方向に拡大します。

TSCLE コマンドは、ビットマップフォントに対して有効です。拡大率は、RES コマンドで初期設定の値(1)にもどります。拡大または縮小された文字の移動量は、拡大率に応じて自動的に調整されます。

例 !R! SEM 12; KFNT 1; UNIT C; SLM 1; EXIT;
 原寸の印刷です。!R! TSCLE 0.5, 0.5; EXIT; これは 0.5 倍の印刷です。
 !R! TSCLE 1.5, 1; EXIT; 横が 1.5 倍になりました。
 !R! TSCLE 2, 2; EXIT; 縦横 2 倍の印刷です。!R! TSCLE 2, 3; EXIT; 縦 3 倍、横 2 倍です。
 !R! TEXT,L; TEXT,L;
 TSCLE 4, 4; EXIT; 最大の縦横 4 倍です。
 !R! RES; EXIT;

印刷結果

原寸の印字です。これは 0.5 倍の印字です。
 横が 1.5 倍になりました。

縦横 2 倍の印字です。縦 3 倍、横 2 倍です。
最大の縦横 4 倍です。

UNIT

単位の設定

(set UNIT of measurement)

書式

UNIT コード;

パラメータ

コード	I	inch
	C	cm
	P	point
	D	dot

説明

UNIT コマンドは、他のコマンドで使用する位置や長さの単位を設定します。

初期設定はインチです。各単位との関係は次のようになります。

1 inch = 2.54 cm = 72 points = 300 dots

UNIT コマンドによる単位の変更は、同一ページ内でも可能です。

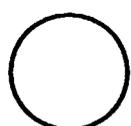
例

```
!R! RES;
UNIT C; MRP 3, 3;
CSET 19K; TPRS 1;
CIR 0.35; SCP; MRP 1, 0; TEXT '7mm 径の円';
RPP; MRP 0, 2;
UNIT I;
CIR 0.225; MRP .5, 0; TEXT '0.45 インチ径の円';
RES; EXIT;
```

印刷結果



7mm径の円



0.45インチ径の円

UOM

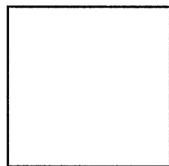
インチあたりドット

(Unit Of Measurement)

書式	UOM 単位;
パラメータ	単位 96, 100, 120, 144, 150, 160, 180, 200, 225, 240, 288, 300, 360, 400, 450, 480, 600, 720, 800, 900, 1200, 1440, 1800, 2400, 3600, 7200 (dpi)
説明	<p>UOM コマンドは、カーソル移動を 1 インチあたりのドット単位で定義します。このコマンドを実行するには、UNIT コマンドで単位の設定をドット (D) にしてください。</p> <p>カーソル移動量の初期設定は 300 dpi です。この場合、たとえば 50 ドット移動すると、1/6 インチの距離になります。</p>
例	<pre> !R! RES; UNIT C; SFNT "Helvetica-Nr",9; MZP 5, 5; TEXT "UOM 120; BOX 100, 100";L; UNIT D; UOM 120; BOX 100, 100; UNIT C; MZP 5, 9; TEXT "UOM 720; BOX 100, 100";L; UNIT D; UOM 720; BOX 100, 100; PAGE; EXIT; </pre>

印刷結果

UOM 120; BOX 100, 100;



UOM 720; BOX 100, 100;



関連コマンド

UNIT

VMAL 仮想メールボックス名の設定 (Virtual Mailbox ALias)

書式	VMAL メールボックス, 'メールボックス名'[, PIN];		
パラメータ	メールボックス	1 ~ 255	名前を付けるまたは名前を変更するメールボックスの番号
	'文字列'		名前を変更するメールボックスの名前 (2 バイト文字の場合はシフト JIS)
	'A' または 'a'		名前を付けるメールボックスの自動割当
	メールボックス名		新規メールボックス名、最大 31 バイトの文字列
	PIN 番号	1 ~ 65535	仮想メールボックスの PIN 番号 (設定されている場合)

説明 VMAL コマンドは、仮想メールボックスに任意の名前を付けます。

2 バイト文字を含め、任意の文字列を設定できます。付けた名前は、ディスプレイに表示されたり、プリンタドライバの操作に使用できます。ただし、ディスプレイには漢字の表示は行えないため、仮想メールボックス名としては、英数字や半角カタカナなどの 1 バイト文字による名前が便利です。仮想メールボックス名の文字列は引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。

メールボックス番号パラメータに A または a を与えた場合、もっとも番号の若い未使用の仮想メールボックスが自動的に割り当てられます。A または a は、引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。

VMAL コマンドは、すでに名前の付けられている仮想メールボックスの名前を変更するのにも使用します。この際、仮想メールボックスが PIN 番号で保護されている場合には、PIN 番号パラメータとして、その番号を指定することが必要です。仮想メールボックスの PIN 番号による保護については、336 ページの VMPW コマンドを参照してください。

仮想メールボックスの名前などの情報は、JOB L コマンドで VIRTUAL MAILBOX LIST を印刷して確認することができます (JOB L 8)。

例 PIN 番号が「9999」の仮想メールボックスの名前を、「Hanako Kosaka」から「Kosaka」に変更する例

```
!R! VMAL "Hanako Kosaka", "Kosaka", 9999; EXIT;
```

VMOB

仮想メールボックスへの出力指定

(Virtual Mailbox Output Bin)

書式	VMOB メールボックス;		
パラメータ	メールボックス	1 ~ 255	ジョブの保存を行う仮想メールボックスの番号 '文字列' ジョブの保存を行う仮想メールボックスの名前 (2 バイト文字の場合はシフト JIS)
説明	<p>VMOB コマンドは、印刷ジョブの保存先となる仮想メールボックスを指定します。</p> <p>同一のジョブを複数の仮想メールボックスに出力して保存するには、このコマンドを複数回発行します。</p> <p>出力先の仮想メールボックスを選択するには、仮想メールボックスの番号か名前をあらわす文字列を指定します。名前で指定する場合、文字列は引用符 (') または二重引用符 (") でかこみます。仮想メールボックスの名前については、334 ページの VMAL コマンドを参照してください。指定した仮想メールボックス名が存在しない場合は、ディスプレイにエラーが表示されます。</p> <p>仮想メールボックスに出力されて格納されているジョブを印刷出力するには、JOB0 コマンドを使用します。くわしくは、128 ページを参照してください。</p>		
例	<p>仮想メールボックス 3 にジョブを出力する例</p> <pre>!R! VMOB 3; EXIT;</pre> <p>名前が「MyMailbox」の仮想メールボックスにジョブを出力する例</p> <pre>!R! VMOB "MyMailbox"; EXIT;</pre>		

WIDE

ワイド A4 モードの設定

(set WIDE A4 mode)

書式

WIDE モード;

パラメータ

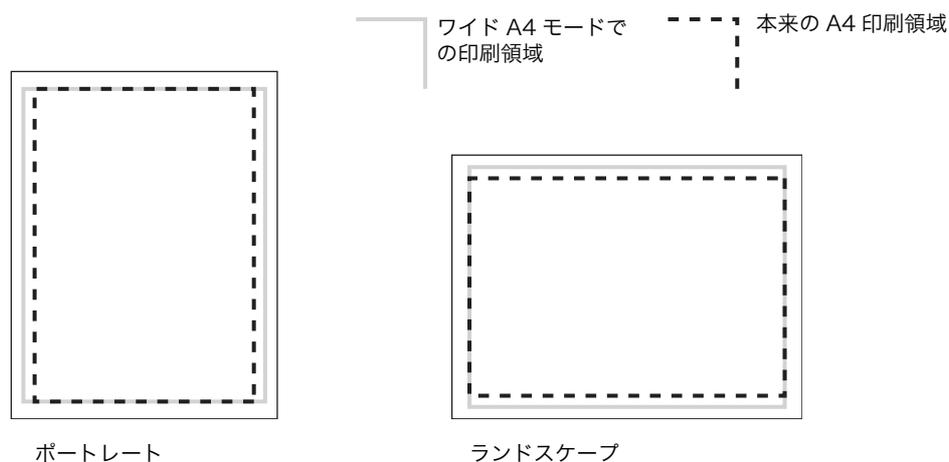
モード	0	オフ
	1	オン

説明

WIDE コマンドは、A4 の印刷領域幅をレターサイズの印刷領域幅に広げる、ワイド A4 機能のオン・オフを行います。この機能は、レターサイズで作成されたドキュメントが A4 サイズで出力されるときに、不自然な改行やグラフィックのクリッピングを防ぎます。

印刷領域幅は、左右対称に広がります。幅が広がるのは常に短手方向であり、用紙が横置き(ランドスケープ)の場合は、印刷領域の高さが広がります。A4 以外の用紙サイズの場合、印刷領域は変化しません。

図 58 ワイド A4 モード



WRED

ターミネータ

(WRite EnD)

書式

WRED;

説明

WRED コマンドは、下記の関連コマンドでバイナリデータをハードディスクなどの外部メディアに送信する際に、データの書き込みの終了を行うターミネータです。

書き込みの終了は、プリントシステムの操作パネル上のフォームフィードキーを押すことによっても終了することができます。

ターミネータは他の ASCII 文字に変更することも可能です。くわしくは、234 ページの RWER T、または 241 ページの RWRF T コマンドの説明を参照してください。

関連コマンド

RWER S、RWER W、RWRF W

XBAR

2次元バーコードの印刷

(Print a two dimensional barcode)

書式

XBAR; <データ>;ENDB;

パラメータ

データ バーコード化されるデータ (256ASCII 文字またはバイナリデータ)

説明

XBAR コマンドは、PDF417 形式の 2 次元バーコードを生成し、印刷します。

2次元バーコード化されるデータ列の末尾には ;ENDB; を付ける必要があります。セミコロン (;) と ENDB; の間にはスペースを入れないでください。

例

```
!R! RES;  
      XBCP 0; CMNT 2次元バーコードをリセット ;  
      XBAR 10; 0123456789;ENDB;  
EXIT;
```

印刷結果



XBCP 0 バーコードタイプの選択 / 全ての XBCP パラメータをリセット

(Select a bar code type/Reset all other XBCP parameters to the defaults)

書式	XBCP 0[, タイプ];
パラメータ	タイプ 1 PDF417 2次元バーコード
説明	<p>XBCP 0 コマンドは、PDF417 形式の二次元シンボルタイプを選択し、全ての 2次元バーコード設定値をデフォルト値にリセットします。</p> <p>2次元バーコード設定値(後述の XBCP2 から 19 で指定される設定値)をリセットするには、タイプパラメータを省略して発行します。</p>
例	339 ページの XBAR コマンドを参照

XBCP 1 2次元バーコードのバー幅の指定

(Specify the narrowest element width)

書式 XBCP 1, 幅

パラメータ 幅 バー幅 (デフォルトは3ドット)

説明 XBCP 1 コマンドは、2次元バーコードのバー幅を指定します。

指定する単位は、UNIT コマンドで選択できます。印刷可能な最低幅は1ドットですが、読み取りエラーを防ぐために、幅は3ドット以上とすることをおすすめします。

例 IR! RES;
 MZP 1.5, 1.5;
 XBCP 1, .02; CMNT 0.02 inch 幅;
 XBAR;Min. element width is .02 inches;ENDB;
 MZP 1.5, 2.5;
 XBCP 0; CMNT デフォルトの3dot幅にもどす;
 XBAR;Min. element width is reset (to 3 dots);ENDB;
 EXIT;

印刷結果



XBCP 2 2次元バーコードエラー訂正レベル

(Specify the error correction level by percentage)

書式	XBCP 2, エラー訂正レベル;
パラメータ	エラー訂正レベル、0 ~ 400(%、デフォルトは 10)
説明	<p>XBCP 2 コマンドは、2次元バーコードのエラー訂正レベルをパーセントで指定します。</p> <p>エラー訂正レベルの設定は、あらかじめプリセットされている、固定のエラー訂正レベルを使用することも可能です。くわしくは、343 ページの XBCP 3 を参照してください。</p> <p>XBCP 2 の設定は、XBCP 3 が実行されると無効になります。XBCP 2 が XBCP 3 より後に実行される場合でも、XBCP 2 は無効です。XBCP 2 を有効にするには RES コマンドまたは XBCP 0 コマンドによって、リセットを行います。</p>
例	<p>エラー訂正レベルを 50% に設定する例</p> <pre>!R! RES; XBCP 0, 1; XBCP 2, 50; XBAR;This is an error correction level test;ENDB; EXIT;</pre>

XBCP 3 プリセット値でエラー訂正レベルを設定

(Set the error correction level by predetermined values)

書式	XBCP 3, エラー訂正レベル;
パラメータ	エラー訂正レベル 0～8 の整数 (デフォルトは 0)
説明	<p>XBCP 3 コマンドは、事前に定義されたプリセット値によって、2次元バーコードのエラー訂正レベルを設定します。</p> <p>XBCP 3 を実行すると、XBCP 2 で行ったパーセンテージによるエラー訂正レベルの設定は無効になります。</p>
例	<p>エラー訂正レベルを「4」にする例</p> <pre>IR! RES; XBCP 0, 1; XBCP 3, 4; XBAR;Error correction can also be set by level;ENDB; EXIT;</pre>

XBCP 4 2次元バーコードのコード行数の設定

(Set the number of rows in the PDF417 bar code)

書式 XBCP 4, 行数;

パラメータ 行数 3 ~ 90

XBCP 4 コマンドは、2次元バーコードのコード行数を設定します。デフォルト値は、XBCP 6 コマンドで設定します。

コード行数は XBCP 8 コマンドを使用すると自動的に設定されます。XBCP 8 が発行されると、XBCP 4 コマンドの設定は無効になります。各コマンドは、次の優先順位でコード行数(列数)を決定します。

XBCP 4 < XBCP 8、XBCP 4 > XBCP 6、XBCP 4+ XBCP 8 < XBCP 6

例 コード行数を 20 に設定する例

```

!R! RES; SEM 6;
CSET 19K; TPRS 1;
XBCP 0, 1;
MZP 1.5, 1.5;
TEXT " デフォルトのコード行数で作成 ", L;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San
Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old
Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the
downtown Gaslamp District and all those great
beaches. And, as the natives know, the end of
September is the best time of year.;ENDB;
XBCP 0, 1;
XBCP 4, 20;
MZP 1.5, 3;
TEXT " コード行数 20 で作成 ", L;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San
Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old
Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the
downtown Gaslamp District and all those great
beaches. And, as the natives know, the end of
September is the best time of year.;ENDB;
RES;
EXIT;
    
```

印刷結果

デフォルトのコード行数で作成



コード行数20で作成



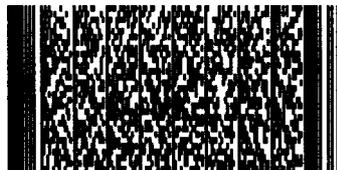
XBCP 5 2次元バーコードのコード列数の設定

(Set the number of data code word columns in the PDF417 bar code)

書式	XBCP 5, 列数;
パラメータ	列数 1 ~ 30
説明	<p>XBCP 5 コマンドは、2次元バーコードのデータコード列数を設定します。デフォルト値は、XBCP 6 コマンドで設定します。</p> <p>両端の列インジケータは、コード列数には含まれません。</p> <p>コード列数は、XBCP 8 を使用すると自動的に設定されます。XBCP 8 が発行されると、XBCP 4 コマンドの設定は無効になります。各コマンドは次の優先順位でコード列数(行数)を決定します。</p> <p>XBCP 5 < XBCP 8、XBCP 5 > XBCP 6、XBCP 5+XBCP 8 < XBCP 6</p>
例	<p>コード列数を 20 に設定する例</p> <pre> !R! RES; SEM 6; psrc 0; CSET 19K; TPRS 1; XBCP 0, 1; MZP 1.5, 1.5; TEXT " デフォルトのコード列数で作成 ", L; XBAR;Visit Sea World, the world famous San Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the downtown Gaslamp District and all those great beaches. And, as the natives know, the end of September is the best time of year.;ENDB; XBCP 0, 1; XBCP 5, 20; MZP 1.5, 3; TEXT " コード列数 20 で作成 ", L; XBAR;Visit Sea World, the world famous San Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the downtown Gaslamp District and all those great beaches. And, as the natives know, the end of September is the best time of year.;ENDB; RES; EXIT; </pre>

印刷結果

デフォルトのコード列数で作成



コード列数20で作成



XBCP 6 2次元バーコードの縦横比の設定

(Determines aspect ratio of vertical height and horizontal width of the bar code)

書式 XBCP 6, 高さ, 幅;

パラメータ
 高さ 1 ~ 10
 幅 1 ~ 10

説明 XBCP 6 コマンドは、2次元バーコードの縦横比率を設定します。

高さパラメータと幅パラメータには、縦横比を比率として指定します。たとえば、高さと幅の比率を 10:1 とする場合は、XBCP 6, 10, 1; また、たとえば 1:10 とする場合は、XBCP 6, 1, 10; とします。範囲外の値を指定すると、デフォルトの 1:2 になります。

XBCP 4 と XBCP 5 コマンドのいずれかまたは両方が発行されている場合、XBCP 6 コマンドは無効です。ただし、XBCP 4 と XBCP 5 のいずれかまたは両方と、XBCP 8 コマンドが発行されている場合は、XBCP 6 コマンドの優先順位が最も高くなります。各コマンドの優先順位は、次のようになります。

XBCP 4/XBCP 5 < XBCP 8、XBCP 4/XBCP 5 > XBCP 6、XBCP 4/XBCP 5+XBCP 8 < XBCP 6

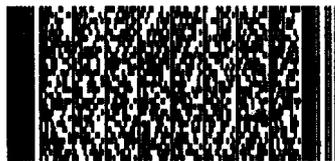
比率は近似的なものとなる場合があります。

例 高さと幅の比率を 3:2 にする例

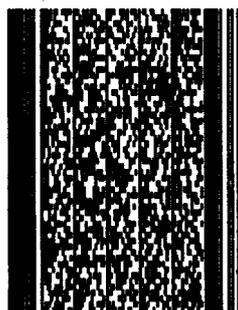
```
!R! RES; SEM 6;
CSET 19K; TPRS 1;
XBCP 0, 1;
TEXT ' デフォルトの縦横比率で作成 ', L;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San Diego Zoo & Wild Animal
Park, historic Old Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the downtown
Gaslamp District and all those great beaches. And, as the natives know,
the end of September is the best time of year.;ENDB;
MRP 0, 1.5;
TEXT '3:2 の縦横比率で作成 ', L;
XBCP 0, 1; XBCP 6, 3, 2;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San Diego Zoo & Wild Animal
Park, historic Old Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the downtown
Gaslamp District and all those great beaches. And, as the natives know,
the end of September is the best time of year.;ENDB;
RES;
EXIT;
```

印刷結果

デフォルトの縦横比率で作成



3:2の縦横比率で作成



XBCP 7 2次元バーコードのバー幅に対するバー高さの比率

(Determines the bar height by a ratio to the narrowest element width)

書式 XBCP 7, 比率;

パラメータ 比率 1 ~ 10

XBCP 7 コマンドは、2次元バーコードのバー高さを、バー幅に対する比率として設定します。

比率は 1 ~ 10 の範囲で指定します。範囲外の値を指定するとデフォルトの 3 になります。

例 バー高さをバー幅の 2 倍にする例

```

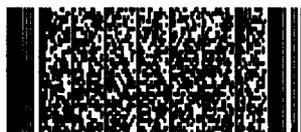
IR! RES;
CSET 19K; TPRS 1;
XBCP 0, 1;
TEXT ' デフォルトのバー高さ (3 倍) で作成 ', L;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San
Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old
Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the
downtown Gaslamp District and all those great
beaches. And, as the natives know, the end of
September is the best time of year.;ENDB;
XBCP 0, 1;
MRP 0, 1.5;
TEXT ' バー高さをバー幅の 2 倍に減らして作成 ', L;
XBCP 7, 2;
XBAR;Visit Sea World, the world famous San
Diego Zoo & Wild Animal Park, historic Old
Town, Tijuana (Mexico), Mission Bay, the
downtown Gaslamp District and all those great
beaches. And, as the natives know, the end of
September is the best time of year.;ENDB;
RES;
EXIT;
    
```

印刷結果

デフォルトのバー高さ(3倍)で作成



バー高さをバー幅の2倍に減らして作成



XBCP 8 2次元バーコードの行数および列数の自動設定許可

(Permit the system to automatically set rows and columns)

書式

XBCP 8;

説明

XBCP 8 は、行数と列数の自動設定を許可します。

2次元バーコードの行数と列数は、それぞれ XBCP 4 コマンドと XBCP 5 コマンドで明示的に設定しますが、このコマンドを発行すると行数と列数の積が 928 以下になる範囲で、行数と列数が自動的に設定されます。

XBCP 8 コマンドが発行されると、XBCP 4 および XBCP 5 コマンドはいずれも無効になります。ただし、XBCP 4 と XBCP 5 コマンドのいずれかまたは両方と、XBCP 6 コマンドが発行されている場合は、XBCP 8 コマンドが無効になります。各コマンドの優先順位は、次のとおりです。

XBCP 4/XBCP 5 < XBCP 8、XBCP 4/XBCP 5 > XBCP 6、XBCP 4/XBCP 5+XBCP 8 < XBCP 6

XBCP 9 2次元バーコードの短縮の有効化

(Enable the truncation)

書式

XBCP 9;

説明

XBCP 9 コマンドは、2次元バーコードの短縮を有効にします。デフォルトは短縮は、無効です。

PDF417 形式の2次元バーコードでは、右列インジケータとストップパターンを省略した短縮2次元バーコードを生成することができます。

XBCP 10 マクロ 2 次元バーコードのファイル名 フィールドの有効化と内容の定義

(Enable the file name field and define its contents for Macro PDF417)

書式 XBCP 10, 'ファイル名';

パラメータ ファイル名 文字列

説明 XBCP 10 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれているファイル名フィールドを有効にし、内容を定義します。この機能は、デフォルトでは無効となっています。

XBCP 10 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

ファイル名パラメータの文字列は、引用符 (') または 2 重引用符 (") で囲みます。長さは 200 文字未満で、EXC モードの圧縮文字 (20H ~ 7FH) が有効です。これらの条件が満たされない場合、XBCP 10 コマンドは無効です。

例 !R! RES;
XBCP 0, 1;
XBCP 10, 'A00254';
MZP 1,0; XBCP 18,0;

XBAR;Welcome to new Asia - Singapore! We hope you will have a memorable stay in our vibrant, sunny tropical island where Asian tradition and culture exist harmoniously alongside sleek modernity, where skyscrapers and superb concept shopping malls complement restored shophouses and colorful riverfront go-downs from the beginning of the new century.;ENDB;
EXIT;

XBCP 11 ブロック数フィールドの有効化と内容の定義

(Enable the field and define its contents)

書式

XBCP 11;

説明

XBCP 11 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれているブロック数フィールドを有効にし、内容を定義します。この機能は、デフォルトでは無効となっています。

XBCP 11 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

例

```
IR! RES;  
    XBCP 0, 1;  
    XBCP 11;  
    MZP 1,0; XBCP 18,0;  
XBAR; ...  
...  
EXIT;
```

XBCP 12 マクロ PDF の日付フィールドの有効化

(Enable the time stamp field in Macro PDF)

書式	XBCP 12, 日付;
パラメータ	日付 1970年1月1日00:00:00AM(グリニッジ標準時)以降の合計秒数
説明	<p>XBCP 12 コマンドは、マクロ 2次元バーコードに含まれている日付フィールドを有効にします。</p> <p>XBCP 12 コマンドを実行すると、マクロ 2次元バーコードモードが自動的に有効になります。</p>
例	<p>日付を 1970年1月2日の06:15:30AMにする例</p> <pre>!R! RES; XBCP 0, 1; XBCP 12, 108930; MZP 1,0; XBCP 18,0; XBAR; EXIT;</pre>

XBCP 13 マクロ 2 次元バーコードの送信側 ID フィールドの有効化

(Enable the sender ID field in Macro PDF)

書式 XBCP 13, '送信側 ID';

パラメータ 送信側 ID 文字列

説明 XBCP 13 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれている、マクロ送信側 ID フィールドの機能を有効にし、内容を定義します。

XBCP 13 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

送信側 ID パラメータの文字列は、引用符 (') または 2 重引用符 (") で囲みます。長さは 200 文字未満で、EXC モードの圧縮文字 (20H ~ 7FH) が有効です。これらの条件が満たされていない場合、XBCP 13 コマンドは無効です。

例

```
IR! RES;  
    XBCP 0, 1;  
    XBCP 13, 'BETTERDAYSINC';  
    MZP 1, 0; XBCP 18, 0;  
    XBAR; ...  
...  
EXIT;
```

XBCP 14 マクロ 2 次元バーコードの受信側 ID フィールドの有効化

(Enable the addressee ID field in Macro PDF)

書式 XBCP 14, '受信側 ID';

パラメータ 受信側 ID 文字列

説明 XBCP 14 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれている、受信側 ID フィールドの機能を有効にし、内容を定義します。

XBCP 14 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

受信側 ID パラメータの文字列は、引用符 (') または 2 重引用符 (") で囲みます。長さは 200 文字未満で、EXC モードの圧縮文字 (20H ~ 7FH) が有効です。これらの条件が満たされていない場合、XBCP 13 コマンドは無効です。

例

```

!R! RES;
      XBCP 0, 1;
      XBCP 14, 'BAREFOOTINC';
      MZP 1,0; XBCP 18,0;
      XBAR; ...
...
EXIT;
    
```

XBCP 15 マクロ 2 次元バーコードのファイルサイズフィールドの有効化

(Enable the file size field in Macro PDF)

書式

XBCP 15;

説明

XBCP 15 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれている、ファイルサイズフィールドの機能を有効にします。

XBCP 15 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

例

```
!R! RES;  
XBCP 0, 1;  
XBCP 15;  
MZP 1,0; XBCP 18,0;  
XBAR; ...  
...  
EXIT;
```

XBCP 16 マクロ 2 次元バーコードのチェックサムの有効化

(Enable the check sum in Macro PDF)

書式

XBCP 16;

説明

XBCP 16 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれている、チェックサム機能を有効にします。

XBCP16 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

例

```
!R! RES;  
      XBCP 0, 1;  
      XBCP 16;  
      MZP 1, 0; XBCP 18, 0;  
      XBAR; ...  
EXIT;
```

XBCP 17 マクロ 2 次元バーコードのファイル ID 制御の許可

(Allows control of file ID for Macro PDF417)

書式 XBCP 17, 'ファイル ID';

パラメータ ファイル ID 文字列

説明 XBCP 17 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードに含まれている、ファイル ID の制御を許可します。XBCP 17 コマンドの実行は必須であり、XBCP コマンドを実行せずに、XBCP 10 ~ 16 または XBCP 18 コマンドを実行すると、ランダムなファイル ID が生成されます。

XBCP 17 コマンドを実行すると、マクロ 2 次元バーコードモードが自動的に有効になります。

ファイル ID パラメータの文字列は、引用符 (') または 2 重引用符 (") で囲みます。長さは 15 文字以内で、EXC モードの圧縮文字 (20H ~ 7FH) が有効です。これらの条件が満たされていない場合、XBCP 17 コマンドは無効です。

例

```
!R! RES;
      XBCP 0, 1;
      XBCP 17, 'XMD1503';
      MZP 1,0; XBCP 18,0;
      XBAR; ...
...
EXIT;
```

XBCP 18 マクロ 2 次元バーコードモードの有効化 (Enable Macro PDF417 symbol mode)

書式	XBCP 18[, ブロックインデックス];
パラメータ	ブロックインデックス 0 ~ k-1 (k はブロック数)
説明	<p>XBCP 18 コマンドは、マクロ 2 次元バーコードモードを有効にします。</p> <p>マクロ 2 次元バーコードモードは、大きなデータをブロックインデックスによる複数のマクロ 2 次元バーコードに分割し、1 つのファイル ID で複数の二次元バーコードを生成します。</p>
例	<p>バーコードデータ abcdXYZ12345 を abcd と XYZ と 12345 の 3 つのマクロに分割する例</p> <pre> !R! RES; XBCP 0, 1; UNIT C; CMNT 単位 =cm; XBCP 17, 'fileid'; CMNT ファイル ID=fileid; MZP 1,0; CMNT カーソルを (1, 0) に移動; XBCP 18,0; CMNT 次のデータのブロックインデックス =0; XBAR; abcd;ENDB; CMNT データ abcd をエンコード; MZP 1,5; CMNT カーソルを (1, 5) に移動; XBCP 18,1; CMNT 次のデータのブロックインデックス =1; XBAR; XYZ;ENDB; CMNT データ XYZ をエンコード; MZP 1,10; CMNT カーソルを (1, 10) に移動; XBCP 18,2; CMNT 次のデータのブロックインデックス =2; XBAR;12345;ENDB; CMNT データ 12345 をエンコード; EXIT; </pre>

印刷結果

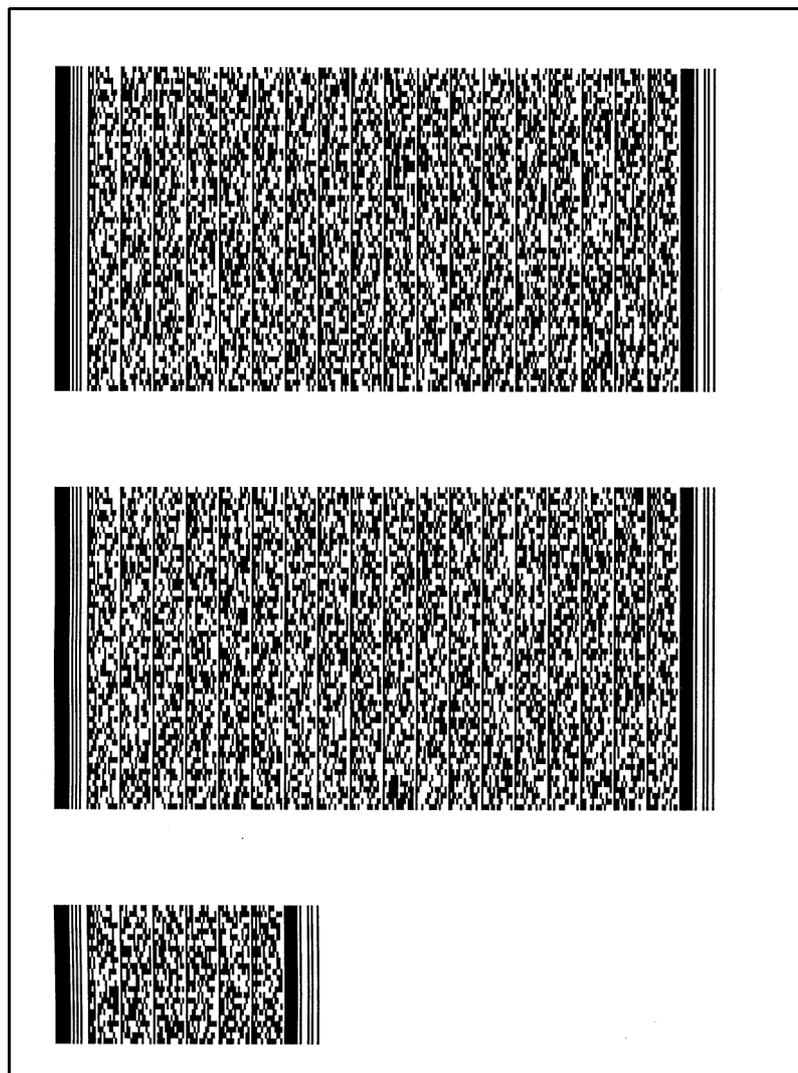


XBCP 19 複数のマクロ 2 次元バーコードを指定された位置へ配置

(Position multiple Macro PDF417 symbol at the specified locations)

書式	XBCP 19[, x1, y1, x2, y2, x3, y3, ...];
パラメータ	x1, y1, x2, y2, x3, y3, ... バーコード位置を示す座標
説明	<p>XBCP 19 コマンドは、単一のデータから分割生成された複数の 2 次元バーコードを、パラメータで指定された座標位置に配置します。</p> <p>各座標は現在のカーソル位置から相対的に指定し、x1/y1 は 1 番目の 2 次元バーコードに対する 2 番目の 2 次元バーコードの相対的な位置、x2/y2 は 2 番目の 2 次元バーコードに対する 3 番目の 2 次元バーコードの相対的な位置などを指定します。さらに、座標が指定されている場合で、印刷される 2 次元バーコードデータがない場合は、以後の位置指定は無視されます。</p> <p>印字領域を超えて位置指定の座標を指定することはできません。位置指定のパラメータがない場合や、座標値が不適当な場合は、2 次元バーコードは前の 2 次元バーコードの 0.5 インチ下に自動的に配置されます。</p> <p>複数個の ENDB コマンドとの組み合わせによって、現在のページ範囲を超えるバーコードデータがある場合は、超えた分のバーコードデータは次ページの任意の位置に印刷されます(例を参照)。MZP などのカーソル移動コマンドと ENDB コマンドを組み合わせることによって、複数の 2 次元バーコードを独立したページに印刷することができます。</p> <p>複数のマクロ 2 次元バーコードを印刷する場合、RES や XBCP 0、および XBAR コマンドなどによってリセットが行われると、残るのマクロ 2 次元バーコードは削除されます。</p>
例 1	<p>2 次元バーコードデータを、列数 90× 行数 30 の 3 つの 2 次元バーコードに分割し、垂直方向に 0.5 インチずつ離して印刷する例</p> <pre> !R! RES; XBCP 0, 1; XBCP 17, 'BookOne'; XBAR;<データ >;ENDB; EXIT; </pre>

印刷結果 1

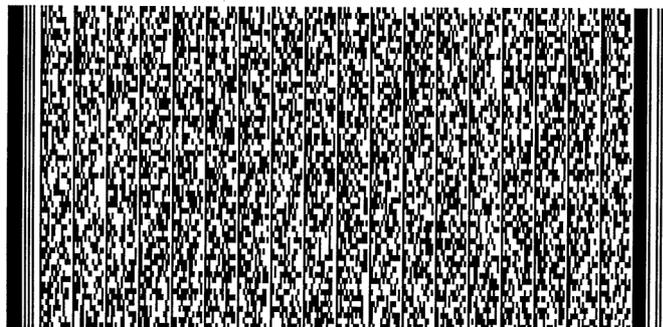
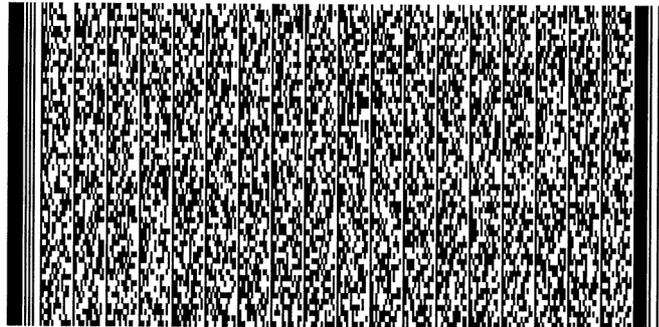


例 2

2次元バーコードデータを、列数 90× 行数 30 の 3 つの 2次元バーコードに分割し、位置指定を行って印刷する例

```
!R! RES;
      XBCP 0, 1;
      XBCP 17, 'QualitySt' ;
      MZP 1, 1;
      XBCP 19, 1, 2, 1, 2;
      XBAR;< データ >;ENDB;
EXIT;
```

印刷結果 2



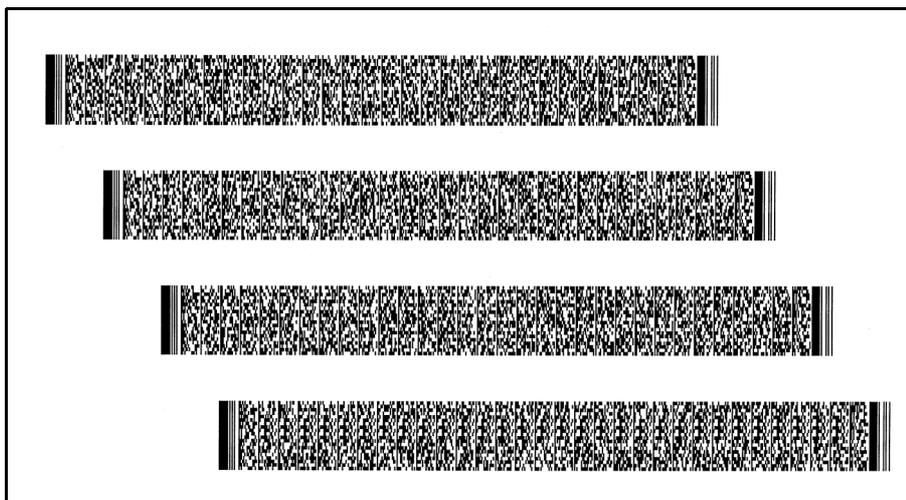
例 3

2次元バーコードデータを、列数 30× 行数 20 の4つの2次元バーコードに分割し、位置指定を行って印刷する例

```

!R! RES;
    XBCP 0, 1;
    XBCP 4, 20;
    XBCP 5, 30;
    XBCP 17, 'TrnOvr9';
    MZP 0.5, 0.5;
    XBCP 19, 0.5, 1, 0.5, 1, 0.5, 1, 0.5, 1;
    XBAR;<データ>;ENDB;
EXIT;
    
```

印刷結果 3

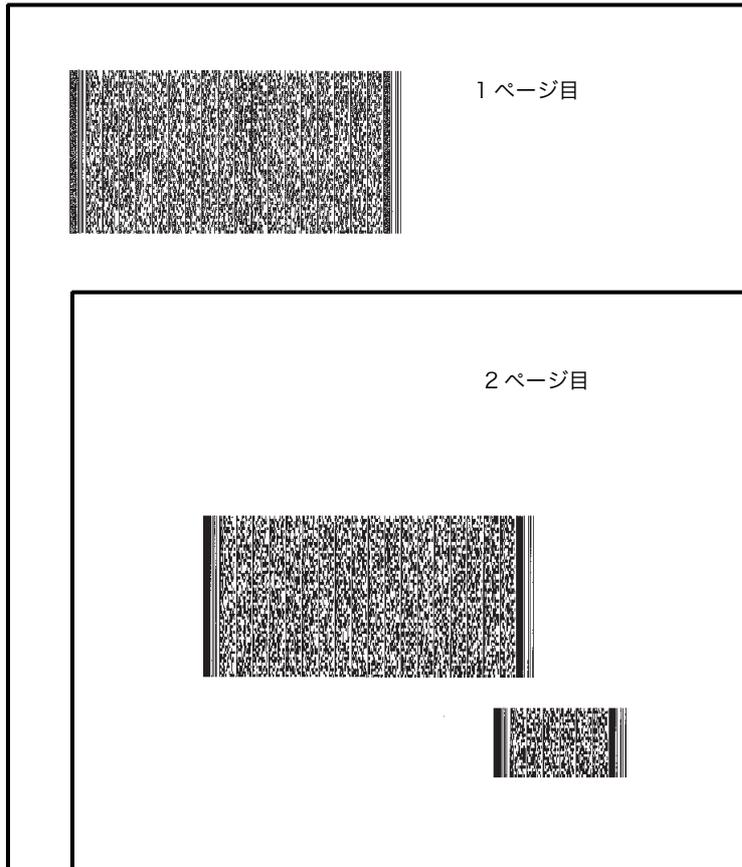


例 4

2次元バーコードを複数に分割して、別々のページに印刷する例

```
!R! RES;  
XBCP 0, 1;  
XBCP 17, 'TrnOvr0';  
XBCP 19;  
XBAR;3000 バイト程度のデータ ;ENDB;  
PAGE;  
MZP 1, 2; ENDB;  
MZP 4, 4; ENDB;  
EXIT;
```

印刷結果 4



XBUF

2次元バーコードのバッファへの格納 / クリア

(Define/undefine data input for XBAR command)

書式 XBUF バッファ名 [, [データ長]; 文字列];ENDB;

パラメータ

バッファ名	データバッファの名前
データ長	バーコードデータの長さ (バイト)、セミコロンで終える
文字列	データ文字列 (256 の文字列またはバイナリデータ)、セミコロンで終える

説明 XBUF コマンドは、2次元バーコードデータ文字列をバッファに格納します。

バッファに格納された2次元バーコードデータは、マクロモードを含めてXBAR コマンドによって呼び出すことができ、印刷が可能です。バッファ化した2次元バーコードデータを印刷する際のXBAR コマンドの書式は次のとおりです。

XBAR バッファ名;

XBUF コマンドをパラメータを省略してバッファ名のみで発行すると、そのバッファがメモリからクリアされます。

例

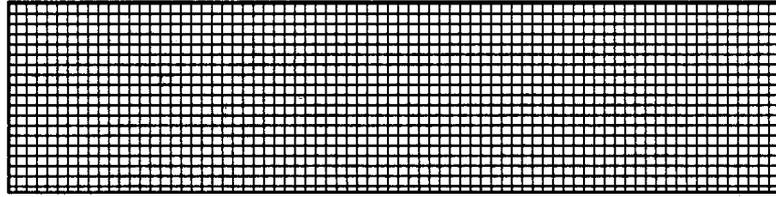
```
...
XBCP 0,1;
XBUF PDF 1, 25;This is a PDF417 example.;ENDB;
XBUF PDF 2, 15;This is a test.;ENDB;
...
XBAR PDF 1;
MRP 1,1;
XBAR PDF 2;
```

XPAT 16 ドットパターンの生成

(eXpanded fill PATtern)

書式	XPAT パターン番号; ビットマップ;				
パラメータ	<table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">番号</td> <td>100 ~ 105 の整数</td> </tr> <tr> <td>ビットマップ</td> <td>パターンを表わす文字列</td> </tr> </table>	番号	100 ~ 105 の整数	ビットマップ	パターンを表わす文字列
番号	100 ~ 105 の整数				
ビットマップ	パターンを表わす文字列				
説明	<p>XPAT コマンドは、16×16 ドットを 1 単位として、網掛けパターンを作成します。</p> <p>パターンは最大 6 まで (パターン番号 100 ~ 105) 登録することができます。登録されたパターンは、PAT コマンドで指定します。</p> <p>すでにパターン登録に使用した番号をパターン番号として指定すると、すでに登録されているパターンは消去され、新しいパターンが登録されます。なお、登録パターンはリセットで消去されます。</p> <p>ビットマップパラメータの表記については、LDFC コマンドを参照してください。ビットマップ生成文字列中にスペース文字が含まれると、XPAT コマンドは無効になります。</p>				
例	<pre>!R! MAP 0.5, 0.5; XPAT 100; //? //? P@0 P@0; BOX 4,1; PAT 100; BLK 4,1; RES; EXIT;</pre>				

印刷結果



関連コマンド

PAT、LDFC

機種別コマンド対応表

モデル名は代表的な機種です。機種によっては、対応が異なる場合があります。■（濃色）のコマンドは、カラー機のみ対応します。

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
ACLI	○	×	×	○	×	○	×
ALTF	○	○	○	○	○	○	○
AMCR	○	○	○	○	○	○	○
APSG	○	○	○	○	○	○	○
ARC	○	○	○	○	○	○	○
ASFN	○	○	○	○	○	○	○
ASTK	×	×	×	×	×	×	×
BARC	○	○	○	○	○	○	○
BKLT	○	×	○	×	×	○	○
BLK	○	○	○	○	○	○	○
BOX	○	○	○	○	○	○	○
CALL	○	○	○	○	○	○	○
CCPY	○	○	○	○	○	○	○
CDSK	○	×	○	○	×	○	○
CID	○	×	×	○	×	○	×
CIR	○	○	○	○	○	○	○
CLIP	○	○	○	○	○	○	○
CLPR	○	○	○	○	○	○	○
CLSP	○	○	○	○	○	○	○
CMNT	○	○	○	○	○	○	○
CMOD	○	×	×	○	×	○	×
COPY	○	○	○	○	○	○	○
CPAL	○	×	×	○	×	○	×
CPHT	○	○	×	○	○	○	×
CRKF	○	○	○	×	×	○	○
CSET	○	○	○	○	○	○	○
CSTK	○	×	○	×	×	○	○
CTXT	○	○	○	○	○	○	○
CUOS	○	×	○	×	×	○	○
DAF	○	○	○	○	○	○	○
DAM	○	○	○	○	○	○	○
DAP	○	○	○	○	○	○	○
DCT	×	○	○	×	○	×	○
DELF	○	○	○	○	○	○	○
DELM	○	○	○	○	○	○	○

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP (KM モデル)	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
DKJF	○	○	○	×	×	○	○
DRP	○	○	○	○	○	○	○
DRPA	○	○	○	○	○	○	○
DUPX	○	○	○	○	○	○	○
DXPB	○	○	○	○	○	○	○
DZP	○	○	○	○	○	○	○
EMCR	○	○	○	○	○	○	○
ENDB	○	○	○	○	○	○	○
ENDC	○	○	○	○	○	○	○
ENDD	○	○	○	○	○	○	○
ENDM	○	○	○	○	○	○	○
ENDR	○	○	○	○	○	○	○
EPL	○	○	○	○	○	○	○
EXIT	○	○	○	○	○	○	○
FDIR	○	×	○	×	×	○	○
FILL	○	○	○	○	○	○	○
FLAT	○	○	○	○	○	○	○
FLST	○	○	○	○	○	○	○
FOLD	○	×	○	×	×	○	○
FONT	○	○	○	○	○	○	○
FPAT	○	○	○	○	○	○	○
FRPO	○	○	○	○	○	○	○
FRPO INIT	○	○	○	○	○	○	○
FSET	○	○	○	○	○	○	○
FTMD	○	○	○	○	○	○	○
GPAT	○	○	○	○	○	○	○
GRAY	○	×	×	○	×	○	×
GRRD	○	×	×	○	×	○	×
HUE	○	×	×	○	×	○	×
INTL	○	○	○	○	○	○	○
JOBBD	○	×	○	○	×	○	○
JOBL	○	×	○	○	×	○	○
JOBO	○	×	○	○	×	○	○
JOBP	○	×	○	○	×	○	○
JOBS	○	×	○	○	×	○	○
JOBT	○	×	○	○	×	○	○
JOG	○	×	○	×	×	○	○
KFNT	○	○	○	×	×	○	○
KWM	○	○	○	×	×	○	○

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP (KM モデル)	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
LAPI	○	○	○	○	○	○	○
LDFC	○	○	○	○	○	○	○
LDFN C	○	○	○	○	○	○	○
LDFN F	○	○	○	○	○	○	○
LDFN S	○	○	○	○	○	○	○
LDKC	○	○	○	×	×	○	○
LGHT	○	○	○	○	○	○	○
MAP	○	○	○	○	○	○	○
MCRO	○	○	○	○	○	○	○
MDAT	○	○	○	○	○	○	○
MID	○	×	○	×	×	○	○
MLST	○	○	○	○	○	○	○
MPSS	○	×	○	○	×	○	○
MPTE	×	×	×	○	×	×	×
MRP	○	○	○	○	○	○	○
MRPA	○	○	×	○	○	○	×
MSTK	○	×	○	×	×	○	○
MTYP	○	○	○	○	○	○	○
MZP	○	○	○	○	○	○	○
NEWP	○	○	○	○	○	○	○
OTRY	○	○	○	○	×	○	○
PAGE	○	○	×	○	○	○	×
PANT	×	×	○	×	×	×	○
PARC	○	○	○	○	○	○	○
PAT	○	○	×	○	○	○	×
PCRPP	○	○	×	○	○	○	×
PCZP	○	○	○	○	○	○	○
PDIR	○	○	○	○	○	○	○
PDRP	○	○	○	○	○	○	○
PDZP	○	○	○	○	○	○	○
PELP	○	○	○	○	○	○	○
PIE	○	○	×	○	○	○	×
PMRA	○	○	○	○	○	○	○
PMRP	○	○	○	○	○	○	○
PMZP	○	○	○	○	○	○	○
PNCH	○	×	○	×	×	○	○
PRBX	○	○	○	○	○	○	○
PRRC	○	○	○	○	○	○	○
PSRC	○	○	○	○	○	○	○
PXPL	○	○	×	○	○	○	×

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP (KM モデル)	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
!R!	○	○	×	○	○	○	×
RCLT	○	×	×	×	×	○	×
RDMP	○	○	○	○	○	○	○
RES	○	○	○	○	○	○	○
RESL	○	○	×	○	○	○	×
RGBL	○	×	×	○	×	○	×
RGST	○	○	○	○	○	○	○
RPCS	○	○	○	○	○	○	○
RPF	○	○	○	○	○	○	○
RPG	○	○	○	○	○	○	○
RPP	○	○	×	○	○	○	×
RPPL	○	×	×	○	×	○	×
RPU	○	○	○	○	○	○	○
RTTX	○	○	○	○	○	○	○
RTXT	○	○	○	○	○	○	○
RVCD	○	○	×	○	○	○	×
RVCL	○	×	×	○	×	○	×
RVRD	○	○	×	○	○	○	×
RWER D	○	○	○	×	○	○	○
RWER F	○	○	○	×	○	○	○
RWER I	○	○	○	×	○	○	○
RWER L	○	○	○	×	○	○	○
RWER R	○	○	○	×	○	○	○
RWER S	○	○	○	×	○	○	○
RWER T	○	○	○	×	○	○	○
RWER W	○	○	○	×	○	○	○
RWRF D	×	×	×	○	×	×	×
RWRF F	×	×	×	○	×	×	×
RWRF L	×	×	×	○	×	×	×
RWRF P	×	×	×	○	×	×	×
RWRF T	×	×	×	○	×	×	×
RWRF W	×	×	×	○	×	×	×
RWRF W	×	×	×	○	×	×	×
RWRF W	×	×	×	○	×	×	×
SATU	○	×	×	○	×	○	×
SBM	○	○	○	○	○	○	○
SCAP	○	○	○	○	○	○	○
SCCS	○	○	○	○	○	○	○
SCF	○	○	○	○	○	○	○

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
SCG	○	○	×	○	○	○	×
SCOL	○	×	×	○	×	○	×
SCP	○	○	○	○	○	○	○
SCPI	○	○	×	○	○	○	×
SCPL	○	×	○	○	×	○	○
SCRC	○	○	×	○	○	○	×
SCS	○	○	○	○	○	○	○
SCSZ	○	○	○	○	○	○	○
SCU	○	○	○	○	○	○	○
SDP	○	○	○	○	○	○	○
SEM	○	○	○	○	○	○	○
SETF	○	○	○	○	○	○	○
SFA	○	○	×	○	○	○	×
SFNT	○	○	×	○	○	○	×
SGPC	○	×	×	×	×	○	×
SIMG	○	○	×	○	○	○	×
SIMP	○	×	×	○	×	○	×
SIR	○	○	○	○	○	○	○
SKCS	○	○	○	×	×	○	○
SKFT	○	○	○	×	×	○	○
SLJN	○	○	○	○	○	○	○
SLM	○	○	○	○	○	○	○
SLPI	○	○	○	○	○	○	○
SLPP	○	○	○	○	○	○	○
SLS	○	○	○	○	○	○	○
SMLT	○	○	×	○	○	○	×
SPAL	○	×	×	○	×	○	×
SPD	○	○	○	○	○	○	○
SPL	○	○	×	○	○	○	×
SPO	○	○	○	○	○	○	○
SPSZ	○	○	○	○	○	○	○
SPW	○	○	○	○	○	○	○
SRM	○	○	○	○	○	○	○
SRO	○	○	○	○	○	○	○
SROP	○	○	○	○	○	○	○
SSTK	○	×	○	×	×	○	○
STAK	○	×	○	○	×	○	○
STAT	○	○	○	○	○	○	○
STM	○	○	○	○	○	○	○

コマンド名	プリンタ (LS モデル)			プリンタ (FS モデル)		MFP	
	カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ
	A3	A4	A3	A4	A4	A3	A3
	LS-C8600DN	LS-4020DN	LS-9530DN	FS-C5400DN	FS-1370DN	TASKalfa 3051ci	TASKalfa 3501i
STPC	○	×	○	×	×	○	○
STPL	○	×	○	×	×	○	○
STR	○	○	○	○	○	○	○
STRK	○	○	○	○	○	○	○
SULP	○	○	×	○	○	○	×
TEXT	○	○	○	○	○	○	○
TPRS	○	○	×	○	○	○	×
TSCL	○	○	○	×	○	○	○
UNIT	○	○	○	○	○	○	○
UOM	○	○	○	○	○	○	○
VMAL	○	×	○	×	×	○	○
VMOB	○	×	○	×	×	○	○
VMPW	○	×	○	×	×	○	○
WIDE	○	○	×	○	○	○	×
WRED	○	×	○	○	×	○	○
XBAR	○	○	○	○	○	○	○
XBCP 0	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 1	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 2	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 3	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 4	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 5	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 6	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 7	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 8	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 9	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 10	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 11	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 12	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 13	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 14	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 15	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 16	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 17	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 18	○	○	×	○	○	○	×
XBCP 19	○	○	×	○	○	○	×
XBUF	○	○	×	○	○	○	×
XPAT	○	○	○	○	○	○	○

索引

Symbols

107

数字

2 バイトテキストの印刷 329

E

e-MPS コマンド 12

I

IC カード 338

J

JOG 134

M

MP トレイ 97

T

TIFF(Tagged Image File Format) 223

TrueType フォント 146, 232

あ

新しいパスの開始 167

圧縮モード 223

網掛けパターン 175

アンダーライン 326

い

イメージ・モデル 277

印刷枚数設定 57

印刷面 85

インチ 289

う

上マージン 317

え

エコプリント 95

エミュレーション・モード 267

エラーログ 127

円弧 198

お

オートマクロ 87

欧文文字セット 122

オプション機器設定コマンド 12

か

カーソル移動コマンド 6

カーボンコピー 42, 90

解像度 208, 323

外部デバイス

書き込み (プリンタブルデータ) 245

読み込み 240

外部フォント 68, 74, 77

外部メディア制御コマンド 11

改ページ 170

概要 3

角丸ボックス 196

仮想メールボックスパスワード 336

仮想メールボックス名 334

傾き 284

カラー・コマンド 9

漢字アウトライン・フォント 284

漢字間隔 283

漢字フォントヘッダ 60

き

給紙元選択 200

行間隔 292

行数設定 289, 290

く

偶数奇数 98

クリップ領域 51

グループ化 22

け

傾斜 272

こ

コードセット 122

コマンド識別文字 202

コマンド識別文字設定 260

コレートモード 64

さ

サイズ・コード 303

再設定 107

し

識別名 156

下マージン 248

自動マクロの登録 19

出力オプション 130

初期化 108

ジョブの開始 133

ジョブの出力 128

ジョブの消去 124

ジョブリスト 126

シンボル・セット 61, 110, 272

ID 61

シンボルセット 269

す

垂直移動量 283

水平移動量 283

ステータス・ページ 314

ステーブル 321

ステーブル枚数 319

せ

線終端 250

センター揃え 65

線の結合 286

そ

ソータ・トレイ 27

た

ターミネータ 234

代替番号 268

代替フォント 17, 268

ダウンロード 146, 148, 233
高さ 284
縦置き (ポートレート) 300
縦書き / 横書き 139
ダミー記号 152
単位の設定 331
ダンプ 91, 204
短辺綴じ 84

ち

注釈 55
長辺綴じ 84

て

定義 152
テキスト回転 219
テキスト・注釈コマンド 4
テキストの印刷 327
デバッグ・コマンド 11

に

日本語プリスクライプコマンド 11

の

ノッチド結合 286
ノンゼロ・ウィンド 98

は

バーコード 29
バーコード・コマンド 10
パーティション・リスト 230
ハードディスク 227, 228, 230, 231, 235, 236, 237, 238,
239, 240
灰色パターン 116
排紙トレイ 168, 313
パス 50
パスグラフィック・モード 296
パスモード・グラフィックコマンド 8
破線パターン 79, 265
パターン生成 105
パターンの生成 370
幅 284

ひ

左マージン 288
ビットマップ 138, 140
描画規則 98

ふ

再設定 107
初期化 108
ファームウェア 107, 108
傾斜 272

フォント

圧縮 272
ビットマップフォント 104
フォント名 284
フォント属性 109, 113, 269
フォントの格納 232
フォント番号 138
フォントヘッダ 144, 145
フォント名で選択 272
フォントリスト 102
振り分け 137
プリントシステム設定コマンド 3
プレゼンテーションモード 308

へ

ページ 290
ページ制御 4
ページ縦置き・横置きコマンド 4
ページ長 298
ページ幅 306
ページ方向 300
閉パス 53
ベヴェルド結合 286
ベクトルグラフィック・コマンド 7
ペン直径 296

ま

マージン 4, 305
マイター限界 286
マイタード結合 286
マクロ 40, 69
マクロ・コマンド 10
マクロリスト 157

み

右ぞろえテキスト 221
右マージン 307

め

メールボックス 163
メモリーカード 227, 231
メモリカード 228, 230, 240

も

モードの起動 202
モードの終了 96
文字拡大率 330
文字間隔 261
文字修飾 72
文字生成 141, 144
文字パス 59
モジュール高さ 350

ゆ

ユーザ・オフセット 67

よ

用紙サイズ 303
横置き (ランドスケープ) 300

ら

ラウンド結合 286
ラスタ・グラフィック 323
ラスタグラフィック・コマンド 9
ラスタデータ 225
ラスタ領域 308

り

リセット 205

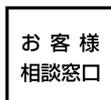
お客様相談窓口のご案内

弊社製品についてのお問い合わせは、下記のナビダイヤルへご連絡ください。市内通話料金でご利用いただけます。

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社

〒158-8610 東京都世田谷区玉川台2丁目14番9号

<http://www.kyoceradocumentsolutions.co.jp>



0570-046562

受付時間

● 9:00～17:00

(但し、土曜日、日曜日及び祝日は除く)

市内通話料金でご利用いただけます。